遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P544	⑨	25×19	17	建4	暗灰色粘質土			
P545	⑨	27×21	41	柱16	暗灰色粘質土	○		
P546	⑨	28×28	23	建11	明灰色粘質土			
P547	⑨	36×25	14	建22	暗灰色粘質土			
P548	⑨	27×21	37		明灰色粘質土	○		
P549	⑨	26×23	29		黒褐色粘質土			
P550	⑨	19×16	22		暗灰色粘質土			
P551	⑩	18×16	18	建13	黒灰色粘質土			
P552	⑩	20×15	31		暗茶褐色粘質土			
P553	⑩	22×20	28	建13	黒褐色粘質土			
P554	⑩	17×16	13	建13	暗灰色粘質土			
P555	⑩	10×8	6		暗灰色粘質土	○		
P557	⑪	29×28	1					
P559	⑩	21×15	19					
P560	⑨	23×20	22					
P561	⑨	15×12	22	柱13				
P562	⑨	17×15	22					
P563	⑨	23×21	10					
P564	⑨	30×28	23	柱16				
P565	⑨	21×17	43					
P566	⑨	50×42	23					
P567	⑨	15×15	15					
P568	⑨	21×19	36					
P569	⑨	21×15	12					
P570	⑨	18×13	10	柱17				
P571	⑨	30×26	23	建11				
P572	⑨	10×6	7					
P573	⑩	35×35	28	建6		○		
P574	⑨	18×17	10	柱17				
P575	⑨	18×14	29					
P576	⑨	19×16	14					
P577	⑨	27×23	25					
P578	⑨	28×25	17			○		
P579	⑩	6×4	6				○	
P580	⑩	5×5					○	
P582	⑨	15×13	12					
P585	⑨	43×40	1	建11		○		
P587	⑨	28×26	22	建4				
P588	⑨	22×20	25					
P589	⑨	25×16	10					
P590	⑨	19×18	29	建4				
P591	⑨	26×24				○		
P592	⑨	13×13						
P593	⑨	30×25	42	建4		○		
P594	⑨	49×49	17			○		
P595	⑪	18×14	11					
P596	⑪	14×12	1					
P597	⑨	40×35	12					

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P598	⑩	44×24						
P599	⑨	16×11		建4		○		
P601	⑩	36×27	21					
P602	⑩	17×16	42					
P603	⑩	20×13						
P604	⑩	42×32	31	建4				
P605	⑩	11×10	10					
P606	⑩	15×15	15					
P607	⑩	22×20	13					
P610	⑩	18×18				○		
P611	⑩	11×11		建13		○		
P612	⑩	13×10	20					
P621	⑩	22×20	17			○		
P623	⑩	23×22	19					
P624	⑩	23×18	30					
P625	⑩	22×22	20					
P626	⑩	20×18	18					
P627	⑩	25×22	19					
P628	⑩	22×20	15					
P629	⑩	17×13	27					
P630	⑩	17×15	10					
P631	⑩	30×29	27					
P632	⑩	14×12	9					
P633	⑩	18×15	22					
P634	⑩	30×28	24					
P635	⑩	21×16	11					
P636	⑩	25×24	28	建4				
P637	⑩	27×18	9					
P639	⑨	12×10				○		
P640	⑨	10×8				○		
P641	⑨	12×7				○		
P642	⑧	27×24	9	建22				
P643	⑧	31×25	10	建22				
P644	⑧	10×6		建22		○		
P645	⑧	10×8		柱14		○		
P646	⑧	7×7				○		
P647	⑧	11×10	24					
P648	⑧	47×39	26	柱14				
P649	⑧	10×7				○		
P650	⑧	11×8				○		
P651	⑧	6×4					○	
P652	⑨	11×10						
P653	⑨	11×10				○		
P654	⑨	15×13				○		
P655	⑩	12×11						
P656	⑨	12×9				○		
P657	⑨	15×12				○		
P658	⑨	16×12				○		

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P659	⑨	3×3					○	
P660	⑨	5×5					○	
P661	⑨	15×12				○		
P662	⑨	15×13	26	建6				
P663	⑨	32×24	26					
P664	⑨	26×22	20					
P665	⑨	28×25	22					
P666	⑨	25×25	24					
P667	⑨	14×12	13					
P668	⑨	26×24	17					
P669	⑨	25×22	48					
P670	⑨	17×15	18	柱17				
P672	⑨	16×15	6					
P673	⑨	22×21	42					
P674	⑩	35×35	19	建6				
P675	⑨	31×24	40					
P676	⑨	· ×	15					
P677	⑧	29×24	14					
P678	⑧	19×17	10					
P679	⑧	12×8	17	柱14				
P680	⑪	25×17	41					
P681	⑪	20×17	25					
P682	⑪	22×21	32					
P683	⑪	24×23	26			○		
P684	⑪	20×19	31					
P685	⑪	31×30	29			○		
P686	⑪	20×20	48					
P687	⑪	32×32	27					
P688	⑪	20×17	18					
P689	⑪	16×13	14					
P690	⑪	16×14	12					
P691	⑪	10×5				○		
P692	⑪	21×12	16					
P696	⑪	17×16	19					
P697	⑨	25×24	43					
P699	⑨	20×16	22	建22				
P700	⑪	24×22	27	建22				
P701	⑨	25×22	16					
P702	⑨	×	21					
P703	⑩	20×17	24					
P704	⑩	27×19	25	建6				
P706	⑩	26×20	30	建6				
P707	⑨	×	19					
P708	⑧	×						
P710	⑨	24×20	28					
P713	⑨	26×25	15					
P720	⑥	21×21	51	建7		○		
P721	⑥	27×22	27	建7				

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P722	⑥	23×20	42	建7				
P723	⑥	25×22	26	建7				
P724	⑥	35×21	22	建7				
P725	⑥	22×20	28	建7		○		
P726	⑥	41×30	31	建7				
P727	⑥	30×28	56	建7		○		
P728	⑥	35×30	39	建7				
P729	⑥	44×35	44	建7				
P730	⑥	20×19	52	建7		○		
P731	⑥	19×16	38					
P732	⑥	26×23	48	建7		○		
P733	⑥	23×22	32	建7		○		
P734	⑥	29×22	32	建7				
P735	⑥	29×26	26	建7				
P736	⑥	35×27	39	建7				
P737	⑥	17×14	28	建7		○		
P738	⑥	23×18	31	建7				
P739	⑥	29×24	32	建7				
P740	⑥	21×16	29	建7				
P741	⑥	26×25	32	建7				
P742	⑥	20×18	20	建7				
P743	⑥	28×24	35	建7				
P744	⑥	26×21	28	建7				
P745	⑥	20×19	23	建8		○		
P746	⑦	20×18	24	建8		○		
P747	⑦	16×15	28	建8		○		
P748	⑦	25×20	23	建8		○		
P749	⑦	20×17	21	建8		○		
P750	⑦	20×17	38	柱2				
P751	⑦	18×16	19	柱2				
P752	⑦	15×14	19	柱2		○		
P753	⑦	18×15	18	柱2				
P754	⑥	25×22	37					
P755	⑥	30×22	32					
P756	⑥	40×25	45					
P758	⑧	6×6					○	
P759	⑧	17×17	30					
P760	⑧	16×14	14					
P761	⑧	20×15				○		
P762	⑧	8×7	10					
P763	⑧	20×18	13			○		
P764	⑧	20×16	25			○		
P765	⑧	22×20	23					
P766	⑧	29×15	32					
P767	⑧	27×25	19					
P768	⑧	24×24	20					
P769	⑧	23×20	16					
P770	⑧	9×7	7			○		

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P771	⑧	25×21						
P772	⑧	27×24	19					
P773	⑧	8×7				○		
P774	⑧	16×13				○		
P775	⑧	23×17				○		
P776	⑧	12×9	16			○		
P777	⑧	20×13						
P778	⑧	10×10				○		
P779	⑧	31×29						
P780	⑧	16×14	16					
P782	⑧	25×22	11					
P783	⑧	10×9	11					
P784	⑧	22×18	18					
P785	⑧	12×10	5					
P786	⑧	20×15				○		
P787	⑧	22×16				○		
P788	⑧	13×10	13					
P789	⑧	18×11	11			○		
P790	⑧	19×16						自然木
P791	⑧	8×8				○		
P792	⑧	13×12				○		
P793	⑧	20×16				○		
P794	⑧	11×6				○		
P795	⑧	13×10				○		
P796	⑧	16×13	15					
P797	⑧	23×14						
P798	⑧	9×6				○		
P799	⑧	10×8				○		
P800	⑧	23×19				○		
P801	⑧	12×11						
P802	⑧	18×14				○		
P804	⑧	6×4						
P805	⑧	21×19	17					
P806	⑧	11×9	13					
P807	⑧	9×9	10					
P808	⑧	22×18	18					
P809	⑧	21×19	20					
P810	⑧	20×12				○		
P811	⑧	10×8				○		
P812	⑧	15×10				○		
P813	⑧	17×16	24					
P814	⑧	33×25	32					
P815	⑧	23×23	16					

遺構名	配置図	寸法(cm) 上面径	寸法(cm) 深	掘立柱建物	土色	柱根	杭	備考
P816	⑧	14×11	25					
P817	⑧	12×10				○		
P818	⑧	17×11						
P819	⑧	15×12						
P820	⑧	23×22	21					
P821	⑧	24×17	22					
P822	⑧	15×13	22					
P823	⑧	25×19	24					
P824	⑧	27×23	24					
P825	⑧	24×21	30					
P826	⑧	16×13	28			○		
P827	⑧	26×22				○		
P828	⑧	15×13				○		
P830	⑧	22×16				○		
P831	⑦	23×18	22					
P832	⑦	17×14	20					
P833	⑦	20×16	20					
P834	⑦	21×21	15					
P835	⑧	15×12	32			○		
P836	⑧	20×10	28			○		
P837	⑧	25×15						
P838	⑧	28×19	25					
P839	⑧	32×28						
P842	⑧	20×18	25					
P844	⑧	15×5						
P845	⑧	6×6						
P846	⑧	×						
P847	⑧	×						
P848	⑧	×						
P850	⑧	×						
P851	⑧	×						
P852	⑧	×						
P853	⑧	×						
P854	⑧	×						
P855	⑨	×						
P856	⑨	×						
P857	⑩	×						
P858	⑩	×						
P859	⑪	×						
P860	⑩	×						
P861	⑩	×						
P862	⑩	×						
P863	⑩	×						

土坑２・３（第45図、写真図版45）

ＩＢ区で５ａ層を５㎝程度掘削した時点で検出した。土坑３は建物21の西側に位置し、平面円形で規模は約1.5×1.3mである。時期を判断できる遺物は出土していない。

土坑15・16（第97図、写真図版64）

ＩＣ区西の土坑６東側で検出した。土坑15は溝９と重複し、土坑内でドングリが出土した。土坑16は床面に植物の繊維が薄く堆積していた。土坑６南側の状況と類似し、同様の遺構と推測される。

溝３・４（写真図版64・65）

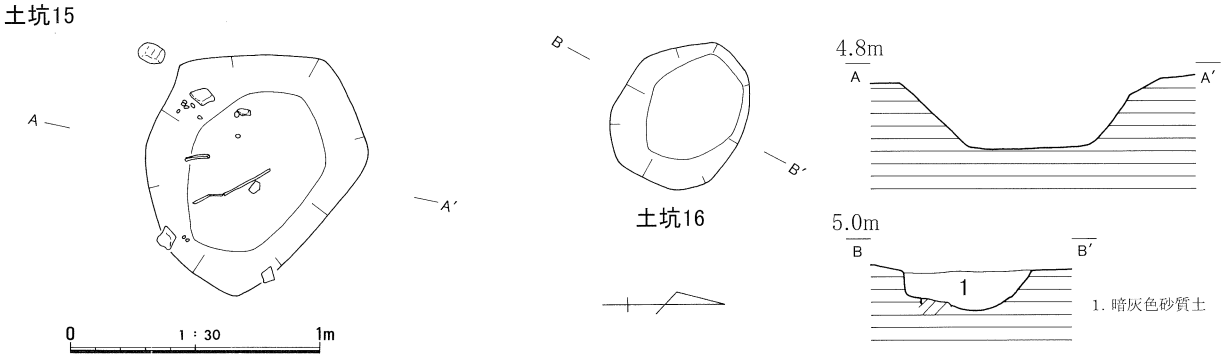
ＩＢ区東側の８層上面で検出した。遺構内には礫が堆積し、遺物は出土していない。

集石３（第98図、写真図版65）

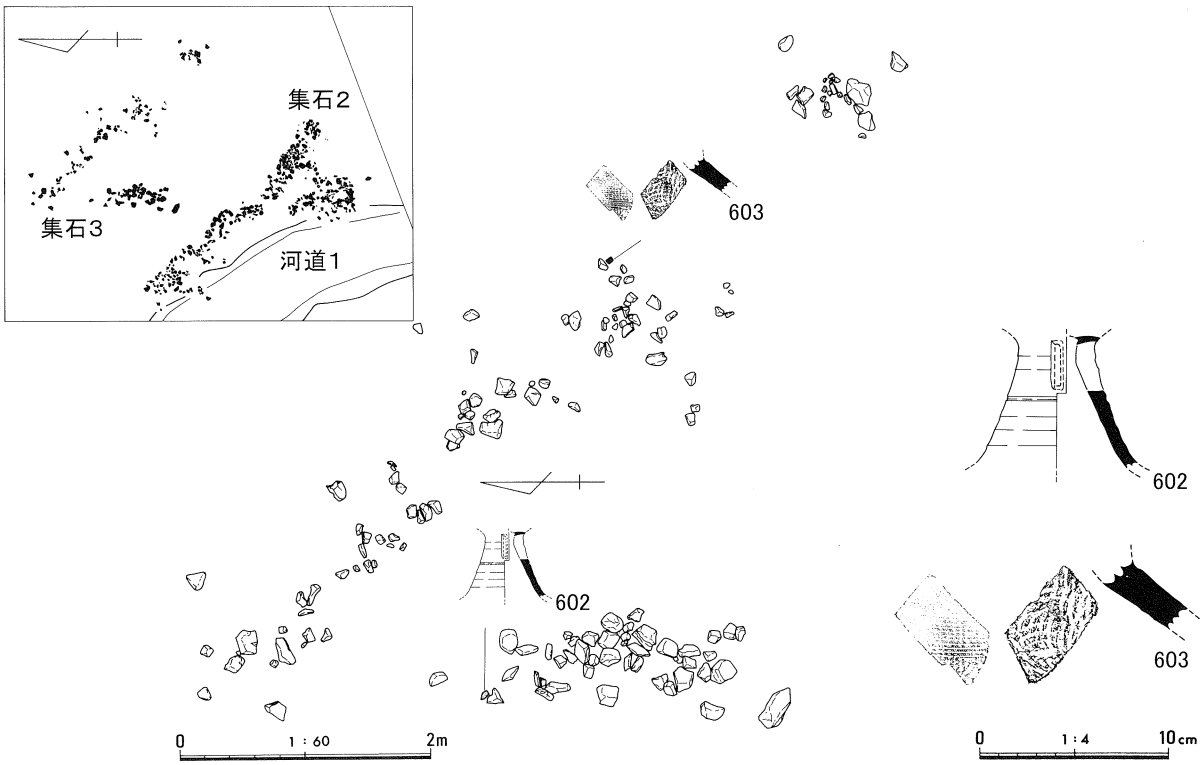
ＩＢ区の８層上面で検出した。東側の並びは集石２の北側と並行し、西側は集積２の南側の延長上に位置する。遺物は須恵器の高坏（602）と甕（603）が出土している。

第79表　Ｉ区集石３出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
602	98	110	須恵器	高坏	H-11、集石3					脚部に沈線を廻らせ、透孔を2ヶ所設ける	内：回転ナデ 外：回転ナデ		内：灰白色（N7/） 外：灰白色(N7/)～灰色(N4/)	
603	98	110	須恵器	甕	H-11、集石3	8					内：同心円文オサエ 外：カキメ	径2㎜以下の砂粒含む	内：灰色(N6/) 外：褐灰色(10YR5/1)～灰白色(2.5Y8/1)	



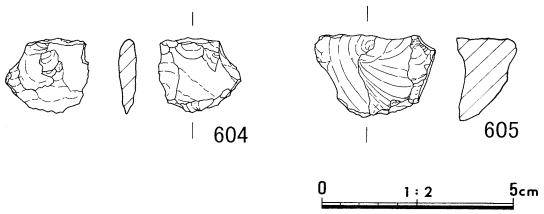
第97図　Ｉ区　土坑15・16（Ｓ＝1/30）



第98図　Ｉ区　集石３（Ｓ＝1/60）

石器（第99図）

ＩＢ区で二次加工のある玉髄製の薄片604と黒曜石の石核605が出土した。今回の調査では縄文土器は出土していないが、周辺に縄文時代の遺跡が存在する可能性が考えられる。



第99図　Ｉ区　石器（Ｓ＝1/2）

第80表　Ｉ区出土石器観察表

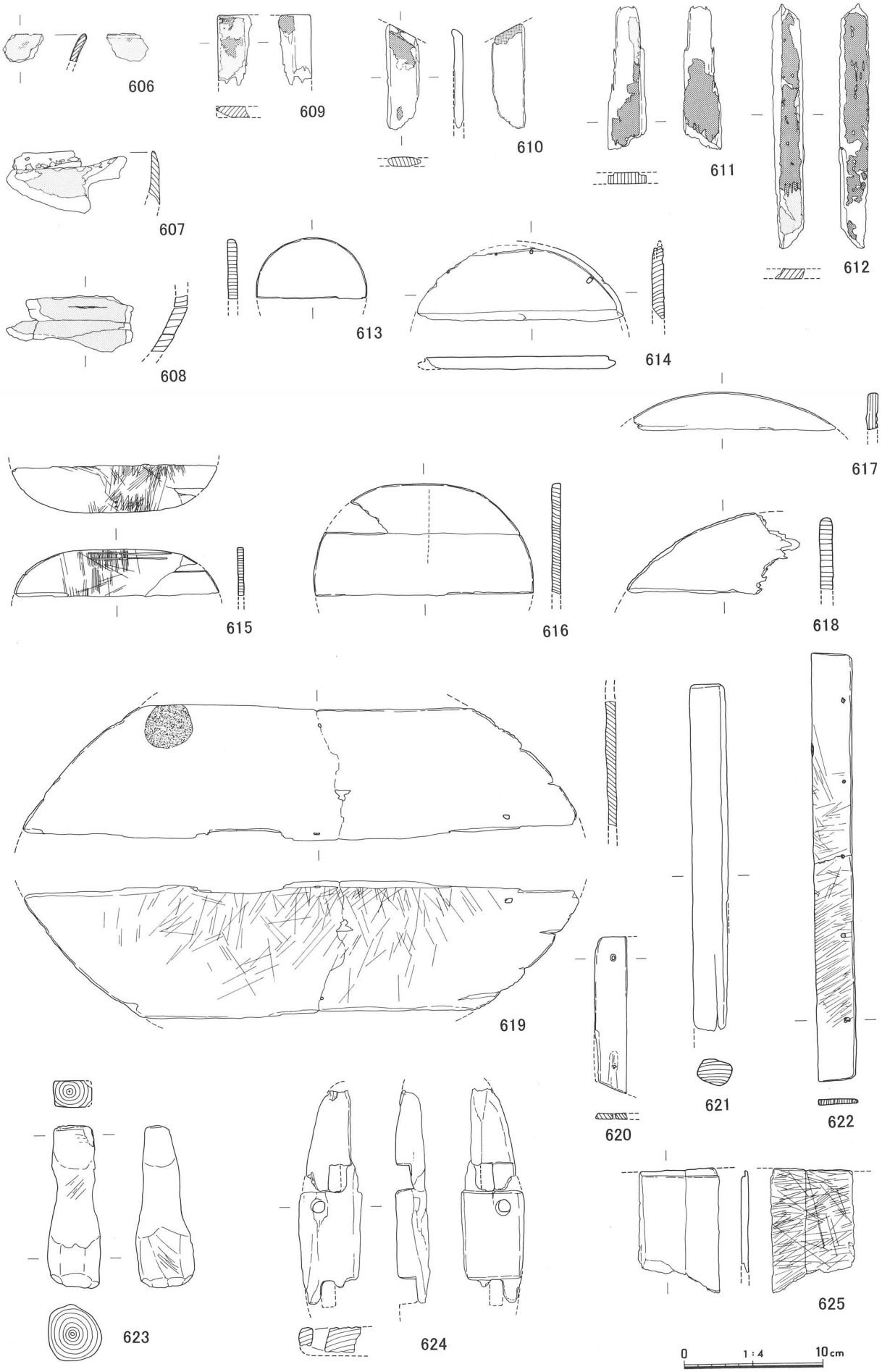
遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 長さ	幅	厚さ	重さ	形態・文様の特徴	色調	備考
604	99	110	石器	剥片	H11	3	2.2	1.95	0.5	2.53	二次加工あり	黄褐色（10YR5/6）	玉髄製
605	99	110	石器	石核			3.2	2.2	1.6	10.78		黒色（N1.5/）	黒曜石

木製品（第100・101図）

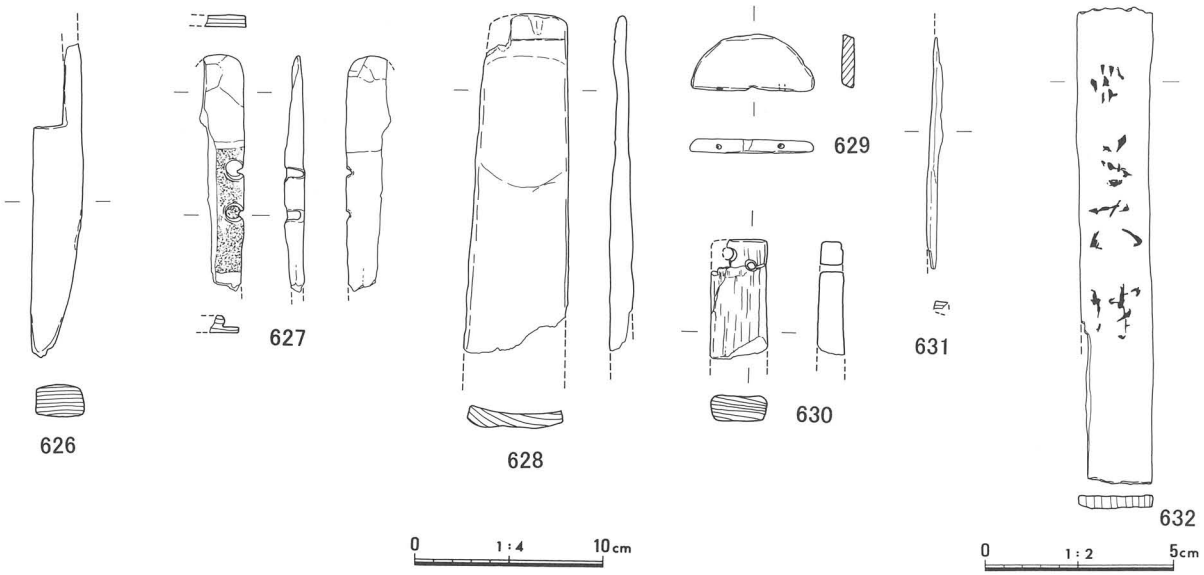
３・５層を中心に木製品が出土している。曲げ物や箱の部品と思われる板材が多く、詳しい時期は不明だが基本的に中世以降のものと思われる。606～612は表面に赤色又は黒色の漆が塗られた椀・容器などである。627は火きり臼の先端をヘラ状に再加工した後、さらに細かく割ったものである。631は土坑８で出土した木製品で箸の可能性がある。632はH11で出土した木簡で、片面に墨書があるが判読できなかった。

第81表　Ｉ区出土木製品観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	品目	出土地点 Gr/遺構	層位	寸法（cm） 長さ	幅	厚さ	高さ	樹種	保存処理	備考
295				呪符木簡	P377		33.3	4.4	0.8				
538				下駄	土坑１	3	17.6	5.8	2.3				
606	100	111	容器		G-11	3	2.5	2.3	0.4		ケヤキ	○	漆塗り
607	100	111	食事具	椀	I-11	5	8.8	4.6	0.8		トチノキ	○	漆塗り
608	100	111	食事具	椀		5	9.3	4.1	1.0		ブナ	○	
609	100	111	板		I-10	3	5.2	2.5	0.8		スギ	○	
610	100	111	容器		G-14	5	7.6	2.4	0.7		スギ	○	漆塗り
611	100	111	板		I-10	3	10.4	2.8	0.8		スギ	○	漆塗り
612	100	111	板		I-10	3	18.0	2.1	0.7		スギ	○	漆塗り
613	100	110	容器		I-10	3	8.1	4.4	0.8		スギ	○	
614	100	110	容器		I-11	4	15.0	5.3	0.9		ヒノキ	○	
615	100	111	板		I-10		14.9	3.4	0.4		スギ	○	
616	100	110	板		G-12	5	16.0	8.1	0.7		スギ	○	
617	100	110	容器				14.7	2.7	0.8		スギ	○	
618	100	110	板			3	12.6	5.9	0.9		スギ	○	
619	100	111					40.3	9.7	0.8		スギ	○	
620	100	110	板		H-11	3	11.4	2.4	0.4		スギ	○	
621	100	110	雑具	柄	H-14	5	25.2	2.5	1.7		スギ	○	
622	100	110	板		H-11	3	31.2	2.8	0.4		スギ	○	
623	100	110・112	雑具	柄	G-13	5	11.8	3.8	4.0		カヤ	○	
624	100	112		下駄	G-13	5	15.6	4.5	1.8		ヒノキ	○	
625	100	111	容器		G-13	5	9.1	5.8	0.5		スギ	○	
626	101	110		把手	F-14	5	16.5	2.7	1.7		ヒノキ	○	
627	101	111		火きり臼	H-11	6	12.4	2.3	1.0		スギ	○	
628	101	110	板			3	17.9	5.3	1.2		ヒノキ	○	
629	101	110・112	板		G-11	5	6.4	3.0	0.6		スギ	○	
630	101	110			G-14	5	6.3	2.9	1.5		シイ属	○	
631	101	110		箸	土坑8		12.2	0.7	0.5		二葉マツ	○	
632	101	112		木簡	H-11	3	12.7	2.0	0.3		スギ	○	



第100図　Ⅰ区　木製品①（S＝1/4）



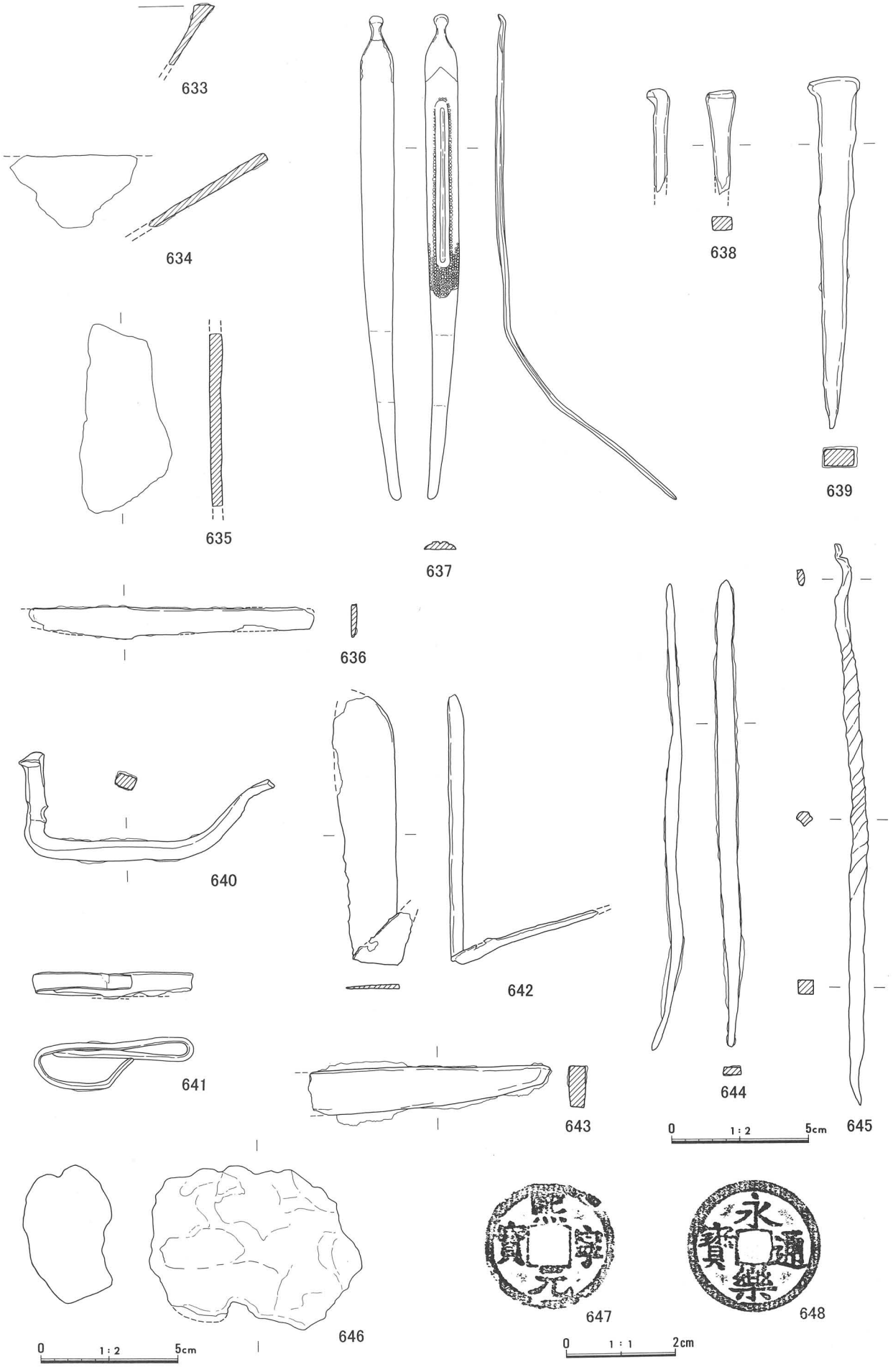
第101図　Ｉ区　木製品②（Ｓ＝1/4、632は1/3）

金属器（第102図）

633～635はＩＣ区西のＦ15～Ｇ15グリッドで出土したもので、鉄鍋の破片と判断した。Ｉ区では数少ない調理具である。釘640は頭に近い部分が直角に近い角度で屈曲し、この部分は角がつぶれている。引き抜かれた釘かもしれない。641・642は意図的に折り曲げられて廃棄されたものと考えられる。646は椀形鍛冶滓で、ＩＡ～ＩＣ区で鍛冶炉は検出されなかったが付近で小鍛冶が行われていたと推測される。

第82表　Ｉ区出土金属器観察表

遺物番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	出土地点 Gr/遺構	層位	寸　法（cm）			備考
							長さ	幅	厚さ	
633	102	113		鍋	F15	5				
634	102	113		鉄鍋	G15	5	5.0	4.6	0.4	鋳造品
635	102	113		鉄鍋	G15	5	7.1	3.4	0.45	鋳造品
636	102	113		小柄等の刃	I10	16	10.5	1.0		
637	102	113		こうがい	G15	5		1.2	0.2～0.4	
638	102	113		釘	E17	5	3.8	1.2	0.5	
639	102	113		釘	G15	5	13.0	1.9	0.8	
640	102	113		釘	I-10	16	9.4	3.0	4.2	
641	102	113			I-10	5	6.0	1.9	0.3	
642	102	113			G14	5		2.3	0.3	
643	102	113		柄？	H10	5	9.1	2.4	0.9	
644	102	113			P797		17.8	0.95	2.0	
645	102	113			I-10	3	20.7		0.6×0.5	
646	102	113		椀形鍛冶滓	F-13	5	7.8	6	3.3	重さ194.94ｇ、メタル度Ｌ、磁着度８
647	102	113			H10	16	2.35	2.35		熙寧元寶
648	102	113			G11	7	2.42	2.43		永樂通寶



第102図　Ⅰ区　金属器（S＝1/2、647・648は1/1）

第83表　Ｉ区　平安時代後半以降の遺物数量表①

種別	器種	分類・特徴	ＩＡ	ＩＢ（5ａ層）												ＩＣ（5ｂ層）																				合計
				H9	I9	G10	H10	I10	G11	H11	I11	G12	H12	I12	不明	F12	G12	F13	G13	H13	F14	G14	H14	E15	F15	G15	E16	F16	G16	E17	F17	G17	F18	不明	
中世土師器	坏	底部糸切り	2	5	6		38	29	25	4	3				1	1	6	19	30	49	87	39	12	1	51	40	7	41	35	21	59	11		34	656
		高台付	3	6	8	1	27	25	24	1	3			2	1		1	7	4	11	17	11	1	2	6	11	7	12	17	2	21	4		4	239
		口縁・体部のみ	8	16	20		91	120	142	13	37			6	2		2	13	32	34	45	31	2	4	22	19	30	75	58	20	75	5		17	939
		内面黒色		1			1	1							1																			4
	皿	底部糸切り		3	1		1	3	4	5	4								3	11	11	13		5	9	5	12	2	2	3	3			3	103
		高台付	1		1			1																											3
		柱状高台付																	1			1													2
		京都系							1																										1
		口縁・体部のみ					2								1				1	1	3	1					1			1	1			1	13
	坏か皿	底部糸切り	2	11	15		35	89	86	18	37			3																					296
		柱状高台付			1		1	1	2	1									2	3	4	4			6	5		1	3		5			1	40
	鉢・擂鉢		1		1		1	3	1		3																								10
	鍋				1						1																								2
	壷																		1																1
	不明																1	1		2	4		1	1	1	1	1	6	1	2	2		1	4	29
中世須恵器	壷・甕				1			1	2	1	1								2	1	6	4			1		1	1	1					4	27
	鉢・擂鉢	内面ナデ							1											1	1													2	5
		内面ハケメ					1	4	1	1	2				1												1								11
瓷器系陶器	壷・甕		2		1			9	1	2	4																								19
	鉢・擂鉢				2			3																											5
瀬戸・美濃	碗	灰釉							1													1													2
	瓶・鉢	灰釉						1			1																								2
備前系	壷・甕																																		0
	擂鉢		1								1																								2
肥前系陶器	皿	内面に胎土目・砂目																																	0
	その他								1																										1
不明陶器											3																								3
不明磁器																																			0
合計			20	42	58	1	198	290	292	46	100	0	0	11	7	1	10	40	76	113	178	105	16	13	96	81	60	138	117	49	166	20	1	70	2415

Ⅰ区　平安時代後半以降の遺物数量表②

種別	器種	分類・特徴	ⅠA	ⅠB（3a・4層）												ⅠA	ⅠB（6・7層）												合計
				H9	I9	G10	H10	I10	G11	H11	I11	G12	H12	I12	不明		H9	I9	G10	H10	I10	G11	H11	I11	G12	H12	I12	不明	
中世土師器	坏	底部糸切り	4	8	11		27	13	45	4	4		2		8	3	2		1	7	8	41	30	11		5	2	12	248
		高台付	1	4	2	4	16	5	11	3	3		2		5	3	2	3	1	3	4	24	18			1			115
		口縁・体部のみ	1	12	9	2	27	13	52	14	4		5		1	7	1	2	10	17	31	84	47	6		23	3	3	374
		口縁・体部のみ(赤塗り)																			1								1
		内面黒色		1				1							6														8
	皿	底部糸切り	7	2		1	6	3	3		3				1							3							29
		高台付																1											1
		柱状高台付																											0
		京都系																											0
		口縁・体部のみ																		1	3	1							5
	坏か皿	底部糸切り		5	12	5	24	14	26	7	11		1	1	10							3		1		1			121
		柱状高台付		1			4		1									1											7
	鉢・擂鉢		1			1	8		3	1			1																15
	鍋																												0
	不明		2						1							1						7	5			2	1		19
中世須恵器	壷・甕						1				1																		2
	鉢・擂鉢	内面ナデ						2	1		1																		4
		内面ハケメ						1	3																				4
瓷器系陶器	壷・甕		2		1	2	1	2	5		1				1														15
	鉢・擂鉢				1			1																					2
瀬戸・美濃系	碗	灰釉					1		1																				2
	瓶・鉢	灰釉																											0
備前系	壷・甕																												0
	擂鉢				1			1	2	1																			5
肥前系陶器	皿	内面に胎土目・砂目							2																				2
	その他																												0
不明陶器															1														1
不明磁器					1										3														4
合計			18	33	38	15	115	56	156	30	28	0	11	1	36	14	5	7	12	28	47	163	100	18	0	32	6	15	984

Ⅰ区　平安時代後半以降の遺物数量表③

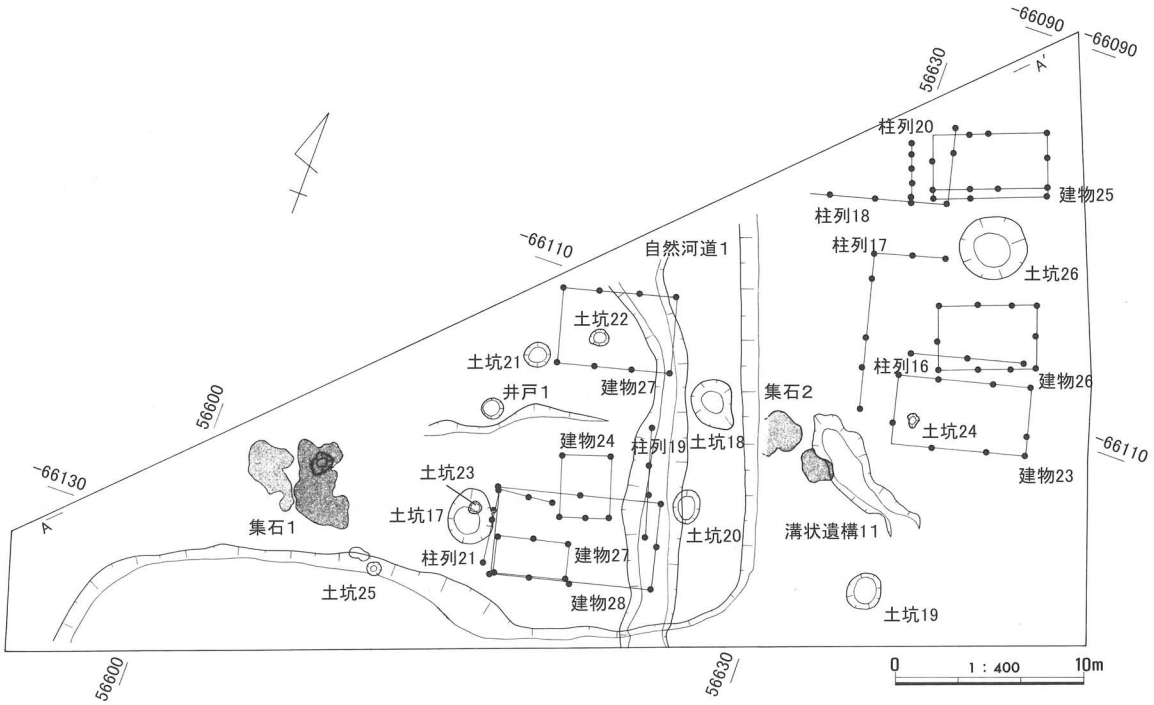
種別	器種	分類・特徴	ⅠA	ⅠB（3a～5a層）												ⅠC（5b層）																				合計
				H9	I9	G10	H10	I10	G11	H11	I11	G12	H12	I12	不明	F12	G12	F13	G13	H13	F14	G14	H14	E15	F15	G15	E16	F16	G16	E17	F17	G17	F18	不明	
白磁	碗	太宰府　Ⅱ類									1										1						1							1	4
		太宰府　Ⅳ類					1	1	1	1	1		1							1	2	3			2	1	3	1		3	3			8	33
		大宰府　Ⅴ類						1							1											1	2			1				1	7
		大宰府　Ⅷ類	1				1	1											1								1							1	6
		大宰府 Ⅳ～Ⅷ類(体部)	1				1	3			3			1					1	2	1	5			3	2	1			3	3			2	32
		大宰府 Ⅳ～Ⅸ類(体部)													1																				1
		大宰府 Ⅴ～Ⅷ類(口縁)									1											1													2
		大宰府　ⅩⅡ類																										1							1
	皿	大宰府　Ⅵ類																								2									2
		大宰府　Ⅷ類																							1			1							2
		大宰府　Ⅴ～Ⅷ類																			1					1									2
		大宰府　Ⅸ類																			1														1
		森田　E群	1						3		1				1			1																	7
	碗か皿	大宰府 Ⅳ～Ⅷ類(体部)																											1		1			1	3
	合子																								1										1
青磁（同安窯系）	碗	Ⅰ類											1								1			2						1			1	6
	皿	Ⅰ類									1																								1
青磁（龍泉窯系）	碗	Ⅰ類	1				1	2	1	1	2				1				1								1								11
		Ⅱ類	3		1																	1												5
		Ⅳ類以降													1						1														2
		上田　C類						1																											1
	小碗・浅碗	Ⅰ類	1																															1	2
	坏	Ⅲ類																												1					1
	盤	Ⅳ類以降						1																											1
	梅瓶									1																									1
中国陶器	壷類	Ⅴ類			1		1	1							1															1					5
		緑釉						1																											1
	盤	Ⅰ類							1																										1
朝鮮陶器	皿	李朝期																																	0
合計			3	0	0	0	3	6	4	1	8	0	2	1	3	0	0	1	2	3	7	9	0	2	6	8	8	3	1	8	7	0	0	15	111

第２節　ＩＤ区の調査

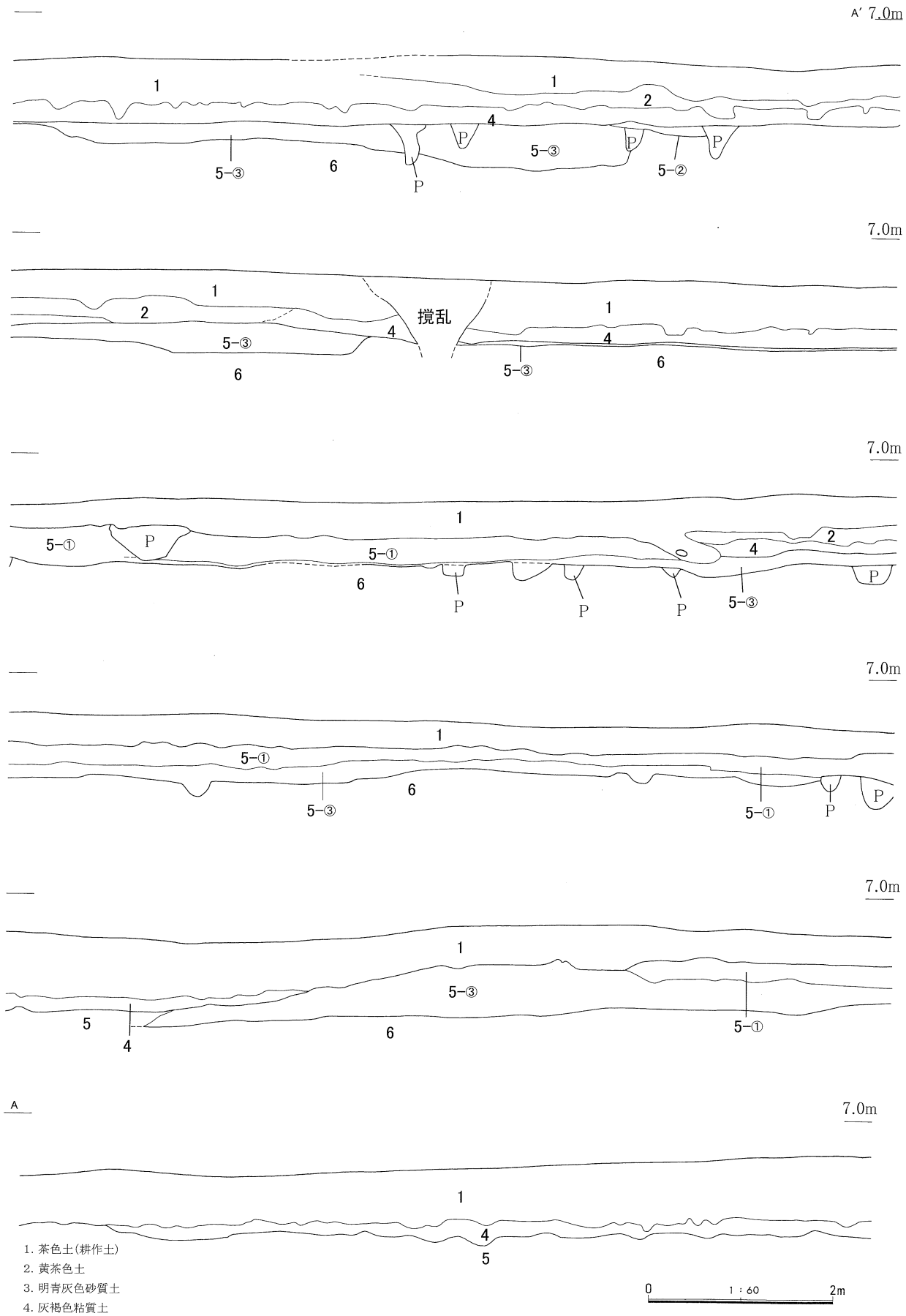
（１）調査の経過

平成14年５月に、ＩＤ区の調査に着手した。標高6.5ｍで、青木遺跡調査対象地で最も北に位置しており、調査前は水田もしくは畑など耕作地として利用されていた。調査は耕作地の下ということもあり湧水が多く、調査区の周囲に排水のための溝・溜めマスを掘り水中ポンプで24時間排水しながら行った。平成13年度の調査（ＩＡ・Ｂ・Ｃ区及びⅡ区）で、中世の遺構を確認しており、中世の遺構の調査から始めた。遺構面は近世初め（第１遺構面）と中世前半以降（第２遺構面）の２面検出した。第１遺構面は標高約5.8ｍ付近で、細かいレキを含む層（第５層）の上面で、掘立柱建物１棟、集石遺構２か所、溝状遺構１、石組み土坑１、井戸１等を確認した。また、この時期もしくはそれ以前に構成された加工段を３か所確認した。第２遺構面では、青灰色粘質土（第６層）の上面で、掘立柱建物等13棟、土坑10とおよそ600に及ぶ柱穴を確認した。また柱穴からは150本近くの柱根を確認した。調査区中央には調査区北から南へと流れていた自然河道を確認した。この河道の堆積はレキ層であり、また時期は第２遺構面の集落が形成される前と考えている。以上の調査を平成14年８月まで行った。また同時に中世調査面下にトレンチ調査を行い、古代の包含層及び弥生時代の遺物、そして弥生時代と思われる人骨の（脚部）を確認した。（この人骨は、近畿式の銅鐸飾り耳部分を伴う弥生時代の墓の主体部であることをこの後の調査で確認した。）

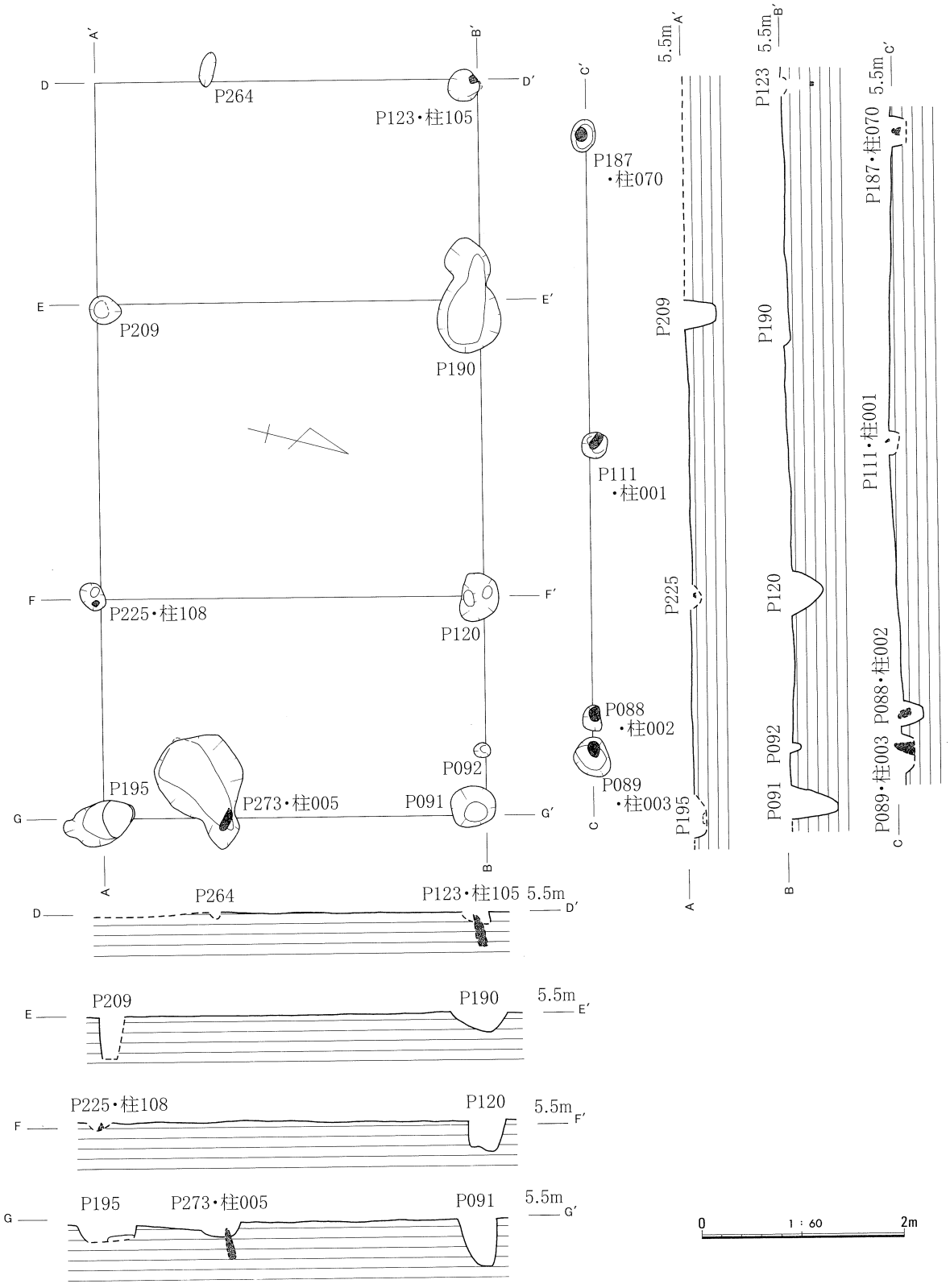
ＩＤ区土層の基本層序は第104図のとおりである。調査区北壁の土層で、第１層は耕作土である。第４層は近世初め頃と考えている遺物包含層である。第５層は中世前半から後半にかけての遺物包含層である。第６層は基本的には密度の細かい粘質土層である。以下標高およそ4.5ｍ付近に古代の包含層、標高4.0ｍ付近に弥生時代の包含層を確認している。



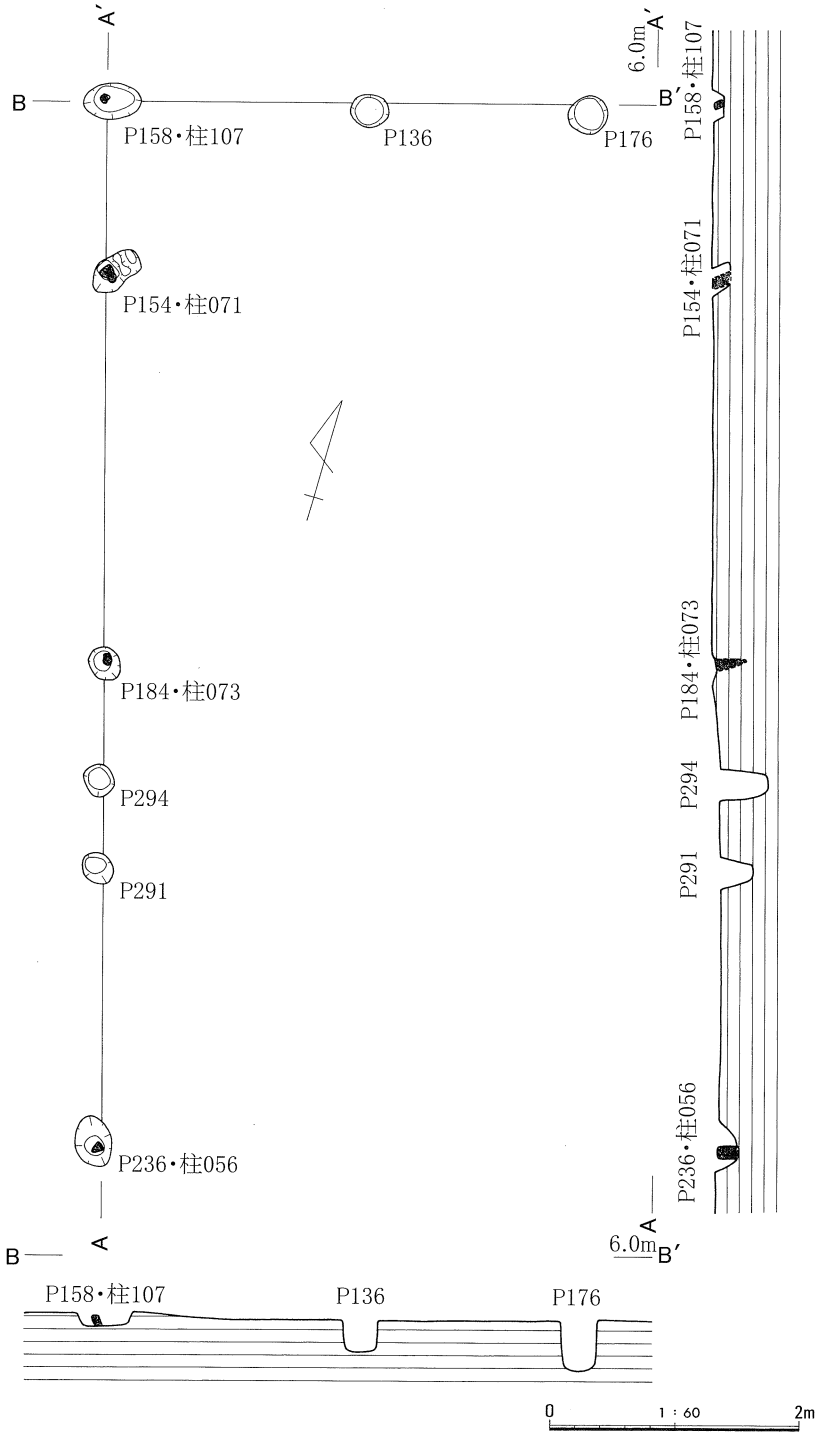
第103図　ＩＤ区遺構配置図（Ｓ＝1/400）



第104図　ＩＤ区土層図（S＝1/60）



第105図　ＩＤ区柱列16・建物23（Ｓ＝1/60）



第106図　ＩＤ区柱列17（Ｓ＝1/60）

（２）第２遺構面の遺構と遺物

柱列16・掘立柱建物23（第105図）

調査区の東側中央に位置する。柱列16は２間（6.00ｍ）である。すべての柱穴から柱を検出した。掘立柱建物23は桁行き２間（7.24ｍ）、梁行き１間（3.80ｍ）である。柱列16は掘立柱建物23に伴う塀もしくは土庇の可能性も考えられる。

柱列17（第106図）

調査区の東側中央に位置する。東西２間（3.90ｍ）、南北は検出した全ての柱穴は５間（8.25ｍ）である。軸は掘立柱建物23と一致している。

第84表　Ⅰ区　柱列16　計測表

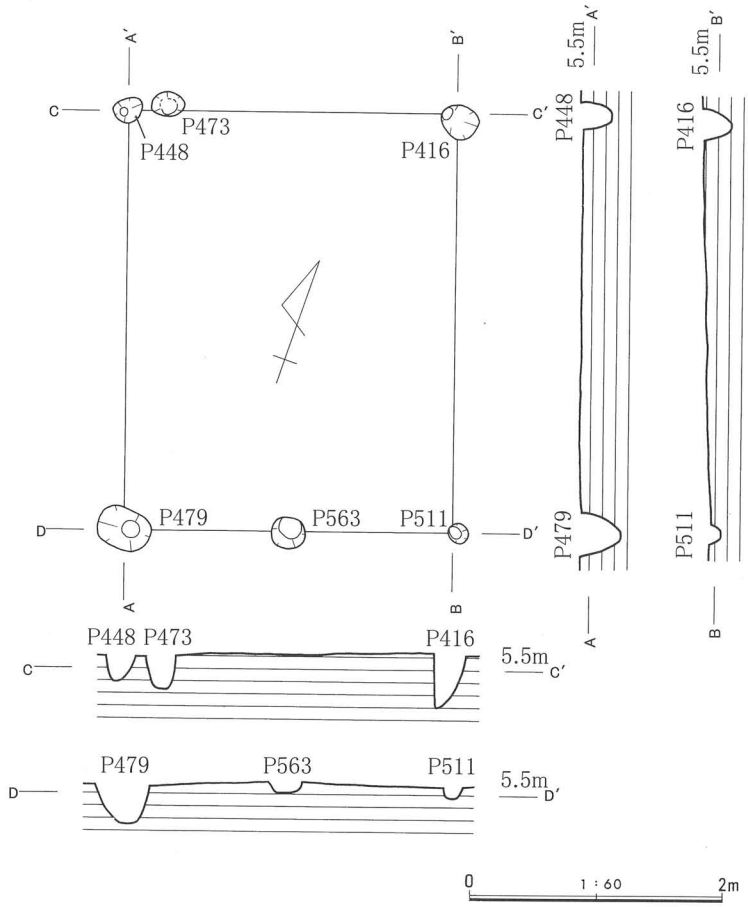
規模			梁行き					桁行き				
			間					(3) 間				
主軸			N − 75° − W									
穴	番号		P089	P088	P111	P187	P	P	P	P	P	P
	平面規模(cm)		40×36	24×18	26×25	31×23						
	標高(m)	上面	5.48	5.48	5.57	5.52						
		下面	−	5.26	−	−						
柱間距離(cm)			P089−P088	P088−P111	P111−P187	−	−	−	−	−	−	−
			30	270	300							
柱痕	番号		柱003	柱002	柱001	柱070	5	6	7	8	9	10
	規模(cm)	長	28	36	23	−						
		幅	10	8	16	17						

第85表　Ⅰ区　建物23　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			(2) 間					(3) 間				
主軸			N−75° −W									
穴	番号		P091	P092	P120	P190	P123	P264	P209	P225	P195	P273
	平面規模(cm)		43×43	16×14	47×36	113×62	30×30	34×14	30×26	28×22	72×40	112×78
	標高(m)	上面	5.47	5.47	5.44	5.52	5.50	5.52	5.48	5.45	5.44	5.47
		下面	5.00	5.37	5.14	5.31	−	−	5.18	(5.35)	(5.32)	−
柱間距離(cm)			P091−P092	P092−P120	P120−P190	P190−P123	P123−P264	P209−P225	P225−P195	P195−P273	P273−P091	P120−P225
			64	152	290	218	270	290	216	125	255	380
			P 190 − P209	−	−	−	−	−	−	−	−	−
			380									
柱痕	番号		柱105	柱108	柱005	4	5	6	7	8	9	10
	規模(cm)	長	−	−	49							
		幅	−	−	11							

第86表　Ⅰ区　建物17　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			(2) 間					(5) 間				
主軸			N − 15° − W									
穴	番号		P176	P136	P158	P154	P184	P294	P291	P236	P	P
	平面規模(cm)		32×30	30×27	46×29	43×25	28×24	26×26	27×23	41×30		
	標高(m)	上面	5.50	5.50	5.55	5.55	5.40	5.47	5.47	5.50		
		下面	5.10	5.25	5.44	5.40	−	5.08	5.20	−		
柱間距離(cm)			P176−P136	P136−P158	P158−P154	P154−P184	P184−P294	P294−P291	P291−P236	−	−	−
			180	210	150	300	90	75	210			
柱痕	番号		柱107	柱071	柱073	柱056	5	6	7	8	9	10
	規模(cm)	長	11	−	30	−						
		幅	7	12	9	13						



第107図　ＩＤ区建物24（Ｓ＝1/60）

第87表　Ｉ区　建物24　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		2　間					1　間				
主軸		N－17.5°－W									
穴	番号	P448	P479	P563	P511	P416	P473	P	P	P	P
	平面規模（cm）	22×18	42×32	26×25	16×14	30×25	26×18				
	標高（m） 上面	5.60	5.57	5.60	5.57	5.64	5.61				
	標高（m） 下面	5.36	5.25	5.52	5.48	5.20	5.35				
柱間距離（cm）		P448－P479	P479－P563	P563－P511	P511－P416	P416－P473	P473－P448	－	－	－	－
		335	130	130	335	230	30				

掘立柱建物24（第107図）

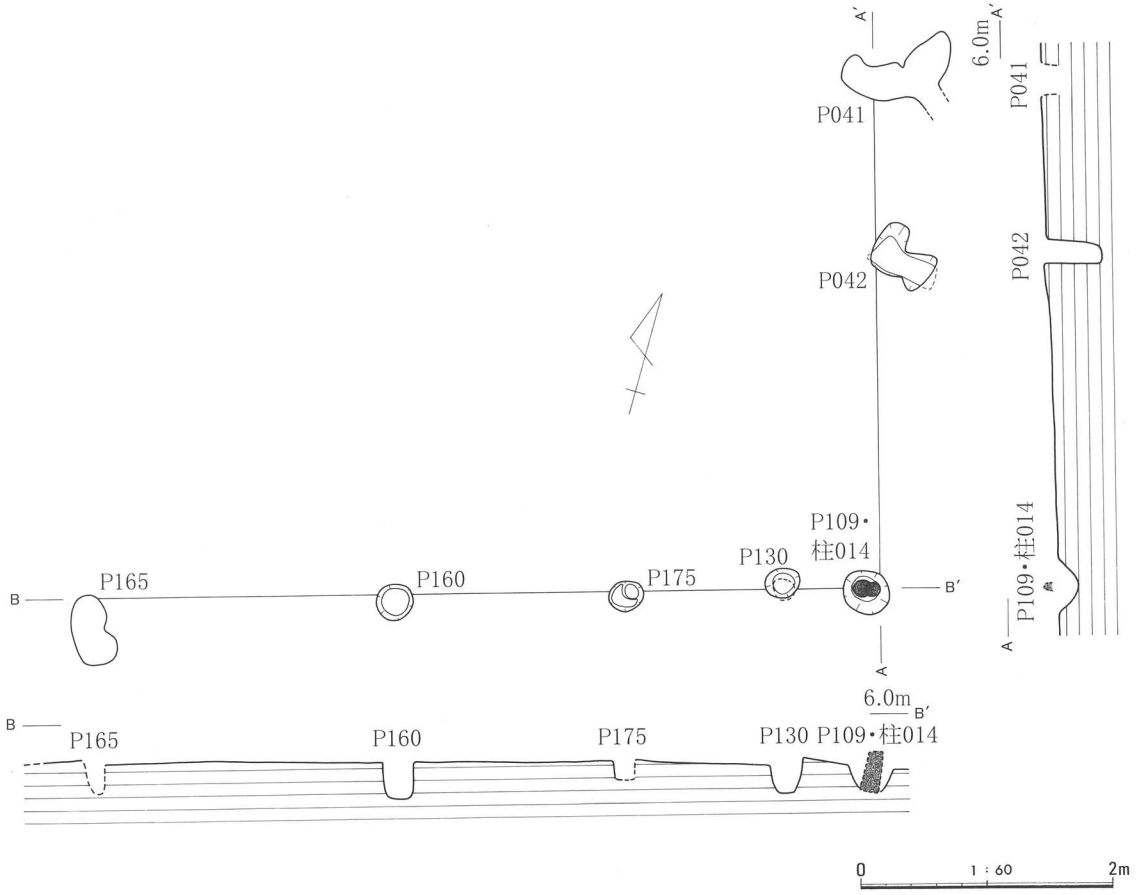
調査区のほぼ中央に位置する。桁行き１間（3.35m）、梁行き２間（2.60m）である。

柱列18（第108図）

調査区の北東に位置する。南北２間（3.90m）、東西４間（6.20m）である。

柱列19（第109図）

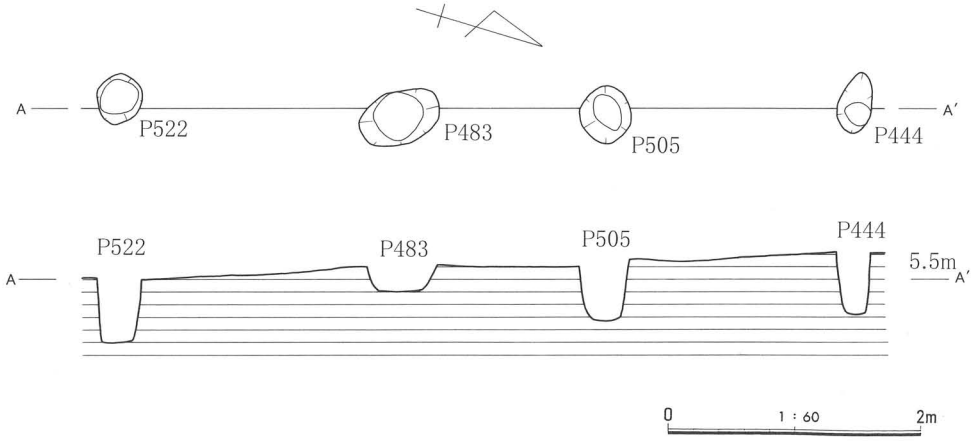
調査区の中央に位置する。南北３間（6.00m）である。



第108図　ＩＤ区柱列18（Ｓ＝1/60）

第88表　Ⅰ区　柱列18　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			(2) 間					(4) 間				
主軸			N−75° −E									
穴	番号		P041	P042	P109	P130	P175	P160	P165	P	P	P
	平面規模(cm)		(50)	52×22	37×34	28×24	27×23	30×28	56×27			
	標高(m)	上面	5.68	5.68	5.60	5.66	5.66	5.68	5.62			
		下面	−	5.22	5.43	5.38	(5.50)	5.38	−			
柱間距離(cm)			P041−P042	P042−P109	P109−P130	P130−P175	P175−P160	P160−P165	−	−	−	−
			120	260	75	125	180	240				
柱痕	番号		柱104	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	規模(cm)	長	36									
		幅	16									



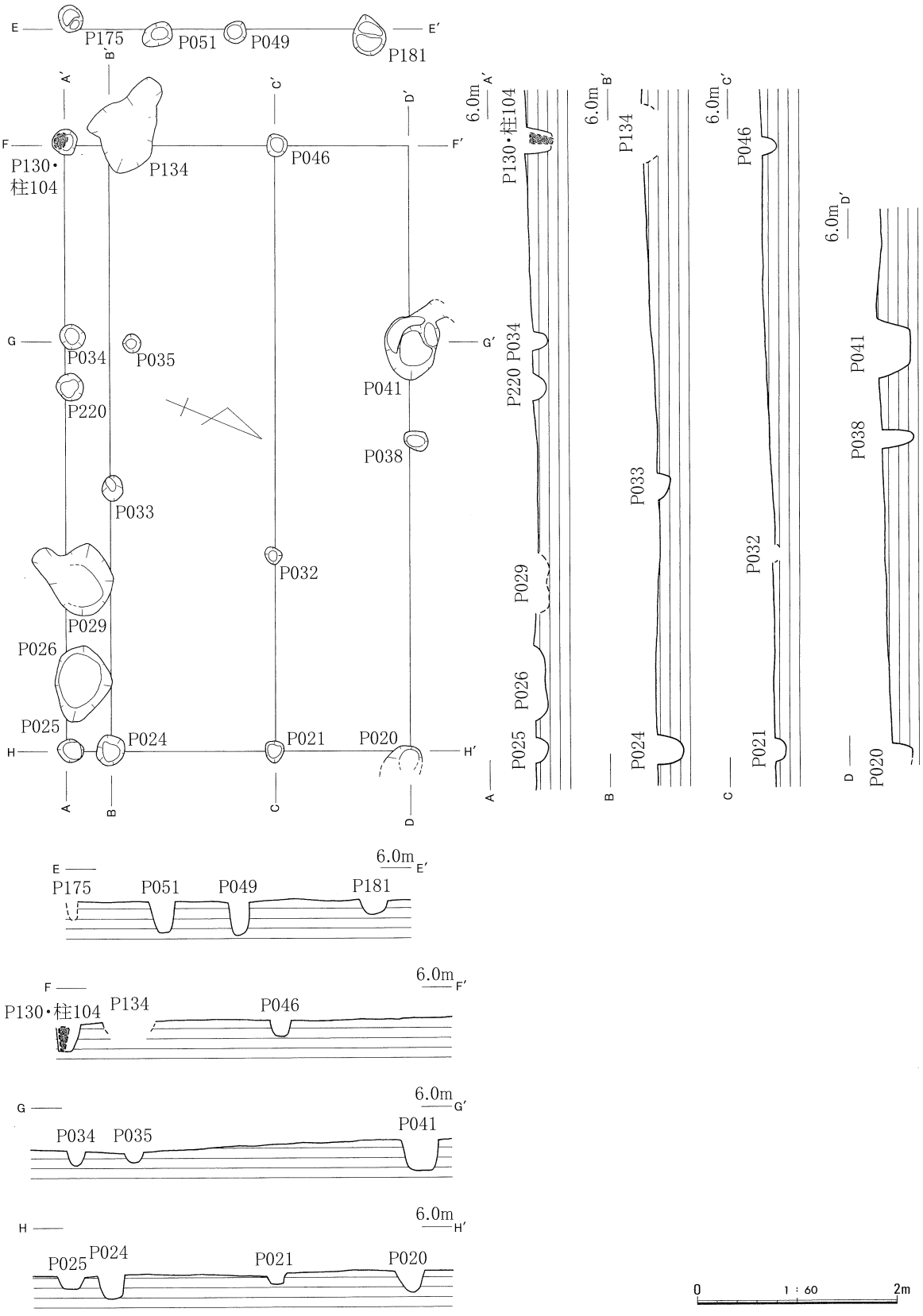
第109図　ＩＤ区柱列19（Ｓ＝1/60）

第89表　Ｉ区　柱列19　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		間					3　間				
主軸		N－16.5°－W									
穴	番号	P44	P505	P483	P522	P	P	P	P	P	P
	平面規模（cm）	50×28	46×41	66×44	40×36						
	標高（m） 上面	5.70	5.65	5.61	5.51						
	標高（m） 下面	5.22	5.16	5.40	5.00						
柱間距離（cm）		P44－P505	P505－P483	P483－P522	－	－	－	－	－	－	－
		210	150	240							

柱列20・掘立柱建物25（第110図）

調査区の北東に位置する。柱列20は南北３間（3.00m）である。掘立柱建物は桁行き２間（6.00m）、梁行き（3.45m）である。



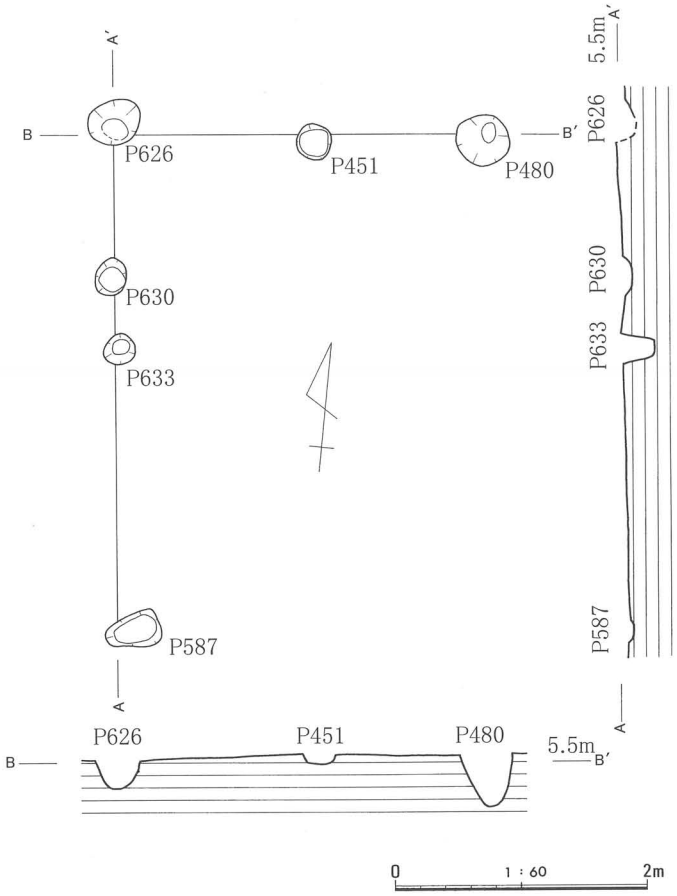
第110図　ＩＤ区柱列20・建物25（Ｓ＝1/60）

第90表　Ｉ区　柱列20　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		間					3　間				
主軸		N－22°－W									
穴	番号	P181	P049	P051	P175	P	P	P	P	P	P
	平面規模(cm)	41×34	24×22	32×22	28×24						
	標高(m) 上面	5.67	5.66	5.67	5.66						
	標高(m) 下面	5.53	5.32	5.35	(5.47)						
柱間距離(cm)		P181－P049	P049－P051	P051－P175	－	－	－	－	－	－	－
		135	75	90							

第91表　Ｉ区　建物25　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		3　間					(2)　間				
主軸		N－68°－E									
穴	番号	P020	P038	P041	P046	P134	P130	P034	P220	P029	P026
	平面規模(cm)	(40)	26×19	(50)	23×22	(100×60)	27×26	26×24	28×26	85×69	77×56
	標高(m) 上面	5.58	5.66	5.71	5.67	5.66	5.65	5.57	5.57	5.54	5.56
	標高(m) 下面	5.37	5.35	5.38	5.52	－	－	5.42	5.44	－	5.41
	番号	P025	P024	P021	P032	P033	P035	P	P	P	P
	平面規模(cm)	26×24	30×30	22×18	19×16	25×21	20×18				
	標高(m) 上面	5.54	5.53	5.54	5.57	5.51	5.55				
	標高(m) 下面	5.41	5.27	5.44	－	5.40	5.45				
柱間距離(cm)		P020－P038	P038－P041	P046－P134	P134－P130	P130－P034	P034－P P220	P220－P029	P029－P026	P026－P025	P025－P024
		310	90	165	45	195	45	195	90	75	45
		P024－P021	P021－P020	P021－P032	P032－P046	P024－P033	P033－P134	－	－	－	－
		165	135	195	405	270	335				
柱痕	番号	柱104	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	規模(cm) 長	－									
	規模(cm) 幅	(11)									



第111図　ＩＤ区柱列21（Ｓ＝1/60）

第92表　Ⅰ区　柱列21　計測表

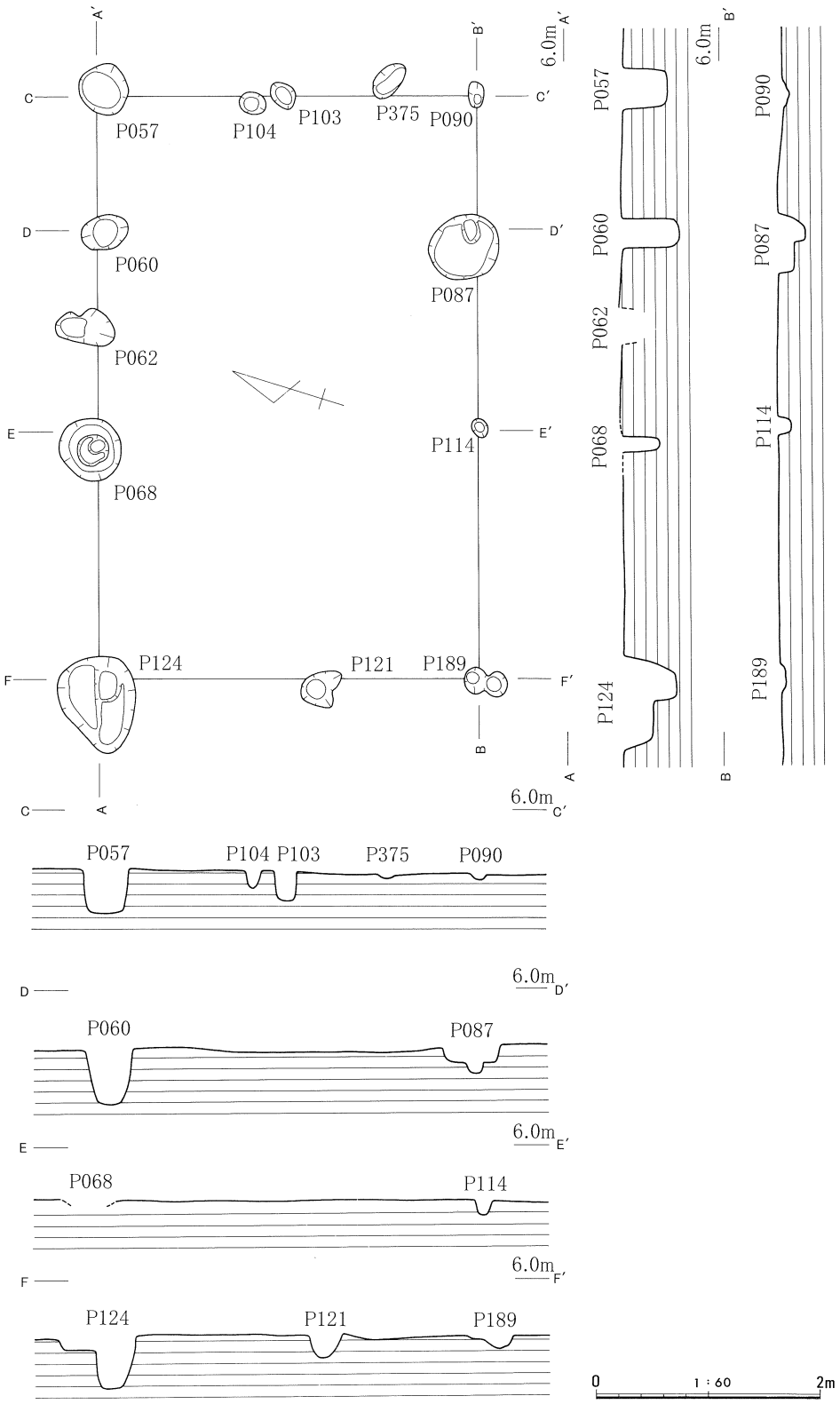
規模		梁行き (2) 間					桁行き (3) 間				
主軸		N－5°－W									
穴	番号	P480	P451	P626	P630	P633	P587	P	P	P	P
	平面規模 (cm)	43×40	28×28	43×34	30×25	25×23	44×28				
	標高 (m) 上面	5.57	5.57	5.52	5.47	5.49	5.44				
	標高 (m) 下面	5.15	5.50	5.30	5.40	5.22	5.40				
柱間距離(cm)		P480－P451	P451－P626	P626－P630	P630－P633	P633－P587	－	－	－	－	－
		140	160	120	45	225					

柱列21（第111図）

調査区の中央に位置する。東西２間（3.00m）、南北３間（3.90m）である。

掘立柱建物26（第112図）

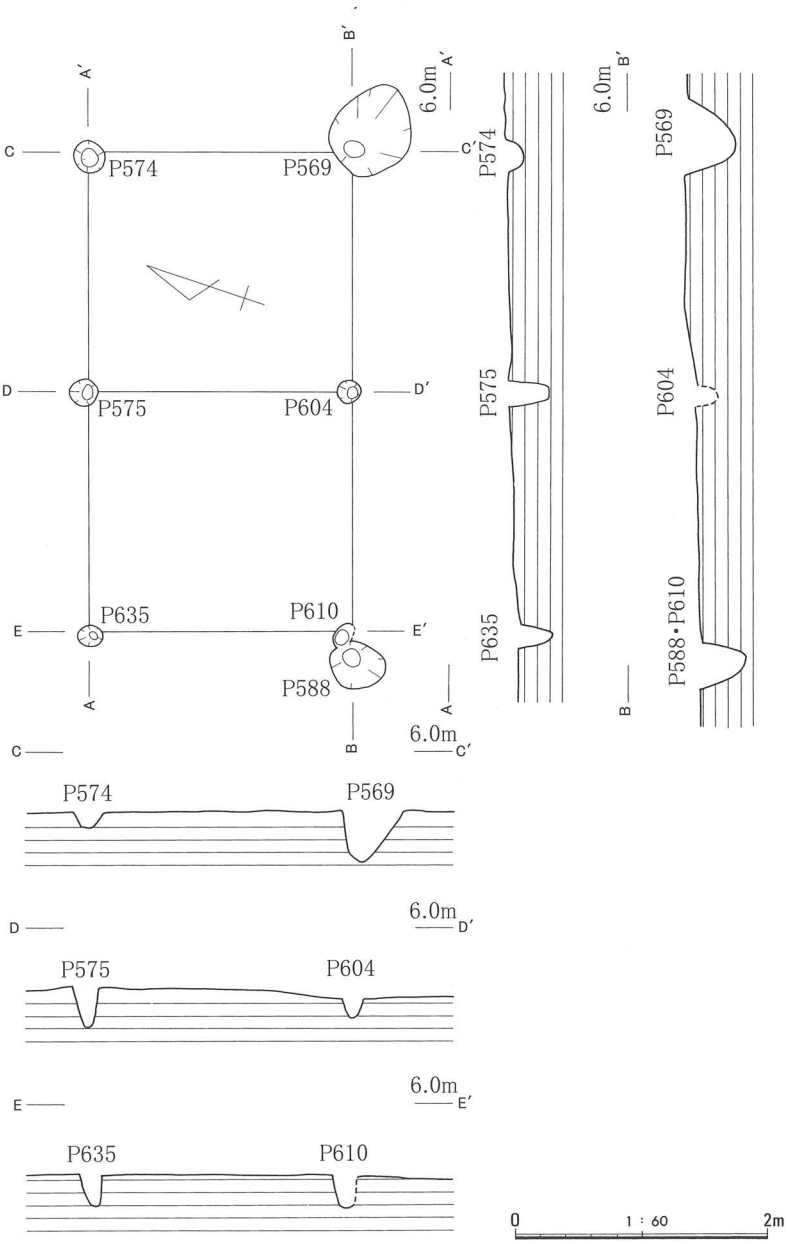
調査区の東側中央に位置する。桁行き３間（5.2m）、梁行き２間（3.4m）である。



第112図　ＩＤ区建物26（Ｓ＝1/60）

第93表　Ⅰ区　建物26　計測表

規模		梁行き (2) 間					桁行き (3) 間				
主軸		N−72° −E									
穴	番号	P057	P060	P062	P068	P124	P121	P189	P114	P087	P090
	平面規模 (cm)	46×42	42×30	52×32	58×52	85×68	40×33	22×(20)	17×14	62×62	23×14
	標高 (m) 上面	5.48	5.50	5.52	5.52	5.50	5.52	5.50	5.50	5.48	5.44
	標高 (m) 下面	5.08	4.98	−	5.16	5.02	5.31	5.38	5.38	5.24	5.38
	番号	P375	P103	P104	P	P	P	P	P	P	P
	平面規模 (cm)	37×20	26×20	24×20							
	標高 (m) 上面	5.42	5.45	5.44							
	標高 (m) 下面	5.38	5.18	5.30							
柱間距離(cm)		P057−P060	P060−P062	P062−P068	P068−P124	P124−P121	P121−P189	P189−P114	P114−P087	P087−P090	P090−P375
		120	90	100	210	195	145	225	175	120	85
		P375−P103	P103−P104	P104−P057	−	−	−	−	−	−	−
		90	25	140							



第113図　ＩＤ区建物27（S＝1/60）

第94表　Ｉ区　建物27　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		1　間					2　間				
主軸		N－76°－E									
穴	番号	P635	P610	P604	P569	P574	P575	P	P	P	P
	平面規模(cm)	20×17	22×(14)	20×18	66×62	26×22	22×20				
	標高(m) 上面	5.44	5.56	5.48	5.56	5.57	5.54				
	標高(m) 下面	5.18	5.26	－	5.14	5.42	5.20				
柱間距離(cm)		P635－P610	P610－P604	P604－P569	P569－P574	P574－P575	P575－P635	P604－P575	－	－	－
		210	195	190	210	190	195	210			

第95表　Ｉ区　建物28　計測表

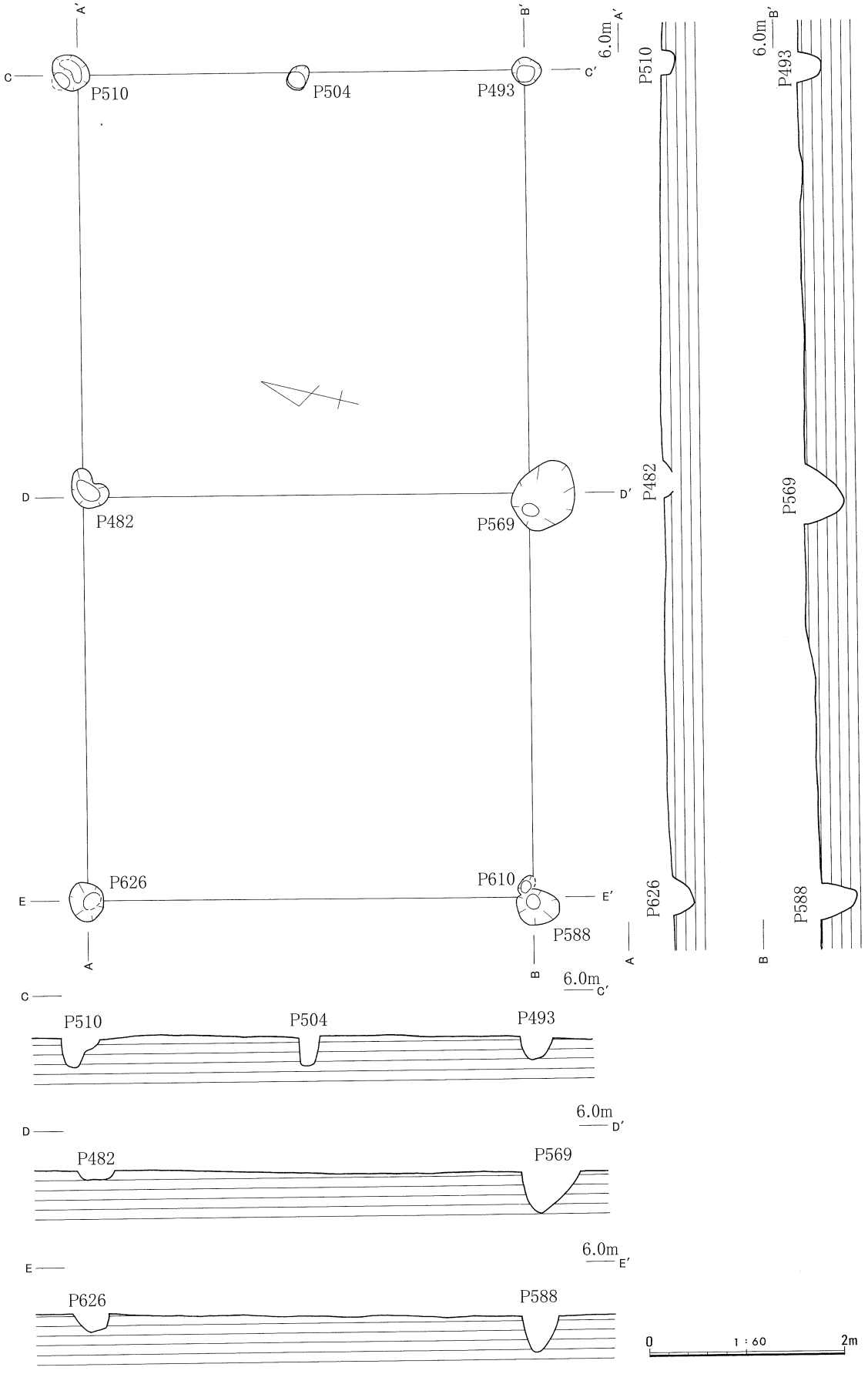
規模		梁行き					桁行き				
		2　間					(2)　間				
主軸		N－76°－E									
穴	番号	P626	P588	P569	P493	P504	P510	P482	P476	P	P
	平面規模(cm)	41×37	46×38	74×62	31×29	29×21	40×34	44×27	20×14		
	標高(m) 上面	5.52	5.41	5.52	5.54	5.56	5.56	5.60	5.59		
	標高(m) 下面	5.32	5.06	5.14	5.32	5.26	5.26	5.50	5.38		
柱間距離(cm)		P626－P588	P588－P569	P569－P493	P493－P504	P504－P510	P510－P482	P482－P476	P476－P626	P482－P569	－
		460	415	435	240	220	435	205	210	210	

掘立柱建物27（第113図）

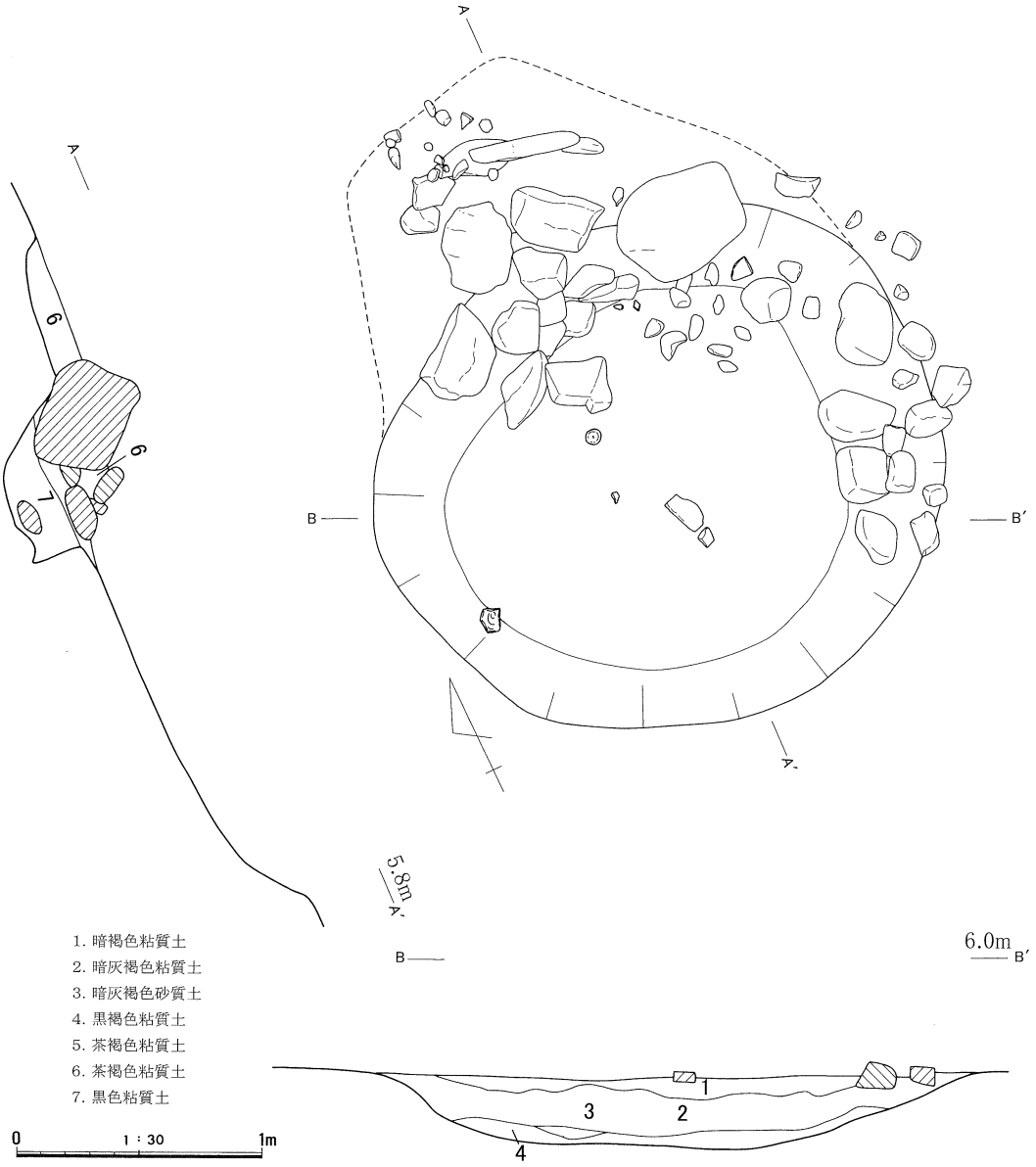
調査区の中央に位置する。桁行き2間（3.85m）、梁行き（2.10m）である。主軸は掘立柱建物28と一致し、平面的にも重なっている。

掘立柱建物28（第114図）

調査区の中央に位置する。梁行き2間（4.60m）、桁行き2間（8.50m）である。



第114図　ＩＤ区建物28（Ｓ＝1/60）

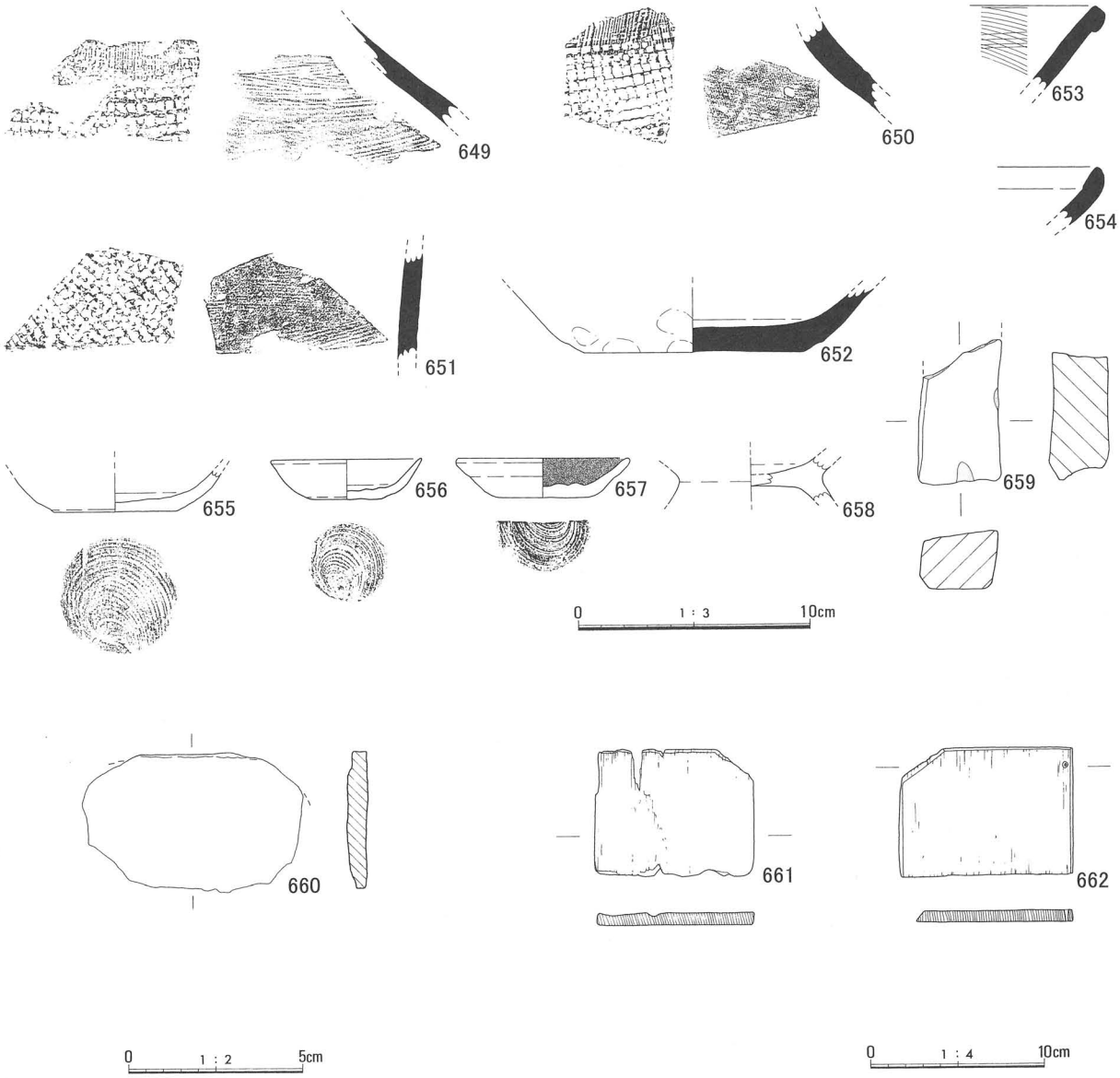


第115図　ＩＤ区土坑17（Ｓ＝1/30）

土坑17（第115図）

調査区の中央やや西よりに位置しており、平面円形、断面皿状の浅い土坑である。直径約2.3m、深さ約30cmで注口状に北側に広がっており、この部分を中心に直径10～50cmの自然石を検出した。土層はほぼ水平に４層である。

出土遺物は第116図のとおりで、649～651は中世須恵器の甕で649、650は外面格子タタキ、内面ハケ目、頸部付近に縦方向のハケメ調整が施されている。（甕Ｅ類）652～654は中世須恵器の鉢である。653は内面ハケ目で口縁部は玉縁状に肥厚している。（鉢Ｚ類）655～658は土師質土器である。655は坏、656、657は皿、658は高台付坏である。656は器壁が薄く、底部から内湾気味に立ち上がるが、口縁端部は内湾せず、直線的に立ち上がる。（皿Ⅵ類）659は砥石、660は鉄器で器種は不明で土坑の底から出土しており、表面は赤色を呈していた。661、662は木製品である。



第116図　ＩＤ区土坑17出土遺物（Ｓ＝1/3、660はＳ＝1/2、661・662はＳ＝1/4）

第96表　ＩＤ区遺物観察表

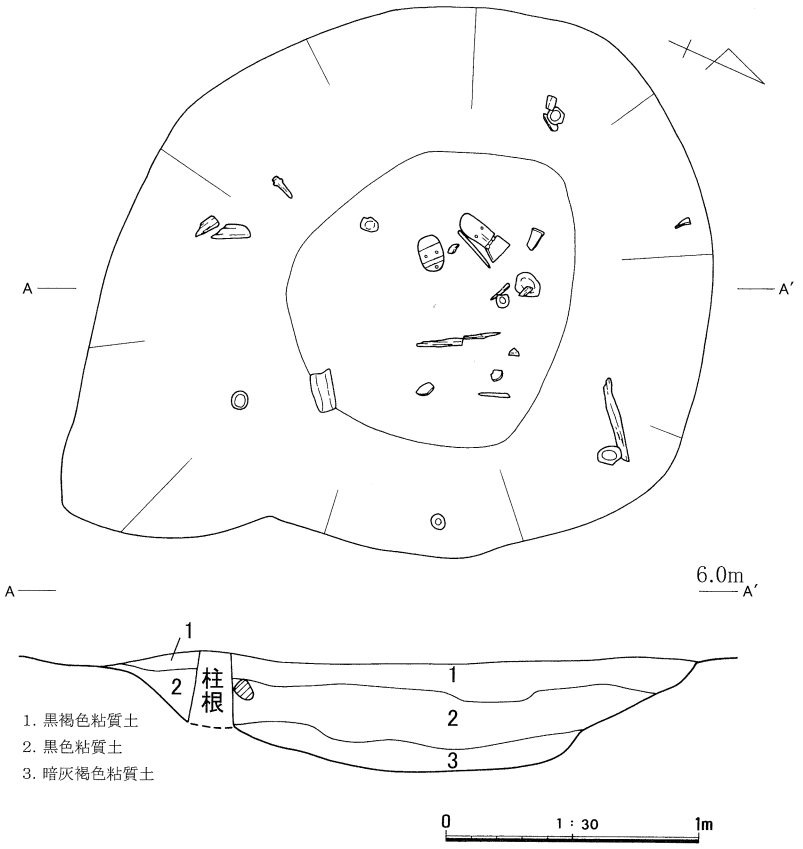
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
649	1061	139上	土坑17		中世須恵器	甕				甕E類	内：ハケ目後ナデ 外：ハケ目､格子目タタキ	密微粒子の石英を含む 灰色(10Y4/1)	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰白色(2.5Y8/1)	
650	1062	139上	土坑17		中世須恵器	甕				甕E類	内：ハケ目後ナデ? 外：ハケ目､格子目タタキ	密　微粒子の石英を含む	内：灰色(5Y6/1) 外：灰色(5Y6/1)	
651	1063	139上	土坑17		中世須恵器	甕				甕E類	内：ハケ目 外：格子目タタキ	密　微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰色(5Y5/1)	
652	1042	139上	土坑17		中世須恵器	鉢		(9.4)			内：不明 外：ナデ､指頭圧痕	密　微粒子の石英を含む	内：灰色(5Y6/1) 外：灰色(5Y6/1)	反転実測
653	1039	139上	土坑17		中世須恵器	鉢				鉢Z類	内：ナデ?ハケ目 外：ナデ?　口縁部：横ナデ?	径1㎜弱の黒雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(2.5YR6/4) 外：鈍い橙色(5YR7/3)	
654	1043	139上	土坑17		中世須恵器	鉢				断面に黒色物質付着	内：横ナデ? 外：横ナデ?	微粒子の石英を含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
655	1038	139上	土坑17		土師質土器	坏		5.3		内外面の一部に黒色物質付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を多く含む	内：灰黄褐色(10YR6/2)～黒褐色(2.5Y3/1) 外：鈍い黄褐色(10YR7/2)	
656	1002	139上	土坑17	4	土師質土器	Ⅲ	6.6	3.0	1.7	Ⅲ Ⅳ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の石英を含む黒雲母、長石、石英を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	
657	1033	139上	土坑17		土師質土器	Ⅲ	(7.4)	(4.1)	1.7	Ⅲ　Ⅳ類内面全体に黒色物質付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む　鈍い橙色(7.5YR7/4)	内：黒色(7.5Y2/1) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)～黒色(10YR2/1)	反転実測
658	1041	139上	土坑17	6	土師質土器	高台付坏					内：不明 外：回転ナデ?	径1㎜弱の金雲母、長石、石英を含む	内：褐灰色(10YR4/1) 外：褐灰色(10YR4/1)	反転実測 磨耗が激しい

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
659	561	139上	土坑17		砥石	6.06	3.50	2.50	85.35	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	寸法(cm) 長さ	幅	厚さ	形態・文様の特徴	備考
660	F9	139上	土坑17		－	(4.00)	(5.35)	(0.55)		

第97表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	種別	層位	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
661	W46	141下	土坑17	－		7.3	8.9	0.7			
662	W45	141下	土坑17	－		7.4	9.9	0.7			

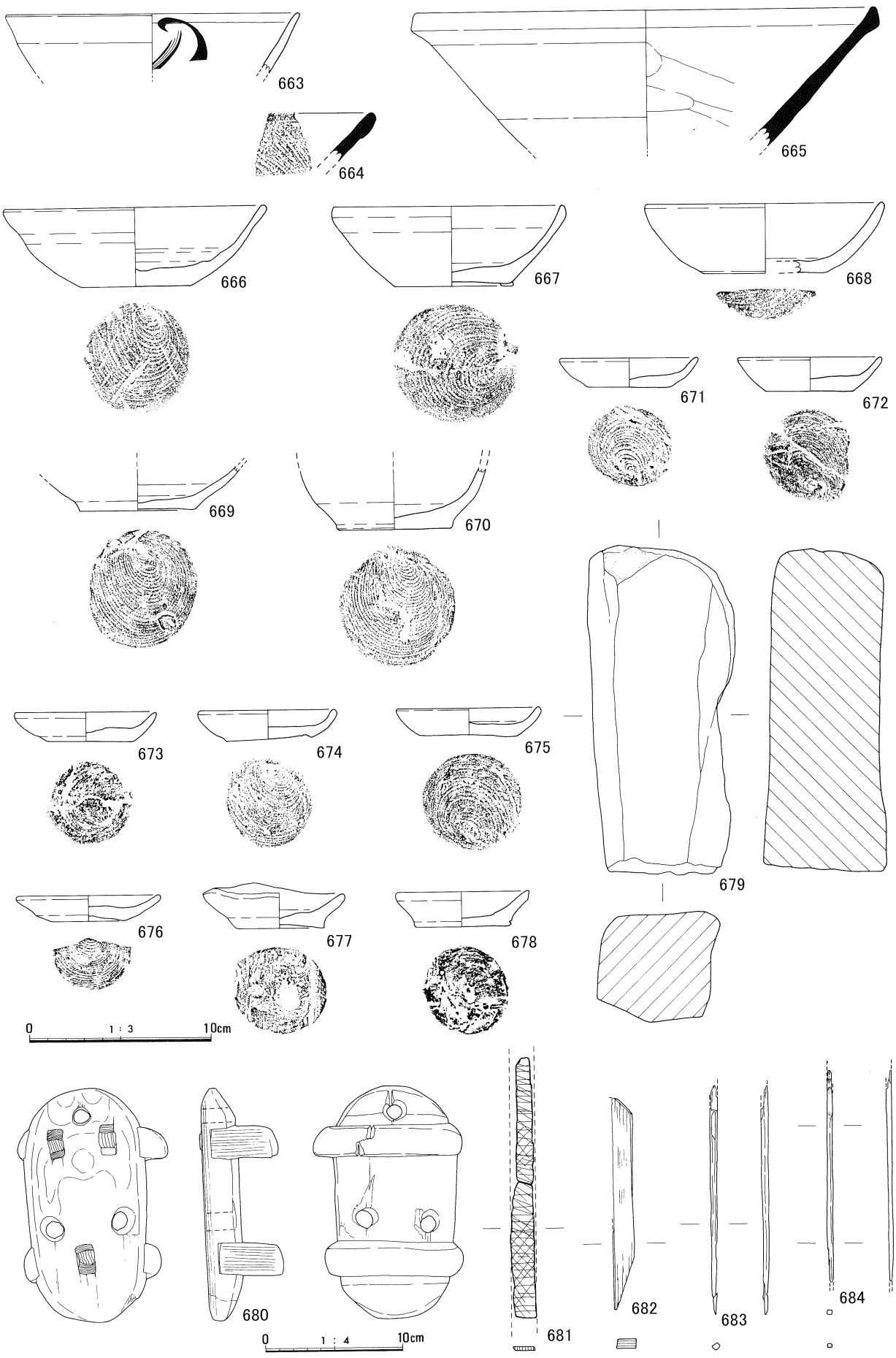


第117図　ＩＤ区土坑18（Ｓ＝1/30）

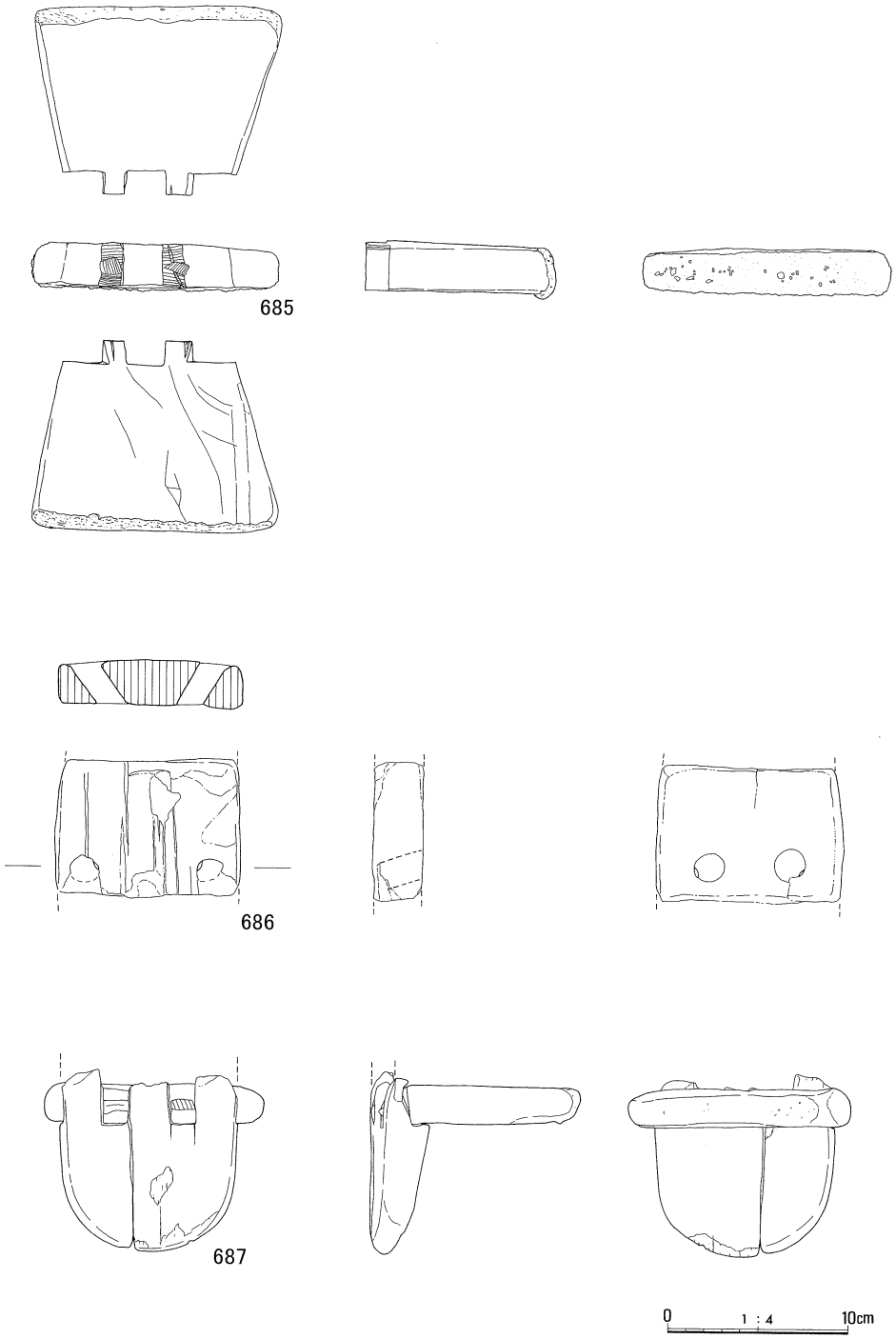
土坑18（第117図）

調査区の中央やや東よりに位置している平面円形、断面皿状の土坑である。直径約2.3m、深さ約40cmで東に向かって注口状に広がっており別の土坑があったことも考えられるが、切り合い等は確認できなかった。土層は３層確認しており水平に近い堆積である。

出土遺物は118、119図のとおりで、118図663は龍泉窯系椀の口縁部である。664、665は中世須恵器の鉢の口縁部である。666～670は土師質土器の坏、671～678は皿である。666は底部が厚く底部から口縁部にかけて内湾しつつ立ち上がる。（坏Ｉ類）667は底部から直線的に立ち上がり口縁端部は内湾する。また口縁部は肥厚する。（坏Ⅳ類）668は底部から内湾しつつ立ち上がる。器壁はやや厚い。（坏Ⅲ'類）669、670は底部付近にナデによるしぼり込みが見られる。671～675は底部から内湾気味に立ち上がり浅めの皿である。（皿Ｉ類）676は底部から内湾しながら緩やかに立ち上がる。（皿Ⅱ'類）677、678は底部付近にナデによるしぼり込みがみられ、直線的に立ち上がる。底部はヘラ切りと考えられる。679は砥石、680は露卯下駄、681はケビキのある木製品、682は不明木製品、683、684は箸状木製品である。119図685～687は同一個体の露卯下駄で土坑の底で出土した。つま先部分は確認できなかった。



第118図　ＩＤ区土坑18出土遺物①（Ｓ＝1/3、680～684はＳ＝1/4）



第119図　ＩＤ区土坑18出土遺物②（Ｓ＝1/4）

第98表　ＩＤ区遺物観察表

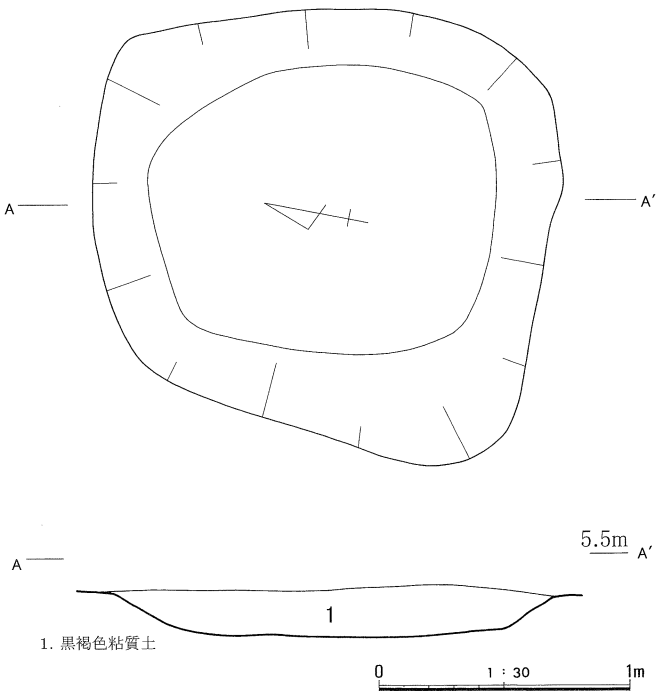
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
663	1014	139下	土坑18		青磁(龍泉窯系)	椀	(16.2)		3.3	内面に片彫りの文様有り椀Ⅰ－2類(D期)		密　きめ細かい 青灰色(5PB7/1)	内釉：オリーブ灰色(5GY6/1) 外釉：オリーブ灰色(5GY6/1)	反転実測
664	1015	139下	土坑18		中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ナデ?ハケ目 外：ナデ? 口縁部：横ナデ?	きめやや粗い　径1mm弱の長石、石英を多く含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：暗青灰色(5B4/1)	
665	1006	139下	土坑18		中世須恵器	鉢	(25.8)			鉢Ａ－1´´類	内：不明 外：回転ナデ?	径1mm弱の長石、石英を多く含む	内：灰黄褐色(10Y4/2) 外：灰白色(5Y4/2)	反転実測
666	1012	140	土坑18	2	土師質土器	坏	(14.0)	6.0	4.3	坏Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	一部反転実測
667	1011	140	土坑18		土師質土器	坏	(13.6)	6.6	3.7	坏Ⅳ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、黒雲母、長石、石英を多く含む	内：灰黄褐色(10YR6/2) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	一部反転実測
668	1010	139下	土坑18		土師質土器	坏	(13.2)	(6.8)	3.8	坏Ⅲ´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測
669	1028	140	土坑18		土師質土器	坏		6.4			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	
670	1013	140	土坑18		土師質土器	坏		6.4			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石、石英を多く含む	内：灰黄色(2.5Y6/2) 外：灰黄色(2.5Y6/2)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
671	1003	140	土坑18		土師質土器	Ⅲ	7.6	4.4	1.1	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
672	1021	140	土坑18		土師質土器	Ⅲ	(7.8)	4.8	1.9	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(2.5YR6/4)～鈍い橙色(5YR7/4)　外：橙色(5YR7/6)～黄灰色(2.5Y5/1)	反転実測
673	1001	140	土坑18		土師質土器	Ⅲ	7.8	4.6	1.7	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母を含む　径1mm前後の石英、赤色粒子を多く含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	
674	1030	140	土坑18		土師質土器	Ⅲ	7.7	4.7	1.7	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母を多く含む　径1mm前後の赤色粒子を含む	内：橙色(5Y R7/6) 外：橙色(5Y R7/6)	
675	1029	140	土坑18		土師質土器	Ⅲ	7.9	5.5	1.6	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の石英を多く含む　径1mm弱の赤色粒子を多く含む	内：橙色(2.5Y R6/6) 外：橙色(2.5Y R6/6)	
676	1026	－	土坑18		土師質土器	Ⅲ	(7.8)	(4.0)	1.4	Ⅲ Ⅱ´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/3) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/3)	反転実測
677	1009	140	土坑18		土師質土器	Ⅲ	7.3	4.8	2.5	内面一部焼跡有り かなりの歪み有り	内：回転ナデ　外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ？	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
678	1008	140	土坑18		土師質土器	Ⅲ	7.3	5.4	1.9		内：回転ナデ　外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ？	微粒子の金雲母を含む　径2～3mmの赤色粒子を含む	内：橙色(7.5Y R7/6) 外：橙色(7．5Y R7/6)	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
679	1036	－	土坑18		砥石	17.3	8.76	6.55	1502.57	4面使用

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	種別	層位	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
680	W48	140下 141下	土坑18	露卯下駄	3	17.8 (台部)	9.0 (台部)		5.5		
681	W24	141下	土坑18	折敷又は曲物？		(18.9)		0.3	(1.8)		
682	W47	141下	土坑18	－		(15.3)	(1.4)	0.8			
683	W68	141下	土坑18	箸状木製品		(16.5)	0.6	0.6			
684	W69	141下	土坑18	箸状木製品		(15.3)	0.35	0.3			

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	種別	層位	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
685	W72	141	土坑18	露卯下駄			13.8 (歯部最大)	2.7 (歯部)	9.5 (歯部)		685～687は同一個体
686	W71	141	土坑18	露卯下駄		(7.6) (台部)	10.2 (台部)		2.8		685～687は同一個体
687	W70	141	土坑18	露卯下駄		(10.3) (台部)	10.0 (台部)	11.7			685～687は同一個体

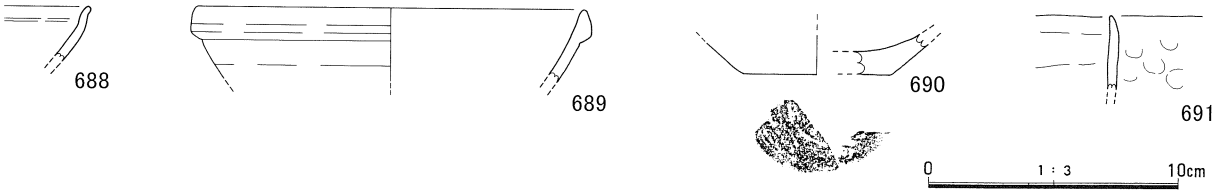


第120図　ＩＤ区土坑19（Ｓ＝1/3）

土坑19（第120図）

調査区の東南に位置し、平面楕円形、断面皿状の土坑である。直軸約1.8m、短軸約1.6m、深さ20cmを測る。

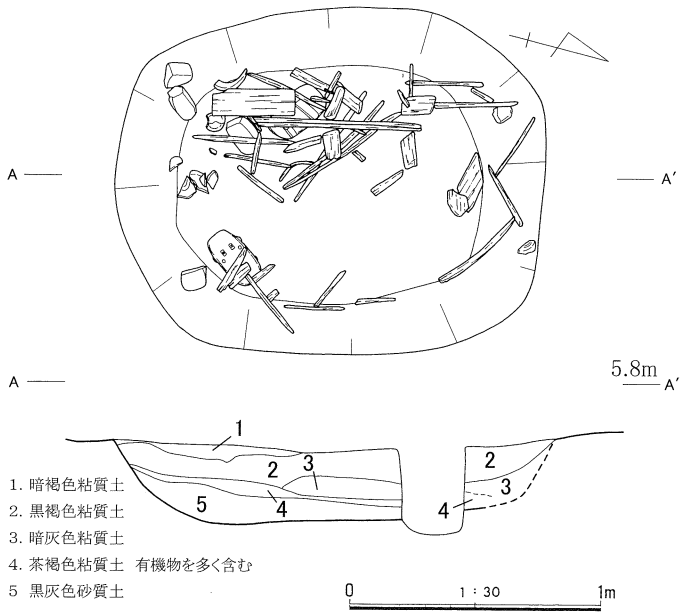
出土遺物は121図のとおりで、688は京都産と考えられる緑釉陶器の椀口縁部、689は白磁の椀Ⅳ類口縁部、690は土師質土器の坏または皿底部、691は製塩土器口縁部である。



第121図　ＩＤ区土坑19出土遺物（Ｓ＝1/3）

第99表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
688	1035	142 上	土坑19 南側		緑釉陶器	椀	(10.9)			京都産か？	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密 灰白色(7.5Y7/1)	内：灰オリーブ色(7.5Y6/3) 外：オリーブ黄色(7.5Y7/1)	反転実測
689	1072	142 上	土坑19		白磁	椀	(15.5)			椀Ⅳ類（C期）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ削り	密　微粒子の雲母を含む	内：灰白色(5Y7/2) 外：灰白色(5Y7/2)	反転実測
690	1031	142 上	土坑19		土師質土器	坏		(5.8)			内：不明 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測 磨耗が激しい
691	1034	142 上	土坑19 南側		製塩土器	—					内：横ナデ 外：指頭圧痕	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	

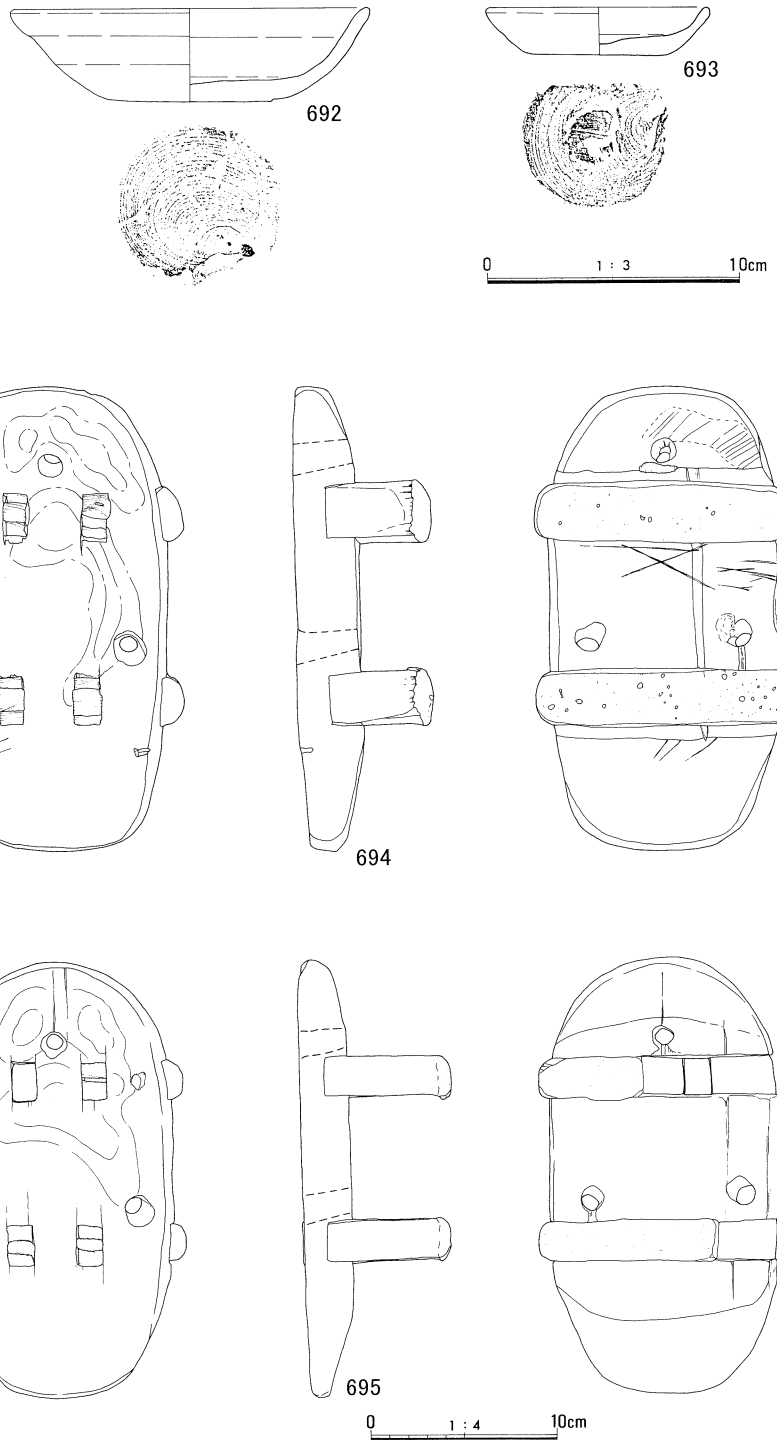


第122図　ＩＤ区土坑20（Ｓ＝1/30）

土坑20（第122図）

調査区のほぼ中央に位置し、平面楕円形、断面皿状の土坑である。長軸約1.7m、短軸約1.4m、深さ約30cmを測る。

出土遺物は123～125図のとおりで、692、693は土師質土器の坏と皿である。その他に、大量の木製品が出土している。694、695は露卯下駄である。伴に長さ約25cm、幅11cm、高さ約6cmである。状態はかなりしっかりしており、共に右足で、歯の部分には使用したため小石が入り込んでいる。696～712は弓状の木製品またはその一部と考えられる。長さ約55cm、幅約2cm、厚さ約1cmで、端は片側が先細りに加工され、もう片側はかぎ状に加工されている。また全体に弓状に緩くアーチを描くように反っている。アーチ状の内側中央部に削ったためもしくは使用のための窪みが確認できるものもある。用途等は不明である。713～721は用途不明の木材である。722は漆を塗布した容器と考えられ、漆の残りは悪いが、ハケメ痕が確認できた。723、724は板状の木製品であり用途等は不明である。725、726は箸状の木製品である。727、728はケビキの入った木材である。729～733は木枝片であるが、弓状木製品と同様な窪みが確認できた。これらの木製品はおもに第4層から出土している。

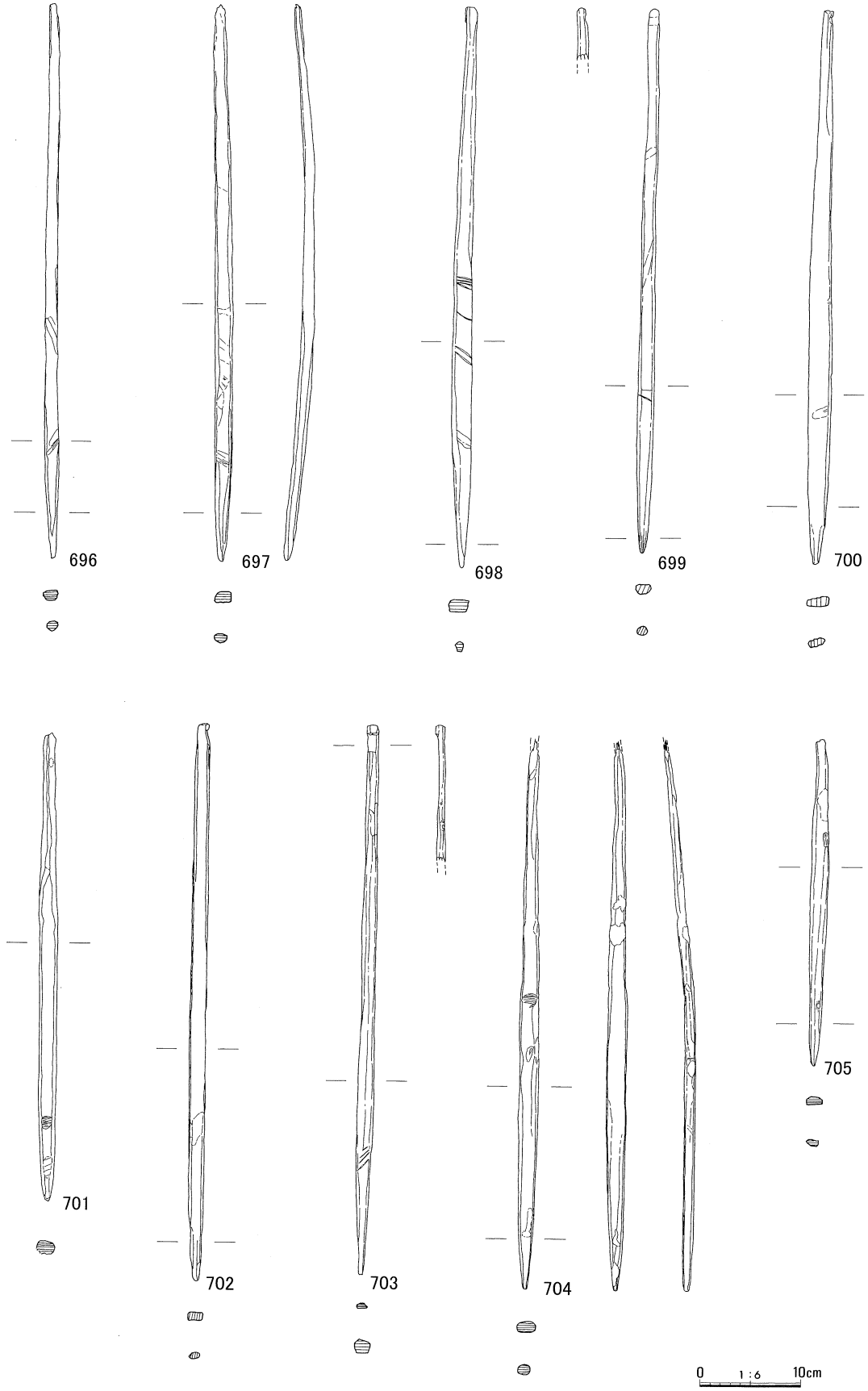


第123図　ⅠD区土坑20出土遺物①（692・693はS＝1/3、694・695はS＝1/4）

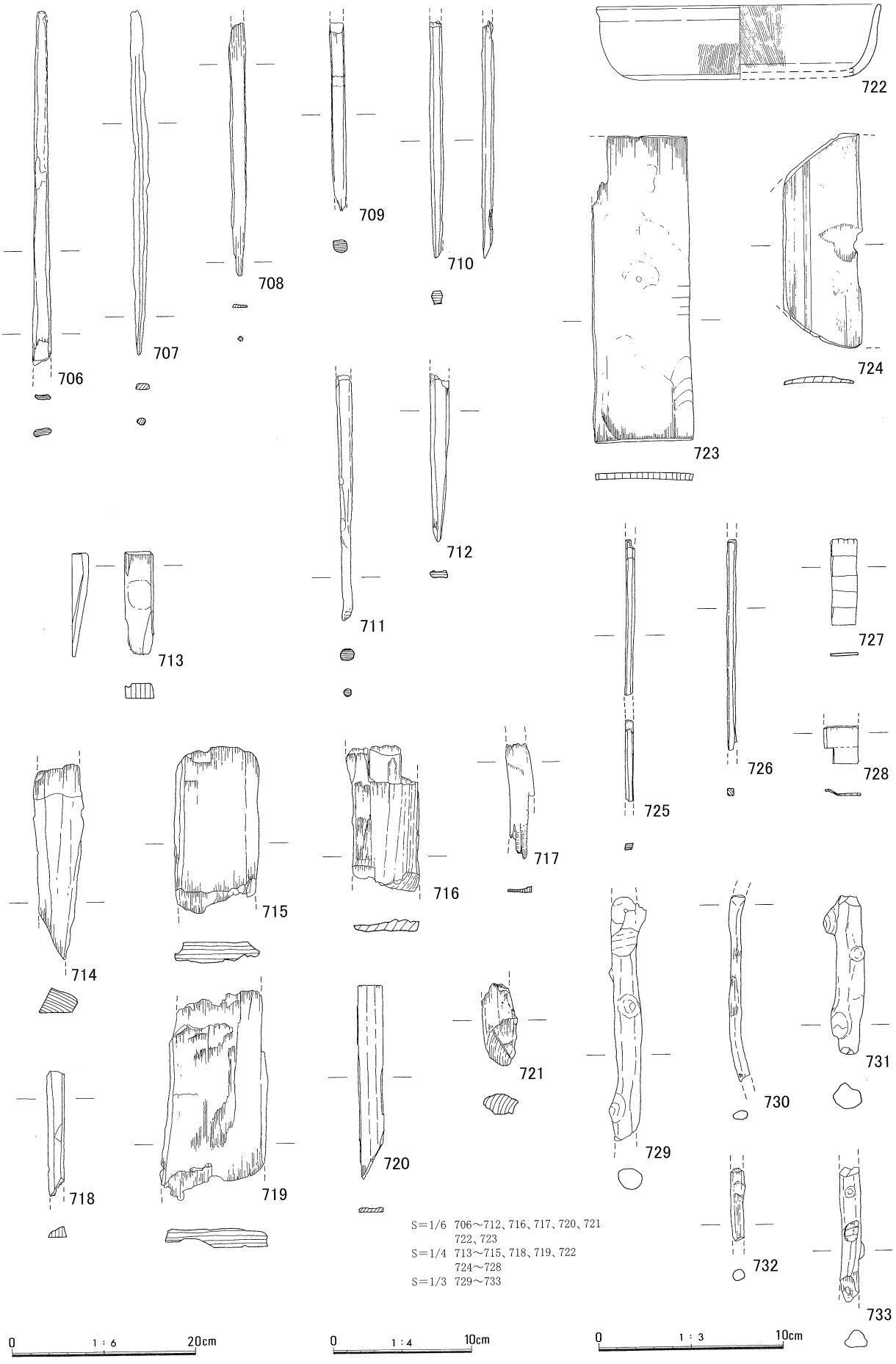
第100表　ⅠD区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
692	1027	142上	土坑20		土師質土器	坏	14.4	6.7	3.7	坏Ⅰ´類 底径が大きい	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：灰白色(10YR8/2)	
693	1005	142上	土坑20		土師質土器	皿	8.7	5.4	1.9		内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石、赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(5YR7/3) 外：鈍い橙色(5YR7/3)	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	種別	層位	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
694	W21	144	土坑20	露卯下駄		(24.8)	(12.4)	(7.2)			
695	W19	144	土坑20	露卯下駄		23.1	12.1	9.0			



第124図　ＩＤ区土坑20出土遺物②



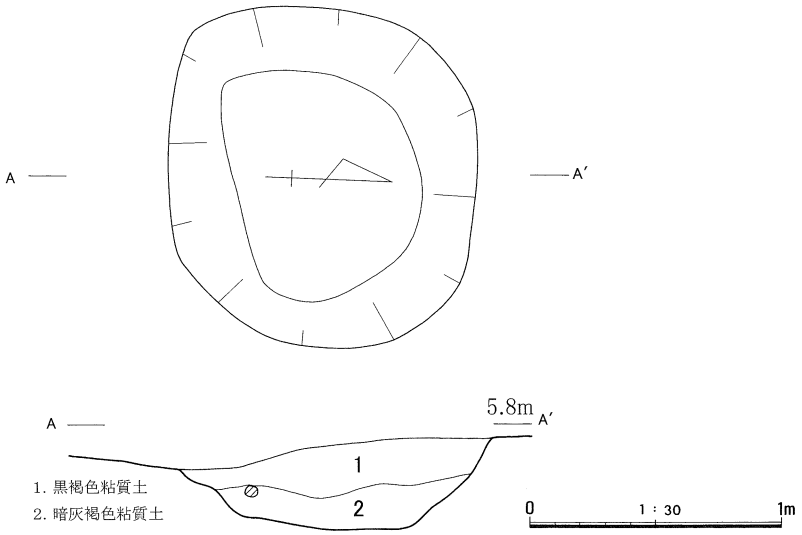
第125図　ＩＤ区土坑20出土遺物③

第101表　ＩＤ区遺物観察表

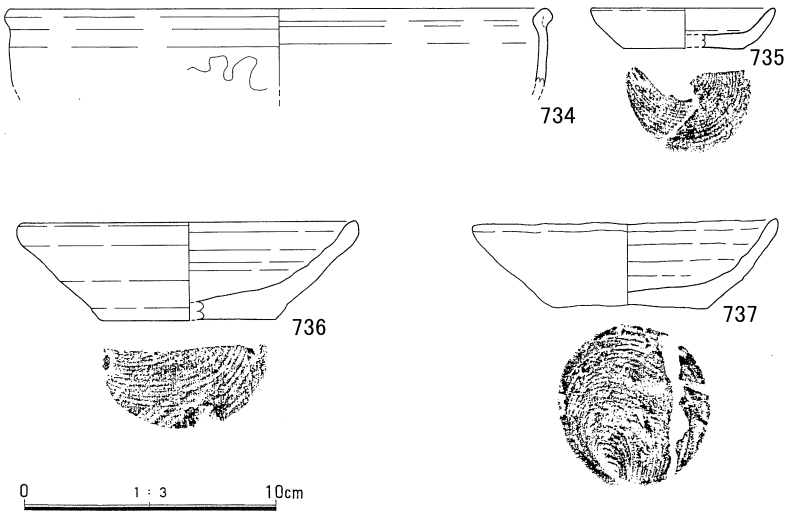
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	種別	層位	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
696	W1	142下	土坑20	弓状木製品		54.5	1.3	1.0			
697	W2	142下	土坑20	弓状木製品		54.8	1.7	1.2			
698	W3	142下	土坑20	弓状木製品		55.3	2.0	1.3			
699	W4	142下	土坑20	弓状木製品		53.5	1.6	1.0			
700	W5	142下	土坑20	弓状木製品		54.8	2.3	1.0			
701	W6	142下	土坑20	弓状木製品		46.2	1.8	1.2			
702	W7	142下	土坑20	弓状木製品		54.8	1.6	0.9			
703	W8	142下	土坑20	弓状木製品		54.1	1.6	1.5			
704	W10	142下	土坑20	弓状木製品		32.1	1.8	0.7			
705	W9	142下	土坑20	弓状木製品		(5.43)	2.0	1.2			

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	種別	層位	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
706	W25	143	土坑20	弓状木製品		(38.4)	2.0	0.8			
707	W30	143	土坑20	弓状木製品		38.0	1.6	0.7			
708	W29	143	土坑20	弓状木製品		(27.5)	1.9	0.4			
709	W27	143	土坑20	弓状木製品		(20.5)	1.5	1.4			
710	W20	143	土坑20	弓状木製品		(25.7)	1.5	1.2			
711	W28	143	土坑20	弓状木製品		(26.7)	1.7	1.3			
712	W22	143	土坑20	弓状木製品		(18.2)	1.5	0.8			
713	W16	143	土坑20	－		7.4	2.0	1.1			
714	W33	143	土坑20	－		(14.1)	3.6	1.8			
715	W34	143	土坑20	－		(12.1)	6.3	1.5			719と同一固体か？
716	W37	143	土坑20	－		(15.8)	7.2	1.3			
717	W39	143	土坑20	－		(12.5)	2.6	0.7			
718	W15	143	土坑20	－		(9.0)	1.4	0.8			
719	W35	143	土坑20	－		(15.0)	7.6	1.4			715と同一固体か？
720	W26	143	土坑20	－		21.1	2.7	0.5			
721	W38	143	土坑20	－		(8.9)	3.8	2.2			
722	W23	143	土坑20	椀？		口径 (20.6)	底径 (14.8)	0.6	5.4		
723	W12	143	土坑20	板状木製品		33.2	10.8	0.8			
724	W11	143	土坑20	曲物？		15.5	(5.7)	0.4			
725	W14	143	土坑20	箸上木製品		－	0.5	0.5			
726	W13	143	土坑20	箸上木製品		(15.3)	0.5	0.5			
727	W17	143	土坑20	－		(6.2)	(1.8)	0.2			ケビキあり
728	W18	143	土坑20	－		(2.7)	(2.4)	0.1			ケビキあり
729	W40	143	土坑20	－		(13.1)	2.0	1.1			
730	W44	143	土坑20	－		(10.0)	0.9	0.5			
731	W41	143	土坑20	－		(8.5)	2.1	1.5			
732	W43	143	土坑20	－		(4.0)	0.9	0.6			
733	W42	143	土坑20	－		(7.3)	1.2	0.9			

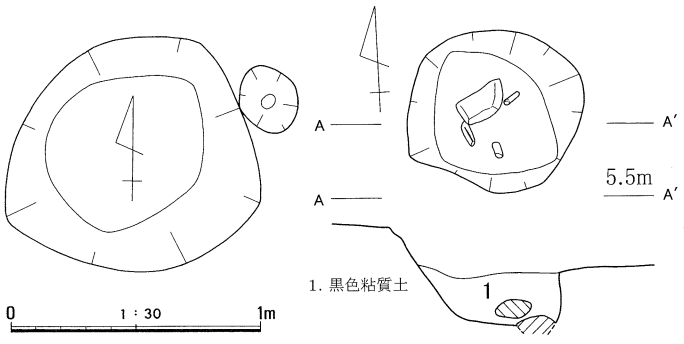
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
734	1040	145	土坑21		中国陶器	盤	(22.4)			中国陶器Ｃ群 黄釉		径1mm前後の白色粒子、黒色粒子、赤色粒子を多く含む	内釉：浅黄色(2.5Y7/4) 外釉：浅黄橙色(10YR8/3) 外胎：灰色(N6/)	反転実測
735	1065	145	土坑21		土師質土器	Ⅲ	7.3	4.7	1.6	Ⅲ Ｉ類 底部　穿孔	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1mm弱の金雲母、長石、石英、赤色粒子を含む	内：橙色(7.5YR7/6) 外：橙色(7.5YR7/6)	
736	1037	145	土坑21		土師質土器	坏	(13.7)	(7.0)	2.9	坏Ｉ類	内：不明 外：不明　回転糸切り	微粒子金雲母、石英をわずかの含む　径1mm前後の黒色粒子、赤色粒子を多く含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：橙色(7.5YR7/6)	反転実測 磨耗が激しい
737	1032	145	土坑21		土師質土器	坏	12.3	6.3	3.6	坏Ⅳ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母、長石、径1mmの赤色粒子を多く含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/6) 外：浅黄橙色(7. 5YR8/6)	



第126図　ＩＤ区土坑21（Ｓ＝1/30）



第127図　ＩＤ区土坑21出土遺物（Ｓ＝1/３）



第128図　ＩＤ区土坑22（Ｓ＝1/30）　第129図　ＩＤ区土坑23（Ｓ＝1/30）

土坑21（第126図）

調査区のほぼ中央北側に位置し、平面円形、断面皿状の土坑である。直径約1.3ｍ、深さ約30㎝を測る。

出土遺物は第127図のとおりで、734は中国陶器Ｃ群の盤で、時期は11～14世紀頃と考えられる。735は土師質皿（皿Ⅰ類）、３、４は土師質坏（坏Ⅳ類）である。

土坑22（第128図）

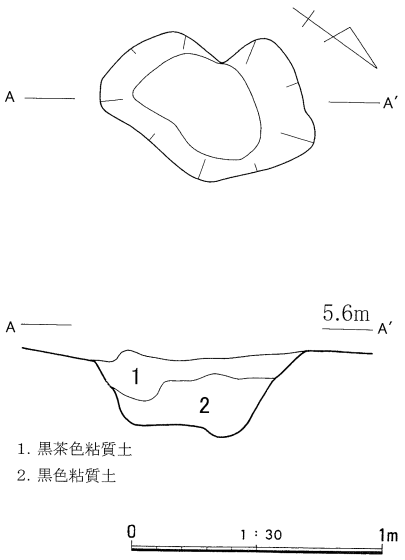
調査区のほぼ中央北側に位置し、平面は一部が張り出した不整形の円形、断面椀状の土坑である。直径約0.9ｍ、深さ約30㎝を測る。

出土遺物は土師質土器片、須恵器片を数点確認している。

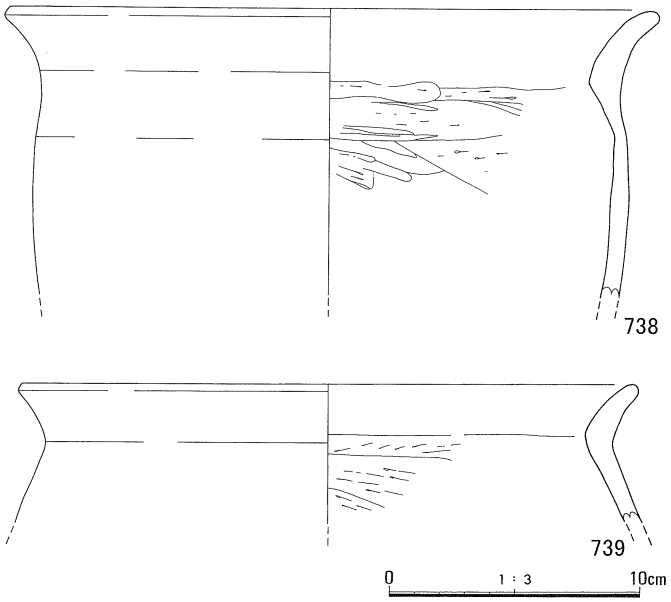
土坑23（第129図）

調査区の中央やや西より土坑17の下で検出した。平面円形、断面椀形で、直径約0.7ｍ、深さ約20㎝を測る。

出土遺物は古墳時代から古代の須恵器甕片を１点確認している。



第130図　ＩＤ区土坑24（Ｓ＝1/30）



第131図　ＩＤ区土坑24出土遺物（Ｓ＝1/3）

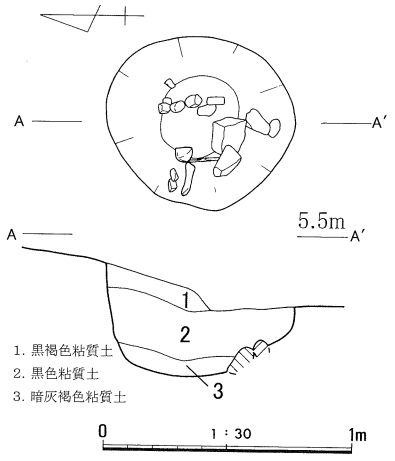
第102表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
738	1007	145	土坑24		土師器	甕	(26.3)			外面　煤付着	内：ナデ、削り 外：ナデ	径1㎜弱の長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR6/4) 外：黒色(10YR6/4)	反転実測
739	1064	145	土坑24		土師器	甕	(24.8)			内面　煤付着	内：ナデ、削り 外：ナデ	径1㎜弱の黒雲母、石英を含む	内：黒褐色(2.5Y3/1) 外：褐灰色(5YR5/1)	反転実測

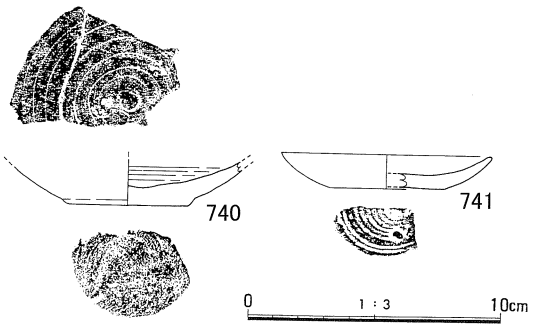
土坑24（第130図）

調査区の東よりに位置し、平面は歪んだ楕円形、断面逆台形の土坑である。長軸約0.9m、短軸約0.6m、深さ約30㎝を測る。

出土遺物は第131図のとおりで、738、739は土師器の甕口縁部であるが、検出遺構面は12世紀以降と考えており、混入等と考えている。



第132図　ＩＤ区土坑25（Ｓ＝1/30）



第133図　ＩＤ区土坑25出土遺物（Ｓ＝1/3）

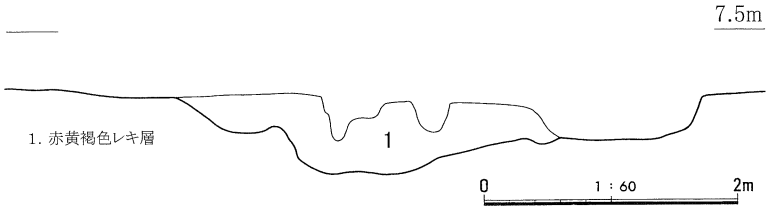
第103表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
740	1058	－	土坑25		土師質土器	坏又は皿		(4.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：黄灰色(2.5Y5/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測 磨耗が激しい
741	1049	－	土坑25		土師質土器	皿	(8.7)	(4.5)	1.3		内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、長石、石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：橙色(7.5YR7/4)～鈍い橙色(2.5YR6/4)	反転実測

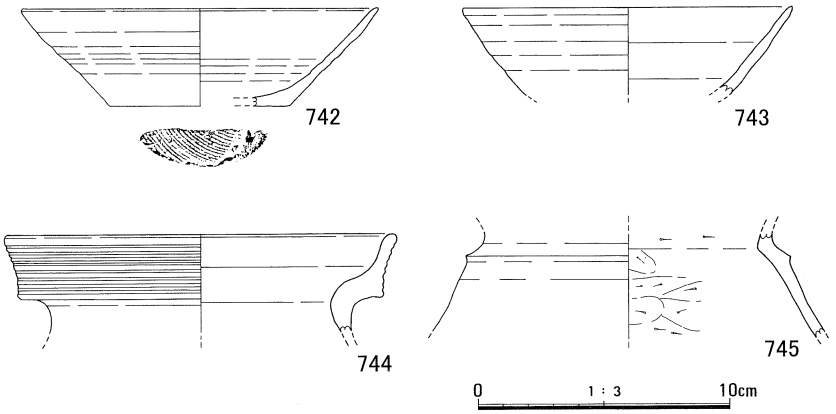
土坑25（第132図）

調査区の西よりに位置しており、平面円形、断面円筒形の土坑である。直径約0.7m、深さ約30cmを測る。

出土遺物は第133図のとおりで、740は土師質土器の坏底部、741は土師質土器の皿である。その他、内面黒色の土師質土器・坏片を確認している。



第134図　ＩＤ区自然河道１（Ｓ＝1/60）



第135図　ＩＤ区自然河道１出土遺物（Ｓ＝１／３）

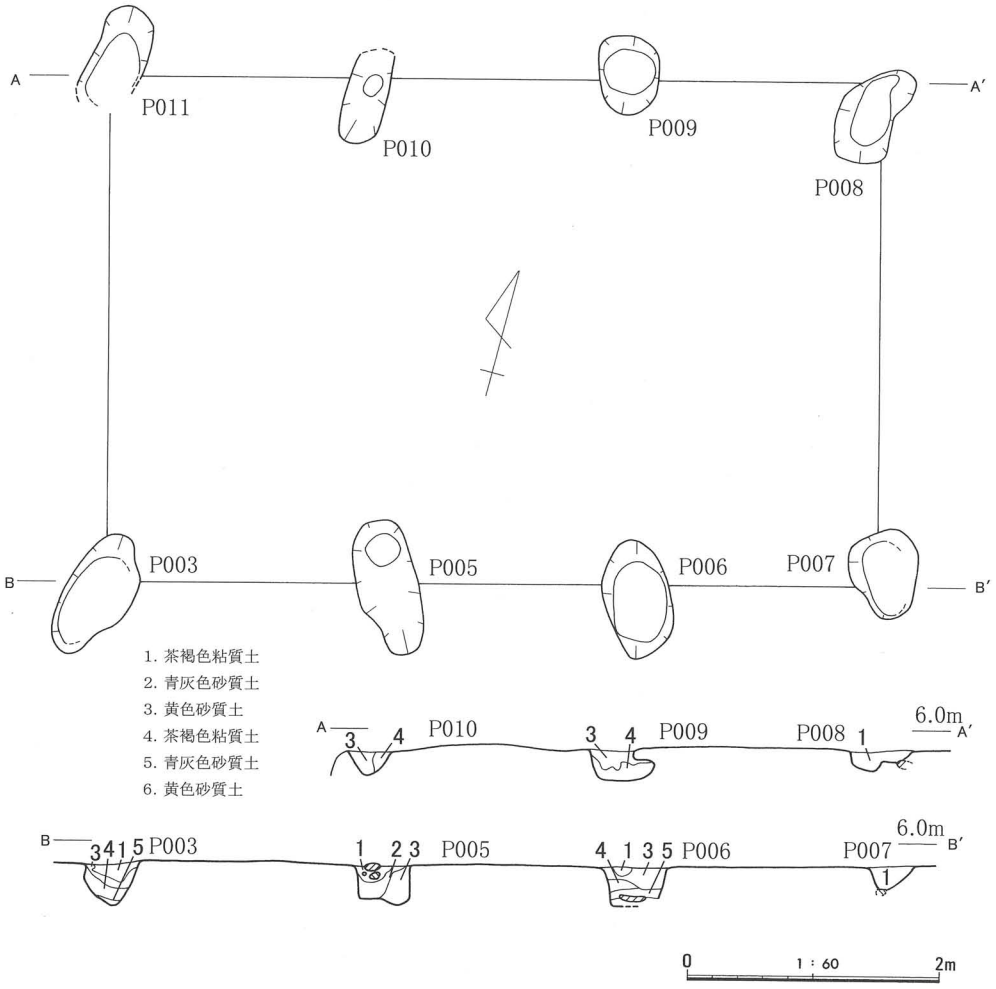
第104表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
742	1071	145	自　然 河道１		土師器	坏	(14.2)	(7.2)	3.9		内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：浅黄色(2.5Y7/3) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測 磨耗が激しい
743	1059	145	自　然 河道１		土師器	坏	(13.0)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜の長石を含む	内：灰白色(10Y R8/1) 外：灰白色(10Y R8/2)	反転実測 磨耗が激しい
744	1066	145	自　然 河道１		弥生	甕	(15.6)				内：回転ナデ 外：回転ナデ,8条の擬凹線	径1㎜の長石を含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測 磨耗が激しい
745	1067	145	自　然 河道１		土師器	器台					内：ヘラ削り 外：回転ナデ	微粒子の長石、石英を含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測

自然河道１（第134図）

調査区ほぼ中央を北から南へ流れたと考えられる幅約1.5～３m深さ約60cmの自然河道である。堆積物は礫層であり、第５層や地山部分にも礫層があることにより正確には検出できなかった。

出土遺物は第135図のとおりで、742、743は土師質土器の坏、744は弥生土器でＶ－２様式の甕口縁部、745は弥生土器でＶ－４様式の器台脚部である。



第136図　ＩＤ区掘立柱建物29（Ｓ＝1/60）

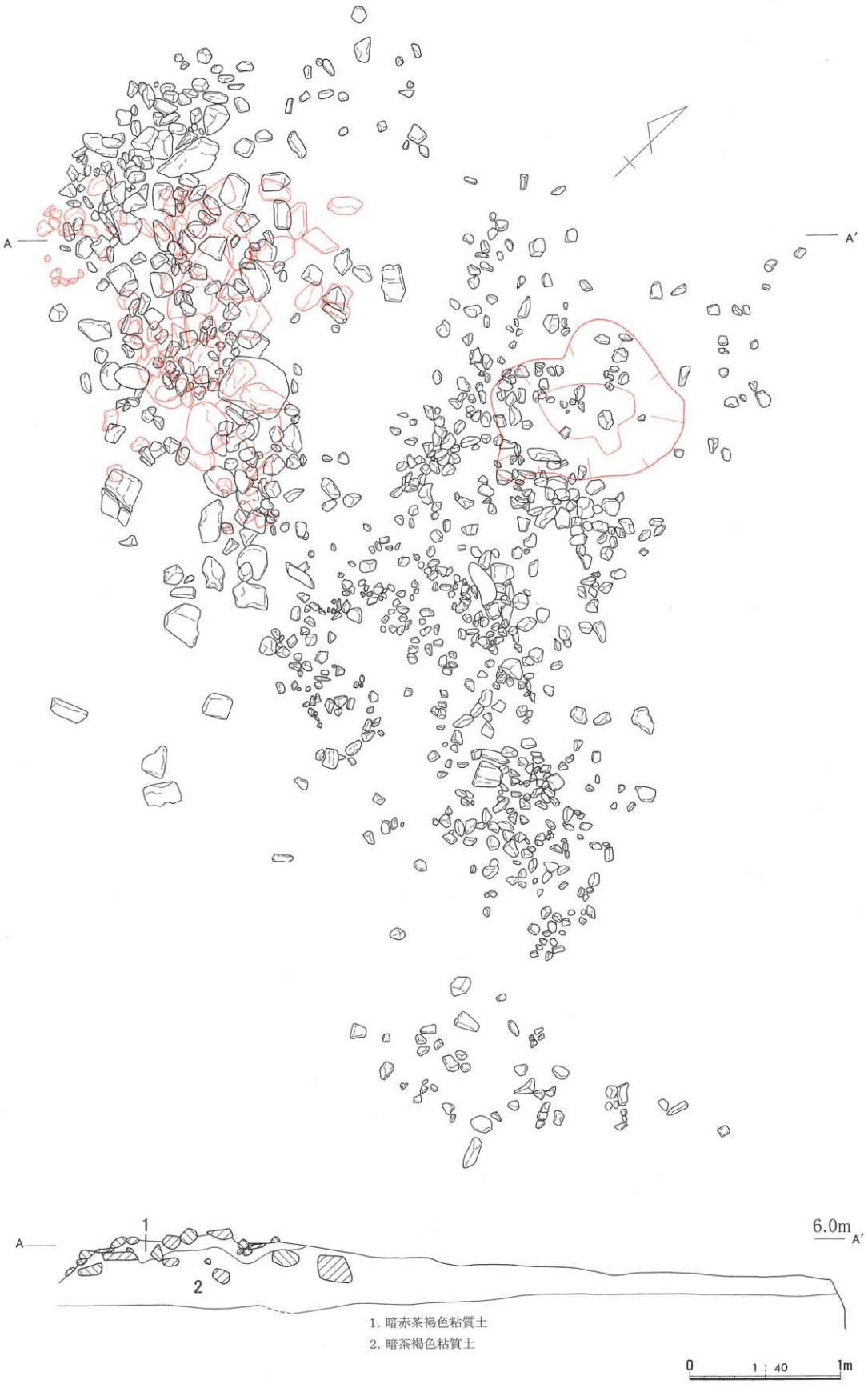
第105表　Ｉ区　建物29　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		1　間					3　間				
主軸		N－75.5°－E									
穴	番号	P011	P003	P005	P006	P007	P008	P009	P010	P	P
	平面規模（cm）	(80)×40	105×50	105×44	92×49	56×51	83×42	61×44	72×37		
	標高（m）上面	6.08	5.79	5.80	5.79	5.82	5.83	5.84	5.81		
	標高（m）下面	5.83	5.56	5.42	5.45	5.58	5.57	5.58	5.53		
柱間距離（cm）		P011－P003	P003－P005	P005－P006	P006－P007	P007－P008	P008－P009	P009－P010	P010－P011	－	－
		400	200	200	200	400	200	200	200		

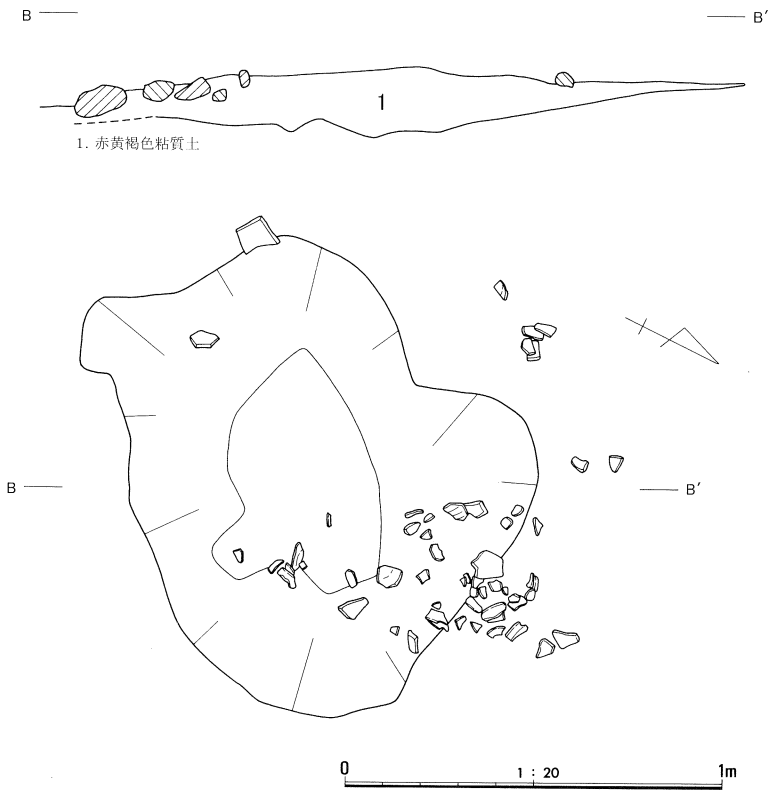
（3）第1遺構面の遺構と遺物

掘立柱建物29（第136図）

調査区ほぼ中央の北側に位置し、桁行き3間（6.0m）、梁行き1間（4.0m）である。ただし建物北側桁部分は調査区外にのびており、南側桁部分は西2.0mは新しい時代に攪乱を受けており西にのびる可能性がある。検出した遺構面は5層上面であり、時期は近世初め頃と思われる。



第137図　ⅠD区集石１①（S＝1/40）

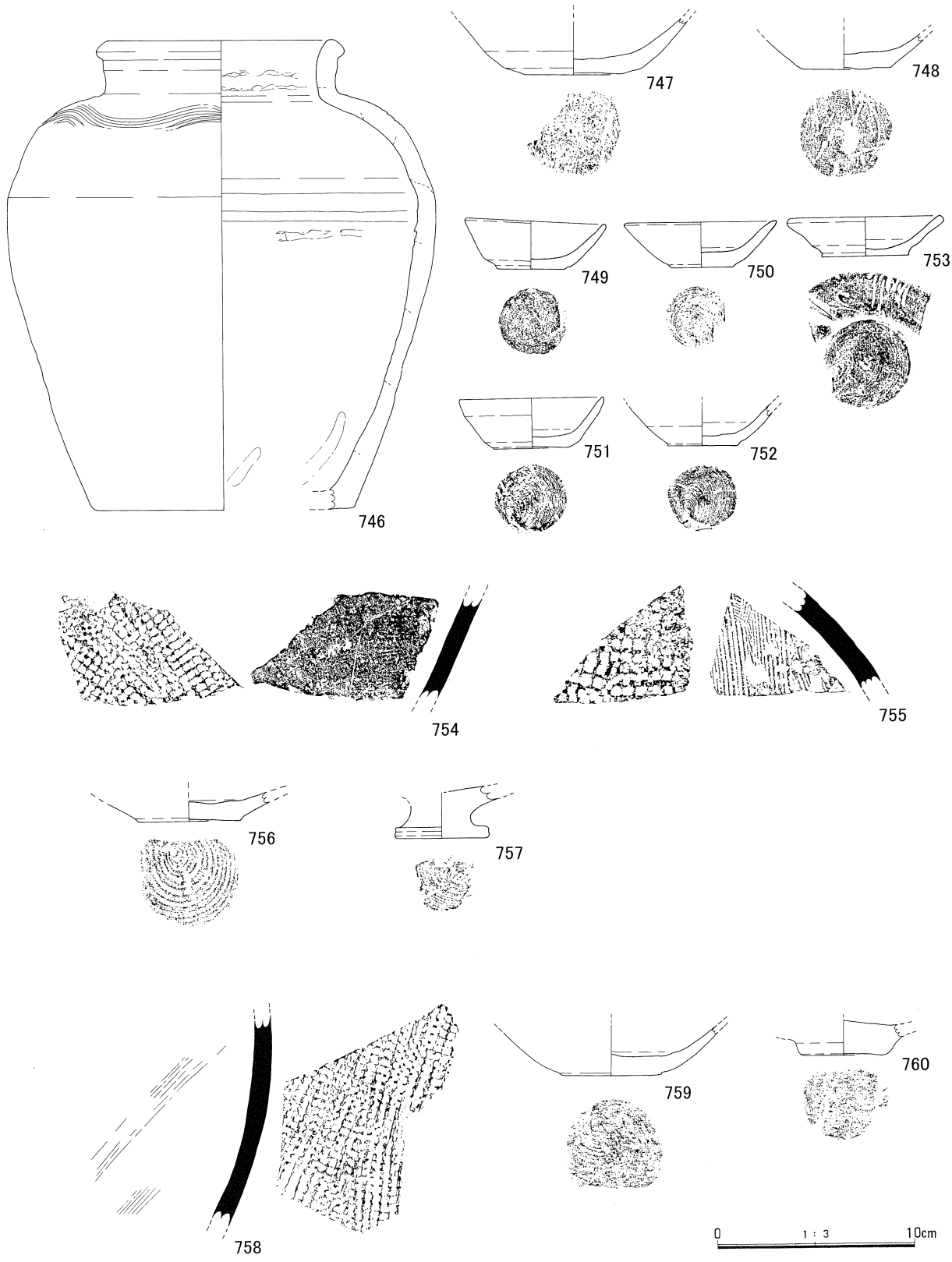


第138図　ＩＤ区集石１②（Ｓ＝1/20）

集石１（第137図、第138図）

調査区の西よりに位置し、加工段状になっている段の上標高約６ｍ付近である。南北約６ｍ、東西約６ｍにわたって広がっており、本来の位置から動いていることが考えられる。西側は直径約20～40㎝位の自然石が中心で、それに対し、東側は拳大の自然石が中心であり、意識して分けられていたと考えられる。層位は５層上面であったと考えているが、西側の集石部分は２層に分かれており、下層の５層中に石列状に石を検出した。（赤色部分）東側には遺物がまとまって出土した部分があり、南北約1.0ｍ、東西約1.2ｍの不整形の円形で、土色の異なる部分を確認した。深さ約20㎝弱で、上部は攪乱を受けておりどのような性格のものであるかは判断できなかった。

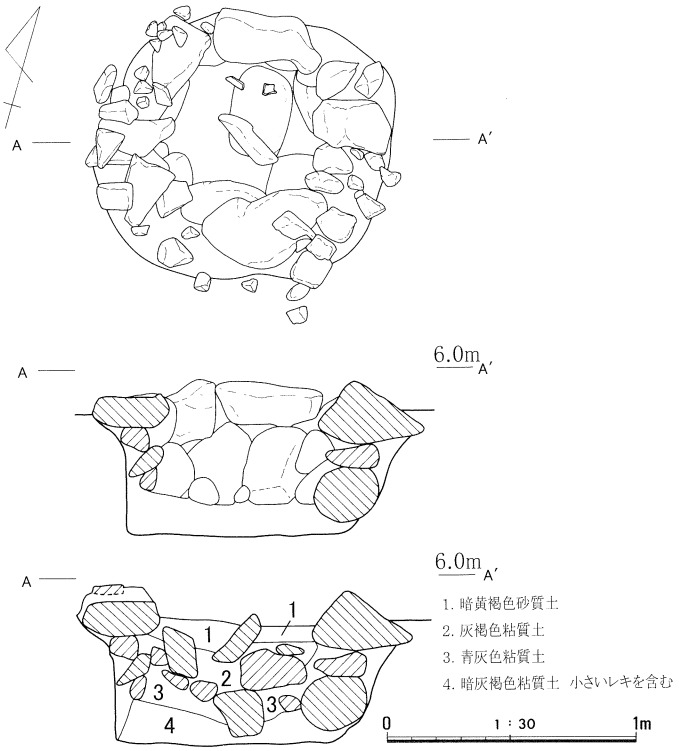
出土遺物は第139図のとおりで、746は備前の壷で、Ⅳ期頃と考えられる。検出時は破片の状態で出土している。747、748は土師質土器の坏、749～753は土師質土器の皿である。749～752は底部から湾曲しながら立ち上がり、口縁端部は直線的に先細りになっている。器壁は薄く、器高が高い。（皿Ｖ類）754、755は中世須恵器の甕で754は硬質で外面格子タタキ、内面ハケ目（甕Ｅ類）、755はやや軟質で外面格子タタキ、内面ハケ目である。（甕Ｐ類）756は土師質土器の坏または皿の底部、757は柱状高台である。以上746～757は東側から出土している。758は中世須恵器の甕（甕Ｅ類）、759、760は土師質土器の坏または皿の底部である。以上758～760は西側から出土している。ただ前述したとおりこの遺構は、攪乱等を受けており全ての遺物がこの遺構に伴うかどうかは不明である。またその他この集石１付近で11枚の古銭も確認しているおり、さらに第155図、936和鏡もこの集石１で確認している。



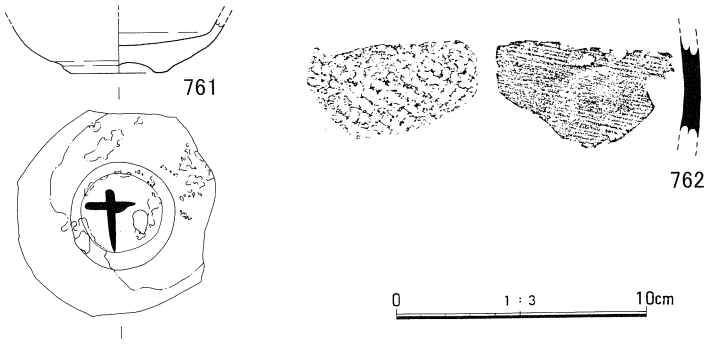
第139図　ＩＤ区集石１出土遺物（Ｓ＝1/3）

第106表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
746	1073	146	集石1	4	備　前	壷	(12.7)	(13.4)	24.1	外方部　波状櫛目文(少なくとも4条)	内：回転ナデ　ナデ、指頭圧痕　外：回転ナデ、ナデ	所々に径3～5mmの砂粒を含む　鈍い赤褐色(2.5YR5/3)	内：黒色(5Y2/1) 外：極暗赤褐色(5YR2/3)～黒褐色(10Y2/1)	反転実測
747	1025	156下	集石1		土師質土器	坏		(5.0)			内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：灰白色(10YR8/2)	反転実測 磨耗が激しい
748	1024	－	集石1		土師質土器	坏又は皿		4.7			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	一部反転実測
749	1023	156下	集石1		土師質土器	皿	7.2	3.4	2.6	ⅢＶ類	内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：灰白色(7.5YR8/2) 外底部：浅赤橙色(2.5YR7/4)	磨耗が激しい
750	1022	－	集石1		土師質土器	皿	(8.0)	3.2	2.3	ⅢＶ類	内：不明 外：不明　回転糸切り	密	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測 磨耗が激しい
751	1018	156下	集石1		土師質土器	皿	(7.4)	3.9	2.5	ⅢＶ類	内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：灰白色(10YR8/2)	一部反転実測 磨耗が激しい
752	1046	156下	集石1		土師質土器	皿		3.6		ⅢＶ類	内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：灰白色(10YR8/1) 外：灰白色(10YR8/1)	磨耗が激しい
753	1017	－	集石1		土師質土器	皿	(7.8)	4.4	2.4	外面に縦方向沈線あり	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測
754	1060	－	集石1		中世須恵器	甕				甕Ｅ類	内：ハケ目後ナデ 外：格子目タタキ	微粒子の白色粒子をわずかに含む	内：灰白色(5Y8/1) 外：灰白色(5Y8/1)	
755	1020	－	集石1		中世須恵器	甕				甕Ｐ類	内：ハケ目 外：格子目タタキ	密　微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い橙色(5YR6/3)	
756	1019	156下	集石1		土師質土器	坏		(5.2)			内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：浅黄橙色(2.5YR7/3) 外：橙色(5YR6/6)	反転実測 磨耗が激しい
757	1016	－	集石1		土師質土器	柱状高台		(4.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1mm前後の金雲母、長石、石英を多く含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/8)	一部反転実測
758	1069	－	集石1		中世須恵器	甕				甕Ｅ類	内：ハケ目後ナデ 外：格子目タタキ	密　微粒子の石英を含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰白色(2.5Y8/1)	磨耗が激しい
759	1044	－	集石1		土師質土器	坏		(5.4)			内：回転ナデ 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を含む	内：橙色(5YR7/6) 外：浅黄橙色(7.5YR8/6)	反転実測
760	1050	－	集石1	5	土師質土器	坏又は皿					内：不明 外：不明　回転糸切り？	微粒子の黒雲母、長石、赤色粒子を含む	内：浅黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	反転実測 磨耗が激しい



第140図　ＩＤ区井戸１（Ｓ＝1/30）



第141図　ＩＤ区井戸１出土遺物（Ｓ＝1/3）

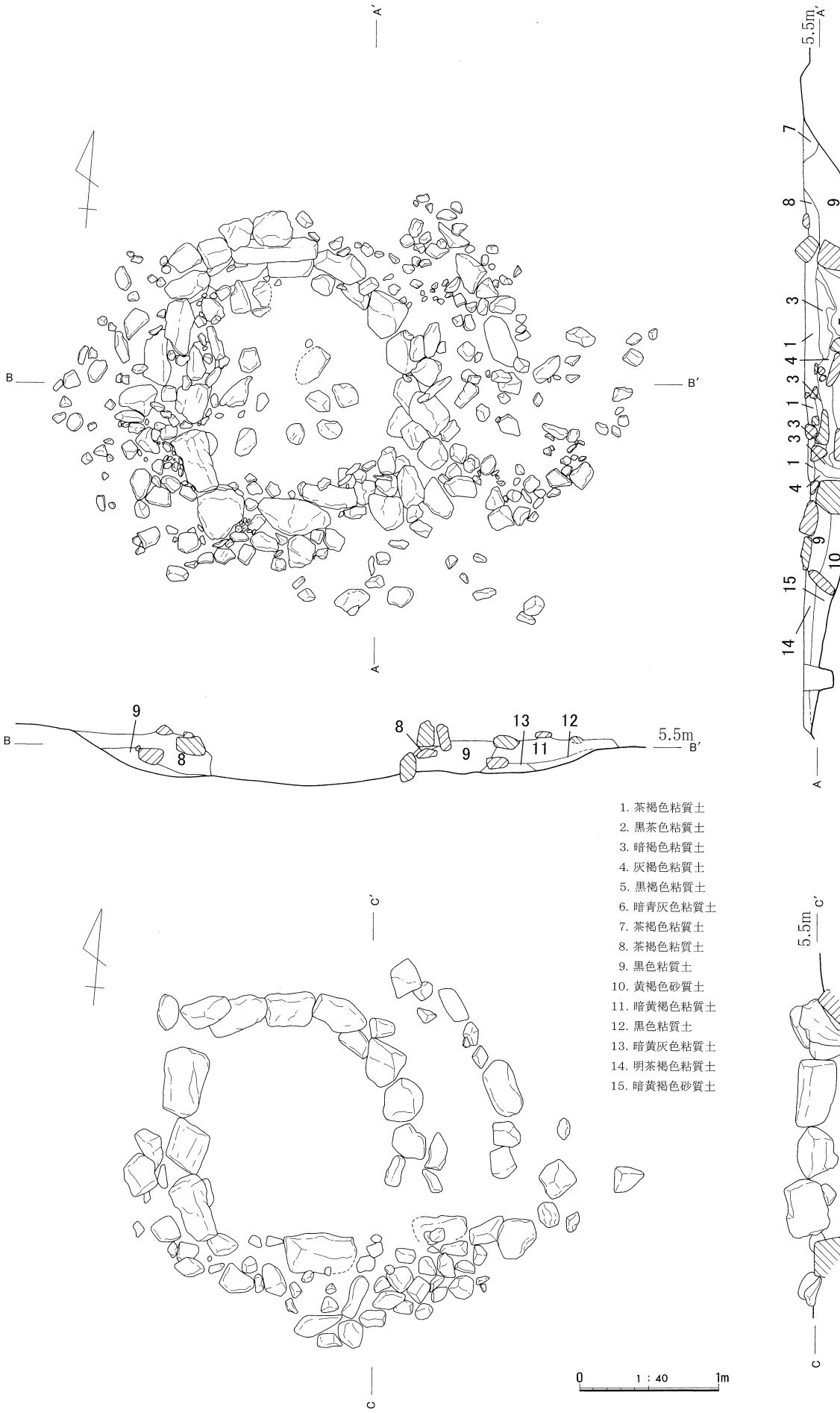
第107表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
761	1231	147	井戸1		肥前系 唐津	－		3.8		削り出し高台 胎土目		密 灰白色(N7/)	内釉：灰オリーブ色(7.5Y5/2) 外釉：灰オリーブ色(7.5Y5/2) 外胎：鈍い褐色(7.5YR6/3)	
762	1070	147	井戸1	1	中世 須恵器	甕				甕Ｅ類	内：ハケ目後ナデ 外：格子目タタキ	密	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰色(N6/)	

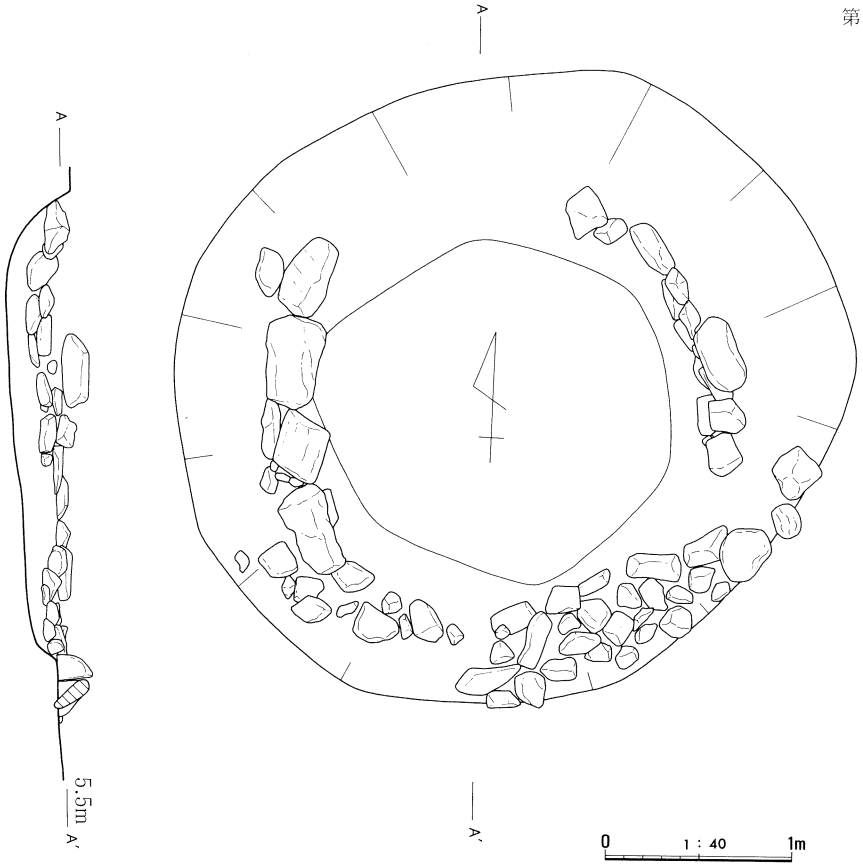
井戸１（第140図）

調査区ほぼ中央の北より、掘立柱建物29の南西に位置しており、平面円形、断面筒形の井戸である。直径約1.2m、深さ約60cmを測り直径約20～50cmの自然石を組み合わせて造られている。

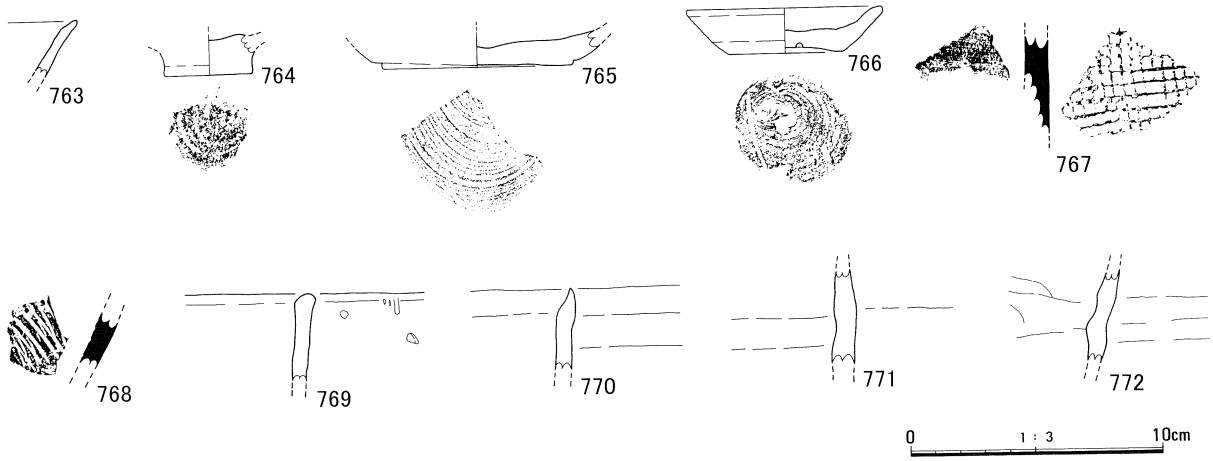
出土遺物は第141図のとおりで、761は肥前系陶磁器の椀で底部には胎土目跡が残っている。また底部畳付け内側に「十」と墨書されている。762は中世須恵器の甕である。（甕Ｅ類）



第142図　ＩＤ区土坑26①（Ｓ＝1/40）



第143図　ＩＤ区土坑26②（Ｓ＝1/40）



第144図　ＩＤ区土坑26出土遺物（Ｓ＝1/3）

第108表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
763	1052	147下	土坑26 北東外	5	青磁 (龍泉窯系)	椀				椀Ⅰ類(D期)		密　きめ細かい 褐灰色(10YR6/1)	内釉：灰黄色(2.5Y6/2) 外釉：灰黄色(2.5Y6/2)	
764	1051	147下	土坑26 北東外	5	土師質土器	柱状高台		3.5			内：不明 外：回転ナデ　回転糸切り	径1mm前後の赤色粒子、1mm弱の長石、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	磨耗が激しい
765	1047	147下	土坑26		土師質土器	坏		(7.4)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母、石英、赤色粒子を含む	内：鈍い黄橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い黄橙色(7.5YR7/4)	反転実測
766	1048	147下	土坑26		土師質土器	皿	(7.8)	4.6	2.8	皿Ⅲ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母、石英、赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(7.5YR6/4) 外：鈍い褐色(7.5YR6/3)	反転実測
767	1068	147下	土坑26		中世須恵器	甕				甕Ｅ類	内：不明 外：格子目タタキ	微粒子の石英、黒色粒子を多く含む 灰色(5Y5/1)	内：灰白色(10YR7/1) 外：灰白色(10YR7/1)	
768	1057	147下	土坑26		中世須恵器	鉢					内：ハケ目 外：不明	微粒子の石英、黒色粒子を含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(2.5Y7/1)	磨耗が激しい
769	1053	147下	土坑26		製塩土器	—					内：ナデ 外：未調整	径1~3mmの黒色粒子をわずかに含む　径1mm弱の赤色粒子を含む　白灰色の層を帯状の含む	内：鈍い橙色(10Y7/3) 外：鈍い褐色(10Y7/3)	

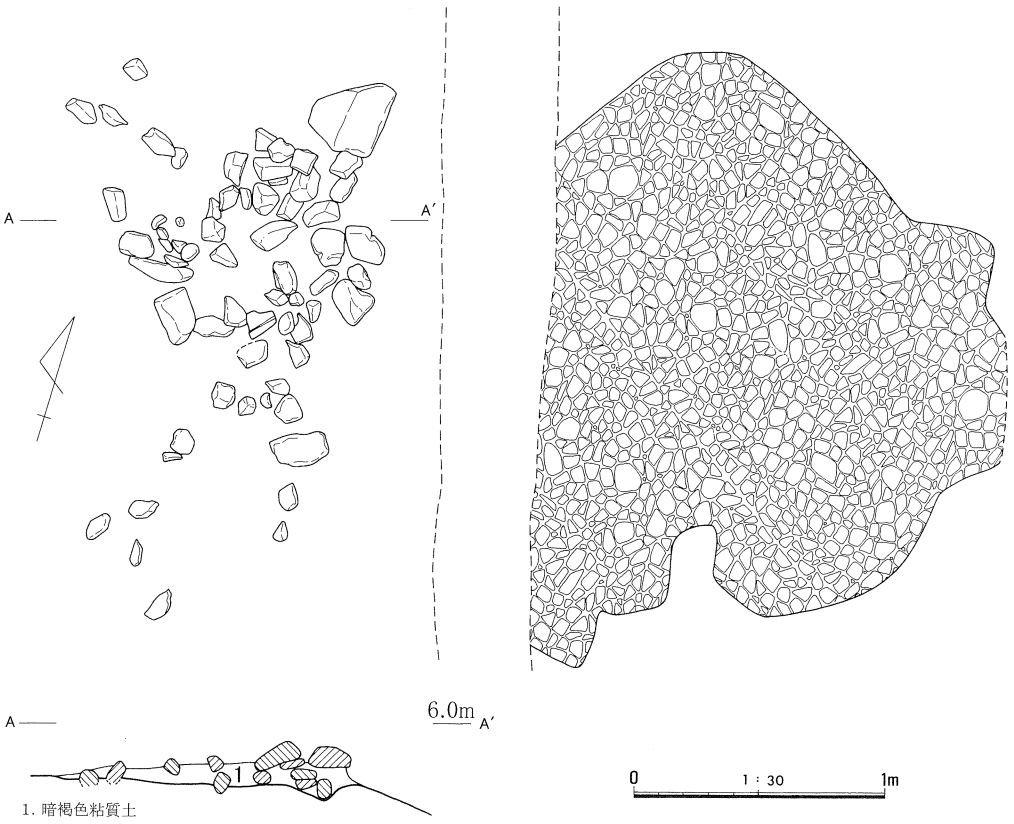
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
770	1055	147下	土坑26		製塩土器	—					内：ナデ 外：未調整	微粒子の石英を含む 径1mm前の赤色粒子を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：橙色(5YR7/6)	
771	1054	147下	土坑26 北西外	5	製塩土器	—					内：ナデ 外：未調整	径1mm前後の赤色粒子、2~3mmの黒褐色粒子を多く含む	内：明灰褐色(7.5YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
772	1056	147下	土坑26 北西外	5	製塩土器	—					内：ナデ 外：未調整	径1mm弱の黒褐色粒子を含む	内：灰褐色(5YR5/2) 外：褐灰色(5YR4/1)	

土坑26（第143図、第144図）

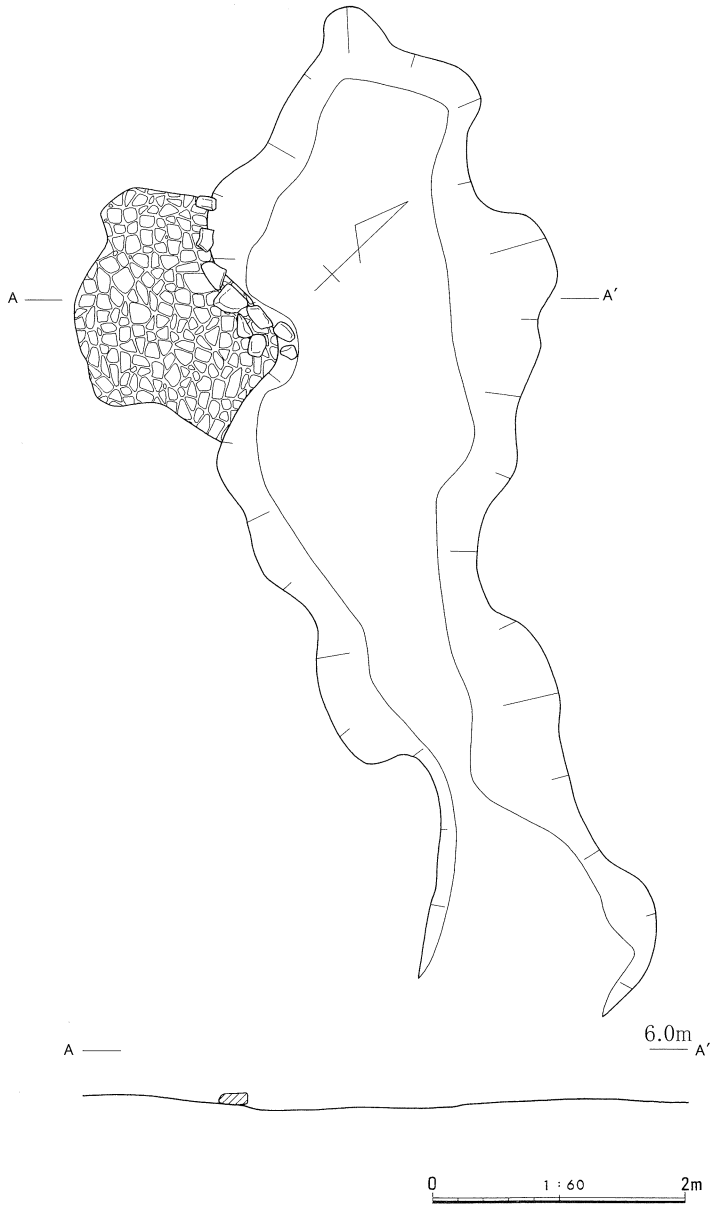
調査区北よりの東端に位置する石組みの土坑である。検出状況では南北約1.8m、東西約1.6mの平面方形で、深さは約40cmを測る。直径約20～50cmの自然石を用いて組まれており、南側には裏込めに用いたことが考えられる拳大の石も確認できた。第143図の上図は検出時の図で、２次的に動いたと考えられる石を取り除いた状況が下図である。また、遺物では確認できなかったが、土層及び石組みの状況から、少なくとも１回以上石組みを部分的に組み直して使用していたと推測している。第144図は一番古い時期の石組みと思われる。北側は石組みが現状ではないが南北約2.0mの石組みの施設が推測できる。

遺物は第142図のとおりで、763は龍泉窯系の青磁椀である。764は柱状高台の底部、765は土師質土器の坏底部、766は土師質土器の皿である。767、768は中世須恵器でそれぞれ甕（甕Ｅ類）、鉢口縁部である。769～772は製塩土器である。

この遺構の時期については、初現期がどこまで遡るかは不明であるが、最終時期は遺構検出面より、近世初めと考えている。また遺構の性格は不明である。



第145図　ＩＤ区集石２（Ｓ＝1/30）



第146図　ＩＤ区溝状遺構11（Ｓ＝1/60）

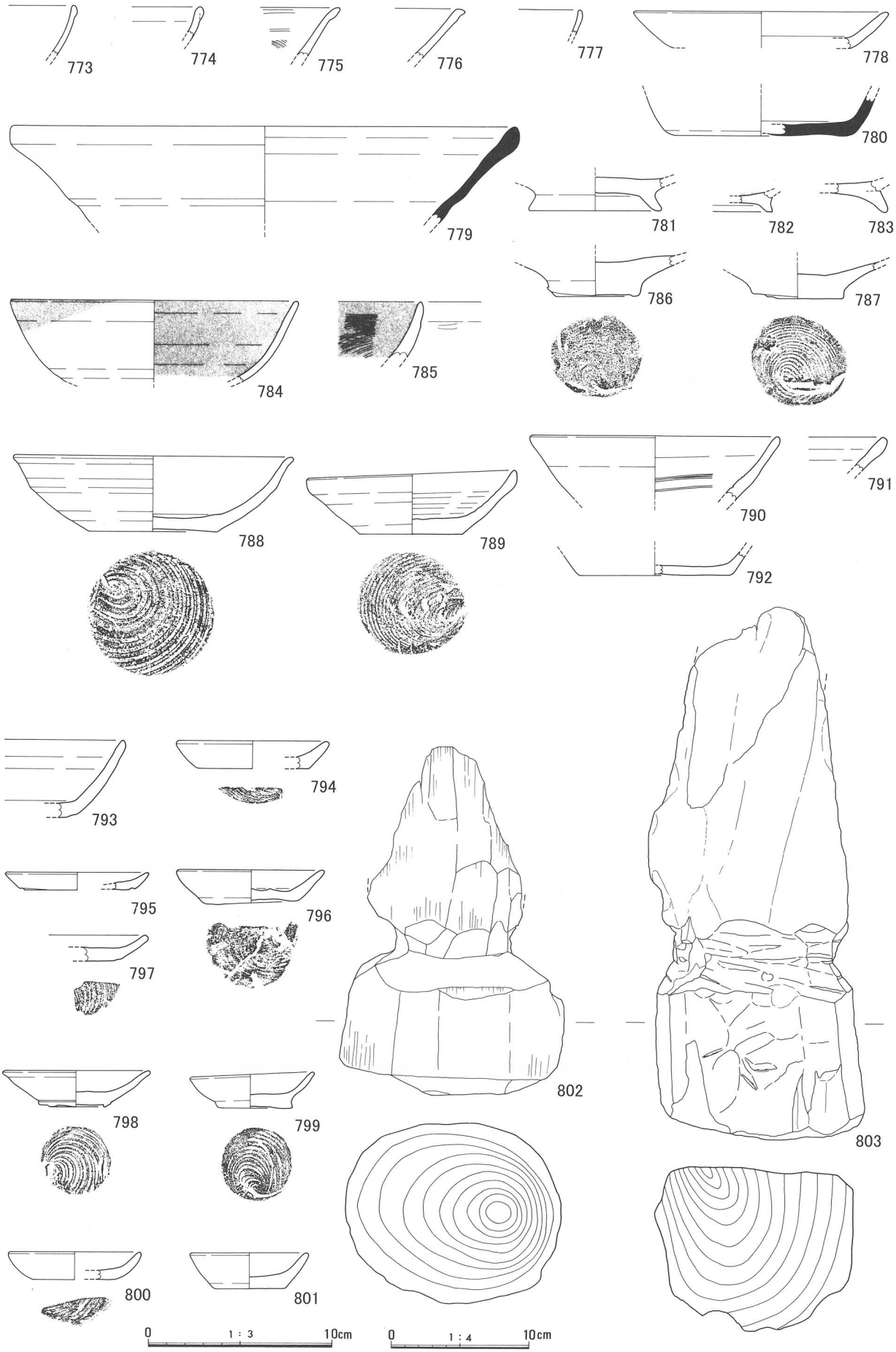
集石２（第145図）

調査区のほぼ中央に位置し、西側の集石部分と東側の石敷き状の部分からなっている。集石部分は直径約15cmの自然石が半径約0.6ｍ内に広がっている。石敷き状の部分は半径約1.0ｍの部分残存しており、両者は近代以降の攪乱部分約0.5ｍを挟んで隣り合っている。また集石の部分は石敷きの部分より20cm高くなっている。（近代の攪乱部分が南北に通っており、その東から西に向かって加工段状に高くなっている。）

出土遺物は、西側の集石部分から中世陶器の大甕口縁部が出土している。時期は14世紀と考えられる。

溝状遺構11（第146図）

調査区の東より、集石２の東５ｍに位置する。幅約1.2～2.4ｍで深さは約10cmを測る。北西から南西に向かっており、溝の西側には石敷き状の部分が南北1.4ｍ、東西1.8ｍの範囲残存していた。この遺構に伴う遺物は確認できなかった。



第147図　ＩＤ区柱穴出土遺物（Ｓ＝1/3、802・803はＳ＝1/4）

（４）柱穴出土の遺物（第147図）

773～778は輸入陶磁器である。773、774は白磁の椀Ⅱ類口縁部である。779、780は中世須恵器で779は鉢口縁部、780は須恵器の坏・底部である。781～785は土師質土器、坏または高台付き坏であり、内面黒色の土器である。781は内面から放射状に磨いている。786、787は土師質土器の坏底部で、底部が柱状高台状に厚くなっている。788～793は土師質土器の坏である。794～801は土師質土器の皿である。802、803は柱根で抉りが入っており転用材と考えられる。

第109表　ＩＤ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
773	1223	148上	P448		白磁	椀				椀Ⅱ－1類(C期)		密 灰白色(5Y8/1)	内：灰白色(5Y8/1) 外：灰白色(5Y8/1)	
774	1202	148上	P412		白磁	椀				椀Ⅱ－1類(C期)		密 灰白色(2.5Y7/1)	内：灰白色(5Y7/2) 外：灰白色(5Y7/2)	
775	1219	148上	P573		白磁	椀				椀Ⅴ－2ｃ類(C期)		密　微細な黒色粒子を含む　灰色(N8/)	内：灰白色(7.5Y7/1) 外：灰白色(7.5Y7/1)	
776	1207	148上	P491		白磁	椀				椀Ⅴ類または椀Ⅷ類		密　微細な黒色粒子を含む 灰白色(2.5Y8/1)	内：灰黄色(2.5Y8/1) 外：灰黄色(2.5Y8/1)	
777	1199	148上	P069		白磁	椀又は皿				椀Ⅱ類または皿Ⅵ類		密 灰白色(N8/)	内釉：暗灰黄色(2.5Y5/2) 外釉：灰黄色(2.5Y6/2)	
778	1203	148上	P190		青磁 (龍泉窯系)	皿				皿Ⅰ－1類？		密　微細なくろ色粒子を含む　やや砂味あり	内釉：灰白色(7.5Y7/2) 外釉：灰白色(7.5Y7/2)	反転実測
779	1225	－	P120		中世須恵器	鉢	(27.3)					径1mm前後の黒雲母、長石、石英を多く含む	内：灰黄色(2.5Y6/2) 内口縁：オリーブ黒色(7.5Y2/2) 外：青黒色(5B2/1) 外口縁：灰黄色(2.5Y6/2)	反転実測
780	1209	148上	P134		須恵器	坏		(9.2)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：灰白色(N7/) 外：灰白色(N7/)	反転実測
781	1226	148下	P120		土師質土器	高台付坏		(7.1)		内面黒色	内：ヘラミガキ 外：ナデ	密　微粒子の金雲母、黒雲母を多く含む	内：黒色(7.5Y2/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測 磨耗が激しい
782	1220	148下	P439		土師質土器	高台付坏				内面黒色		密　微粒子の石英を含む	内：褐灰色(10YR4/1) 外：灰白色(10YR7/1)	磨耗が激しい
783	1222	149上	P394		土師質土器	高台付坏						密　微粒子の金雲母、黒雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	磨耗が激しい
784	1215	148下	P191		土師質土器	椀	(15.6)			内面黒色	内：回転ナデ後ヘラミガキ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、黒雲母、長石、石英を多く含む	内：オリーブ黒色(7.5Y3/1) 外：鈍い橙色(7.5YR3/1)～オリーブ黒色(7.5YR3/1)	反転実測
785	1217	148下	P273		土師質土器	椀				内面黒色	内：ミガキ 外：ヨコナデ？	微粒子の石英を含む	内：黒色(10YR1.7/1) 外：褐灰色(10YR4/1)	
786	1213	149下	P086		土師質土器	坏		4.5			内：不明 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を多く含む	内：灰白色(7.5YR8/2) 外：灰白色(7.5YR8/2)	
787	1206	149下	P639		土師質土器	坏		5.0			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	
788	1224	149下	P516		土師質土器	坏	(15.0)	(7.0)	4.1	坏Ⅰ´´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径2mmの石英、微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/6) 外：浅黄橙色(7.5YR8/6)	反転実測
789	1221	149下	P447		土師質土器	坏	11.2	5.7	3.5	坏Ⅳ類 やや歪み有り	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：鈍い褐色(7.5YR6/3) 外：鈍い褐色(7.5YR6/3)	
790	1201	149上	P514		土師質土器	坏	(13.3)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英を多く含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外：鈍い褐色(5YR7/4)	反転実測
791	1200	149上	P501		土師質土器	坏又は皿				口縁端部　面取り	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い褐色(7.5YR7/3) 外：鈍い褐色(7.5YR7/3)	
792	1204	149上	P190		土師質土器	坏		(8.2)			内：回転ナデ、デ 外：回転ナデ　ヘラ切り	密　微粒子の金雲母、黒雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測
793	1211	149上	P549		土師質土器	坏				坏Ⅳ´類		密　微粒子の金雲母、長石、赤色粒子を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	磨耗が激しい
794	1218	149上	P552		土師質土器	皿	(8.2)	(6.2)	1.5	皿Ⅰ類？	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む 微細な赤色粒子をわずかに含む	内：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	反転実測
795	1214	149上	P569		土師質土器	皿	(7.6)	(5.6)	0.9	皿Ⅰ類？		密　微粒子の金雲母、長石、赤色粒子を含む　径2mmの砂粒を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	磨耗が激しい
796	1216	149上	P446		土師質土器	皿	7.8	5.2	1.9	皿Ⅰ類？	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、黒雲母、長石、赤色粒子を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
797	1212	149上	P234		土師質土器	皿				皿Ⅰ類？	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英、赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	
798	1205	149上	P178		土師質土器	皿	7.9	3.6	2.0	皿Ⅲ類？	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英、赤色粒子を含む	内：浅黄色(2.5Y7/3) 外：浅黄色(2.5Y7/3)	
799	1210	149下	P197		土師質土器	皿	6.6	4.1	2.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	
800	1227	149上	P471		土師質土器	皿	(7.0)	(4.6)	1.5		内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：淡赤橙色(2.5Y7/3) 外：灰白色(10YR7/1)	反転実測
801	1208	149上	P444		土師質土器	皿	(6.3)	(4.0)	1.9			密　微粒子の金雲母、石英、赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	磨耗が激しい

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	種別	層位	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
802	W31	150	P610	柱		25.3	16.2 (最大)	13.1 (最大)			柱155
803	W36	151	P255	柱		(38.4)	14.8 (最大)	12.0 (最大)			柱84

（５）包含層出土の遺物

第６層以下出土遺物（第148図）

804は８層出土の無釉陶器の甕である。外面底部付近はケズリ調整、内面はナデでタタキ調整の痕ははっきりと確認できなかった。産地は不明である。805～807は土師質土器の坏で、805、807は底部はヘラ切りと思われる。

中世土師質土器（第149図）

808～810は坏、811～820は皿、821～824は高台付坏または皿、825～829は柱状高台、830～834は赤彩の坏である。

808、809は底部から内湾しつつ立ち上がる。（坏Ⅲ類）

また、坏Ⅰ類は底部から内湾しつつ立ち上り、口縁部は外反するものと直線的に伸びる場合がある。器壁は薄い。坏Ⅱ類は坏Ⅰ類に似るが、底部近くをナデによりしぼり込んでいる。坏Ⅴ類は底部ヘラ切りのちナデ調整の遺物で赤彩の遺物も含まれている。

811～814は底部から内湾しつつ立ち上がる浅めの皿である。（皿Ⅰ類）815はやや深みの皿である。（皿Ⅱ類）816～819は底部からやや直線的に立ち上がる。（皿Ⅲ類）

中世須恵器（第150図、第151図）

835～856は鉢である。835～842は内面に擂り目またはハケ目は施されていない。843～856は内面ハケ目調整が施されている。

中世須恵器の鉢は、口縁部の形体別に分類した。

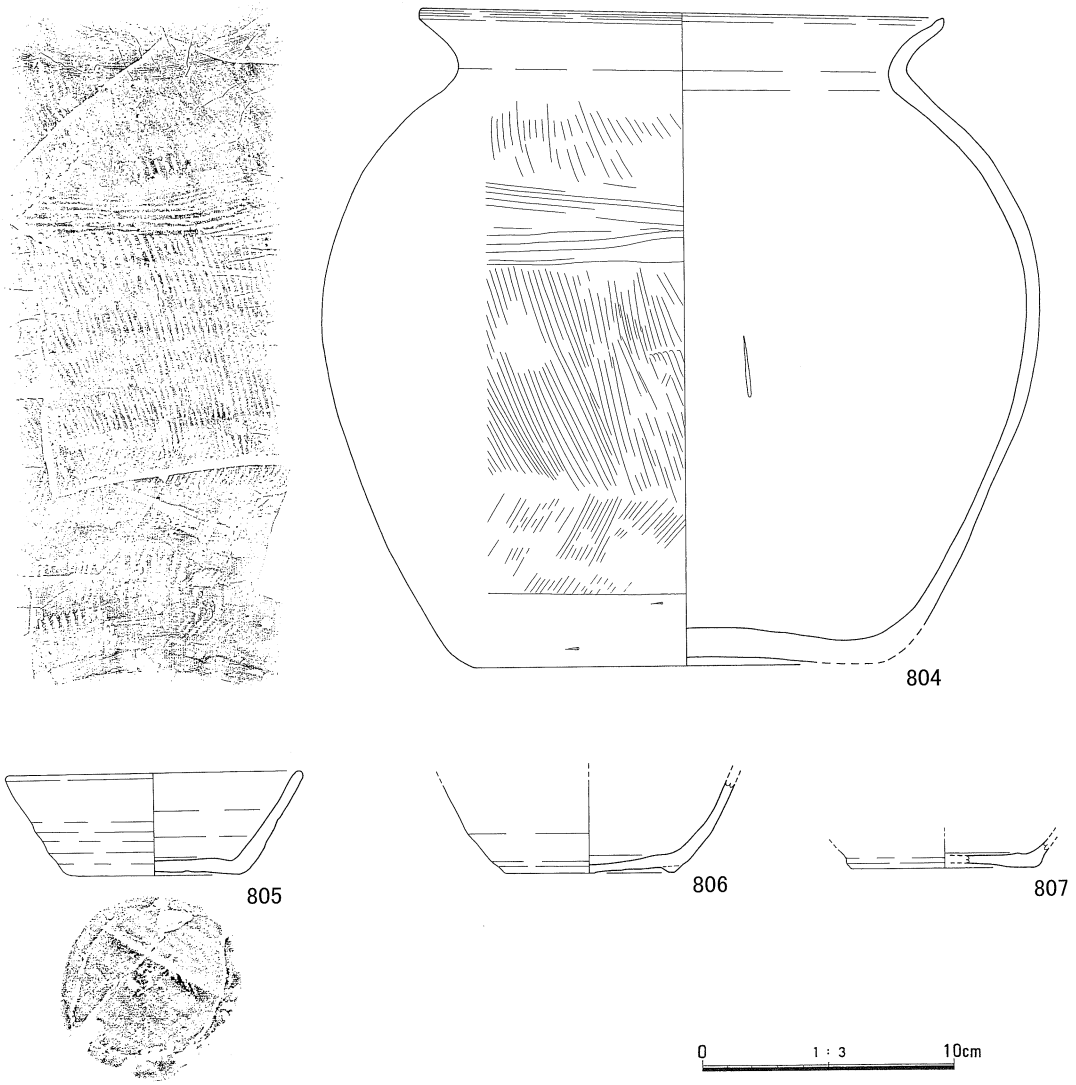
835～839は口縁部外面が断面三角形状に肥厚する。東播系の鉢もしくは影響を受けたものと考えられる。（鉢Ａ類）840は口縁部がやや扁平気味に肥厚し内面はやや窪む。（鉢Ｂ類）841は口縁部がわずかに肥厚し、器壁も全体的に薄い。（鉢Ｃ類）842は口縁部は肥厚せず、端部は面取りしている。他の鉢とは形状、焼成が異なる。（鉢Ｄ類）843～852は口縁部が玉縁状に肥厚している。（鉢Ｚ類）853は口縁部が玉縁状に肥厚しない。（鉢Ｙ類）854～856は内面にハケ目調整が見られる鉢の底部である。

鉢Ｗ類は口縁端部に段もしくは沈線が入る。鉢Ｘは口縁端部に段もしくは縁が付かない。

859～866は甕である。甕は内面及び外面の調整の違いを中心に分類した。857は口縁部で内面にハケ目が見られる。858、864は外面格子タタキ、内面ハケ目で頸部に縦のハケ目調整が確認できる。（甕Ｅ類）859、860は外面格子タタキ、内面ハケ目で色調は白に近い灰白色で甕Ｅ類より軟質である。（甕Ｇ類）861は外面大きめの格子タタキとハケ目、内面ハケ目で色調は黄色みがかっており、焼成はやや軟質である。（甕Ｐ類）862外面細かい格子タタキ、内面は磨きのようなハケ目である。（甕Ｃ類）865、866は古代の甕と思われる。867、868は同一個体と思われる壷である。869、870は羽釜の口縁部、871、872は鍋の口縁部である。873は釜の口縁部の可能性が考えられる。

白磁・青磁・青白磁（第152図）

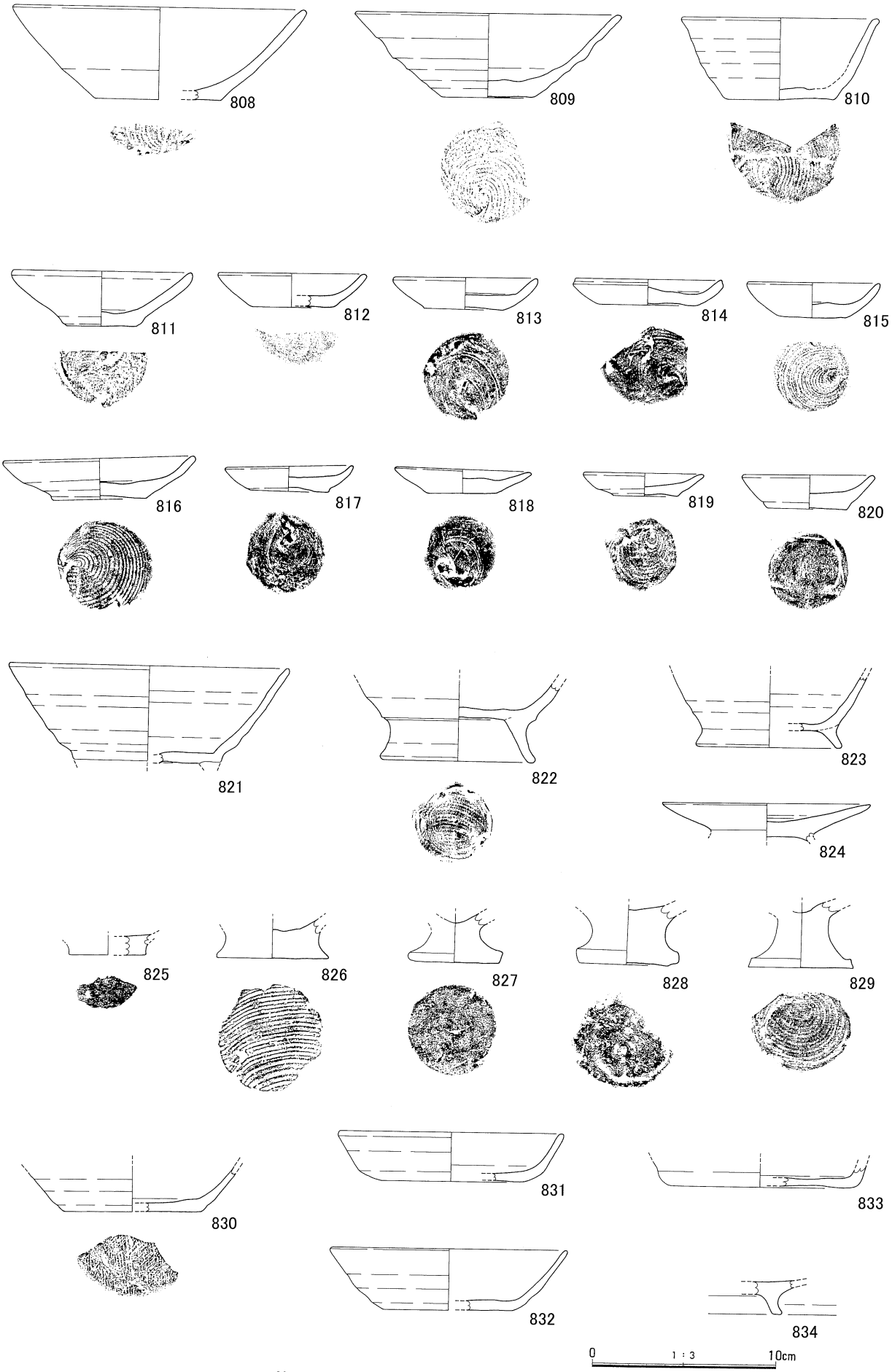
874～892は白磁、893～905は青磁、906～911は青白磁である。



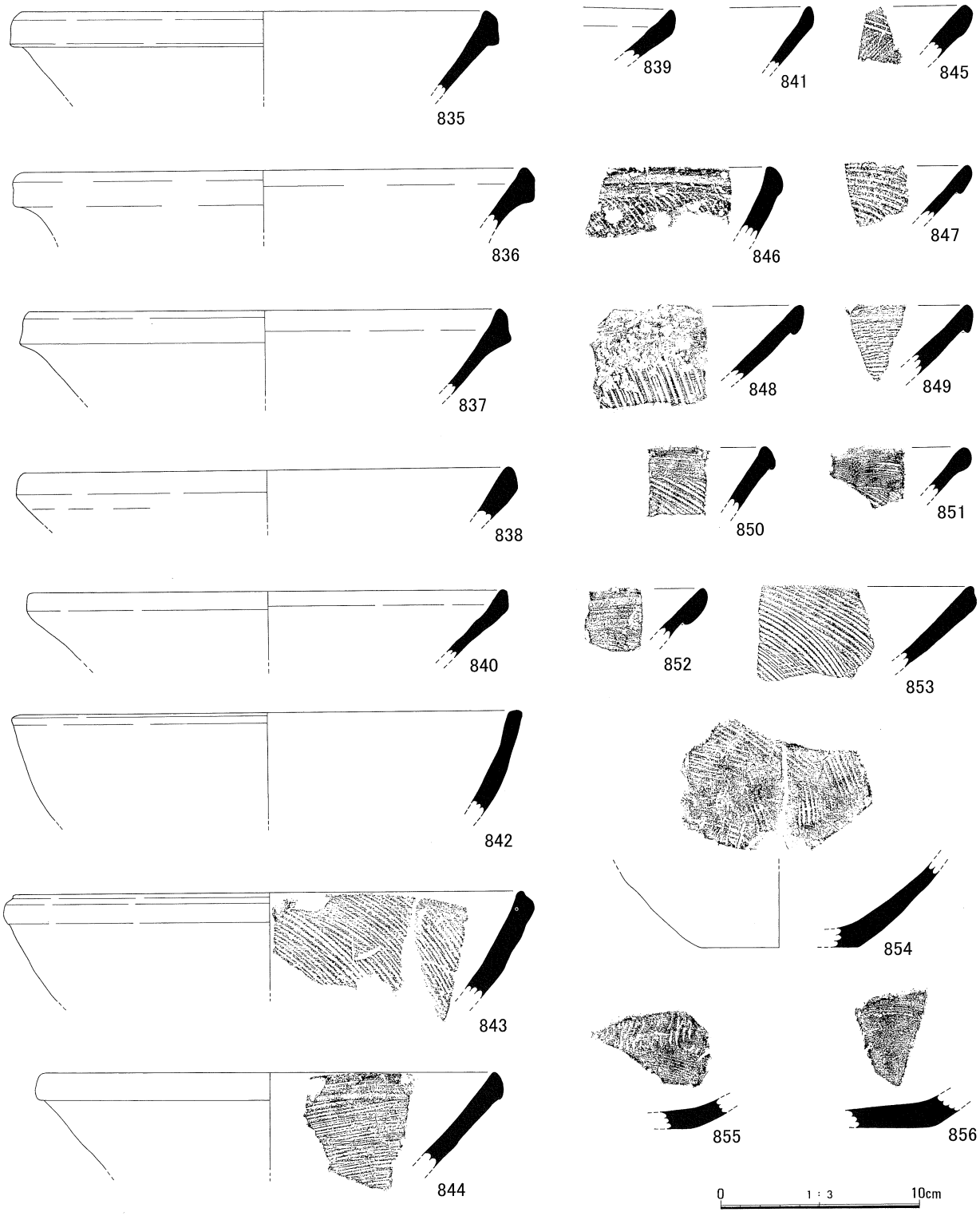
第148図　ＩＤ区第６層以下出土遺物（Ｓ＝1/3）

874～880は椀である。874はⅡ類で玉縁状の口縁部、877はⅤ類の口縁部である。875、879はⅣ類、876はⅤもしくはⅥ類、878は内面底部の釉を環状に掻き取っているⅧ類の底部である。881～889は皿である。882はⅨ類で、口縁部周辺は施釉後に釉を掻き取り、口禿げとしている。889は菊花皿で16世紀代と考えられる。890は壷の胴部、891は合子、892は広東系の小壷である。

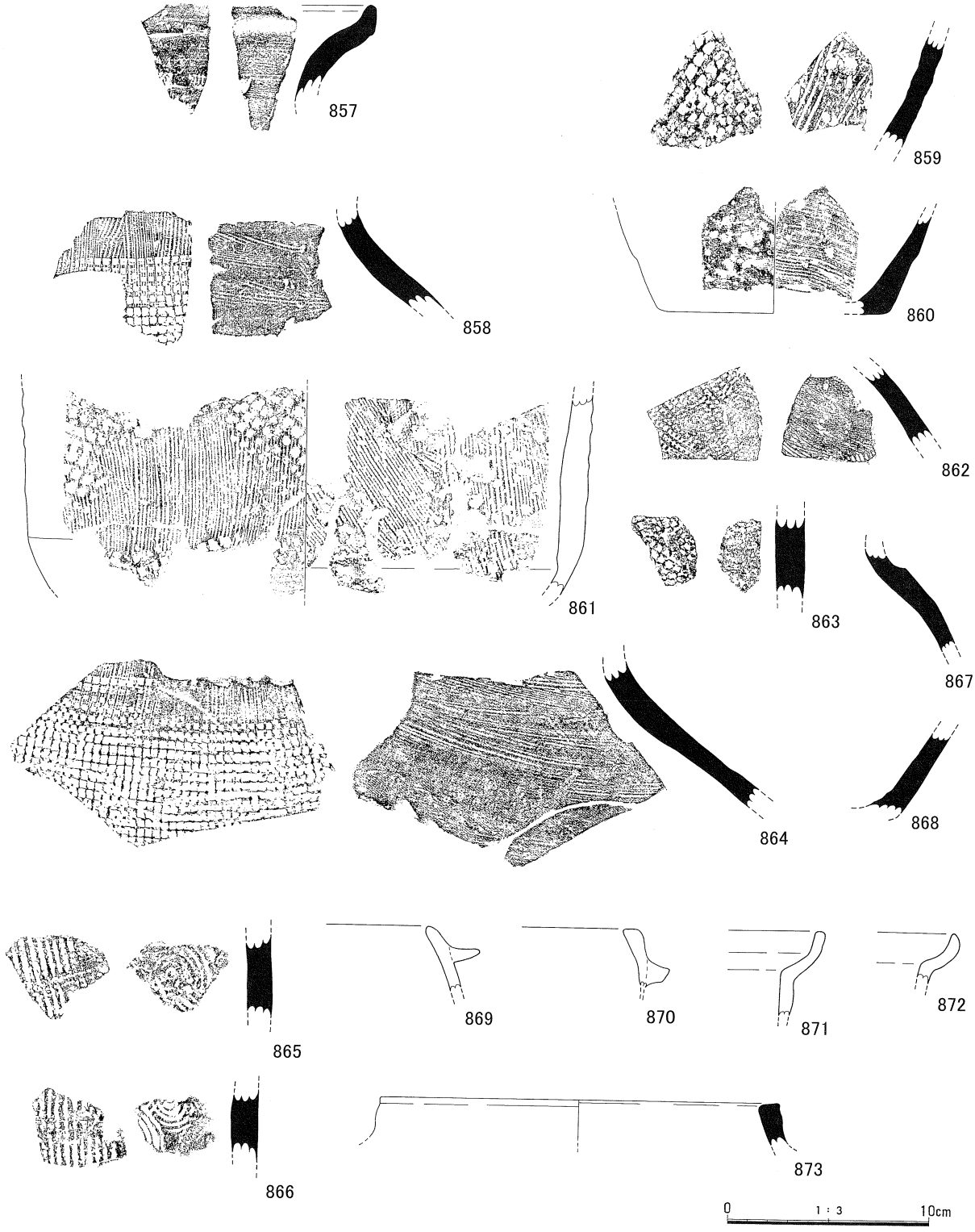
893～902は龍泉窯系の椀である。893、894はⅠ類、895はⅠ－６ｂ類で内面底部に片彫りによる花文、外面に縦の櫛目を入れ、片彫りの鎬蓮弁文を一周させている。896はⅠ類もしくはⅡ類の底部、897はⅡ類で外面に片彫りの蓮弁文が施されている。898はⅢ類底部で畳付けは無釉である。899はⅣ類底部で内面見込みにスタンプ文が施されている。900はＣ類の椀で外面口縁部に雷文が施されている。901はＣ類、902はＥ類の底部である。903は稜花皿、904は口縁部が輪花状の皿である。905は香炉と思われる。



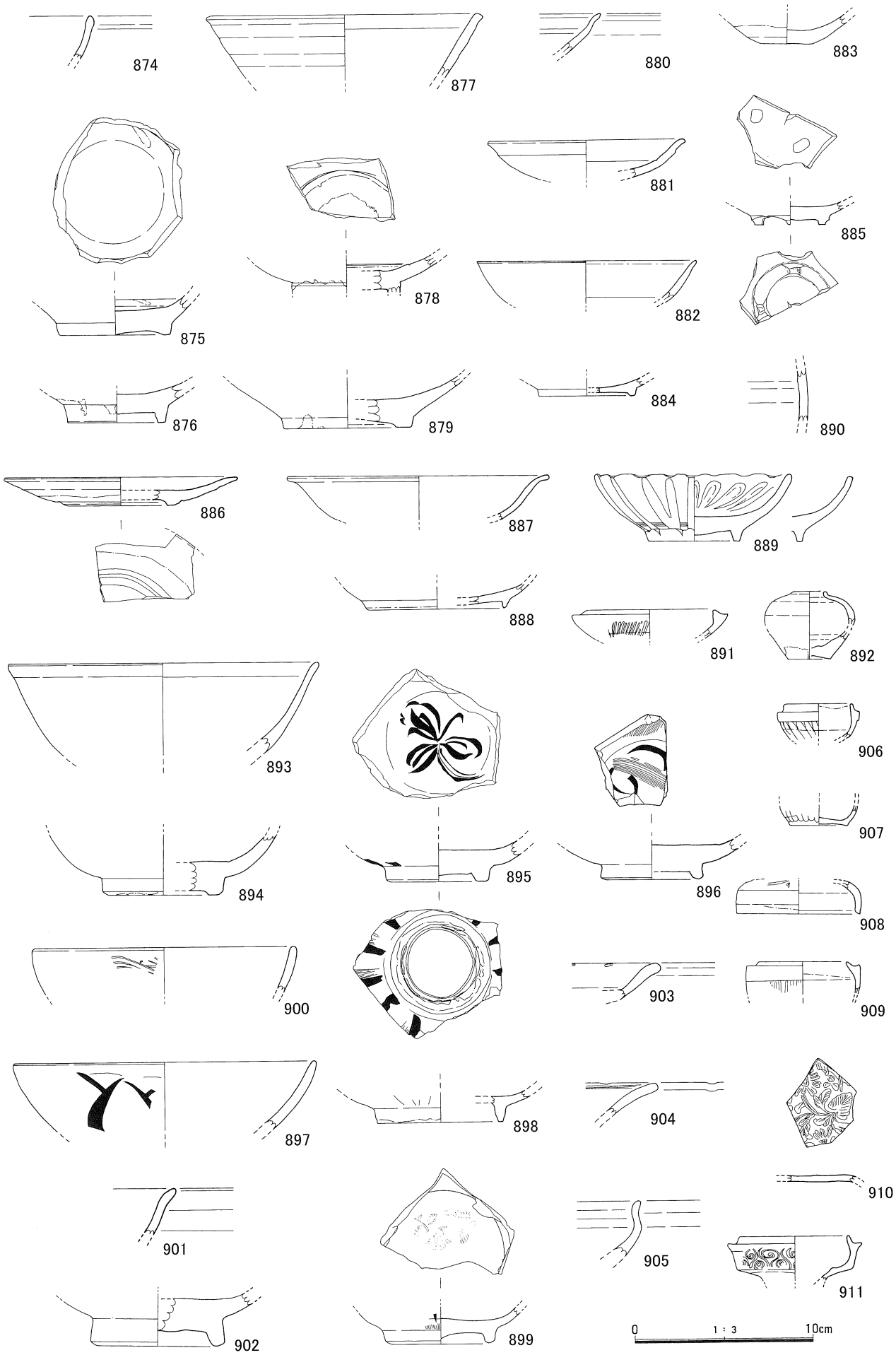
第149図　ＩＤ区土師質土器（Ｓ＝1/3）



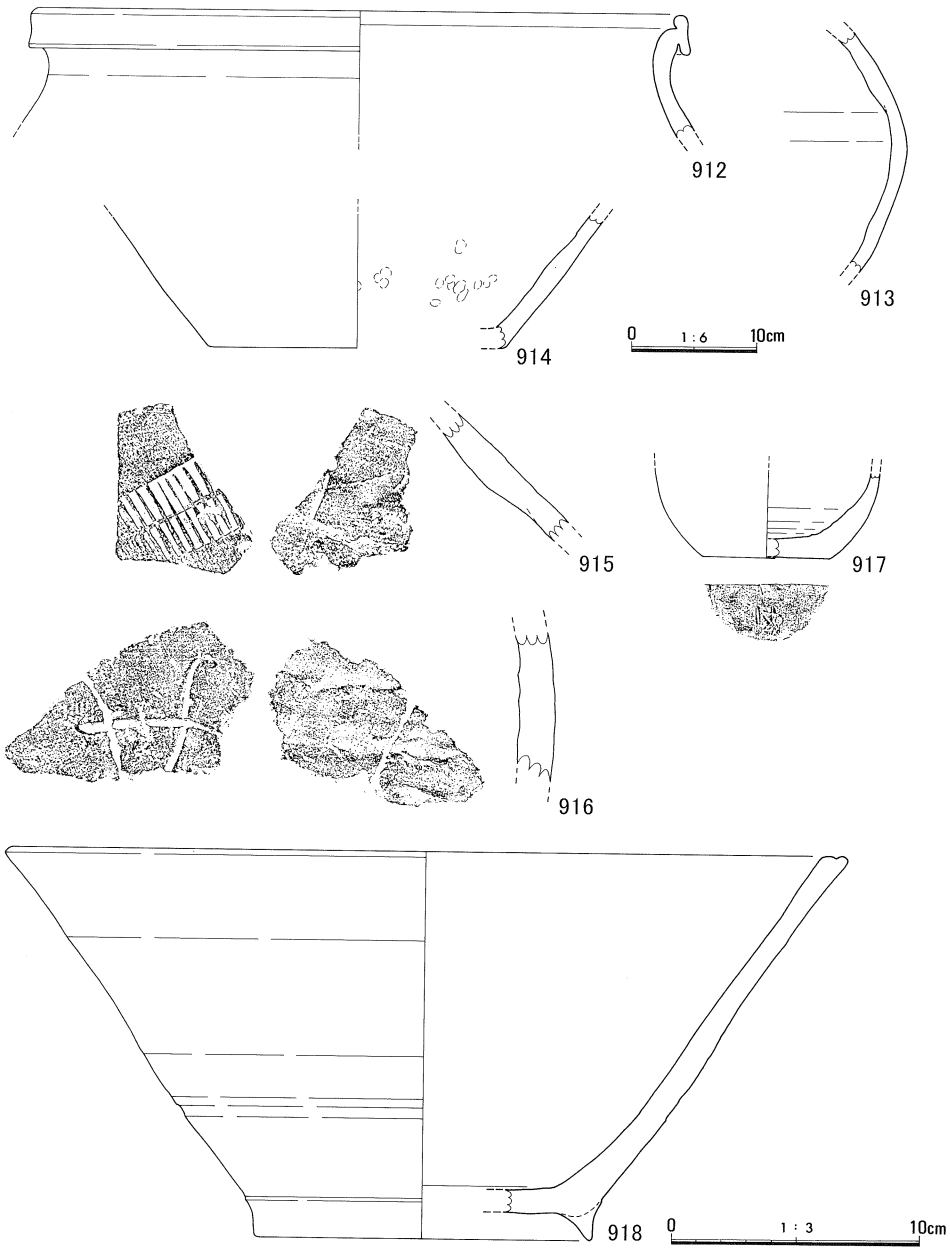
第150図　ＩＤ区中世須恵器①（Ｓ＝1/3）



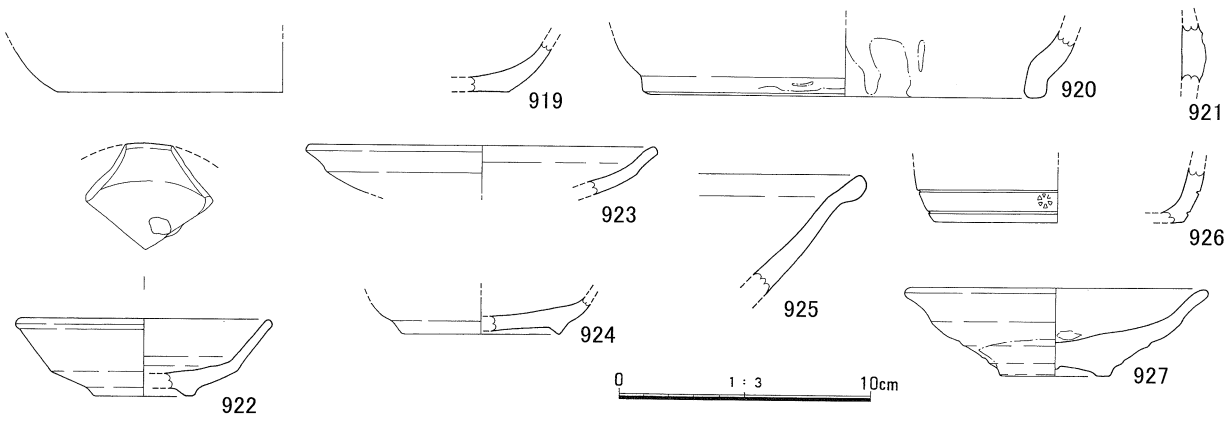
第151図　ＩＤ区中世須恵器②（Ｓ＝1/3）



第152図　ＩＤ区白磁・青磁（Ｓ＝1/3）



第153図　ＩＤ区中世陶器（Ｓ＝1/3、912～914はＳ＝1/6）



第154図　ＩＤ区中世陶磁器（Ｓ＝1/3）

906、907、909は合子の身、908、910は蓋と考えられる。910には外面に唐草文様が施されている。911は器種は不明であるが合子状の容器で脚部がつく可能性がある。外面に唐草文様が施されている。

中世陶器（第153図）

912～914は常滑の大甕で口縁部の形態から14世紀代と考えられる。915は甕または大甕の胴部で915は外面にスタンプ文が施されている。916は外面に「×」と陰刻が確認できる。918は越前の鉢である。内面には擂り目は施されていない。

中世陶磁器他（第154図）

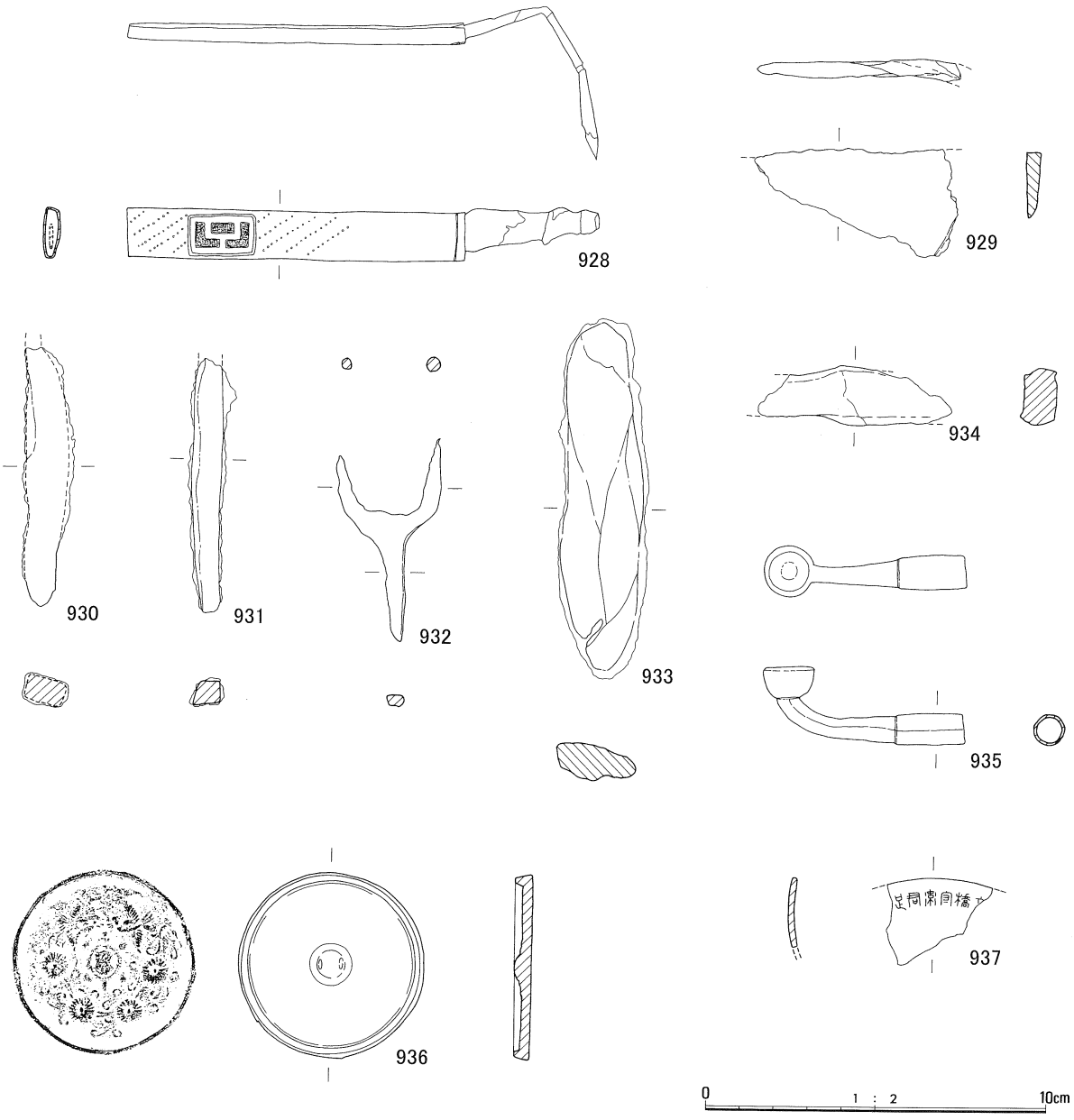
919は中国陶器の盤C群である。920は器種、産地不明の陶器である。922は李朝陶器の皿である。923は緑釉陶器の皿である。924、925は瀬戸・美濃系の陶器で924は皿、925は折皿である。926は瓦器の火鉢または香炉の可能性がある。927は肥前系唐津の皿である。

金属器（第155図）

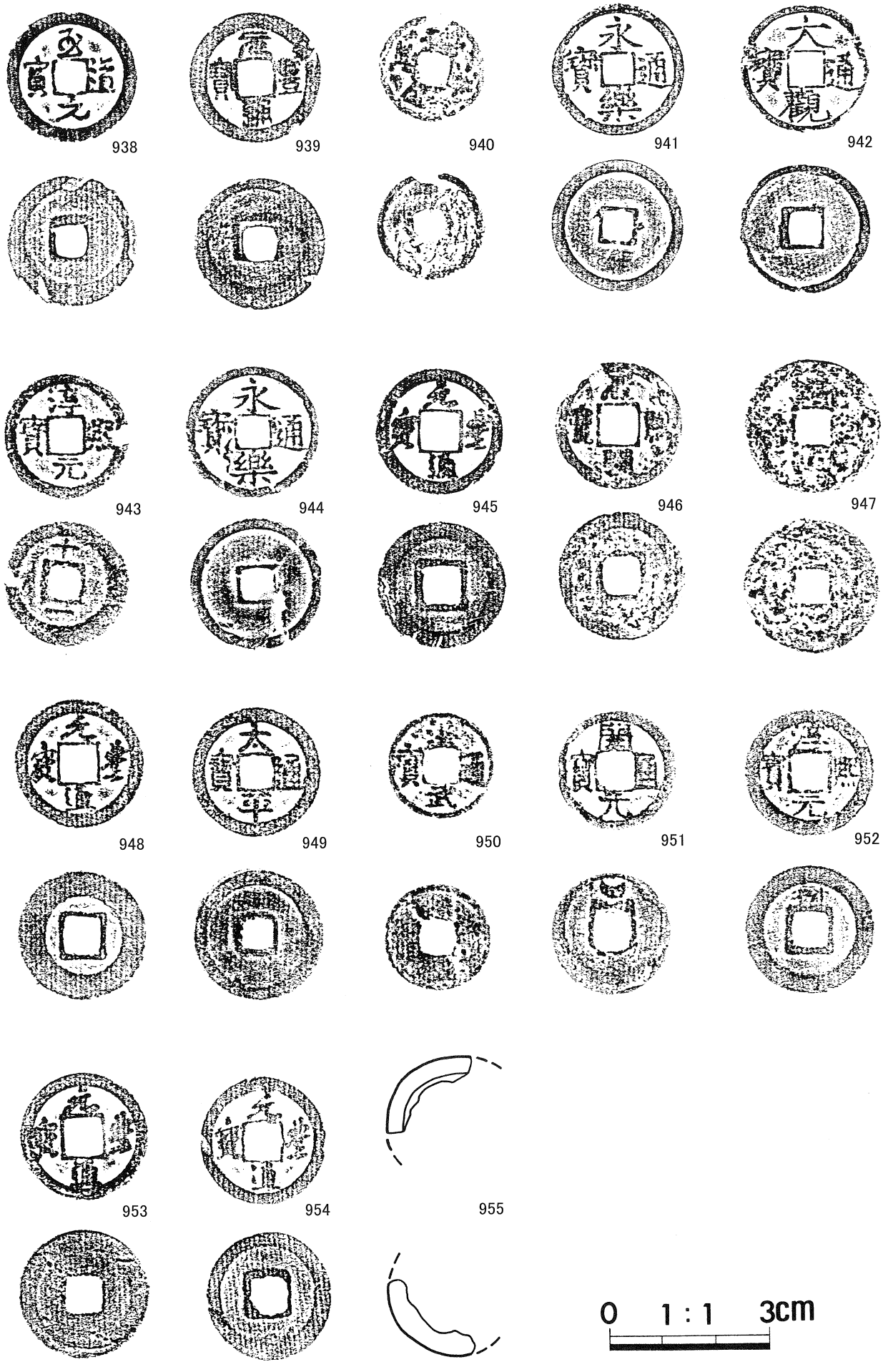
928は小柄とその刃部である。小柄には文様が施されており、また金色を呈している。929は不明である。930、931は釘状鉄製品である。932、933、934は不明鉄製品である。935は煙管、936は和鏡、937は近代以降の金杯の可能性がある。

古銭（第156図）

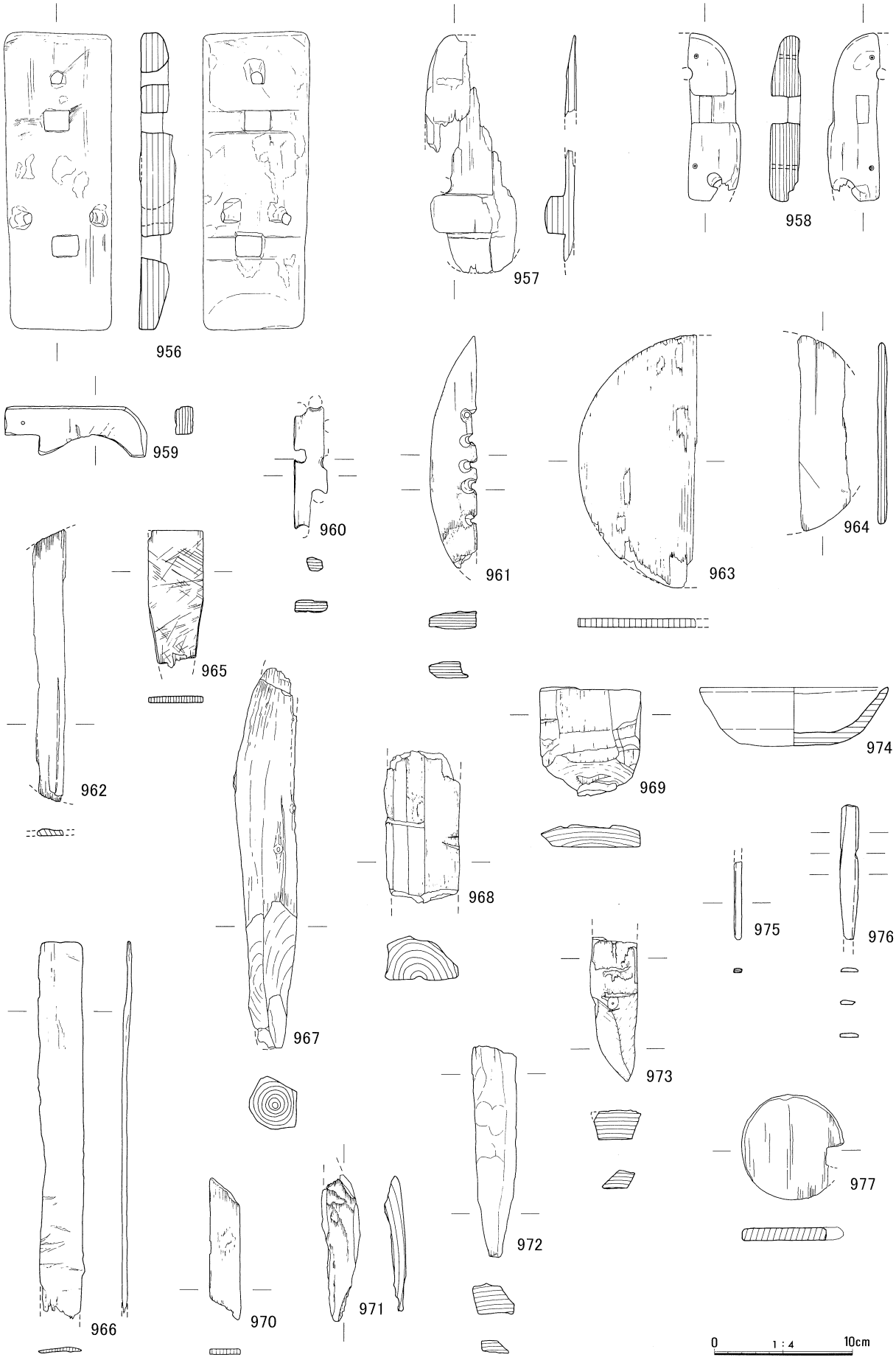
938～955は古銭である。



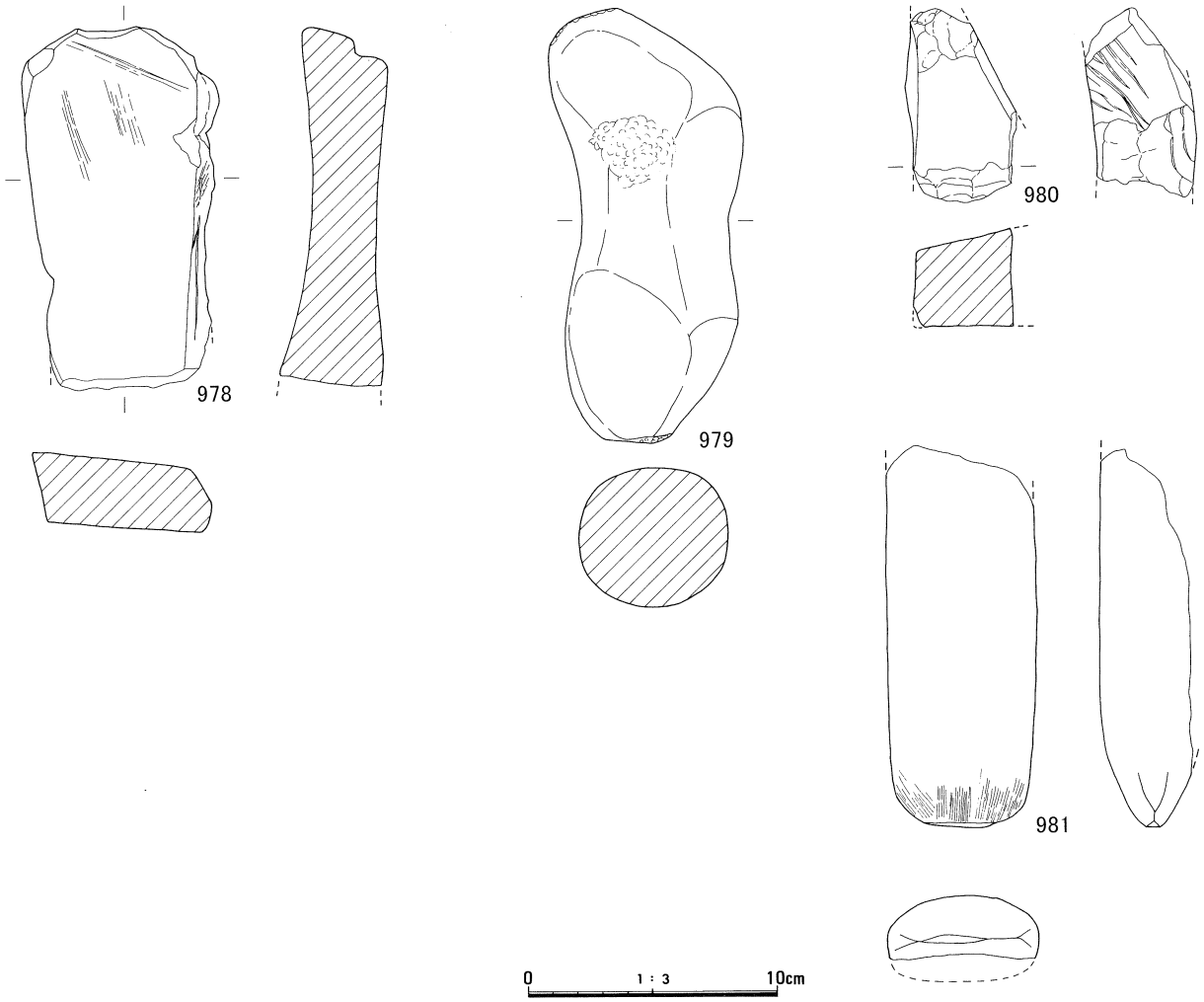
第155図　ＩＤ区金属器（Ｓ＝1/2）



第156図　ＩＤ区古銭（Ｓ＝1/1）



第157図　ＩＤ区木製品（Ｓ＝1/4）



第158図　ＩＤ区石製品（Ｓ＝1/3）

木製品（第157図）

956～977は木製品である。956～958は下駄で、956、958は露卯下駄で歯の部分はなっかた。957は馬形の可能性が考えられる。960、961は火きり臼と思われ、他の部在から転用された可能性がある。963、964は曲物等の部材と考えられる。974は椀、975は箸状木製品、976は笄状木製品である。962、965～973、977は不明木製品、木材片等と思われる。

石製品（第158図）

978、980は砥石、979は全体的には河原石のように滑らかで、中央部に打痕のある不明石製品、981は磨製石斧である。

第110表　ＩＤ区土器観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
804	1077	151 上	C16 C15	8	無釉陶器	甕又は壷	21.0	(16.5)	26.4	轆轤調整？	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ハケ目、ケズリ	密　きめ細かい 鈍い橙色(5YR6/4)	内：黒色(5YR1．7/1) 外：灰赤色(2.5YR4/2)～黒色2.5Y2/1)	
805	1186	151 中	C16	6	土師質土器	坏	11.8	7.0	5.1		内：回転ナデ 外：回転ナデ ヘラ切り？	密　微粒子の金雲母を含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	
806	1187	151 下	C16	8	土師質土器	高台付坏		(6.8)		赤彩	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ ヘラ切り？	密 灰白色(10YR8/2)	内：橙色(2.5YR6/6) 外：橙色(2.5YR6/6) 外底部：灰白色(10YR8/2)	反転実測
807	1188	151 下	E13	7	土師質土器	坏		(7.4)		赤彩	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ ヘラ切り？	密	内：灰褐色(7.5YR5/2) 外：灰褐色(7.5YR6/2)	反転実測 赤彩と思われるが磨耗が激しい
808	1183	153	F12	5	土師質土器	坏	(16.0)	(7.0)	5.0	坏Ⅲ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密	内：浅黄色(2.5Y7/3) 外：浅黄色(2.5Y7/3)	反転実測
809	1182	152	D15	5	土師質土器	坏	(14.6)	(5.0)	4.6	坏Ⅲ´´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の金雲母を含む　径1㎜前後の長石を含む	内：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	反転実測
810	1185	153	D16	5	土師質土器	坏	(10.6)	(5.9)	4.5		内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の金雲母をわずかに含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	反転実測 風化著しい
811	1178	－			土師質土器	坏	(9.8)	(3.8)	3.0		内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の朱色粒子を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測 風化著しい
812	1171	153	E15	5	土師質土器	皿	(80.)	(4.4)	1.8	Ⅲ1類 口縁部　一部約5㎜幅の焦げ物質付着	内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の石英を含む	内：鈍い橙色(5YR6/4) 外：鈍い橙色(5YR6/4)	反転実測 風化著しい
813	1167	152	D14	5	土師質土器	皿	7.8	4.3	1.8	Ⅲ1類	内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む　径1㎜の朱色粒子を含む　径5㎜強のエンジ色粒子を含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	反転実測 風化著しい
814	1177	153	E15	5	土師質土器	皿	(8.0)	(5.7)	1.4	Ⅲ1類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石、朱色物質を含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
815	1168	153	E15		土師質土器	皿	(7.1)	(3.6)	1.9	Ⅲ2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の石英を多く含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	一部反転実測
816	1176	152	E14		土師質土器	皿	10.3	5.1	2.3	Ⅲ3類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：明褐灰色(7.5YR7/2) 外：明褐灰色(7.5YR7/2)	
817	1172	152	北溝		土師質土器	皿	(7.0)	(4.3)	1.6	Ⅲ3類	内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む　径1㎜の朱色粒子を含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：灰褐色(7.5YR5/2)	反転実測 風化著しい
818	1173	－	E15	5	土師質土器	皿	(7.4)	(3.7)	1.5	Ⅲ3類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の朱色粒子を含む(1ヶ所径3㎜)	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
819	1170	153	D17	5	土師質土器	皿	6.5	3.5	1.3	Ⅲ3類	内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む　径1㎜の朱色粒子を含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	風化著しい
820	1169	152	E14	5	土師質土器	皿	7.1	4.4	1.9		内：不明 外：不明	密　微粒子の金雲母、長石を多く含む	内：鈍い赤褐色(5YR5/3) 外：鈍い赤褐色(5YR5/3)	風化著しい
821	1181	153	E13		土師質土器	高台付坏	(15.4)	(8.0)	5.3		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、長石を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
822	1180	152	E14	5	土師質土器	高台付坏		(8.4)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、黒雲母、長石を多く含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
823	1179	153	E13	5	土師質土器	高台付坏		(7.8)			内：不明 外：不明	径1㎜弱の金雲母、長石、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	反転実測 風化著しい
824	1184	153	D16	5	土師質土器	高台付皿	(11.4)				内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄色(2.5Y6/3) 外：浅黄色(2.5Y7/3)	反転実測
825	1159	153	排土		土師質土器	柱状高台		(4.2)			内：不明 外：不明	密　微粒子の長石を含む	内：浅黄色(2.5Y7/3) 外：浅黄橙色(7.5YR8/4)	反転実測
826	1158	152	E13	5	土師質土器	柱状高台		(6.2)			内：ナデ？ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、黒雲母、長石、石英を含む	内：褐灰色(10YR4/1) 外：褐灰色(10YR4/1)	一部反転実測
827	1155	152	E14	5	土師質土器	柱状高台		5.0			内：不明 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の石英を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	
828	1157	152	D14	5	土師質土器	柱状高台		(5.5)			内：ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の金雲母、石英を含む	内：褐灰色(10YR6/1) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	一部反転実測
829	1156	152	D17	5	土師質土器	柱状高台		(5.6)			内：ナデ？ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	反転実測
830	1163	152		表土掘削	土師質土器	坏		(7.6)		内面及び外面体部に赤彩(かなり剥げ落ちている) 赤彩　橙色(5YR6/6)	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ ヘラ切り？	微粒子の金雲母を含む　径1㎜前後の長石を多く含む	内：鈍い橙色(5YR6/4) 外：鈍い橙色(5YR6/4) 赤彩：橙色(5YR6/6)	反転実測
831	1166	－			土師質土器	坏	(12.2)	(7.2)	2.7		内：回転ナデ 外：回転ナデ ヘラ切り？	密　微粒子の金雲母を含む　径2㎜の朱色粒子を1ヶ所含む	内：橙色(2.5YR6/6) 外：橙色(2.5YR6/6)～灰白色(7.5YR8/2)	反転実測
832	1162	152	北溝		土師質土器	坏	(12.8)	(7.2)	3.8	内面及び外面体部に赤彩(かなり剥げ落ちている)	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り	径1㎜前後の石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：鈍い橙色(2.5YR6/4) 外底部：灰白色(10YR8/2)	反転実測
833	1165	－	D16	5	土師質土器	坏		(10.6)		内面及び外面体部に赤彩(外面底部にも顔料が回り込んでおり、境が曖昧、全体的に顔料が剥げ落ちている)	内：回転ナデ 外：回転ナデ ヘラ切り後ナデ？	密　微粒子の石英を含む	内：橙色(5YR6/6) 外：橙色(5YR6/6)	反転実測
834	1164	153			土師質土器	高台付坏				顔料は内面及び外面体部に塗布されているが一部外面高台と畳み付け部分に回りこんでいる	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：橙色(2.5YR6/6) 外：明褐灰色(7.5YR7/2)	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
835	1099	154	E14	4	中世須恵器	鉢	(24.4)			魚住窯	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？、ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：灰白色(N7/) 外：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
836	1097	154	－	5	中世須恵器	鉢	(26.2)			鉢Ａ－1類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？、ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：灰色(N7/) 外：灰色(N6/)～灰色(N7/)	反転実測
837	1100	154	排土	－	中世須恵器	鉢	(23.6)			鉢Ａ－1類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	反転実測
838	1103	154	F12	5	中世須恵器	鉢	(24.6)			鉢Ａ－2類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	微粒子の黒色粒子をわずかに含む	内：青灰色(5PB6/1) 外：青灰色(5PB6/1) 外口縁：灰色10Y4/1)	反転実測
839	1098	154	D15	4	中世須恵器	鉢				鉢Ａ－5類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：青灰色(5PB6/1) 外：青灰色(5PB6/1) 外口縁：暗青灰色(5PB3/1)	
840	1102	154	F13	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｂ－1類 口縁にわずかな歪み有り	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/) 外口縁：暗灰色(N3/)	反転実測
841	1101	154	E15	5	中世須恵器	鉢				鉢C-1類または鉢C-2類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：灰白色(N8/) 外：灰白色(N8/) 外口縁：暗灰色(N3/)	
842	1241	154	E15	5	中世須恵器？	鉢	(25.6)			鉢Ｄ－2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰白色(7.5Y7/1) 外：灰白色(7.5Y7/1) 口縁：灰褐色(5YR7/2)	反転実測
843	1090	154	E15	5	中世須恵器	鉢	(25.6)			鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：不明 口縁部：不明	微粒子の石英を含む	内：灰白色(N7/)～暗灰色(N3/) 外：灰白色(N7/)～灰色(N4/)	反転実測 磨耗が激しい
844	1094	154	E15	5	中世須恵器	鉢	(22.6)			鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子～径2㎜大の石英を含む	内：灰白色(7.5Y8/1) 外：灰白色(7.5Y8/1)	反転実測 磨耗が激しい
845	1085	154	D14	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
846	1087	154	西溝	－	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：不明 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英をわずかに含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
847	1086	154	D15	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英を含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
848	1095	154	E15	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英をわずかに含む	内：白灰色(2.5Y8/1) 外：白灰色(2.5Y8/1)	磨耗が激しい
849	1088	154	E15	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	径1㎜前後の石英、白色粒子を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
850	1082	154	E13	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
851	1093	154	E15	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英をわずかに含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	
852	1083	154	E15	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｚ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英をわずかに含む	内：暗灰色(N3/1) 外：暗灰色(N3/1)	
853	1084	154	E15	5	中世須恵器	鉢				鉢Ｙ類	内：ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	径1㎜前後の石英、白色粒子を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
854	1089	154	E15 14 トレンチ	5	中世須恵器	鉢		(7.9)			内：ハケ目 外：ナデ？	微粒子の石英をわずかに含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N4/)～灰白色(N8/)	反転実測
855	1092	154	D16	5	中世須恵器	鉢		(10.5)			内：ハケ目 外：ナデ？	微粒子の石英をわずかに含む	内：灰色(N5/) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測
856	1091	154	D14	5	中世須恵器	鉢		(7.7)			内：ハケ目 外：不明	微粒子の石英を含む	内：灰色(N5/) 外：灰白色(2.5Y8/1)	反転実測
857	1105	155	E14	4	中世須恵器	甕					内：回転ナデ、ハケ目 外：回転ナデ	微粒子の石英をわずかに含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰色(N5/)	
858	1108	155	E15	5	中世須恵器	甕					内：回転ナデ後ハケ目 外：回転ナデ後ハケ目、格子目タタキ	密　微粒子の石英をわずかに含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰色(N4/)	
859	1116	155	E16	5	中世須恵器	甕					内：ハケ目 外：格子目タタキ	密	内：灰白色(N8/) 外：黒褐色(2.5Y3/1)	
860	1107	155	E13	5	中世須恵器	甕		(11.4)			内：ハケ目 外：不明	微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰白色(2.5Y8/1)	反転実測
861	1129	155	ED15	5	中世須恵器	甕				内面一部　煤付着	内：ハケ目 外：ハケ目、格子目タタキ	密　径1㎜弱の長石、石英を多く含む	内：鈍い褐色(7.5YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測
862	1104	155	E14	4	中世須恵器	甕					内：ハケ目？、ヘラガキ？ 外：格子目タタキ	微粒子の砂粒をわずかに含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰色(N5/)	
863	1117	155	D15	5	中世須恵器	甕					内：不明 外格子目タタキ	密	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)	
864	1109	155	E14	4 5	中世須恵器	甕					内：回転ナデ後ハケ目 外：回転ナデ後ハケ目、格子目タタキ	微粒子の石英をわずかに含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
865	1113	155	南溝		須恵器	甕					内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密　1㎜弱の長石、石英を多く含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：橙色(5YR6/6)	
866	1112	155	E13	5	須恵器	甕					内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密　1㎜弱の長石、石英を多く含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：橙色(5YR6/6)	
867	1243	156上	P528		中世須恵器	壷				壺B類	内：回転ナデ 外：ナデ、回転ナデ	径1㎜の暗灰色粒子をわずかに含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	1242と同一個体の可能性大
868	1242	156上	P50		中世須恵器	壷				壺B類	内：回転ナデ 外：ナデ、ヘラ削り後ナデ	径2㎜の灰白色粒子をわずかに含む 一部赤褐色に変色	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	1243と同一個体の可能性大
869	1118	156上		5	中世須恵器？	羽釜				煤付着	内：回転ナデ、ハケ目 外：回転ナデ	微粒子の石英をわずかに含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
870	1120	156上		4	中世須恵器？	羽釜				外面　煤付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の石英を多く含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰色(N4/)	
871	1161	156上			中世須恵器？	鍋					内：ナデ 外：ナデ	微粒子の石英を多く含む	内：灰色(5Y4/1) 外：オリーブ黒色(5Y3/2)	磨耗が激しい
872	1119	156上	D14	5	中世須恵器？	鍋					内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の黒雲母、石英を含む	内：黄灰色(2.5Y6/1) 外：灰色(N5/)	
873	1096	156上	中央溝		中世須恵器？	釜				口縁端部　煤付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ		内：黄灰色(2.5Y4/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
874	1132	220上	E15	5	白磁	椀				椀Ⅱ－1類(C期)		密　きめ細かい やや砂味がある 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(5Y7/2) 外釉：灰白色(5Y7/2)	
875	1141	220上	E15	5	白磁	椀		(6.3)		椀Ⅳ類(C期)		密　微細な黒色粒子をわずかに含む 灰白色(10Y7/1)	内釉：灰白色(5Y7/2) 外：灰白色(10Y7/1)	一部反転実測
876	1137	220上	E15	5	白磁	椀		(5.6)		椀Ⅴ類またはⅥ類(C期)		密　きめ細かい やや砂味がある 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(N8/) 外：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
877	1133	220上	E14	5	白磁	椀	(14.6)			内面　一条の沈線 椀Ⅴ－4ａ類(C期)		密　きめ細かい 灰白色(7.5Y8/1)	内釉：灰白色(5GY8/1) 外釉：灰白色(5GY8/1)	反転実測
878	1142	220上	D14	5	白磁	椀				内面底部　一条の沈線 白灰色の繊維状物質付着 椀Ⅷ類(D期)		密　微細な黒色粒子を含む 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/2) 内胎：灰白色(5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/2) 外胎：灰白色(5Y7/1)	反転実測 内面 掻き取り部分、段無し
879	1136	220上	C16	5	白磁	椀		(7.2)		椀Ⅳ類(C期)		密　微細な黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(5Y8/1) 外釉：灰白色(5Y8/1)	反転実測
880	1131	220下	D15	5	白磁	椀				椀Ⅵ－2類(C期)		やや陶質に近い 灰白色(5Y8/1)	内釉：オリーブ黄色(5Y6/4) 外釉：オリーブ黄色(5Y6/4)	
881	1078	220下	D14	5	白磁	皿	(11.2)			ⅢⅡ－1a(C期)またはⅢ－2類(D期)		密 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
882	1130	220下	E15	5	白磁	皿	(11.4)			口縁端部　釉掻き取り　ⅢⅨ類(F期)		密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(N8/)～灰オリーブ色(7.5Y6/2) 外釉：灰白色(N8/)～灰オリーブ色(7.5Y6/2)	反転実測
883	1079	220下	D14	5	白磁	皿		(3.0)		ⅢⅡ類またはⅢⅡ類(C期)		密 灰白色(10Y7/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1) 外胎：灰白色(5Y7/1)	反転実測
884	1075	220下	D16	4	白磁	皿		(5.4)		ⅢD類		密　きめ細かい 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(7.5Y8/1) 外：灰白色(5Y7/1)	反転実測
885	1143	220下	C16	4	白磁	皿		(4.0)		内面底部　目痕(2ヶ所)　ⅢD類		密　きめ細かい やや陶質に近い 灰白色(2.5Y8/2)	内釉：灰白色(5Y8/1) 外釉：灰白色(5Y8/1)	反転実測
886	1076	220下	D14	5	白磁	皿	(13.2)	(6.0)	1.6	内面底部　漆付着 ⅢD類		密　きめ細かい やや陶質に近い 灰白色(5Y8/2)	内釉：灰白色(5Y8/1) 外釉：灰白色(5Y8/1) 外胎：灰色(5Y5/1)	反転実測
887	1134	220下	E14 D15	4 5	白磁	皿	(14.8)			ⅢE類		密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(N8/) 外釉：灰白色(N8/)	反転実測
888	1135	220下	C16	4	白磁	皿		(7.8)		ⅢE類		密　きめ細かい やや陶質に近い 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(5Y7/1) 外釉：灰白色(5Y7/1)	反転実測
889	1240	220下	D14	5	白磁	皿 (菊花)	(10.9)	(5.2)	3.8	外面　少なくとも2条沈線　ⅢE類		密　きめ細かい　やや陶質に近い　鈍い黄橙色(10YR7/2)	内釉：灰黄色(2.5Y7/2) 外釉：灰白色(2.5Y7/2)	反転実測
890	1138	222	D15	5	白磁	壷				壷Ⅲ類		密　きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(5Y7/2) 外釉：灰白色(5Y7/2)	
891	1080	222	E15	3	白磁	合子	(7.0)			外面　楕目状の型押し		密　きめ細かい 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(5Y8/2) 外釉：灰白色(5Y8/2) 外胎：灰色(5Y5/1)	反転実測
892	1081	222	14トレンチ中央溝		白磁	小壷	(1.9)	(2.2)	(3.8)			密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(7.5Y7/2) 外釉：灰白色(7.5Y7/2) 外：灰白色(N8/)	反転実測
893	1154	219上	E15	5	青磁 (龍泉窯系)	椀	(17.5)			椀Ⅰ－1ａ類(D期)		砂味が強い 灰黄褐色(10YR6/2)	内釉：黄褐色(2.5Y5/4) 外釉：黄褐色(2.5Y5/4)	反転実測
894	1145	219上	D15	4	青磁 (龍泉窯系)	椀		(6.8)		底部　厚い 椀Ⅰ類(D期)		やや砂味が有る 黄灰色(2.5Y6/1)	内釉：灰オリーブ色(5Y5/2) 外釉：灰オリーブ色(5Y5/2)	反転実測
895	1144	219上	D16	5	青磁 (龍泉窯系)	椀		5.8		内面底部　劃花文 外面 片彫り鎬連弁文　ハケ目 椀Ⅰ－6b類(D期)		密　きめ細かい 所々に黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰オリーブ色(7.5Y5/2) 外釉：灰オリーブ色(7.5Y5/2)	一部反転実測
896	1146	219上	E13	5	青磁 (龍泉窯系)	椀		(5.8)		内面底部　片彫文・櫛目文　椀Ⅰ－2～3類(D期)		密　きめ細かい 灰白色(7.5Y7/1)	内釉：灰オリーブ色(7.5Y5/3) 外釉：灰オリーブ色(7.5Y5/3)	反転実測
897	1152	219上	E14	5	青磁 (龍泉窯系)	椀	(17.0)			外面　片彫り鎬連弁文 椀Ⅱ－a類(E期)		密　きめ細かい 灰白色(N7/)	内釉：灰オリーブ色(7.5Y6/2) 外釉：灰オリーブ色(7.5Y6/2)	反転実測
898	1153	219上	E13	5	青磁 (龍泉窯系)	坏	(7.2)			外面　片彫り鎬連弁文 高台端部周辺　釉掻き取り　椀Ⅲ類(F期)		密　きめ細かい 灰白色(10Y8/1)	内釉：明緑灰色(10GY7/1) 外釉：明緑灰色(10GY7/1)	反転実測
899	1140	219下	E14	4	青磁 (龍泉窯系)	椀又は皿		(6.2)		内面底部　スタンプ文 外面　片彫り鎬連弁文、ハケ目　椀Ⅳ類?		密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：明緑灰色(10GY7/1) 外釉：明緑灰色(10GY7/1)	反転実測
900	1151	219上	E14	4	青磁 (龍泉窯系)	椀	(14.6)			外面口縁　雷文帯 椀C-Ⅲ類		密　きめ細かい 灰白色(N7/)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	反転実測
901	1150	219下	E13	4	青磁 (龍泉窯系)	椀				椀C類またはD類		密　きめ細かい 灰白色(N7/)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	
902	1139	219下	E14	4	青磁 (龍泉窯系)	椀		(7.6)		椀E類		密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：明オリーブ灰色(2.5GY7/1) 外釉：明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	反転実測
903	1148	219下	C16 D15	4 5	青磁 (龍泉窯系)	皿				口縁端部　目痕		砂味が強い 灰白色(5YR8/2)	内釉：オリーブ黄色(7.5Y6/3) 外釉：オリーブ黄色(7.5Y6/3)	
904	1149	219下	D14	4	青磁 (龍泉窯系)	皿 (稜花)				内面口縁　三条の線		やや陶質に近い やや赤味がかっている 鈍い黄橙色(10YR7/2)	内釉：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外釉：鈍い黄橙色(10YR6/3)	
905	1147	219下	D14	5	青磁 (龍泉窯系)	小椀						密　きめ細かい 微細な黒色粒子を含む 灰白色(10Y7/1)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	
906	1124	222	北溝		青白磁	合子(身)	(3.8)					密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：明緑灰色(10GY8/1) 外釉：明緑灰色(10GY8/1) 外胎：灰白色(N8/)	反転実測
907	1123	222	C15	5	青白磁	合子(身)		(3.3)				密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：明緑灰色(10GY8/1) 外釉：明緑灰色(10GY8/1)	反転実測
908	1127	222	E15		青白磁	合子(蓋)	(7.0)					密　きめ細かい 陶質に近い 灰白色(2.5Y8/2)	内：灰白色(2.5Y8/2) 外釉：明緑灰色(10GY8/1) 外胎：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
909	1125	222	E13 14 D15	4 5	青白磁	合子(身)	(5.0)					密　きめ細かい 灰白色(5Y8/1)	内釉：明緑灰色(10GY8/1) 内胎：灰白色(5Y8/1) 外釉：明緑灰色(10GY8/1)	反転実測
910	1128	222	E14	5	青白磁	合子(蓋)						密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(5Y8/1) 外釉：明緑灰色(10GY8/1)	
911	1126	222	D16	4	青白磁	合子(身)	(6.2)					密　きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：明緑灰色(10GY8/1) 外釉：明緑灰色(10GY8/1) 外胎：灰白色(7.5YR8/3)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
912	1237	221上	ⅠC区F14 D15 石列1	5	瓷器系陶器	甕	(51.0)				内：横ナデ、ナデ 外：横ナデ、ナデ	微粒子の白色粒子を多く含む	内：灰褐色(5YR4/2) 外：灰褐色(5YR4/2)	反転実測
913	1238	219上	C15 D15 E13	5	瓷器系陶器	甕					内：ナデ？ 外：ナデ	径1㎜の白色粒子を含む 径2～3㎜の黒色粒子をわずかに含む	内：灰褐色(7.5YR5/2) 外：鈍い赤褐色(5YR5/3)	
914	1239	219上	ⅠC区 F14 E14	5	瓷器系陶器	甕		(23.8)			内：ナデ、指頭圧痕 外：ナデ	微粒子の石英、白色粒子を多く含む	内：灰褐色(7.5YR5/2) 外：鈍い赤褐色(5YR5/3)	反転実測
915	1234	219下	D15 E14	4	瓷器系陶器	－		(5.0)			内：横ナデ 外：横ナデ	密　きめ細かい	内：暗灰赤色(10R4/1) 外：灰赤色(10R5/2)	反転実測
916	1250	219下	D17	5	瓷器系陶器(越前)	甕				外面　スタンプ	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜前後の赤色粒子、黄灰色粒子を含む 黄灰色の層を層状に含む	内：灰色(N4/)～灰褐色(5YR4/2) 外：褐灰色(10YR4/1)	
917	1251	219下	D14 C？	5	瓷器系陶器	甕				外面　窯印？	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜前後の赤色粒子を含む	内：灰黄褐色(10YR5/2) 外：灰褐色(7.5YR5/2)	
918	1235	223上	ⅠC区北側溝 IC区F15 C16 D14 E14 E15	4 5	瓷器系陶器(越前)	鉢	(33.4)	(13.4)	15.4		内：不明 外：回転ナデ、ヘラ削り	径2㎜前後の白色粒子を含む	内：赤褐色(10R5/3) 外：赤褐色(10R5/3)	反転実測
919	1249	223	IC区F14 D15 E13 E14	4 5	中国陶器	盤		(18.0)		盤C群 黄釉		砂味が強い 径1㎜前後の赤色粒子を含む 径1㎜弱の白色粒子を少し含む	内釉：灰褐色(7.5YR6/2) 外：灰白色(5Y7/2)	反転実測
920	1247	223	C17	4	－	－						密 黄灰色(2.5Y5/1)	内釉：暗赤褐色(7.5Y3/2) 内胎：暗灰色(N3/) 外釉：黒色(10YR1.7/1)	反転実測
921	1248	－	B16	5	－	－						密　土師質でやや赤味を帯びている	釉：緑 他：灰白色(7.5YR8/2)	
922	1233	223	E14	4	李朝陶器	Ⅲ	(10.0)	(4.1)	3.1	削り出し高台 砂目跡あり		密　微粒子の白色粒子を含む 灰白色(N7/)	内釉：灰白色(7.5Y2/1) 外釉：灰白色(7.5Y2/1)	反転実測
923	1246	－	C16	5	緑釉陶器	Ⅲ	(13.8)					密 灰色(5Y6/1)	内釉：オリーブ灰色(10Y5/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y4/2)	反転実測
924	1229	223	E16	5	瀬戸	Ⅲ		(6.4)		外面底部　重ね焼の痕？		砂味を帯びている 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(10Y8/2) 外釉：灰白色(10Y8/2)	反転実測
925	1230	223	北溝		瀬戸	Ⅲ(折縁Ⅲ)						密　やや砂味を帯びている 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/2) 外釉：灰白色(7.5Y7/2)	風化著しく釉の剥がれ激しい
926	1228	223	D16	4	瓦質土器？	火鉢		※(10.0)		花文のスタンプ？		径1㎜前後の長石石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測 ※高台がない為現状の底部
927	1004	223	C17 南溝		肥前系唐津	Ⅲ	(12.2)	4.5	3.5	高台裏部　放射状の削り痕あり	灰：回転ナデ 外：回転ナデ砂目	密 灰色(7.5Y6/1)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外胎：鈍い赤褐色(2.5YR5/3)	一部反転実測

第111表　ＩＤ区金属器観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	寸法(cm) 長さ	幅	厚さ	形態・文様の特徴	備考
928	F3	156中	D15	4	小刀・小柄	(15.0)	1.4	(0.35)		
929	F5	156中	D16	5	−	(5.95)	(3.25)	(0.5)		赤色・青色部分あり
930	F8	156中	E15	5	釘？	(7.6)	(1.55)	(0.8)		
931	F6	156中	E15	5	釘？	(7.5)	(1.55)	(0.85)		
932	F7	156中	D16	5	−	(6.0)	(3.1)	(0.4)		
933	F4	156中	D14	4	−	(10.6)	(2.7)	(1.1)	幅1.2cm位の板状の湾曲した鉄が2〜3枚重なっている	赤色・青色部分あり
934	F1	156中	E15	4	−	(5.7)	(1.7)	(0.9)		赤色部分あり
935	F2	156中	南溝		煙管	5.9	1.0	0.05		口径1.4×1.35
936	F10	156中	KR003		和鏡			0.5		口径5.4×5.4
937	F11	156中	排土		(金杯)	−	−	0.2	端部に沿い、0.5cm四方の文字(6文字)を確認	

第112表　ＩＤ区古銭観察表

挿図番号	古銭番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	名称	寸法(cm) a	b	c	d	e	f	厚さ	重量(g)	初鋳年代	備考
938	C12	157上	E13	5	至道元寶	2.46	2.44	2	1.97	0.65	0.65	0.11	2.31	(北宋)995	
939	C13	157上	E13	5	元豊通寶	2.46	2.47	1.95	1.94	0.67	0.67	0.12	3.58	(北宋)1078	篆書
940	C14	157上	E13	5	洪武通寶	1.98	(1.99)	1.75	−	0.60	0.60	0.10	1.06	(明)1368	
941	C15	157上	E13	5	永楽通寶	2.48	2.48	2.16	2.19	0.56	0.56	0.14	3.21	(明)1408	
942	C08	157上	E13	5	大觀通寶	2.40	2.40	2.14	2.17	0.62	0.61	0.13	2.84	(北宋)1107	
943	C10	157上	E14	5	淳熙元寶	2.35	(2.34)	1.94	−	0.60	0.62	0.15	2.82	(南宋)1174	真書、背十一
944	C07	157上	E13	4	永楽通寶	2.46	2.47	2.2	2.16	0.62	0.62	0.18	2.61	(明)1408	
945	C16	157上	E13	5	元豊通寶	2.38	2.39	1.95	1.94	0.73	0.73	0.14	2.60	(北宋)1078	
946	C01	157上	表土掘削		○○○寶	2.40	2.40	2.00	2.00	0.72	0.71	0.17	2.01		
947	C02	157上	表土掘削			2.51	2.48	2.04	2.08	0.77	0.77	0.17	2.30		風化著しい
948	C03	157上	F14	4	元豊通寶	2.43	2.40	1.98	2.00	0.68	0.69	0.12	3.00	(北宋)1078	行書
949	C06	157上	D14	4	太平通寶	2.43	2.43	1.90	1.94	0.60	0.62	0.11	1.88	(北宋)976	
950	C05	157上	C14	4	洪武通寶	2.00	1.94	1.77	1.84	0.69	0.70	0.07	1.22	(明)1368	
951	C17	157上	D15	5	開元通寶	2.29	2.24	2.00	1.93	0.71	0.73	0.11	1.71	(唐)621、845 (南唐)960	上月
952	C09	157上	D14	5	淳熙元寶	2.41	2.40	1.85	1.84	0.69	0.67	0.15	3.05	(南宋)1174	真書、背捌？
953	C04	157上	排土		元豊通寶	2.38	2.40	1.98	1.98	0.71	0.70	0.13	3.25	(北宋)1078	行書
954	C09	157上	排土		元豊通寶	2.40	2.36	0.95	1.99	0.72	0.70	0.14	2.93	(北宋)1078	行書
955	C11	157上	E14			−	−	−	−	−	−	0.10	0.36		

第113表　ＩＤ区木製品観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
956	W66	141上	D16	5	露卯下駄	21.5 (台部)	7.7 (台部)		2.6		
957	W61	141上	北溝		連歯下駄	(17.0) (台部)	(6.6) (台部)		2.0		
958	W62	141上	D17	4	露卯下駄	(12.1) (台部)	(3.8) (台部)		(2.1)		
959	W50	158上	F13	4	馬形木製品？	10.2	1.3		3.6		
960	W55	158上	D16	5	火きり臼？	(8.8)	2.4	0.9			
961	W64	158上	C15	4	火きり臼	(16.6)	3.4	1.3			転用材？
962	W58	158上	C16	5	曲物？	19.5	(2.4)	0.5			
963	W49	158上	D17	5	曲物	(18.1)	(8.1)	0.6			
964	W51	158上	D16	5	曲物	(14.0)	(3.6)	0.7			
965	W56	158上	D16	5	火きり臼	(9.9)	4.0	0.5			片面：刃物等による切痕が無数有る
966	W59	158中	土坑20		火きり臼	(27.0)	(3.)	0.3			
967	W32	158中			杭	(27.2)	4.2 (最大)	(4.0) (最大)			
968	W53	158中	D16	5	－	(10.9)	5.2	3.2			
969	W54	158中	D16	5	－	(7.8)	7.1	1.6			
970	W57	158中	C16	5	－	(10.2)	2.2	0.4			
971	W63	158中	C15	4	－	(10.5)	2.7 (最大)	1.2 (最大)			
972	W60	158中	土坑20		－	(15.1)	2.8 (最大)	2.2 (最大)			
973	W52	158中	D16	5	杭	(10.3)	3.5 (最大)	2.1 (最大)			
974	W67	158下			椀	(13.6) (口径)			4.2		土坑21出土？ 内面底部：有機物付着
975	W75	158中	P253		箸状木製品	(5.6)	0.6	0.3			
976	W74	158中	P253		并状木製品	(9.7)	1.3 (最大)	0.3 (最大)			
977	W65	158中	P009 (建物29)			直径7.3		0.9			

第114表　ＩＤ区石製品観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
978	1256	157下			砥石	14.2	8.08	3.41	631.08	4面使用
979	1254	157下	－		不明	17.5	7.0	6.2	1349.51	打痕
980	1255	157下	D14	5	砥石	7.81	4.15	4.05	181.92	4面使用
981	1253	157下	F14	5	石斧	15.3	5.96	3.25	605.91	打痕　先端　摩滅により平坦になっている

（6）小　　結

本調査区では、①近世初めと考えられる遺構・遺物、②中世前半から後半にかけての遺構・遺物を検出した。中でも遺構・遺物の種類及び量的にも中心は②である。

②の遺物は多種多様に至っており、輸入陶磁を初め国産陶器等、他地域から持ち込まれたものやまた中世須恵器など産地等がはっきり分からないものなど様々である。

註

（1）土師質土器

広江耕史　「島根県における中世土器について」『松江考古』第8号　松江考古談話会　1992

島根県教育委員会　『古志本郷遺跡Ⅰ』1999

島根県教育委員会　『蔵小路西遺跡』1999

（2）陶磁器・中世須恵器

太宰府教育委員会　『太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』　2000

中世土器検討会　概説　『中世の土器・陶磁器』　真陽社　1997

上田秀夫　「14～16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁器研究№2』

山陰中世土器検討会『中世須恵器の生産と流通　－山陰地方を中心に－』2003

※白磁の編年は、基本的には『太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』の山本信夫氏の編年を参考にし、山本氏の編年より新しい部分は『中世の土器・陶磁器』の森田勉氏の編年を参考にした。

青磁についても、基本的には『太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』の山本信夫氏の編年を参考にし、山本氏の編年より新しい部分は「14～16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁器研究№2』の上田秀夫氏の編年を参考にした。

備前、古瀬戸の編年は、『中世の土器・陶磁器』を参考にした。

（3）金属器

広島県草戸千軒遺跡調査研究所編『草戸千軒遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅴ』1993～1996

（4）木製品

奈良国立文化財研究所「木器集成図録　近畿古代編」1984

広島県草戸千軒遺跡調査研究所編『草戸千軒遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅴ』1993～1996

（5）石製品

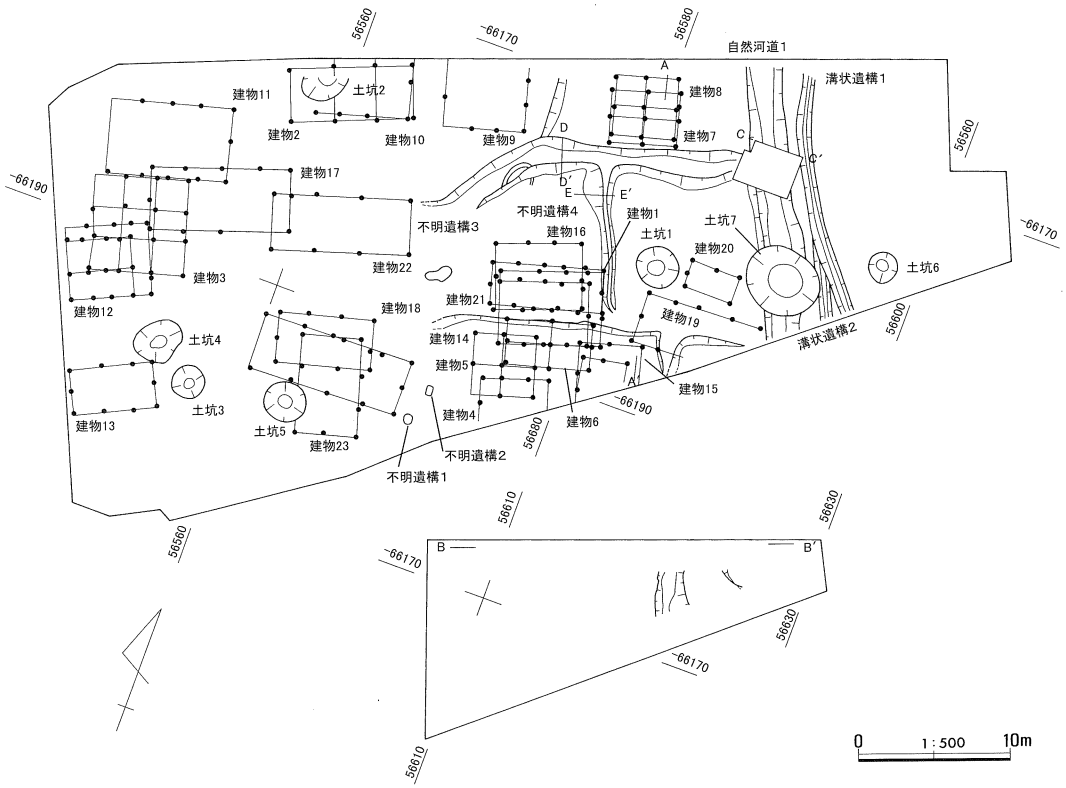
石器の分類については埋蔵文化財調査センター柳浦俊一の指導を得た。

第４章　Ⅱ区の調査

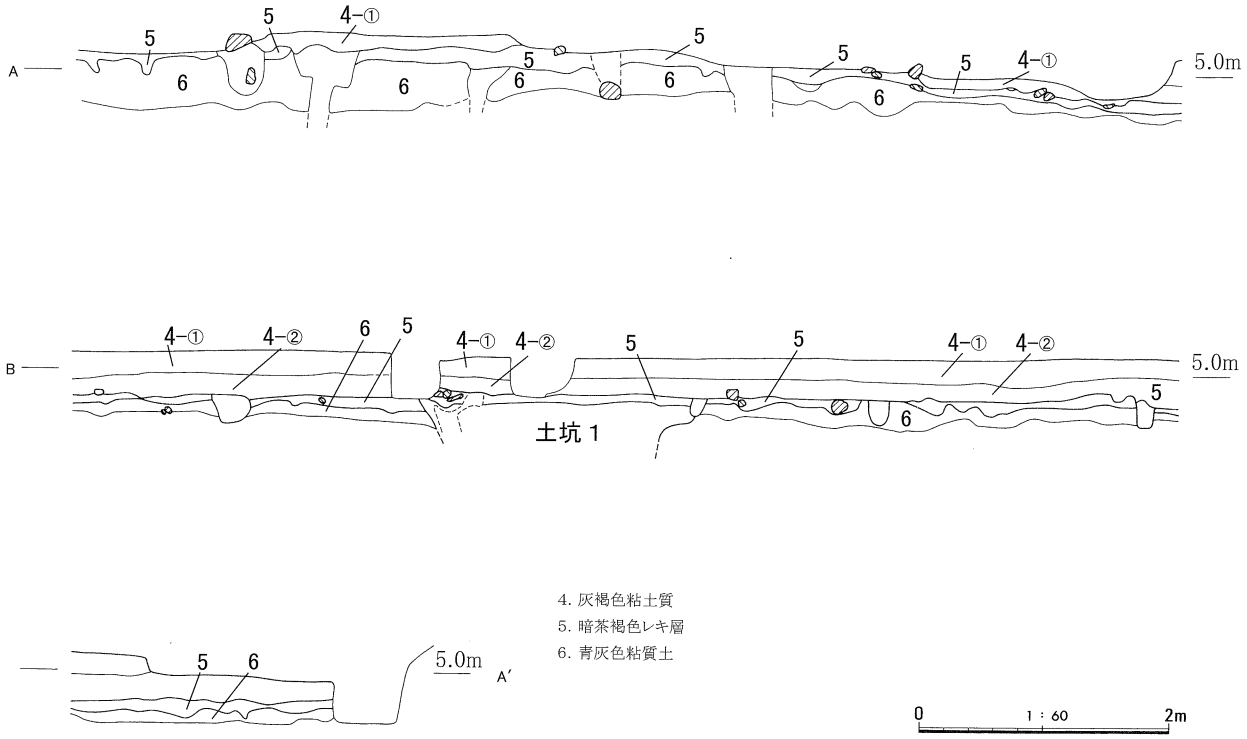
（１）調査の経過

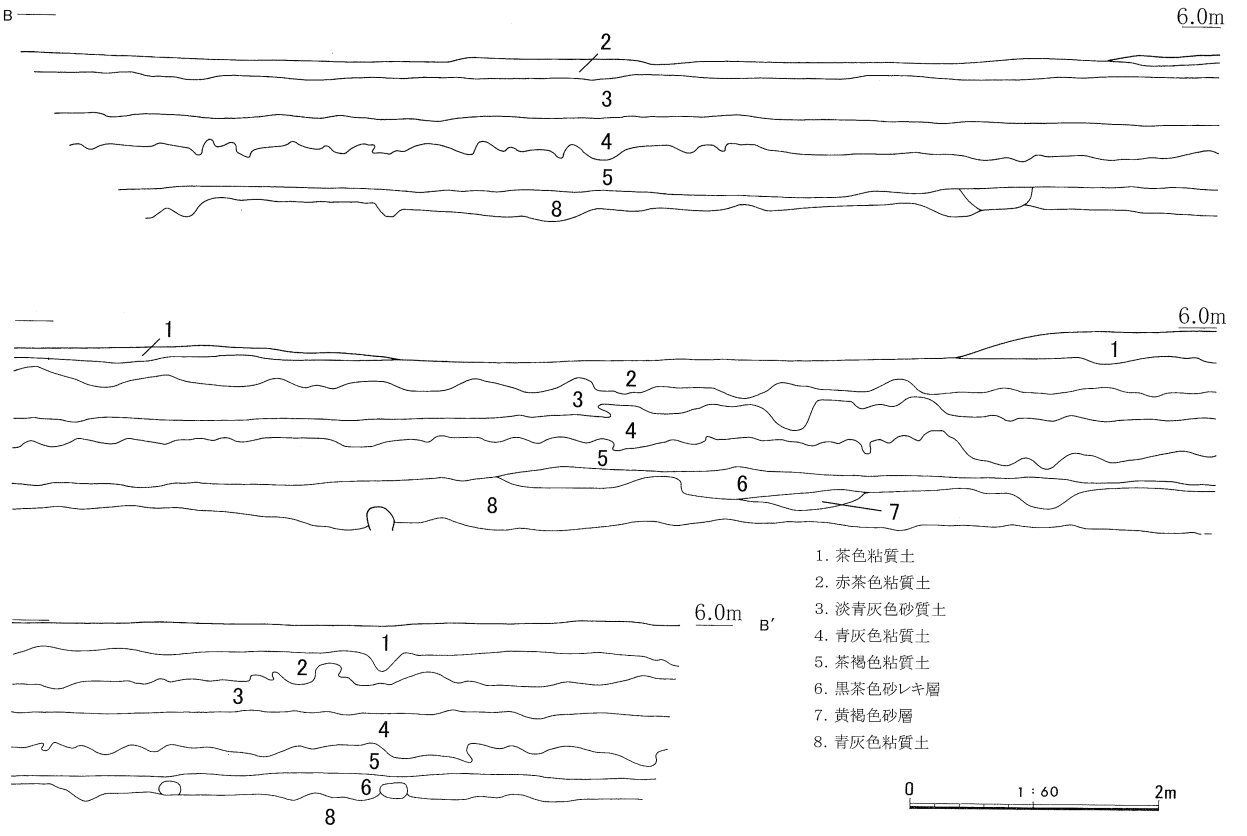
平成13年５月に、Ⅱ区の調査に着手した。標高約5.8ｍで、調査前は耕作地であった。ⅡＡ区の東半分から入り、８月に標高約5.2ｍの近世初めの遺構面（第１遺構面）を検出・調査し、土坑１、溝状遺構１、石列２、加工段等を確認した。また９月に標高約5.0ｍの中世前半以降の遺構面（第２遺構面）を検出調査し、掘立柱建物に伴う柱穴約900、土坑２、不明遺構２等を確認した。また柱穴からは約130の柱根も確認した。また調査区中央には調査区北から南へと自然河道を確認した。11月にⅡＡ区東の調査を終了し、ⅡＡ区西及びⅡＢ区の調査に入り、ⅡＡ区は12月に第２遺構面の検出・調査を行い、掘立柱建物に伴う柱穴約900、土坑４、不明遺構２等を確認した。また柱穴からは約20の柱根も確認した。ⅡＢ区では柱穴37等を確認した。平成13年12月25日に調査を終了した。

Ⅱ区の基本層序は第160図のとおりである。第160図上はⅡＡ区東より部分の南北土層図で、４層は近世初めの遺物包含層で、第５層は中世前半から後半にかけての遺物包含層である。第６層は基本的には密度の細かい粘質土層である。第160図下はⅡＢ区北壁の土層図で遺構面は第８層上面である。

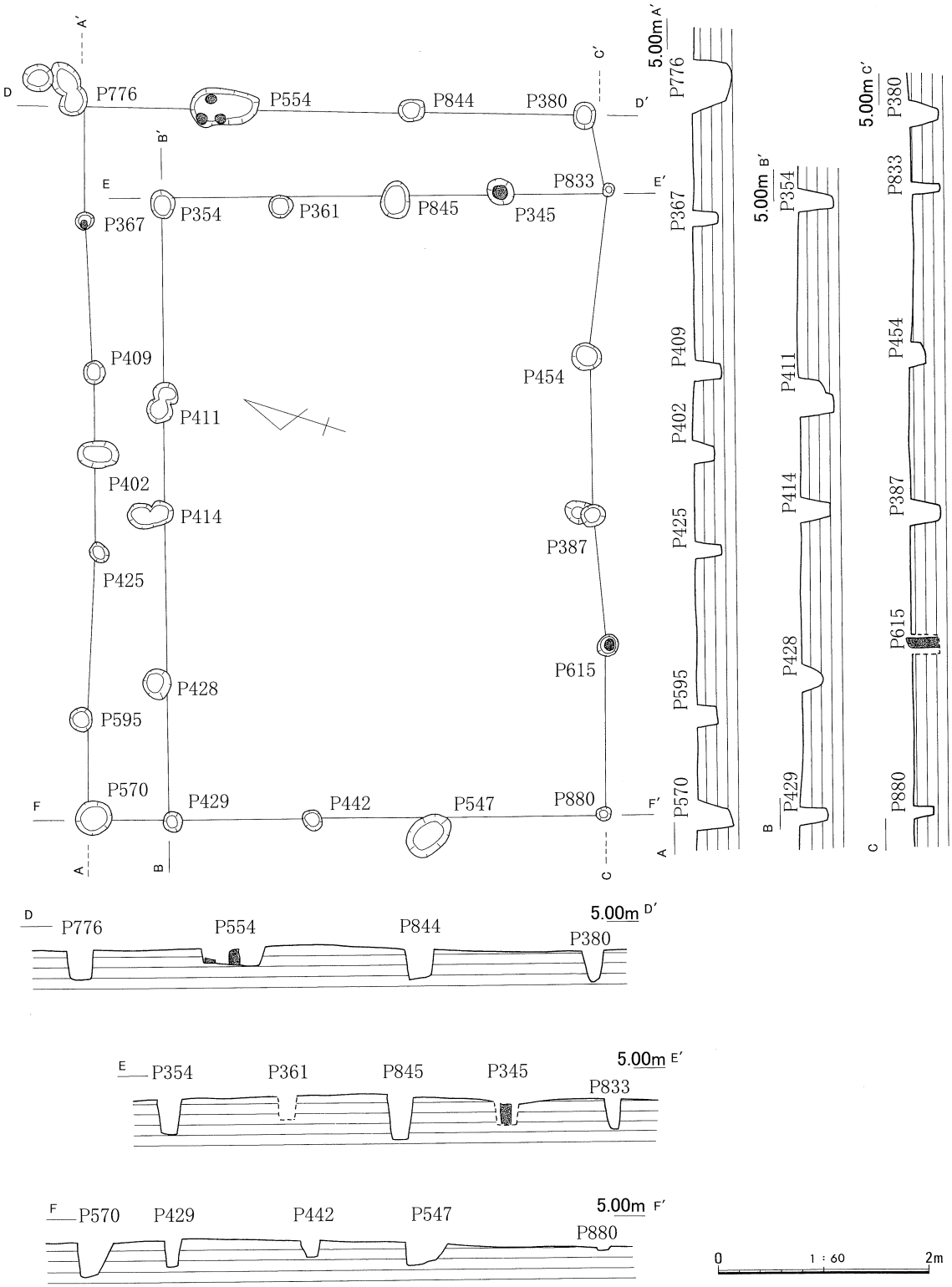


第159図　Ⅱ区遺構配置図（Ｓ＝1/500）





第160図　Ⅱ区土層図（S＝1/60）



第161図　Ⅱ区建物１（S＝1/60）

（２）第２遺構面の遺構と遺物

掘立柱建物１（第161図）

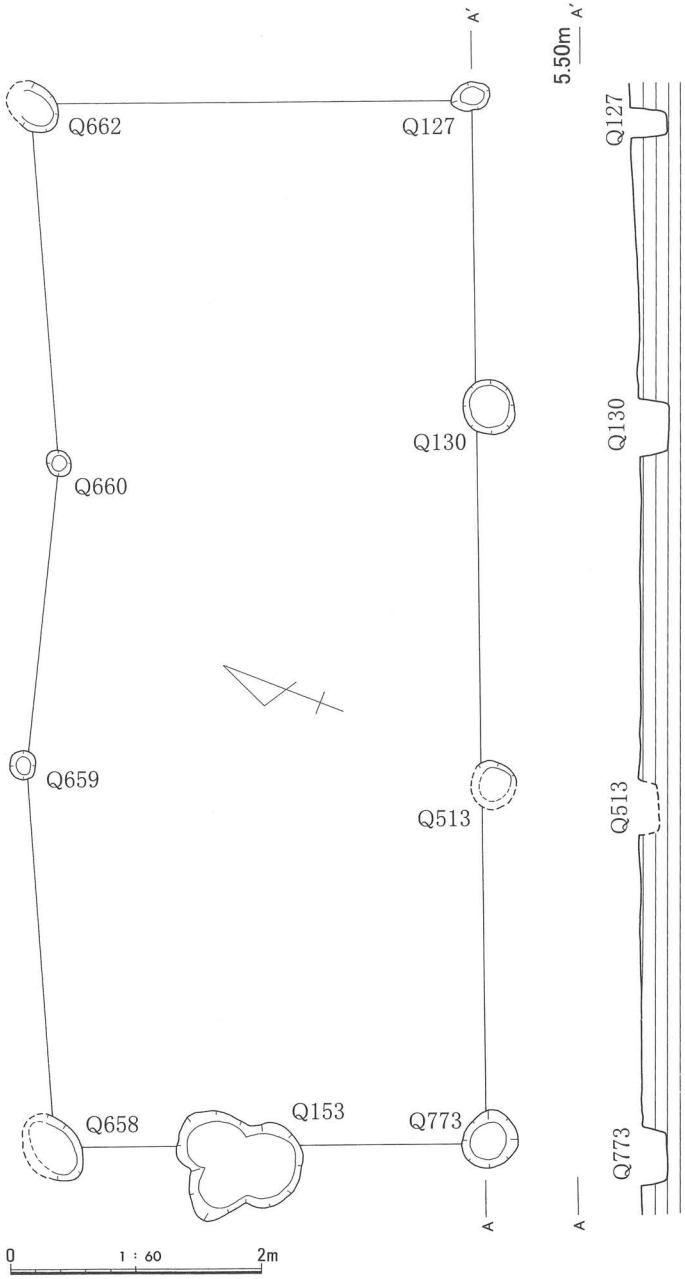
調査区の中央南側に位置する。桁行き６間（6.78m）、梁行き４間（4.88m）である。

第115表　青木遺跡　建物1　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			(4) 間					(6) 間				
主軸			N−18° −W									
穴	番号		P570	P429	P442	P547	P880	P615	P387	P454	P833	P380
	平面規模(cm)		35×33	20×20	22×18	46×32	14×13	20×20	38×20	28×25	13×10	26×20
	標高(m)	上面	4.78	4.79	4.79	4.76	4.73	4.74	4.72	4.73	4.90	4.72
		下面	4.44	4.54	4.63	4.54	4.53	−	4.44	4.57	4.62	4.43
	番号		P844	P554	P776	P367	P409	P402	P425	P595	P428	P414
	平面規模(cm)		25×20	64×36	53×28	18×16	22×20	39×26	20×16	23×21	28×28	44×23
	標高(m)	上面	4.76	4.79	4.78	4.78	4.78	4.79	4.79	4.78	4.78	4.78
		下面	4.46	4.60	4.53	4.53	4.52	4.60	4.53	4.58	4.58	4.48
	番号		P411	P354	P361	P845	P345					
	平面規模(cm)		40×23	26×23	22×21	36×26	26×24					
	標高(m)	上面	4.78	4.78	4.76	4.78	4.70					
		下面	4.45	4.44	−	4.33	−					
柱間距離(cm)			P570−P429	P429−P442	P442−P547	P547−P880	P880−P615	P615−P387	P387−P454	P454−P833	P833−P380	P380−P844
			76	134	116	162	160	124	152	158	72	168
			P844−P544	P544−P776	P776−P367	P367−P409	P409−P402	P402−P425	P425−P595	P595−P570	P429−P428	P428−P414
			182	126	110	140	78	93	161	96	131	162
			P414−P411	P411−P354	P354−P361	P361−P845	P845−P345	P345−P833	−	−	−	−
			104	196	113	107	99	98				
柱痕	番号		柱615	柱554 a	柱554 b	柱554 c						
	規模(cm)	長	28									
		幅	11									

第116表　青木遺跡　建物3　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			3 間					3 間				
主軸			N−11° −W									
穴	番号		Q041	Q048	Q059	Q714	Q668	Q999	Q794	Q798	Q192	Q198
	平面規模(cm)		26×24	47×43	17×15	33×21	30×26	24×24	43×26	28×27	23×20	20×19
	標高(m)	上面	5・14	5.12	5.21	5.07	5.08	5.04	4.93	5.03	5.00	4.96
		下面	4.86	4.50	4.81	4.96	4.87	4.93	4.50	4.70	4.79	−
	番号		Q180	Q690	Q695	Q703	Q326	Q181				
	平面規模(cm)		24×19	26×19	19×17	25×21	42×20	26×26				
	標高(m)	上面	4.99	5.07	5.13	5.10	5.07	4.97				
		下面	4.77	4.83	4.80	4.84	4.87	4.77				
柱間距離(cm)			Q041−Q048	Q048−Q059	Q059−Q714	Q714−Q668	Q668−Q999	Q999−Q794	Q794−Q798	Q798−Q192	Q192−Q198	Q198−Q180
			225	188	220	214	179	231	212	226	191	223
			Q180−Q690	Q690−Q041	Q690−Q695	Q695−Q703	Q703−Q668	Q180−Q181	Q181−Q326	Q326−Q999	Q048−Q695	Q695−Q181
			174	233	211	208	191	160	229	215	196	230
			Q181−Q192	Q059−Q703	Q703−Q326	Q326−Q798	−	−	−	−	−	−
			201	226	182	224						
柱痕	番号		柱999(Q)	柱326(Q)	3	4	5	6	7	8	9	10
	規模(cm)	長	39	−								
		幅	10	−								



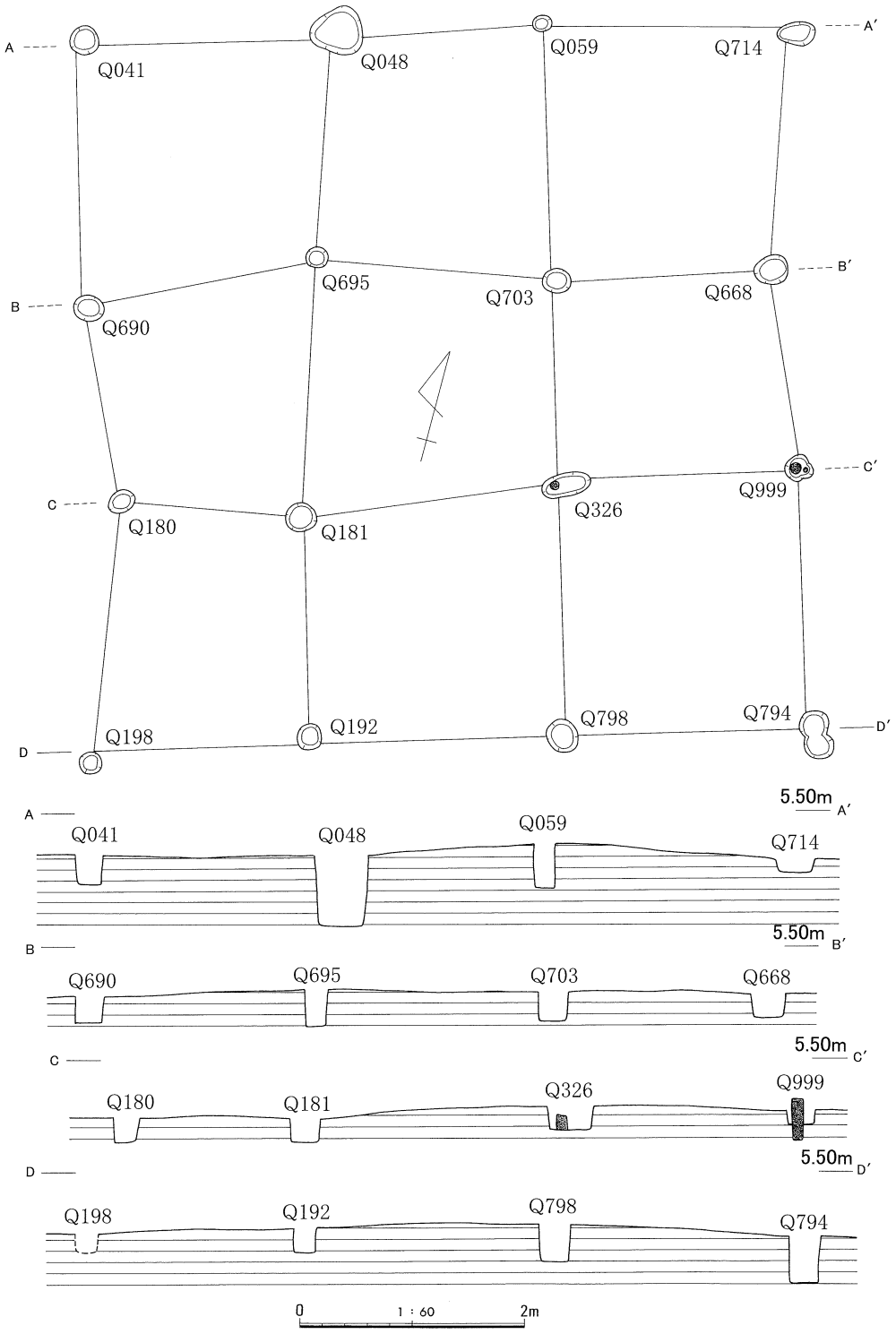
第162図　Ⅱ区建物2（S＝1/60）

第117表　青木遺跡　建物2　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		2　間					3　間				
主軸		N－21°－W									
穴	番号	Q658	Q659	Q660	Q662	Q127	Q130	Q513	Q773	Q153	
	平面規模（cm）	(36)×(40)	23×20	22×19	(42)×(34)	31×23	44×42	(35)×(14)	46×41	100×84	
	標高（m） 上面	5.26	5.40	5.15	5.36	5.11	5.03	5.03	5.00	5.13	
	標高（m） 下面	－	－	－	－	4.82	4.80	－	4.80	－	
柱間距離（cm）		Q658－Q659	Q659－Q660	Q660－Q662	Q662－Q127	Q127－Q130	Q130－Q513	Q513－Q773	Q773－Q153	Q153－Q658	－
		302	242	284	349	242	301	233	197	144	

掘立柱建物2（第162図）

調査区の西側北端に位置する。桁行き3間（8.26m）、梁行き2間（3.41m）である。



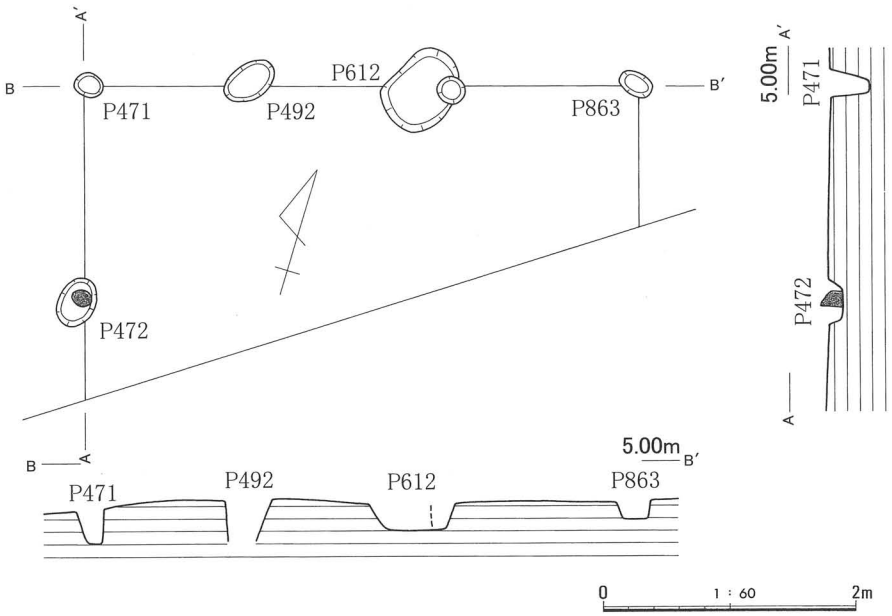
第163図　Ⅱ区建物３（S＝1/60）

掘立柱建物３（第163図）

調査区の西端中央に位置する。桁行き３間（6.32m）、梁行き３間（6.29m）である。

掘立柱建物４（第164図）

調査区の中央南端に位置する。現状で桁行き３間（4.37m）、梁行き１間（1.69m）を確認している。



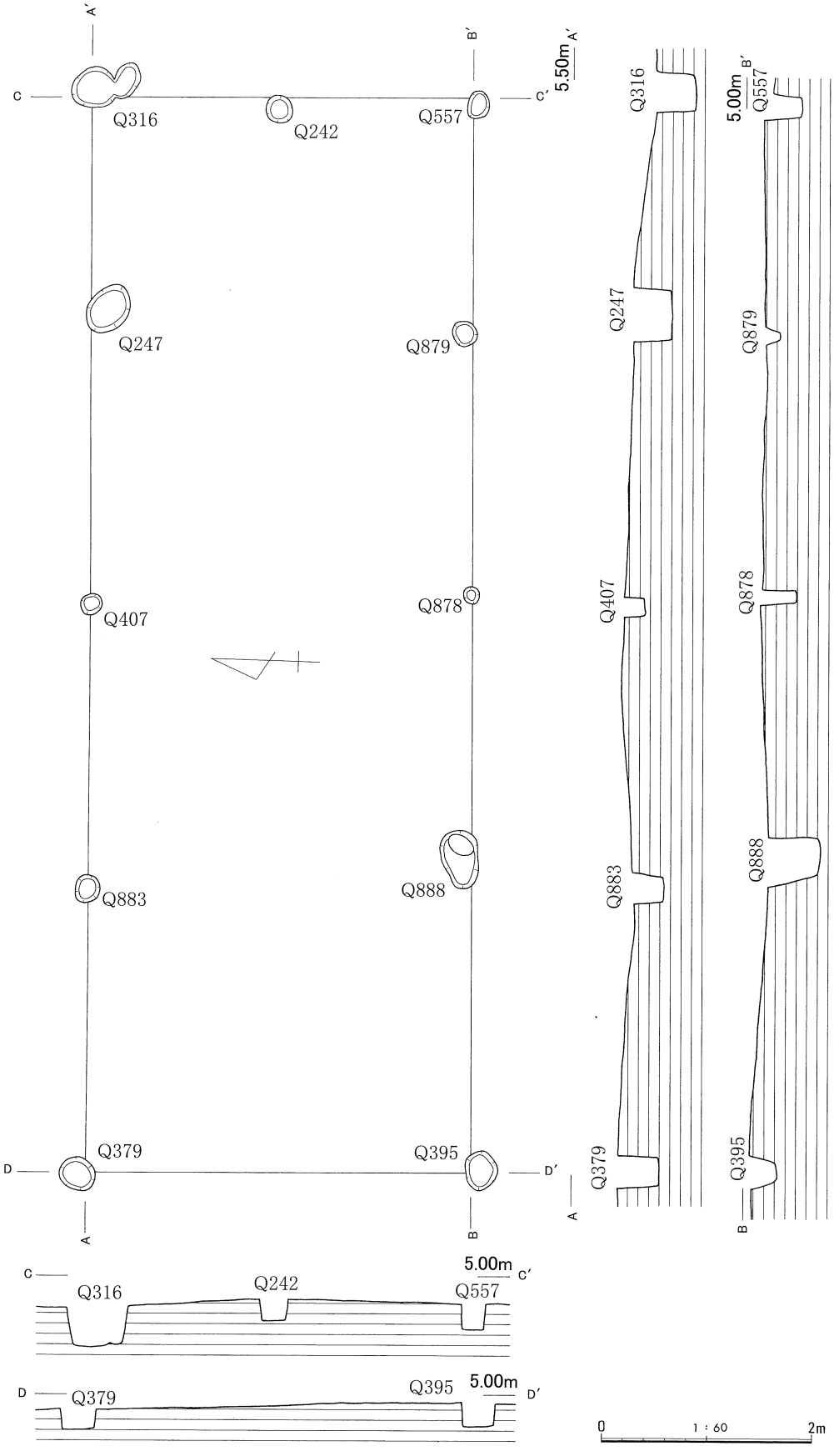
第164図　Ⅱ区建物4（S＝1/60）

第118表　青木遺跡　建物4　計測表

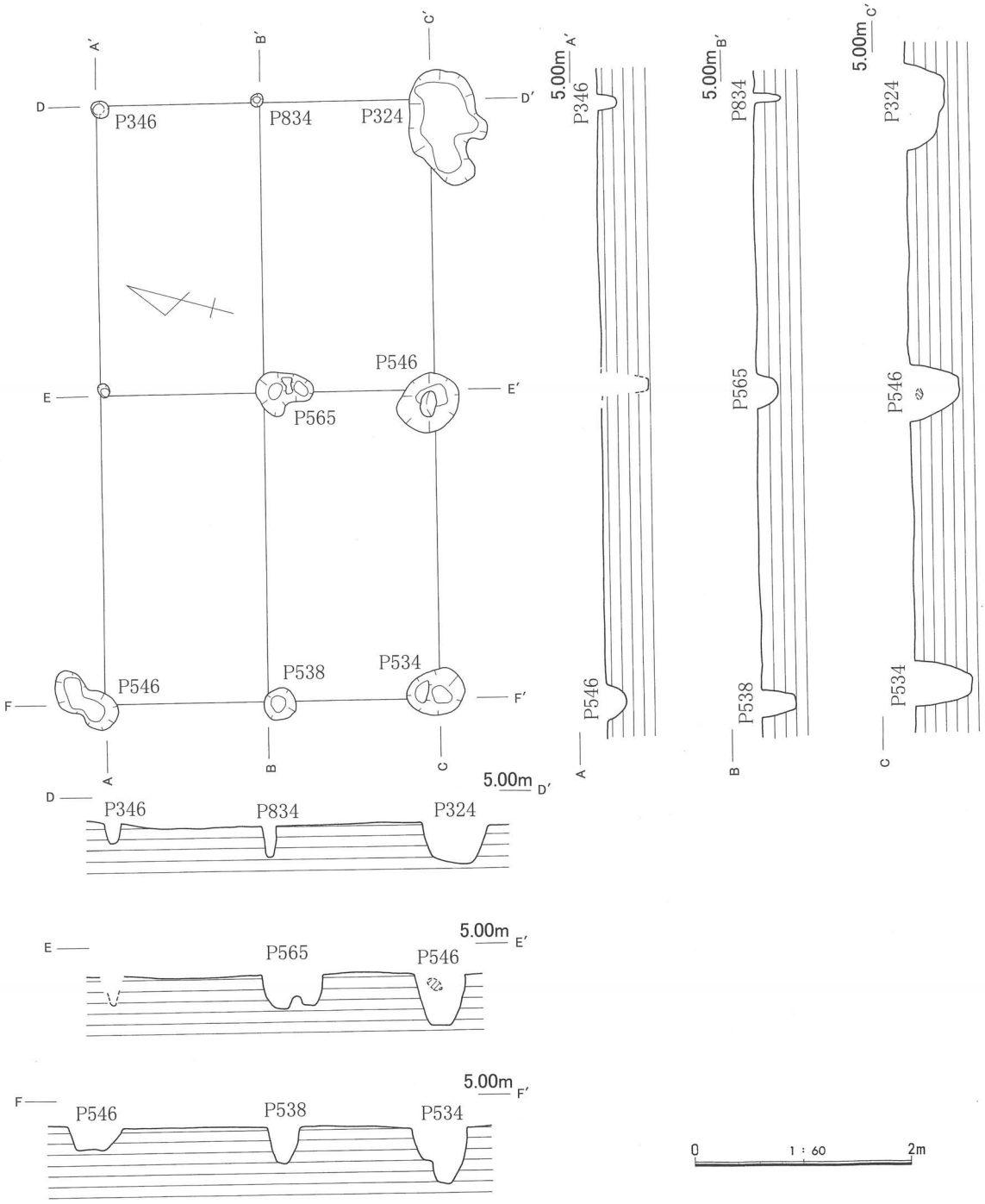
規模		梁行き					桁行き				
		(1) 間					3 間				
主軸		N－19° －W									
穴	番号	P472	P471	P492	P612	P863					
	平面規模(cm)	40×27	22×19	44×28	68×49	27×17					
	標高(m) 上面	4.70	4.70	4.71	4.68	4.66					
	標高(m) 下面	4.61	4.59	4.37	4.46	4.52					
柱間距離(cm)		P472－P476	P476－P492	P492－P612	P612－P863	－	－	－	－	－	－
		169	131	158	148						
柱痕	番号	柱472(P)	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	規模(cm) 長	24									
	規模(cm) 幅	－									

第119表　青木遺跡　建物5　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		間					間				
主軸		N－2° －W									
穴	番号	Q379	Q883	Q407	Q247	Q316	Q242	Q557	Q879	Q878	Q888
	平面規模(cm)	34×30	26×23	20×18	50×36	68×39	27×25	26×20	24×22	15×14	55×35
	標高(m) 上面	4.86	4.92	5.01	4.93	4.71	4.79	4.74	4.87	4.89	4.88
	標高(m) 下面	4.67	4.67	4.81	4.57	4.34	4.48	4.49	4.68	4.53	4.33
	番号	Q395									
	平面規模(cm)	38×30									
	標高(m) 上面	4.91									
	標高(m) 下面	4.71									
柱間距離(cm)		Q379－Q883	Q883－Q407	Q407－Q247	Q247－Q316	Q316－Q242	Q242－Q557	Q557－Q879	Q879－Q878	Q878－Q888	Q888－Q395
		269	274	276	208	175	188	224	251	248	301
		Q395－Q379	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		261									



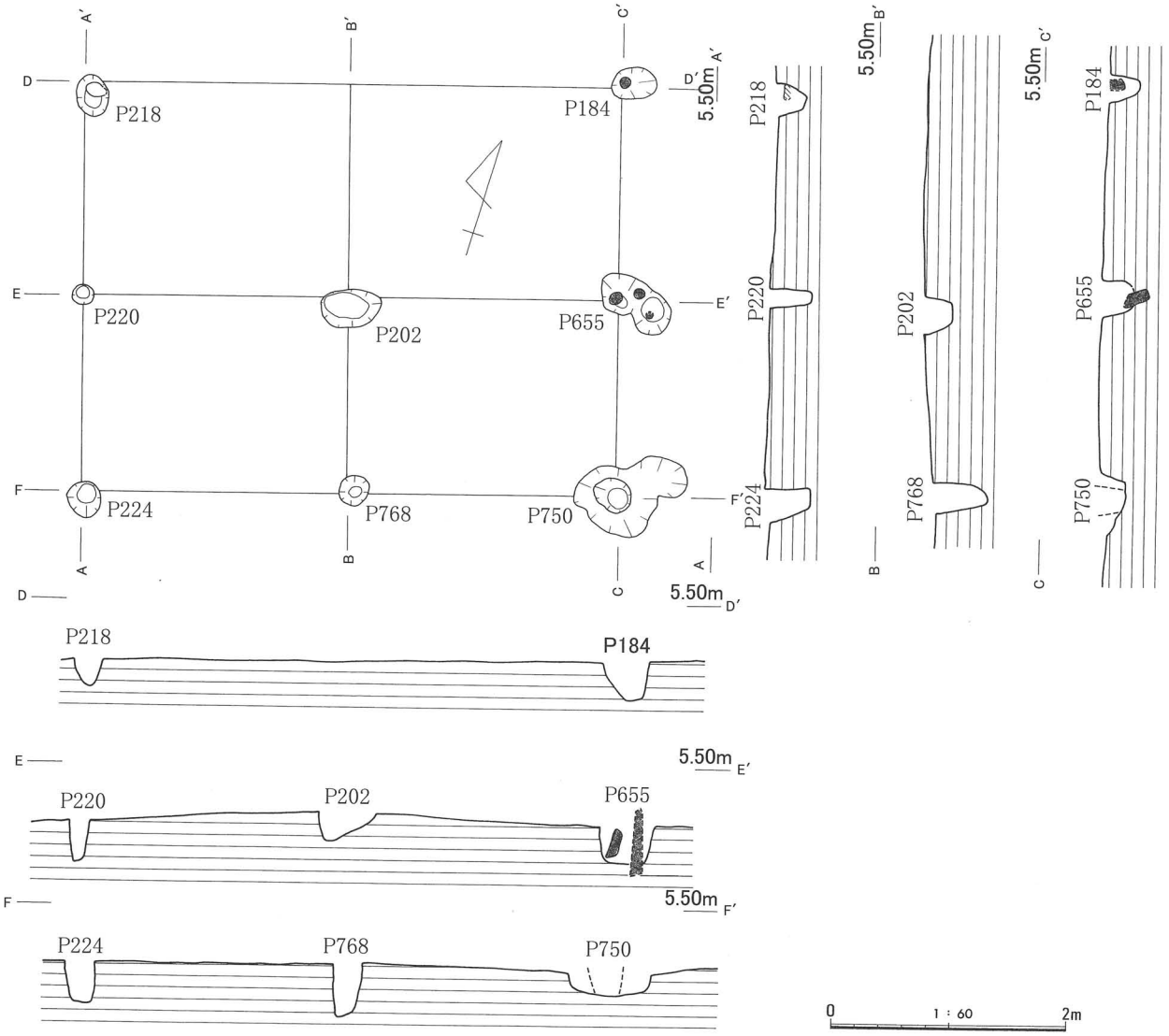
第165図　Ⅱ区建物５（S＝1/60）



第166図　Ⅱ区建物6（S＝1/60）

第120表　青木遺跡　建物6　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		2間					2間				
主軸		N－16°－W									
穴	番号	P546	PYYY	P346	P834	P324	P456	P534	P538	P565	
	平面規模（cm）	68×43	13×10	16×15	12×11	107×73	60×50	54×42	31×29	67×33	
	標高（m） 上面	4.74	4.74	4.74	4.70	4.70	4.70	4.70	4.73	4.72	
	標高（m） 下面	4.56	4.31	4.57	4.45	4.32	4.24	4.16	4.40	4.52	
柱間距離（cm）		P546－PYYY	PYYY－P346	P346－P834	P834－P324	P324－P546	P546－P534	P534－P538	P538－546	P538－P565	P565－P834
		284	268	151	156	266	284	153	155	285	272
		PYYY－565	P565－P546	－	－	－	－	－	－	－	－
		147	157								



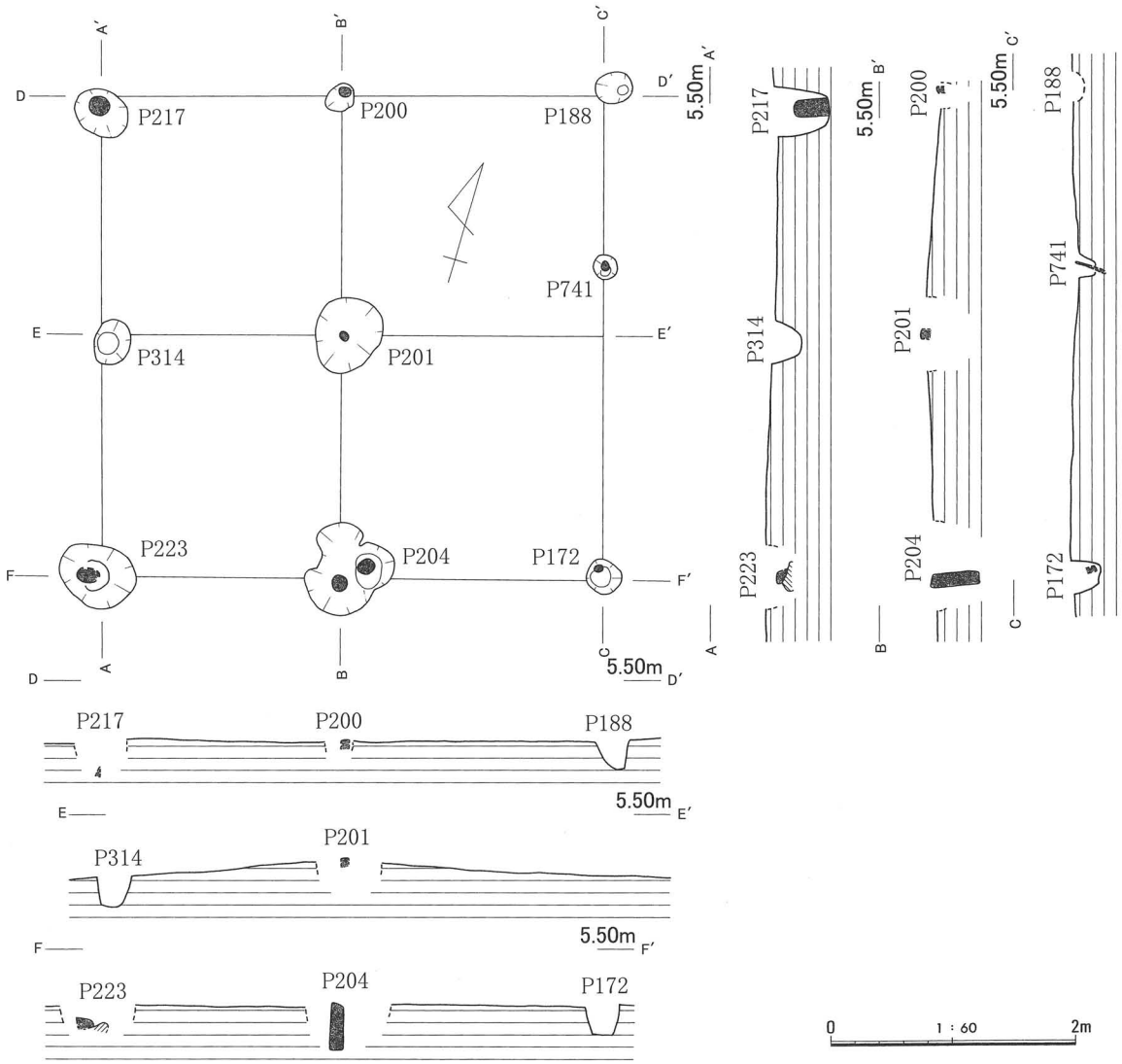
第167図　Ⅱ区建物７（S＝1/60）

第121表　青木遺跡　建物７　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			2　間					2　間				
主軸			N－17°－W									
穴	番号		P218	P184	P655	P750	P768	P224	P220	P202		
	平面規模（cm）		35×26	38×26	68×34	32×26	26×24	30×28	18×18	50×32		
	標高（m）	上面	4.99	5.04	5.03	4.96	5.03	5.02	5.02	5.12		
		下面	4.75	4.71	4.71	4.76	4.56	4.65	4.66	4.86		
柱間距離（cm）			P218－P184	P184－P655	P655－P750	P750－P768	P768－P224	P224－P220	P220－P218	P220－P202	P202－P655	P202－P768
			456	179	168	228	234	171	181	224	231	157
柱痕	番号		柱184(P)	柱655(P)	3	4	5	6	7	8	9	10
	規模（cm）	長	－	24								
		幅	－	11								

掘立柱建物５（第165図）

調査区の西側南よりに位置する。桁行き４間（10.27m）、梁行き２間（3.63m）である。



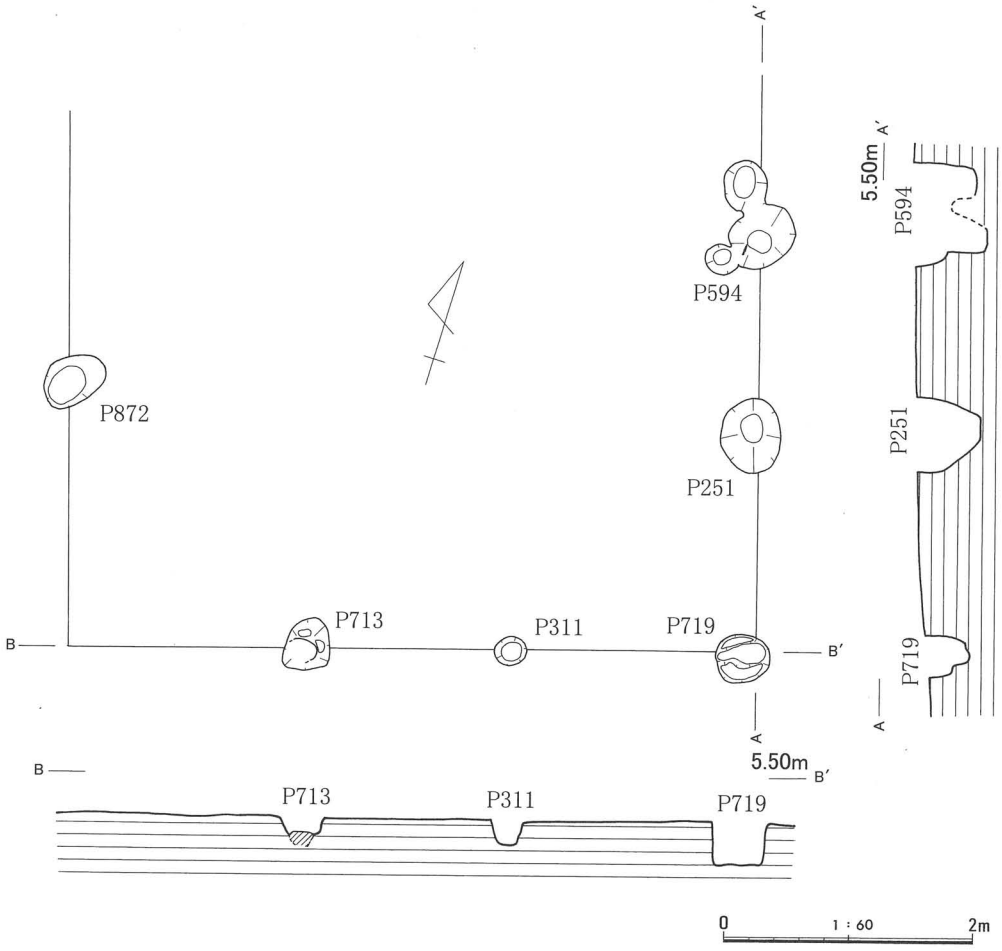
第168図　Ⅱ区建物8（S＝1/60）

第122表　青木遺跡　建物8　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			2間					2間				
主軸			N－16°－W									
穴	番号		P217	P200	P188	P741	P172	P204	P223	P314	P201	
	平面規模（cm）		46×36	26×20	29×24	20×20	29×29	75×74	63×50	37×28	62×56	
	標高（m）	上面	5.02	5.00	5.02	4.97	5.03	5.04	5.04	5.00	5.02	
		下面	－	－	4.78	4.84	4.80	－	－	4.75	－	
柱間距離（cm）			P217－P200	P200－P188	P188－P741	P741－P172	P172－P204	P204－P223	P223－314	P314－P217	P201－P741	
			201	228	145	248	213	208	191	194	193	220
			P200－P201	P201－P204	－	－	－	－	－	－	－	－
			201	203								
柱痕	番号		柱217(P)	柱200(P)	柱741(P)	柱172(P)	柱204(P)	柱223(P)	柱201(P)			
	規模（cm）	長	32	16	28	8	49	20	12			
		幅	17	6	4	5	15	16	11			

掘立柱建物6（第166図）

調査区の中央南よりに位置する。桁行き2間（5.52m）、梁行き2間（3.07m）である。



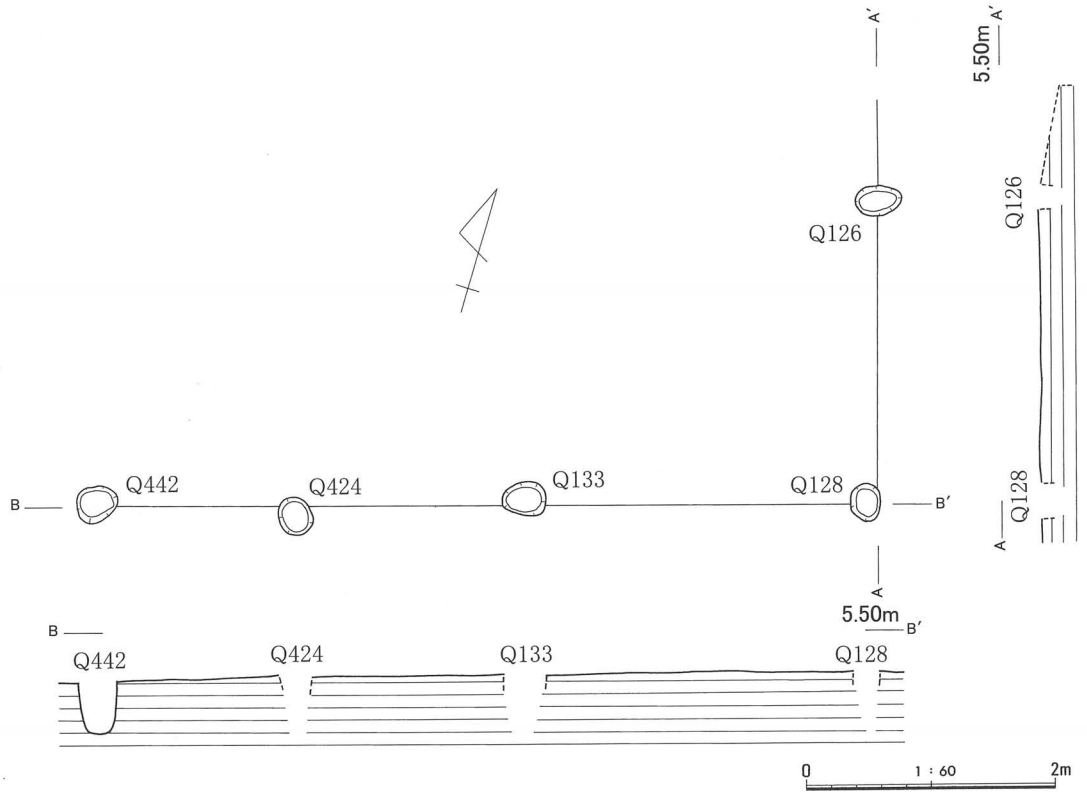
第169図　Ⅱ区建物９（S＝1/60）

第123表　青木遺跡　建物９　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		(2) 間					3 間				
主軸		N−17° −W									
穴	番号	P594	P251	P719	P311	P713	P872				
	平面規模(cm)	(56)×(44)	60×48	42×39	25×23	46×38	54×37				
	標高(m) 上面	5.26	5.21	5.16	5.15	5.17	5.02				
	標高(m) 下面	4.66	4.66	4.78	4.95	(5.04)	4.96				
柱間距離(cm)		P594−P251	P251−P719	P719−P311	P311−P713	−	−	−	−	−	−
		151	182	184	163						

第124表　青木遺跡　建物10　計測表

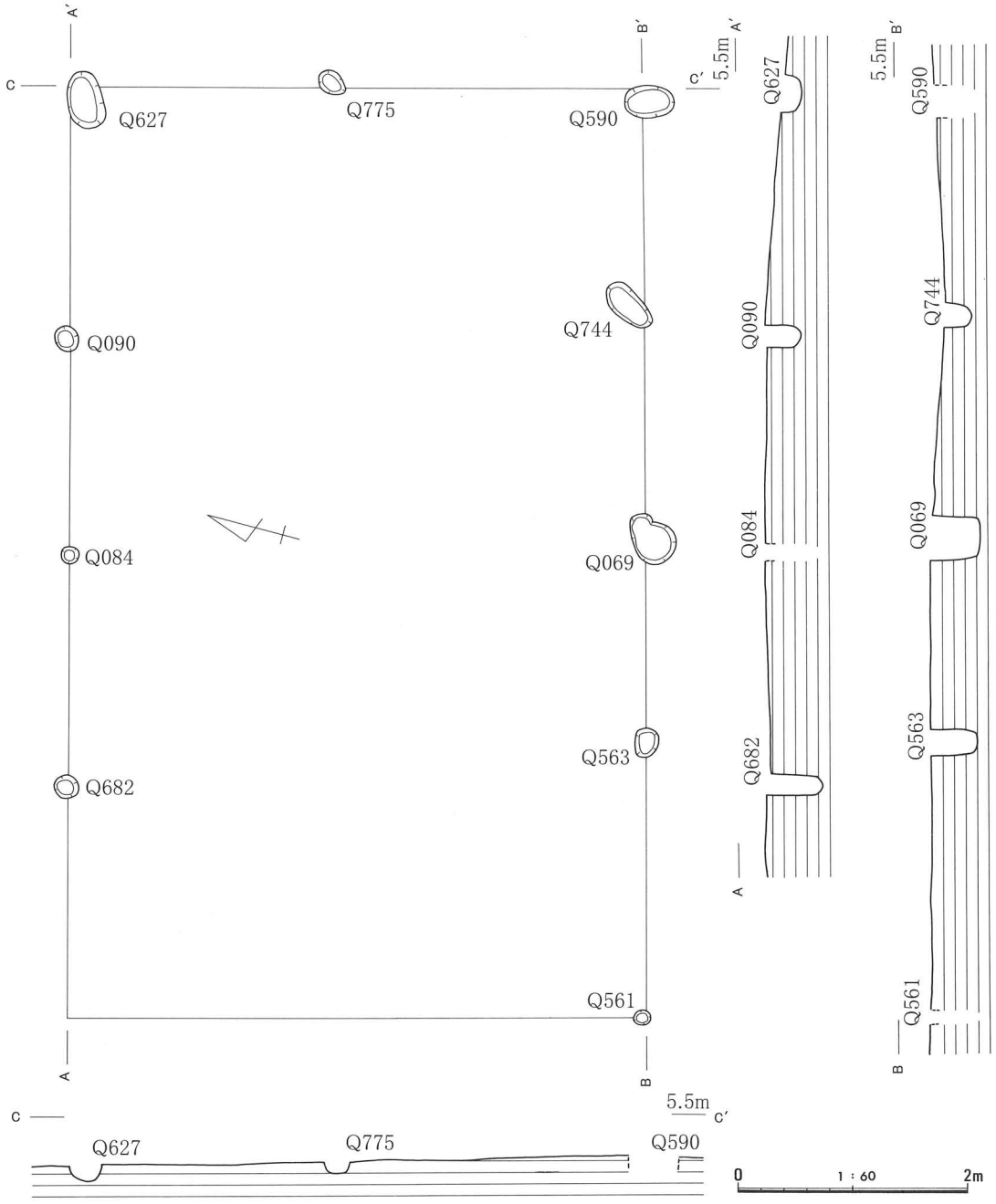
規模		梁行き					桁行き				
		(1) 間					3 間				
主軸		N−16° −W									
穴	番号	P126	P128	P133	P424	P442					
	平面規模(cm)	36×23	30×24	35×26	30×25	32×28					
	標高(m) 上面	5.19	5.18	5.16	5.16	5.10					
	標高(m) 下面	−	−	−	−	4.70					
柱間距離(cm)		Q126−Q128	Q128−Q133	Q133−Q424	Q424−Q442	−	−	−	−	−	−
		241	273	183	159						



第170図　Ⅱ区建物10（S＝1/60）

第125表　青木遺跡　建物12　計測表

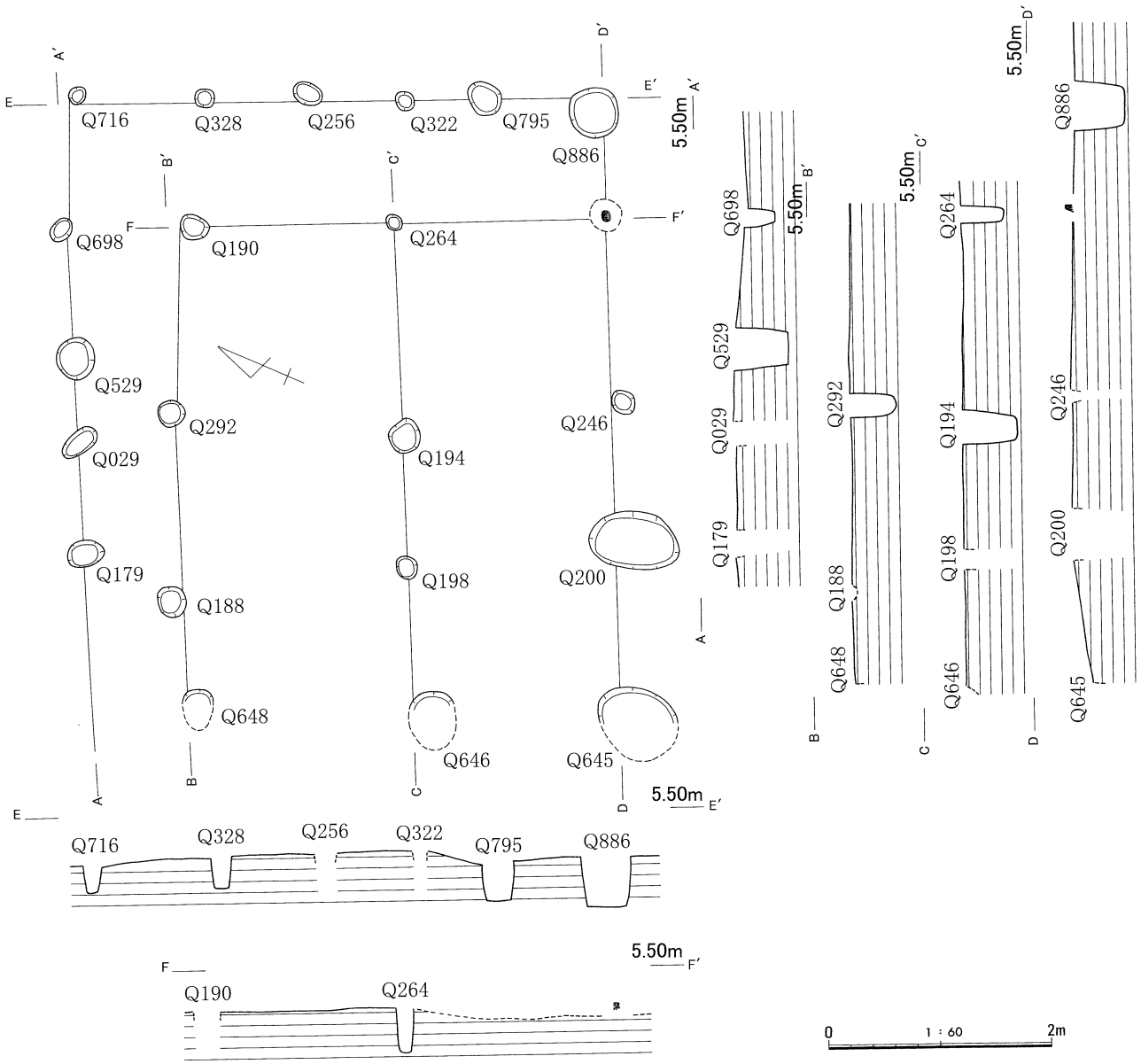
規模		梁行き					桁行き				
		5　間					(4)　間				
主軸		N－20°－W									
穴	番号	Q648	Q188	Q292	Q190	Q264	Q646	Q198	Q194	Q179	Q029
	平面規模(cm)	(14)×(27)	28×25	24×24	26×23	16×14	(16)×(40)	22×19	32×28	33×24	37×19
	標高(m) 上面	5.00	5.01	4.99	5.03	5.02	4.90	4.90	5.00	4.97	4.97
	標高(m) 下面	－	4.79	4.73	－	4.75	－	－	4.65	4.65	－
	番号	Q529	Q698	Q716	Q328	Q256	Q322	Q795	Q886	Q246	Q200
	平面規模(cm)	38×34	24×17	17×14	17×17	28×20	19×16	33×28	46×46	23×20	81×52
	標高(m) 上面	5.10	5.10	5.07	5.04	5.16	5.03	5.03	5.05	5.00	4.90
	標高(m) 下面	4.68	4.78	4.83	4.85	－	－	4.70	4.62	4.72	－
	番号	Q645									
	平面規模(cm)	(36)×(70)									
	標高(m) 上面	4.90									
	標高(m) 下面	－									
柱間距離(cm)		Q648－Q188	Q188－Q292	Q292－Q190	Q190－Q264	Q264－(杭12)	Q646－Q198	Q198－Q194	Q194－Q264	Q179－Q029	Q029－Q529
		101	159	168	178	191	137	116	193	99	76
		Q529－Q698	Q698－Q716	Q716－Q328	Q328－Q256	Q256－Q322	Q322－Q795	Q795－Q886	Q886－(杭12)	(杭12)－246	Q246－Q200
		115	123	114	91	86	72	102	91	167	130
		Q200－Q645	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		162									
柱痕	番号	柱(Q)	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	規模(cm) 長	－									
	規模(cm) 幅	－									



第171図　Ⅱ区建物11（S＝1/60）

第126表　青木遺跡　建物11　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		2間					4間				
主軸		N－15°－W									
穴	番号	Q682	Q084	Q090	Q627	Q775	Q590	Q744	Q069	Q563	Q561
	平面規模（cm）	22×20	16×16	22×20	50×30	27×20	44×27	50×24	47×36	26×20	15×14
	標高（m） 上面	5.10	5.50	5.11	4.99	5.12	5.13	5.14	5.17	5.14	5.00
	標高（m） 下面	4.75	－	4.93	4.91	4.99	－	4.85	4.77	4.77	－
柱間距離（cm）		Q682－Q084	Q084－Q090	Q090－Q627	Q627－Q775	Q775－Q590	Q590－Q744	Q744－Q069	Q069－Q563	Q563－Q561	－
		202	189	210	217	276	182	204	175	237	



第172図　Ⅱ区建物12（S＝1/60）

掘立柱建物７（第167図）

調査区の東側北端に位置する。桁行き２間（4.56m）、梁行き２間（3.52m）である。

掘立柱建物８（第168図）

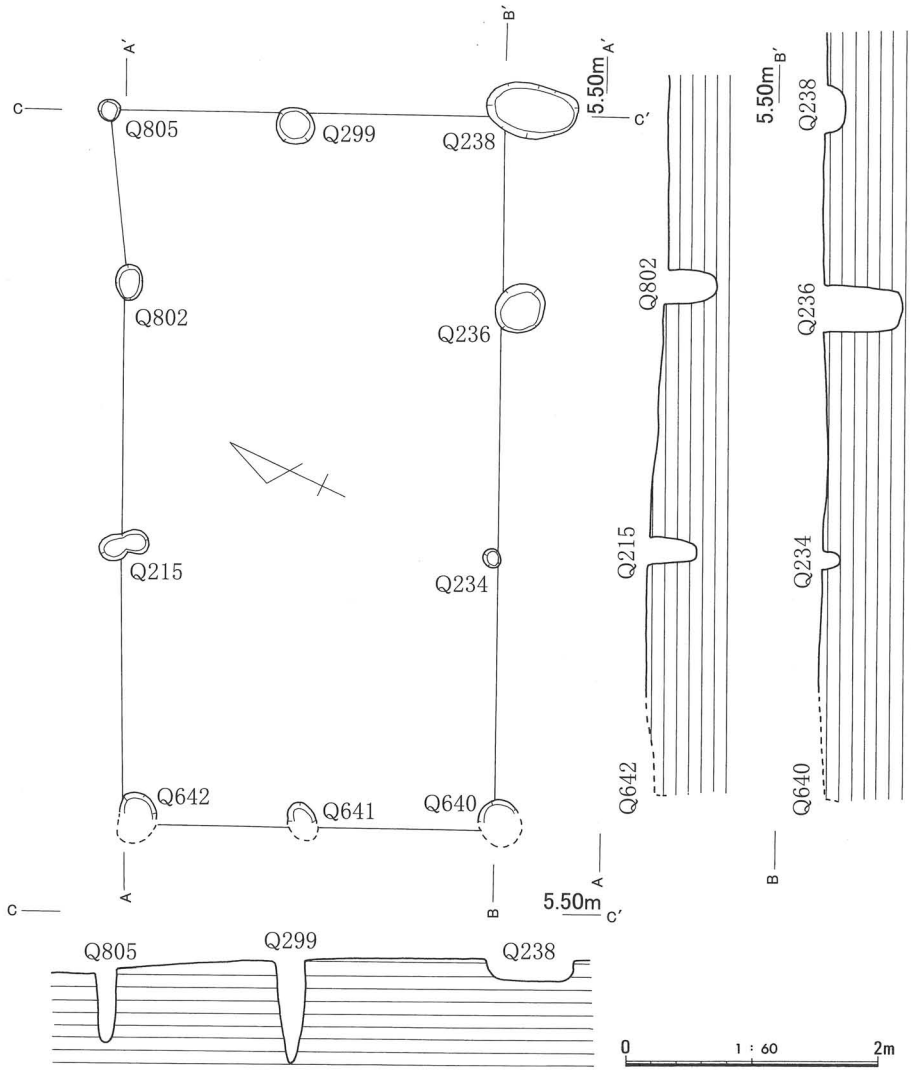
調査区の東側北端に位置する。桁行き２間（4.29m）、梁行き２間（3.85m）である。

掘立柱建物９（第169図）

調査区中央北端に位置する。現状で桁行き３間（5.45m）、梁行き２間（3.33m）である。

掘立柱建物10（第170図）

調査区西側北端に位置する。現状で桁行き３間（6.15m）、梁行き１間（2.41m）である。



第173図　Ⅱ区建物13（S＝1/60）

第127表　青木遺跡　建物13　計測表

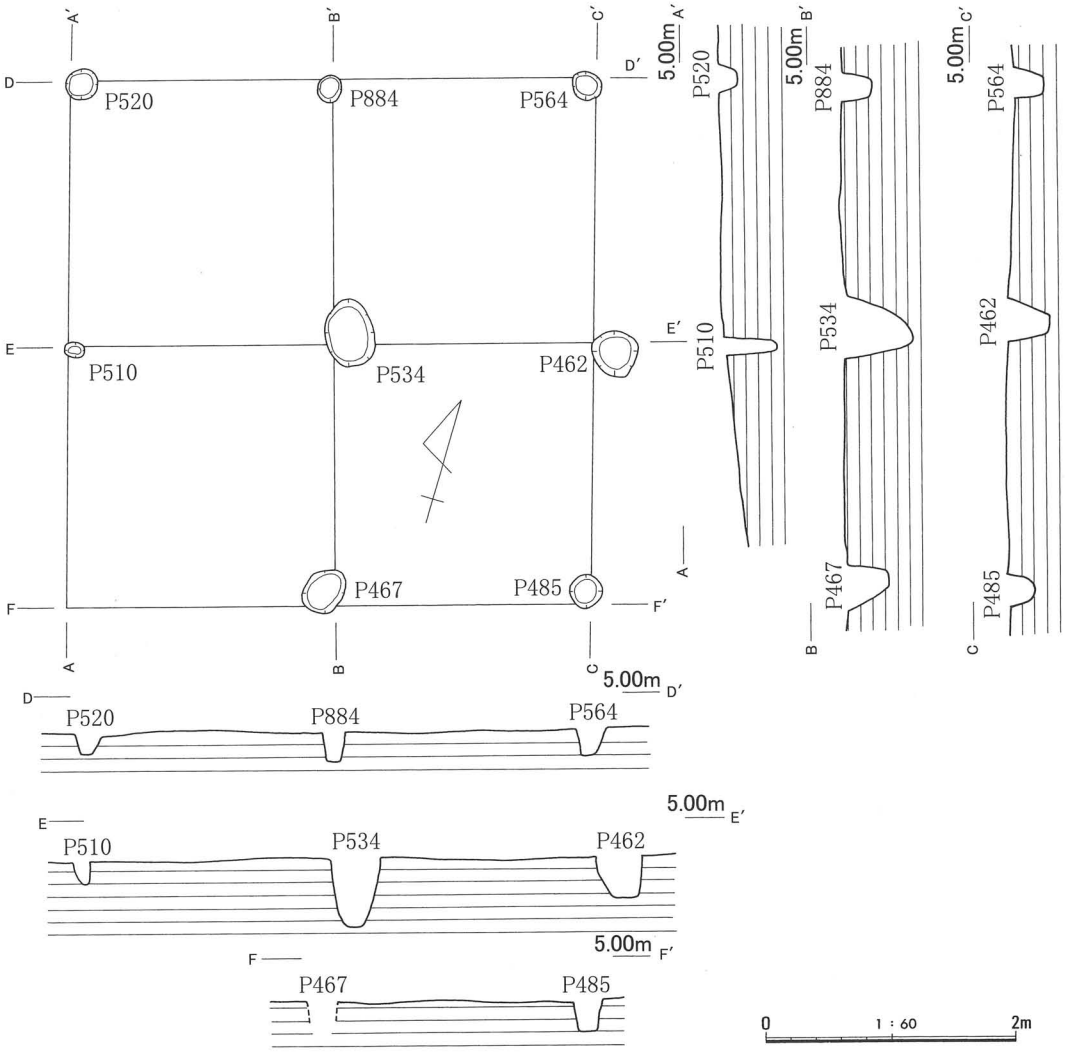
規模		梁行き					桁行き				
		2　間					3　間				
主軸		N－24°－W									
穴	番号	Q642	Q215	Q802	Q805	Q299	Q238	Q236	Q234	Q640	Q641
	平面規模（cm）	(20)×(30)	40×16	28×21	19×17	30×29	74×44	42×38	15×14	(14)×(34)	(16)×(24)
	標高（m） 上面	5.22	5.07	4.87	4.76	4.98	5.16	5.10	4.99	4.90	4.90
	標高（m） 下面	－	4.76	4.61	4.46	4.30	4.98	4.52	4.84	－	－
柱間距離（cm）		Q642－Q215	Q215－Q802	Q802－Q805	Q805－Q299	Q299－Q238	Q238－Q236	Q236－Q234	Q234－Q640	Q640－Q641	Q641－Q642
		218	208	189	147	187	159	201	211	161	131

掘立柱建物11（第171図）

調査区の北西端に位置する。桁行き4間（7.98m）、梁行き2間（4.93m）である。

掘立柱建物12（第172図）

調査区の中央南よりに位置する。桁行き4間（5.50m）、梁行き5間（4.65m）である。



第174図　Ⅱ区建物14（S＝1/60）

第128表　青木遺跡　建物14　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		2間					2間				
主軸		N－16°－W									
穴	番号	P520	P884	P564	P462	P485	P467	P510	P534		
	平面規模（cm）	26×24	22×20	25×21	38×35	26×25	39×29	16×12	54×38		
	標高（m） 上面	4.70	4.74	4.65	4.71	4.74	4.70	4.68	4.72		
	標高（m） 下面	4.55	4.49	4.40	4.38	4.50	4.38	4.25	4.18		
柱間距離（cm）		P520－P884	P884－P564	P564－P462	P462－P485	P485－P467	P510－P520	P510－P534	P534－P462	P884－P534	P534－P467
		197	206	214	191	211	210	219	215	196	205

掘立柱建物13（第173図）

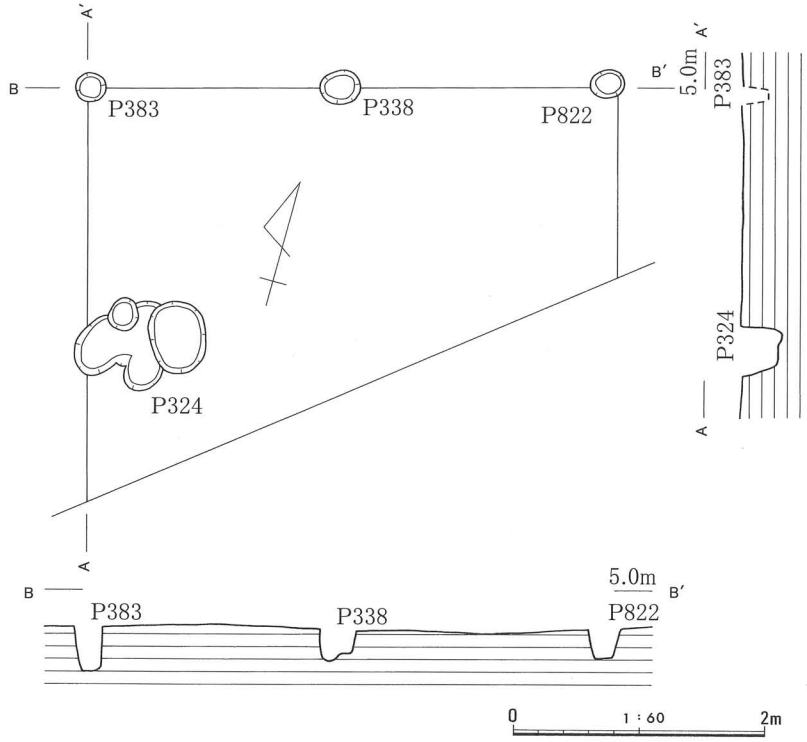
調査区の西端南よりに位置する。桁行き3間（5.71m）、梁行き2間（2.92m）である。

掘立柱建物14（第174図）

調査区の中央南端に位置する。桁行き2間（4.05m）、梁行き2間（4.03m）である。

掘立柱建物15（第175図）

調査区の中央南端に位置する。桁行き2間（4.11m）、梁行き1間（2.07m）である。



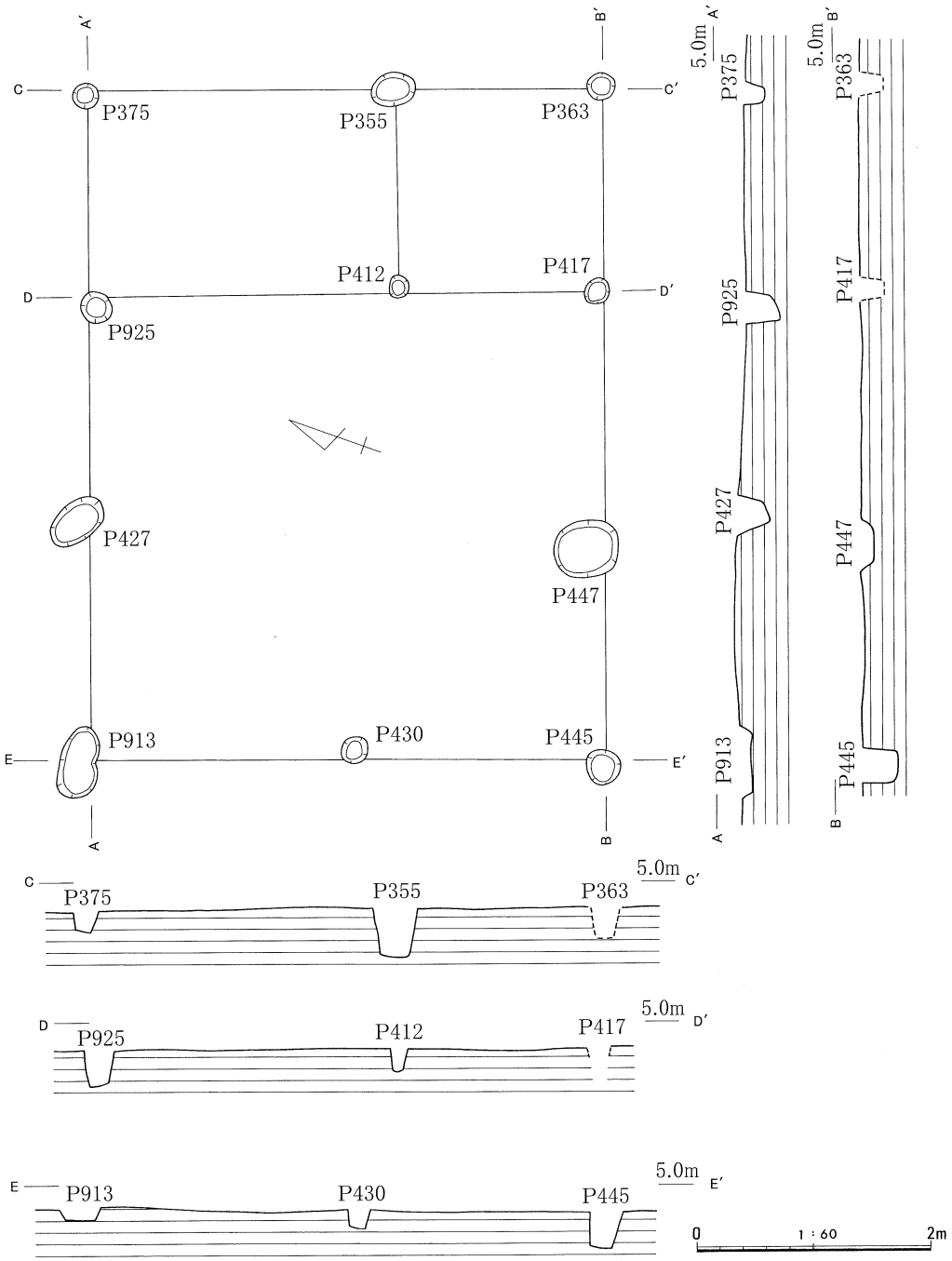
第175図　Ⅱ区建物15（S＝1/60）

第129表　青木遺跡　建物15　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		(1) 間					2 間				
主軸		N－15° －W									
穴	番号	P324	P383	P338	P822	P093					
	平面規模(cm)	106×36	23×23	32×26	26×22	－					
	標高(m) 上面	4.70	4.71	4.69	4.69	－					
	標高(m) 下面	4.38	4.35	4.43	4.46	－					
柱間距離(cm)		P324－P383	P383－338	P338－P822	P822－P093	－	－	－	－	－	－
		207	198	213	141						

第130表　青木遺跡　建物16　計測表

規模		梁行き					桁行き				
		3 間					2 間				
主軸		N－20° －W									
穴	番号	P913	P427	P925	P375	P355	P363	P417	P447	P445	P430
	平面規模(cm)	62×30	53×33	27×26	22×22	38×29	24×23	24×20	56×49	30×30	24×22
	標高(m) 上面	4.80	4.83	4.74	4.76	4.78	4.77	4.77	4.78	4.77	4.78
	標高(m) 下面	4.69	4.54	4.46	4.59	4.35	－	－	4.67	4.47	4.62
	番号	P412									
	平面規模(cm)	20×16									
	標高(m) 上面	4.77									
	標高(m) 下面	4.57									
柱間距離(cm)		P913－P427	P427－P925	P925－P375	P375－P355	P355－P363	P363－P417	P417－P447	P447－P445	P445－P430	P430－P909
		211	190	181	253	177	176	221	187	213	109
		P909－P913	P925－P412	P412－P417	P412－P355	－	－	－	－	－	－
		130	259	168	162						



第176図　Ⅱ区建物16（S＝1/60）

掘立柱建物16（第176図）

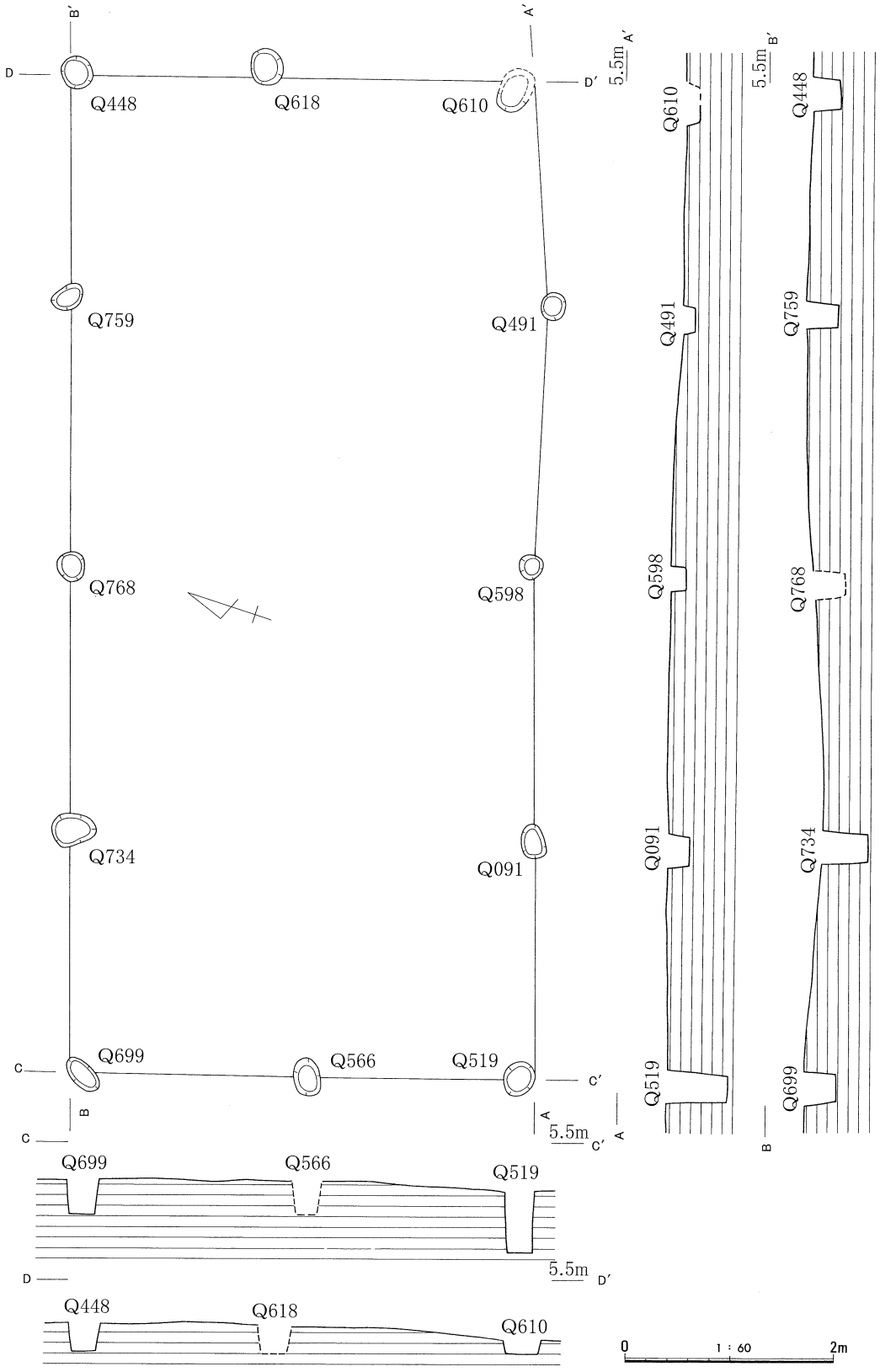
調査区の中央南側に位置する。桁行き2間（5.82m）、梁行き3間（4.30m）である。

掘立柱建物17（第177図）

調査区の西端北側に位置する。桁行き4間（9.47m）、梁行き2間（4.13m）である。

掘立柱建物18（第178図）

調査区の西側南に位置する。桁行き3間（6.40m）、梁行き2間（3.33m）である。



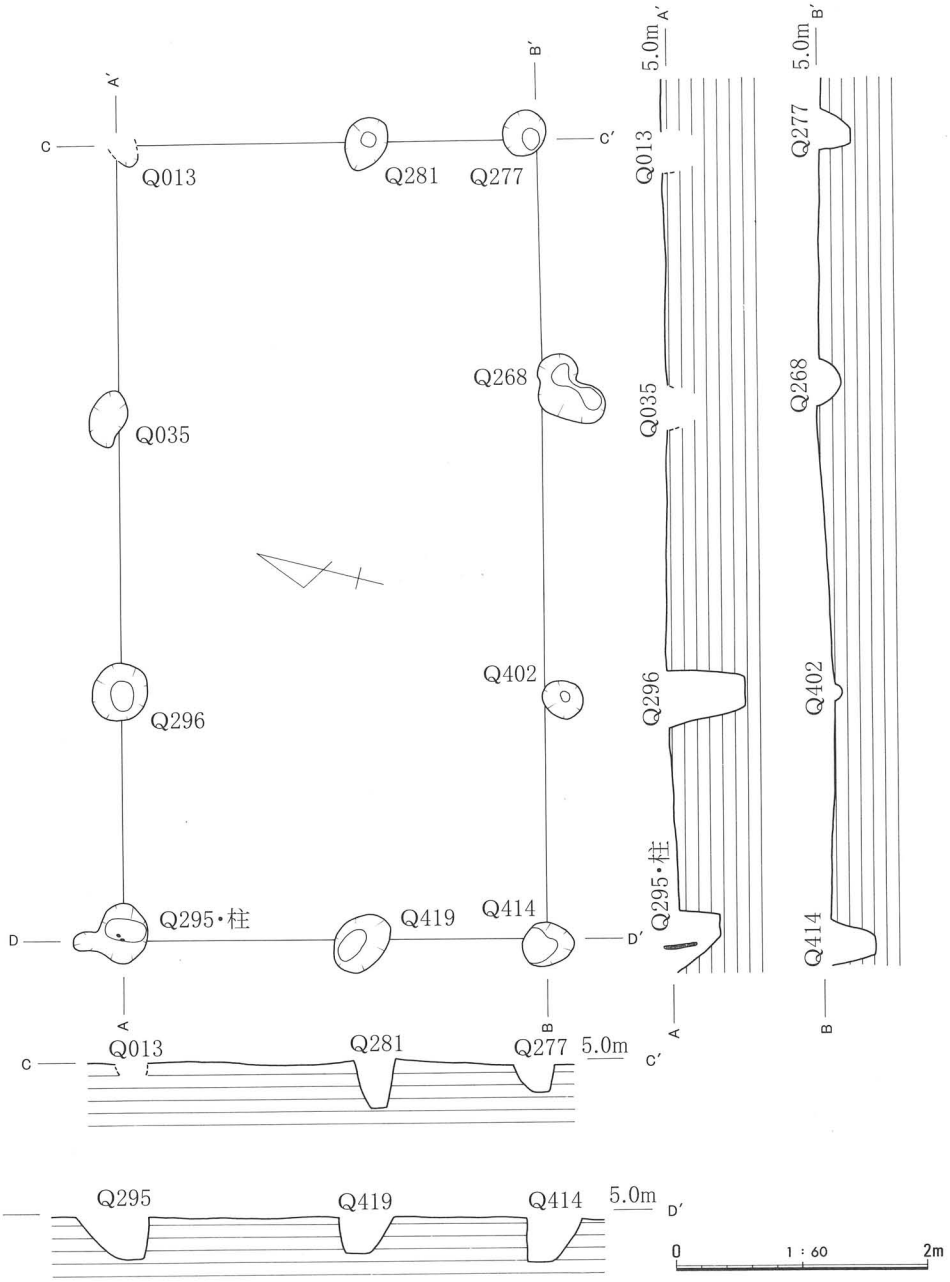
第177図　Ⅱ区建物17（S＝1/60）

掘立柱建物19（第179図）

調査区の東側の南端に位置する。現状で桁行き4間（7.81m）、梁行き2間（3.44m）である。

第131表　青木遺跡　建物17　計測表

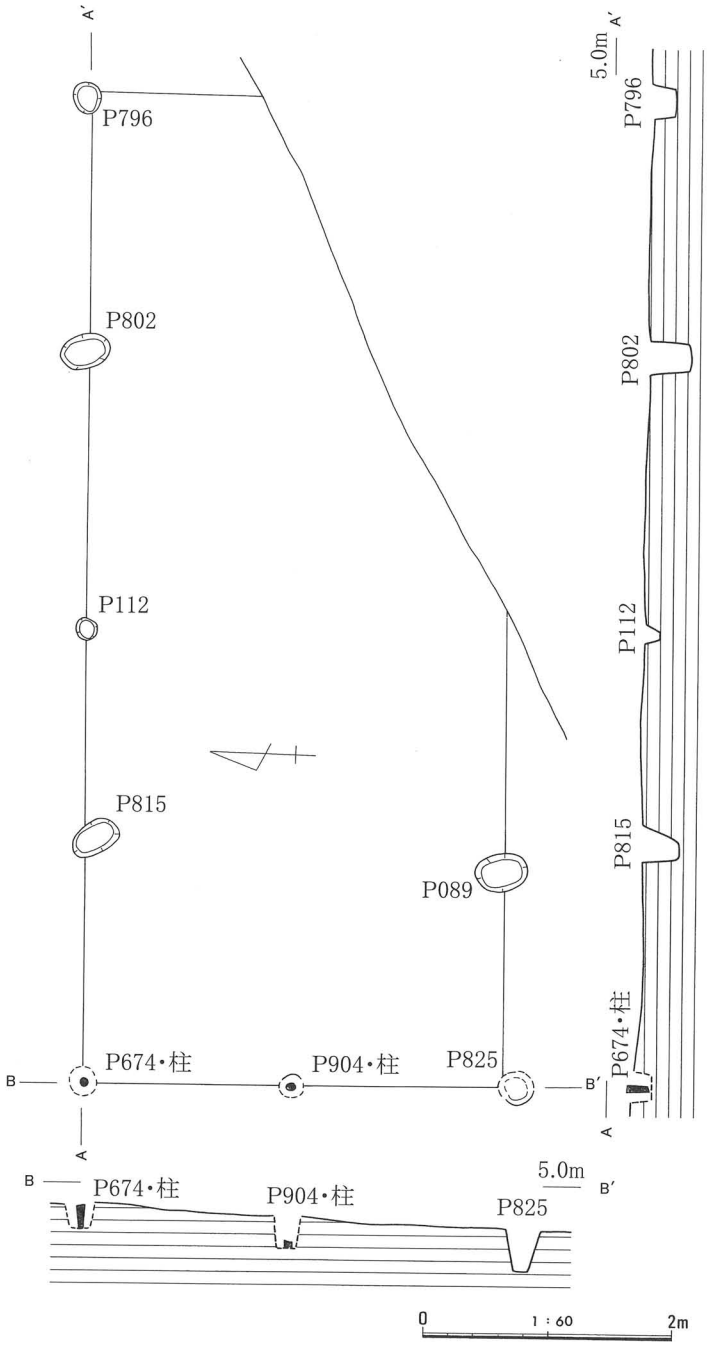
規模		梁行き					桁行き				
		2　間					4　間				
主軸		N－18°－W									
穴	番号	Q699	Q734	Q768	Q759	Q448	Q618	Q610	Q491	Q598	Q091
	平面規模(cm)	49×21	42×32	28×25	32×22	32×29	36×31	(18)×28	26×23	24×22	32×22
	標高(m) 上面	5.15	4.96	5.06	5.13	5.09	5.07	4.93	4.95	5.04	5.05
	標高(m) 下面	4.83	4.53	－	5.02	4.92	－	4.80	4.83	4.90	4.85
	番号	Q519	Q566								
	平面規模(cm)	34×29	36×26								
	標高(m) 上面	5.04	5.13								
	標高(m) 下面	4.46	－								
柱間距離(cm)		Q699－Q734	Q734－Q768	Q768－Q759	Q759－Q448	Q448－Q618	Q618－Q610	Q610－Q491	Q491－Q598	Q598－Q091	Q091－Q519
		232	248	255	212	177	236	206	247	260	223
		Q519－Q566	Q566－Q699	－	－	－	－	－	－	－	－
		202	215								



第178図　Ⅱ区建物18（S＝1/60）

第132表　青木遺跡　建物18　計測表

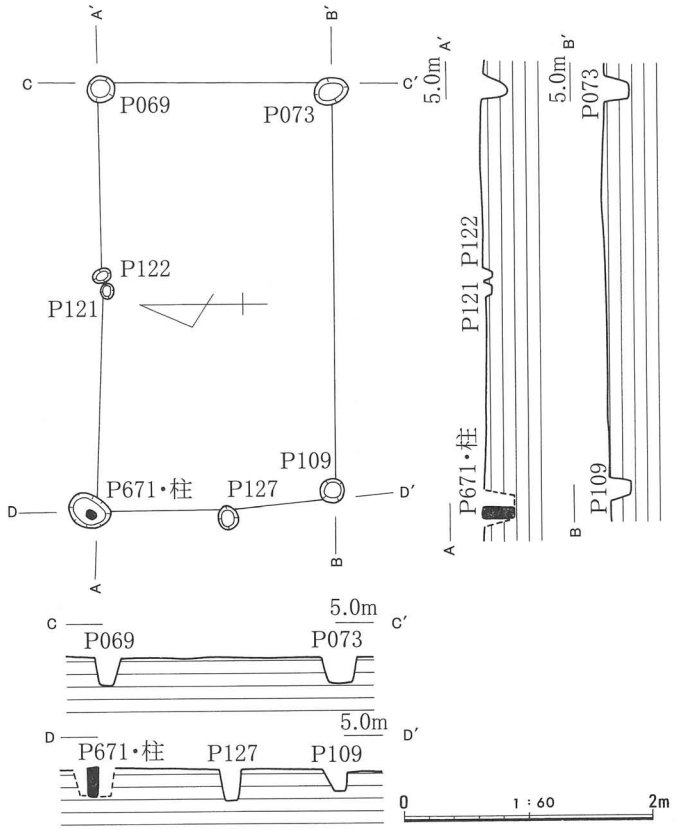
規模			梁行き					桁行き				
			2間					3間				
主軸			N－14°－W									
穴	番号		Q295	Q296	Q035	Q013	Q281	Q277	Q268	Q402	Q414	Q419
	平面規模(cm)		48×(37)	49×44	45×25	(10)×(18)	45×33	38×34	65×47	34×30	42×35	52×40
	標高(m)	上面	4.98	5.04	5.03	5.04	5.01	4.99	5.02	4.90	4.96	4.96
		下面	4.64	4.43	—	—	4.63	4.74	4.54	4.53	4.60	4.68
柱間距離(cm)			Q295－Q296	Q296－Q035	Q035－Q013	Q013－Q281	Q281－Q277	Q277－Q268	Q268－Q402	Q402－Q414	Q414－Q419	Q419－Q259
			191	221	242	214	132	204	235	201	150	183
柱痕	番号		柱295(Q)	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	規模(cm)	長	30									
		幅	4									



第179図　Ⅱ区建物19（S＝1/60）

第133表　青木遺跡　建物19　計測表

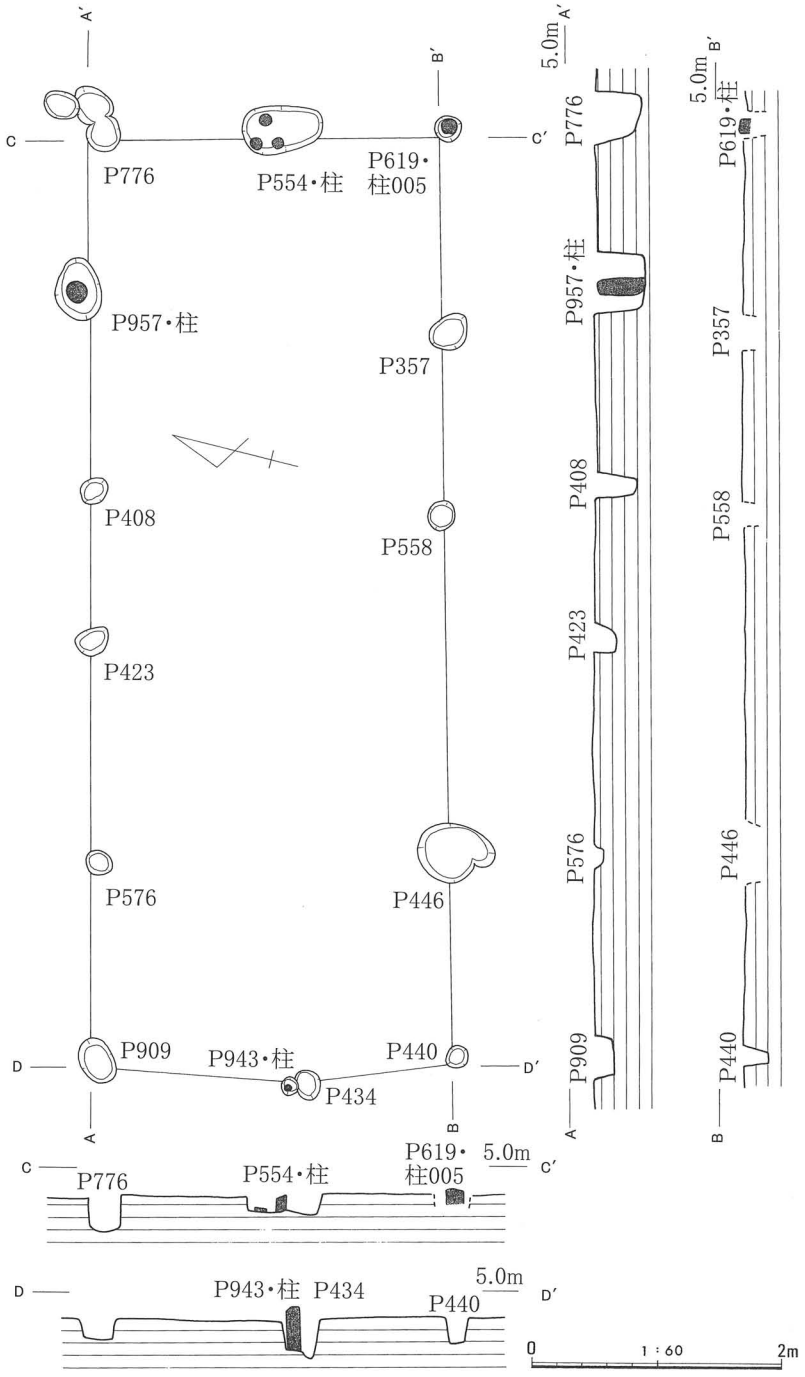
規模			梁行き					桁行き				
			4　間					2　間				
主軸			N－2°－W									
穴	番号		P089	P825	P904	P674	P815	P112	P802	P796		
	平面規模(cm)		42×30	(6)×(14)	(6)×(20)	6×6	40×25	18×18	40×26	26×22		
	標高(m)	上面	4.67	4.66	4.76	4.83	4.73	4.73	4.70	4.70		
		下面	4.43	4.31	－	－	4.43	4.60	4.36	4.50		
柱間距離(cm)			P089－P825	P825－P904	P904－P674	P674－P815	P815－P112	P112－P802	P802－P796	－	－	－
			171	179	165	196	164	219	202			
柱痕	番号		柱904(P)	柱674(P)								
	規模(cm)	長	31	21								
		幅	13	5								



第180図　Ⅱ区建物20（S＝1/60）

第134表　青木遺跡　建物20　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			2　間					(2)　間				
主軸			N－1°－W									
穴	番号		P671	P121	P122	P069	P073	P109	P127			
	平面規模(cm)		34×26	12×11	15×12	22×22	27×22	20×18	19×16			
	標高(m)	上面	4.73	4.70	4.72	4.72	4.73	4.72	4.74			
		下面	－	4.64	4.64	4.50	4.52	4.54	4.48			
柱間距離(cm)			P671－P121	P121－P122	P122－P069	P069－P073	P073－P109	P109－P127	P127－P671	－	－	－
			178	13	149	184	318	81	110			
柱痕	番号		柱671(P)									
	規模(cm)	長	25									
		幅	10									



第181図　Ⅱ区建物21（S＝1/60）

掘立柱建物20（第180図）

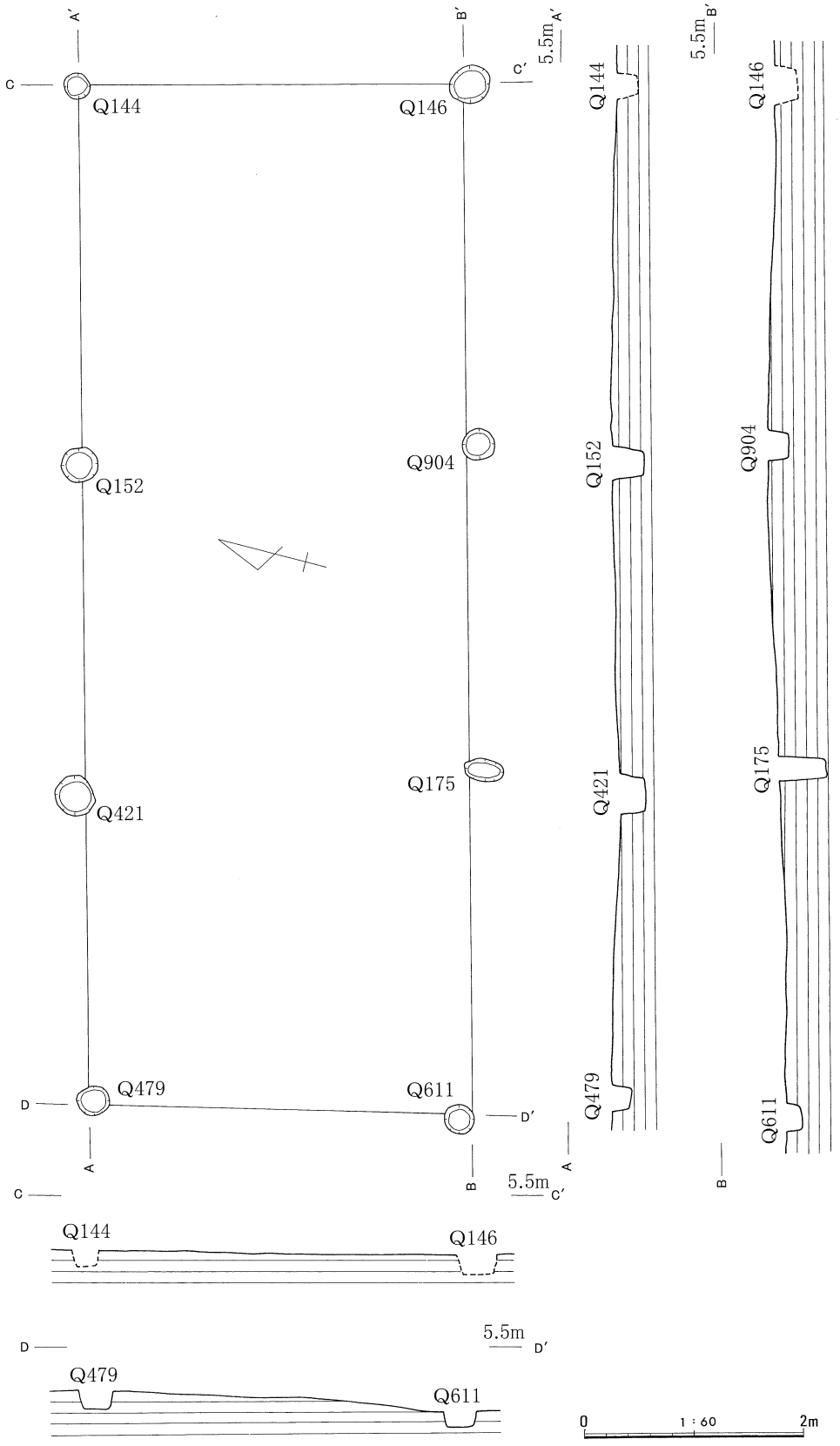
調査区の東側南に位置する。桁行き2間（3.18m）、梁行き2間（1.84m）である。

掘立柱建物21（第181図）

調査区の中央南側に位置する。桁行き5間（7.39m）、梁行き2間（2.78m）である。

第135表　青木遺跡　建物22　計測表

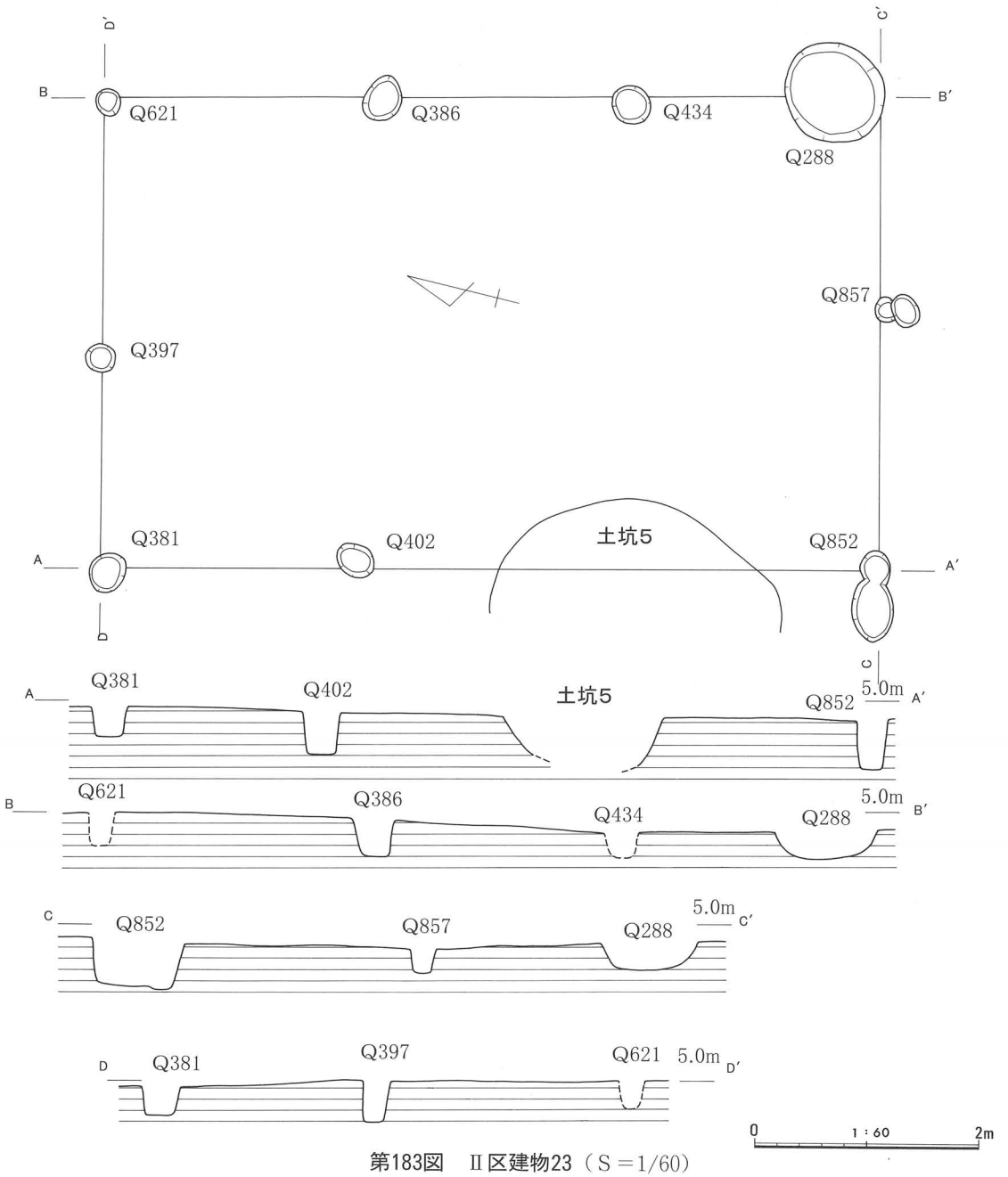
規模		梁行き					桁行き				
		1間					3間				
主軸		N−14°−W									
穴	番号	Q479	Q421	Q152	Q144	Q146	Q904	Q175	Q611		
	平面規模（cm）	30×26	38×35	33×30	25×23	38×33	30×30	36×20	27×26		
	標高（m） 上面	5.11	5.01	5.07	5.00	4.96	5.04	4.96	4.91		
	標高（m） 下面	4.94	4.78	4.78	−	−	4.85	4.53	4.77		
柱間距離（cm）		Q479−Q421	Q421−Q152	Q152−Q144	Q144−Q146	Q146−Q904	Q904−Q175	Q175−Q611	Q611−Q479	−	−
		273	304	345	361	332	298	319	336		



第182図　Ⅱ区建物22（S＝1/60）

掘立柱建物22（第182図）

調査区の中央やや西よりに位置する。桁行き3間（9.22m）、梁行き1間（3.36m）である。



第183図　Ⅱ区建物23（S＝1/60）

第136表　青木遺跡　建物23　計測表

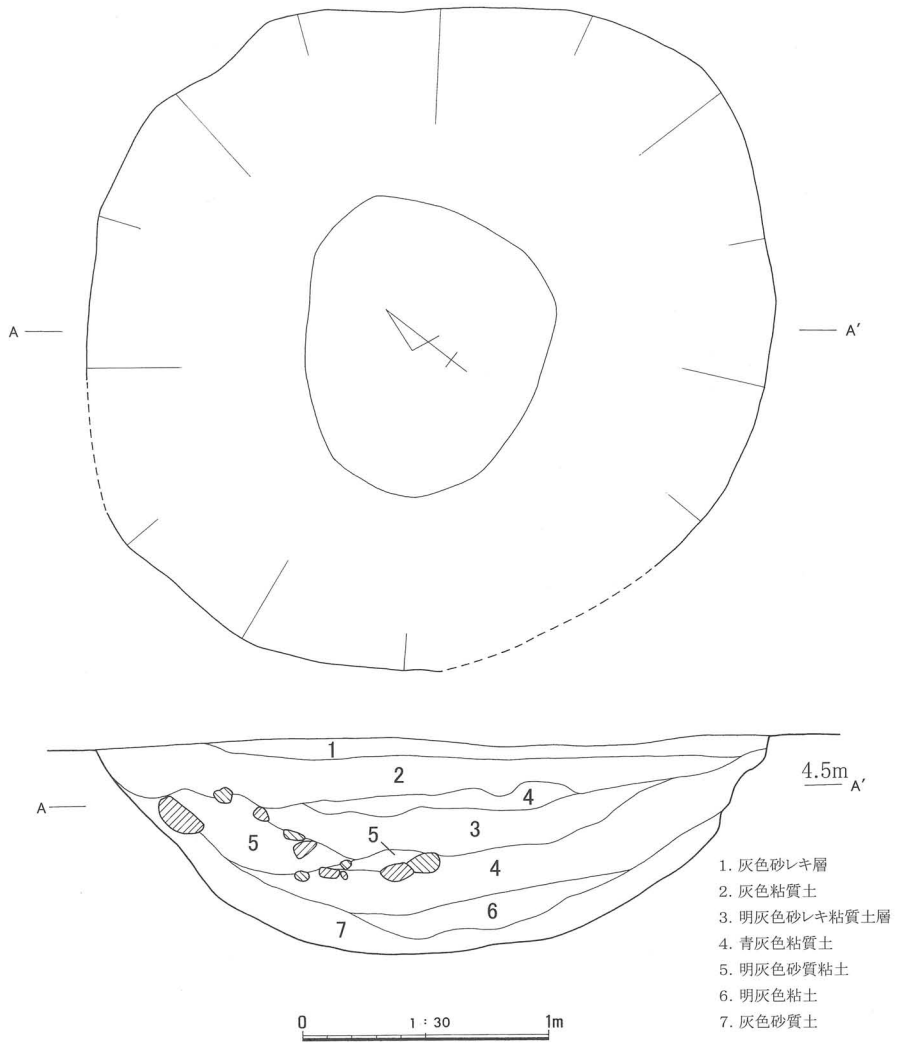
規模		梁行き					桁行き				
		2　間					3　間				
主軸		N－13°－W									
穴	番号	Q381	Q397	Q621	Q386	Q434	Q288	Q857	Q852	Q402	
	平面規模（cm）	36×32	27×24	24×21	42×33	36×32	92×87	22×(15)	82×23	35×27	
	標高（m） 上面	4.95	5.00	4.98	4.93	4.98	4.83	4.88	4.89	4.89	
	標高（m） 下面	4.69	4.64	－	4.61	－	4.60	4.57	4.39	4.53	
柱間距離（cm）		Q381－Q397	Q397－Q621	Q621－Q386	Q386－Q432	Q434－Q288	Q288－Q857	Q857－Q852	Q852－Q402	Q402－Q381	－
		193	230	244	220	177	197	231	462	222	

掘立柱建物23（第183図）

調査区の西側南に位置する。桁行き3間（6.82m）、梁行き2間（4.23m）である。

第137表　青木遺跡　建物21　計測表

規模			梁行き					桁行き				
			2　間					(5)　間				
主軸			N－15°－W									
穴	番号		P909	P576	P423	P408	P957	P776	P554	P619	P357	P558
	平面規模(cm)		38×28	22×20	28×21	24×20	50×38	56×27	66×38	22×21	35×27	24×22
	標高(m)	上面	4.79	4.80	4.79	4.77	4.78	4.76	4.79	4.77	4.79	4.79
		下面	4.63	4.72	4.61	4.43	4.37	4.39	4.61	－	－	－
	番号		P446	P440	P434	P943						
	平面規模(cm)		62×48	18×17	24×18	15×14						
	標高(m)	上面	4.77	4.80	4.78	4.77						
		下面	－	4.60	4.48	4.54						
柱間距離(cm)			P909－P576	P576－423	P423－P408	P408－P957	P957－P776	P776－P554	P554－P619	P619－P357	P357－P558	P558－P446
			159	176	119	158	127	145	133	165	144	268
			P446－P440	P440－P434	P434－P943	P943－P909	－	－	－	－	－	－
			162	123	16	155						
柱痕	番号		柱957(P)	柱554a(P)	柱554b(P)	柱554c(P)	柱619(P)	柱943(P)				
	規模(cm)	長	29	44	12	－	33	35				
		幅	14	10	9	－	14	15				

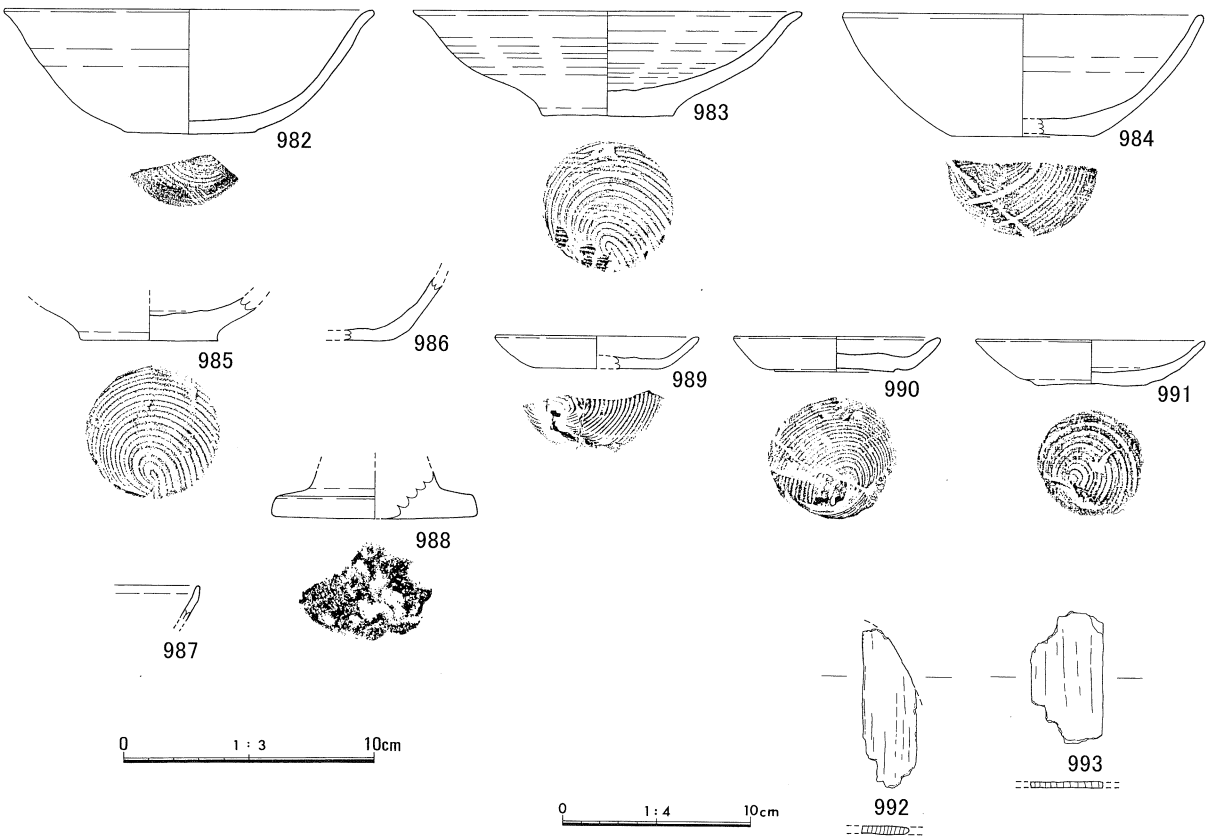


第184図　Ⅱ区土坑１（Ｓ＝1/30）

土坑１（第184図）

調査区のやや東よりに位置し、平面楕円形、断面椀状の土坑である。長軸約3.0ｍ、短軸約2.6ｍ、深さ約90cmを測る。

出土遺物は第185図のとおりで、982～986は土師質土器の坏である。982は坏Ⅰ類、983は坏Ⅱ類、984は坏Ⅲ類、986は内面赤彩で、底部はヘラ切りと思われる。（坏Ⅴ類）987は白磁・椀の玉縁状の口縁部で、Ⅱ－１類もしくはⅩⅠ－１類と思われる。時期はⅡ類の場合は11世紀後半から12世紀前半、ⅩⅠ類の場合は10世紀後半から11世紀中頃となる。988



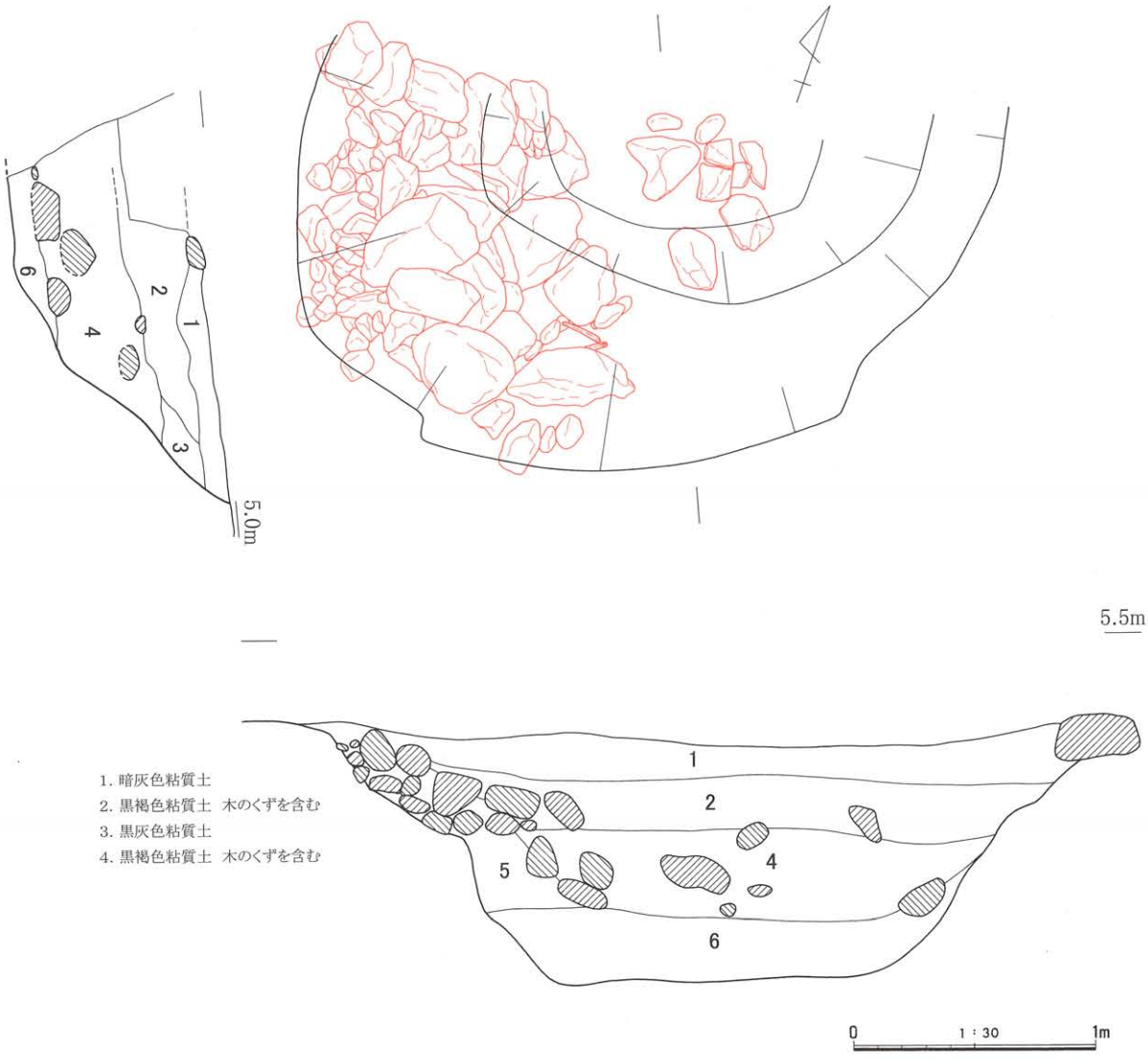
第185図　Ⅱ区土坑１出土遺物（S＝1/3、992・993はS＝1/4）

第138表　Ⅱ区遺物観察表

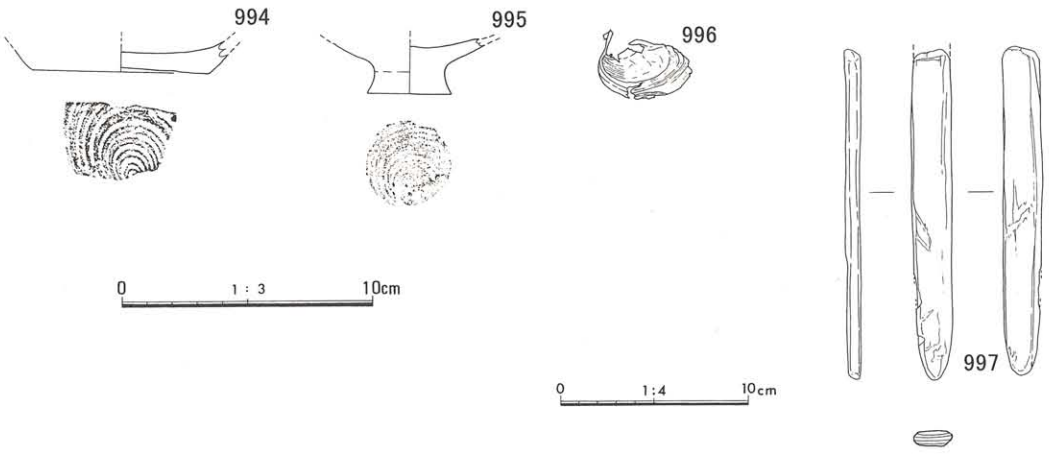
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
982	18	176	土坑1		土師質土器	坏	(14.8)	(5.2)	5.0	坏Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の石英を含む	内：褐灰色(7.5Y R5/1) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/3) ～灰褐色(7.5Y R6/2)	反転実測
983	12	176	土坑1		土師質土器	坏	(15.5)	5.2	4.3	坏Ⅱ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：明褐色(7.5Y R7/2) 外：明褐色(7.5Y R7/2)	一部反転実測
984	19	176	土坑1		土師質土器	坏	(14.5)	(4.9)	5.6	坏Ⅲ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、黒雲母を含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/3) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/3)	反転実測
985	17	176	土坑1		土師質土器	坏		5.4			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/3) 外：灰白色(10Y R8/2)	
986	30	176	土坑1		土師質土器	坏				坏Ⅴ類　赤彩	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、長石、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	
987	85	176	土坑1		白磁	椀				椀Ⅱ－1類または椀XⅠ－1類		密　きめ細かい微細な黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(10Y8/1) 外釉：灰白色(10Y8/1)	
988	43	176	土坑1		土師質土器	柱状高台		(8.2)			内：不明 外：不明	径1㎜弱の砂粒をわずかに含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測
989	16	176	土坑1		土師質土器	Ⅲ	(8.2)	(5.0)	1.3	ⅢⅠ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4) ～橙色(5Y R6/6)	反転実測
990	15	176	土坑1		土師質土器	Ⅲ	8.3	4.8	1.4	ⅢⅠ類	内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の金雲母をわずかに含む	内：浅黄橙色(7.5Y R8/6) 外：黄灰色(2.5Y4/1)	磨耗激しい
991	11	176	土坑1		土師質土器	Ⅲ	9.2	4.5	1.8	ⅢⅢ類	内：不明 外：不明 回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：橙色(2.5Y R6/6)～鈍い橙色7.5Y R6/4) 外：橙色(2.5Y R6/6)～鈍い橙色(7.5Y R6/4)	磨耗激しい

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
992	132	176上	土坑1		板状木製品	(8.5)	(2.9)	0.4			
993	133	176上	土坑1		板状木製品	(7.1)	(3.8)	0.3			

は柱状高台の底部である。989から991は土師質土器のⅢである。989、990はⅢⅠ類、991はⅢⅢ類である。992と993は木製品の一部と思われる。



第186図　Ⅱ区土坑２（Ｓ＝1/30）



第187図　Ⅱ区土坑２出土遺物（Ｓ＝1/3、997はＳ＝1/4）

第139表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
994	21	177上	土坑2	1	土師質土器	坏		(7.1)			内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石を含む	内：鈍い黄褐色(10YR7/2) 外：鈍い橙色(7.5YR7/5)	反転実測
995	23	177上	土坑2	6	土師質土器	柱状高台		3.4			内：回転ナデ？ 伊：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：鈍い黄褐色(10YR7/4) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	一部反転実測
996	153	177上	土坑2		貝殻					長(3.2)×幅(5.0)				

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
997	104	177上	土坑2	2又は4	ヘラ状木製品	(17.6)	2.1	0.8			

土坑 2 （第186図）

調査区の西よりの北端に位置し、遺構の全体は調査区外にひろがっており検出できなかった。現状で平面円形、断面椀状の土坑で、西側には石組みに使われた自然石が残っていた。直径約3.0m、深さ約1.0mを測る。最下層は第 6 層であるが土層及び石組みの検出状況の観察より、第 6 層上面から石組みが組まれている可能性がある。

出土遺物は187図のとおりで、994は土師質土器の坏・底部である。995は柱状高台・底部である。896は貝の表面がセロハン状に残ったもので、貝の種類は不明である。997は木製品である。

土坑 3 （第188図）

調査区の西よりに位置し、平面はやや四隅の張った円形、断面端反り椀状の土坑で、直径約2.0m、深さ約1.3mを測る。

出土遺物は第189図のとおりで、998は土師質土器の皿・底部で、999は木製品で片側の端部は円形を意識して加工されており、曲物の底部等と考えられる。

土坑 4 （第190図）

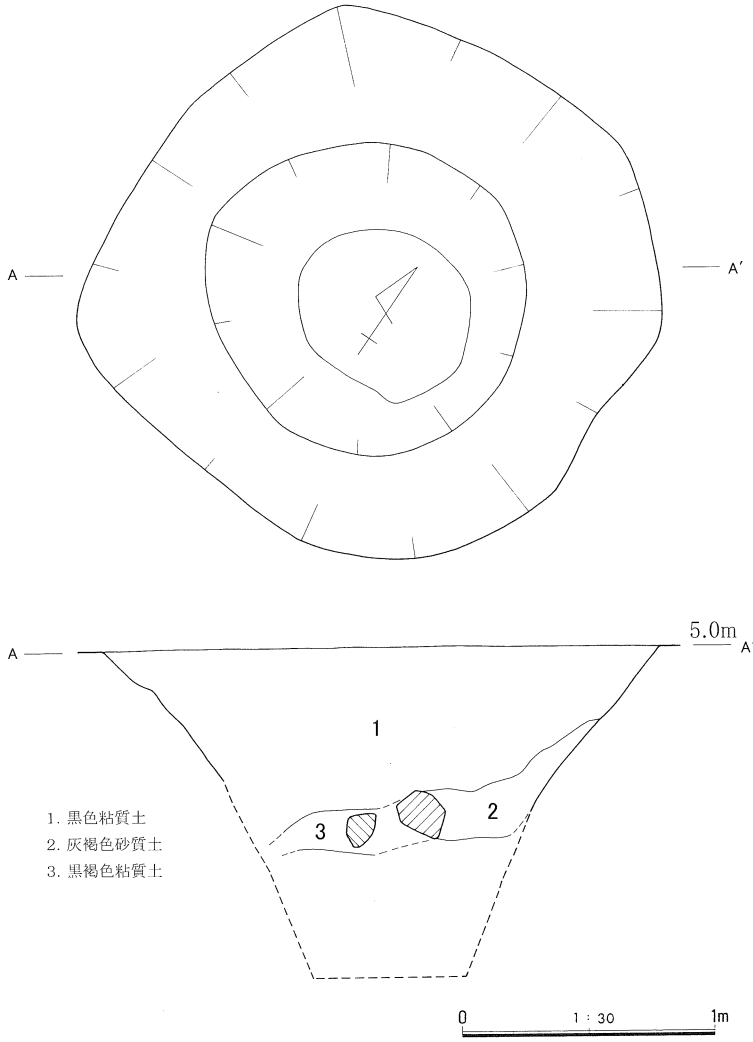
調査区の西よりに位置し、平面やや不定形の楕円、断面端反り椀状の土坑である。長軸約3.4m、短軸約2.7m、深さ約1.5mを測る。

出土遺物は第191図のとおりで、1000～1003、1006は中世須恵器の鉢である。1000はC類、1001、1002はZ類である。1006はA類である。1004は同安窯系青磁の皿Ⅰ－1ａ類である。1005は白磁の椀・底部である。1007は中世陶器・甕または壷の口縁部である。1008は柱状高台底部、1009は土師質土器の坏・底部、1010は釘状鉄製品である。1011～1015は木製品で1011は木槌である。1013は曲物等の部材、1015はケビキの確認できる木製品である。

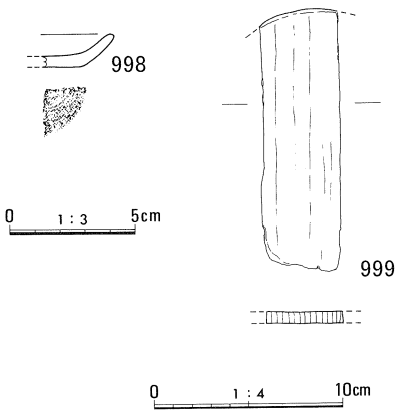
土坑 5 （第192図）

調査区の西よりに位置し、平面楕円形、断面椀状の土坑である。長軸約2.8m、短軸約2.5m、深さ1.4mを測る。第 3 層は拳大の石を多く含んでいた。

出土遺物は第193図のとおりで、1016は白磁の椀Ⅳ類・口縁部、1017白磁の皿Ⅳ－1ａ類である。1018は同安窯系青磁の椀Ⅰ－1ｂ類である。1019から1023は土師質土器・坏である。1019は坏Ⅲ類、1020は坏Ⅱ´類である。1021はやや黒っぽい色調を呈している。1024から1027は土師質土器・皿である。1024は皿Ⅰ類、1025、1026は皿Ⅱ類、1027は皿Ⅲ類である。1028は中世須恵器の甕であ



第188図　Ⅱ区土坑3（S＝1/30）



第189図　Ⅱ区土坑3出土遺物（998はS＝1/3、999はS＝1/4）

る。（甕B－1類）1029は柱状高台の一部と思われる。1030は高台付坏である。

土坑6（第194図）

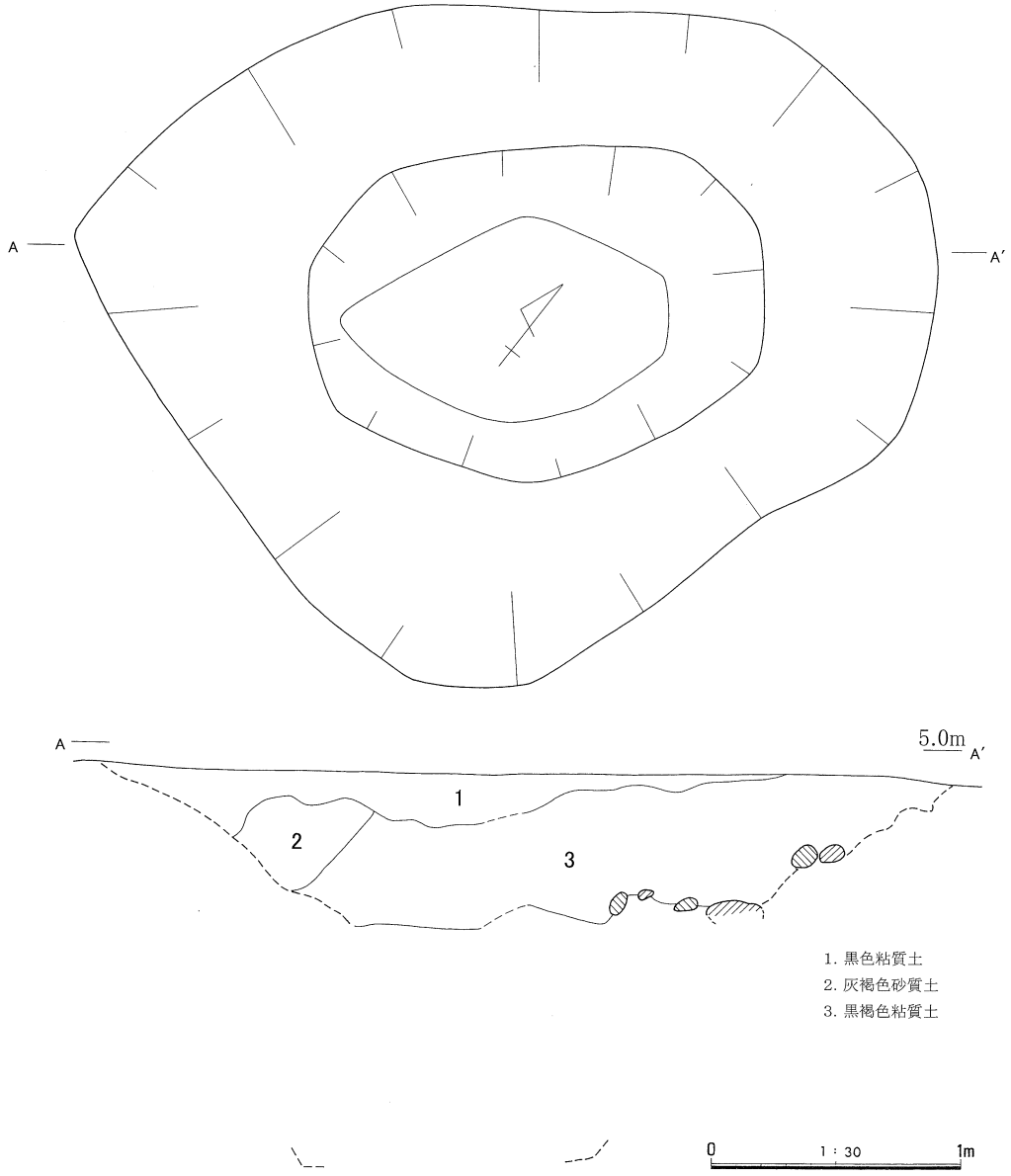
調査区の南東端に位置し、平面楕円、断面椀状で南側に注口状にやや広がる土坑である。長軸約2.0m、短軸約1.7m、深さ60cmを測る。

出土遺物は第195図のとおりで、1031は土師質土器の坏で坏Ⅵ類である。1032、1034～1036は土師質土器・坏または皿の底部である。1033は土師器甕または甑の把手部分である。

第140表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
998	27	177 中	土坑3		土師質土器	皿	(5.9)	(3.0)	1.3	皿1類？	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、赤色粒子を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
999	134	177中	土坑3		曲物？	(13.9)	(4.2)	0.6			

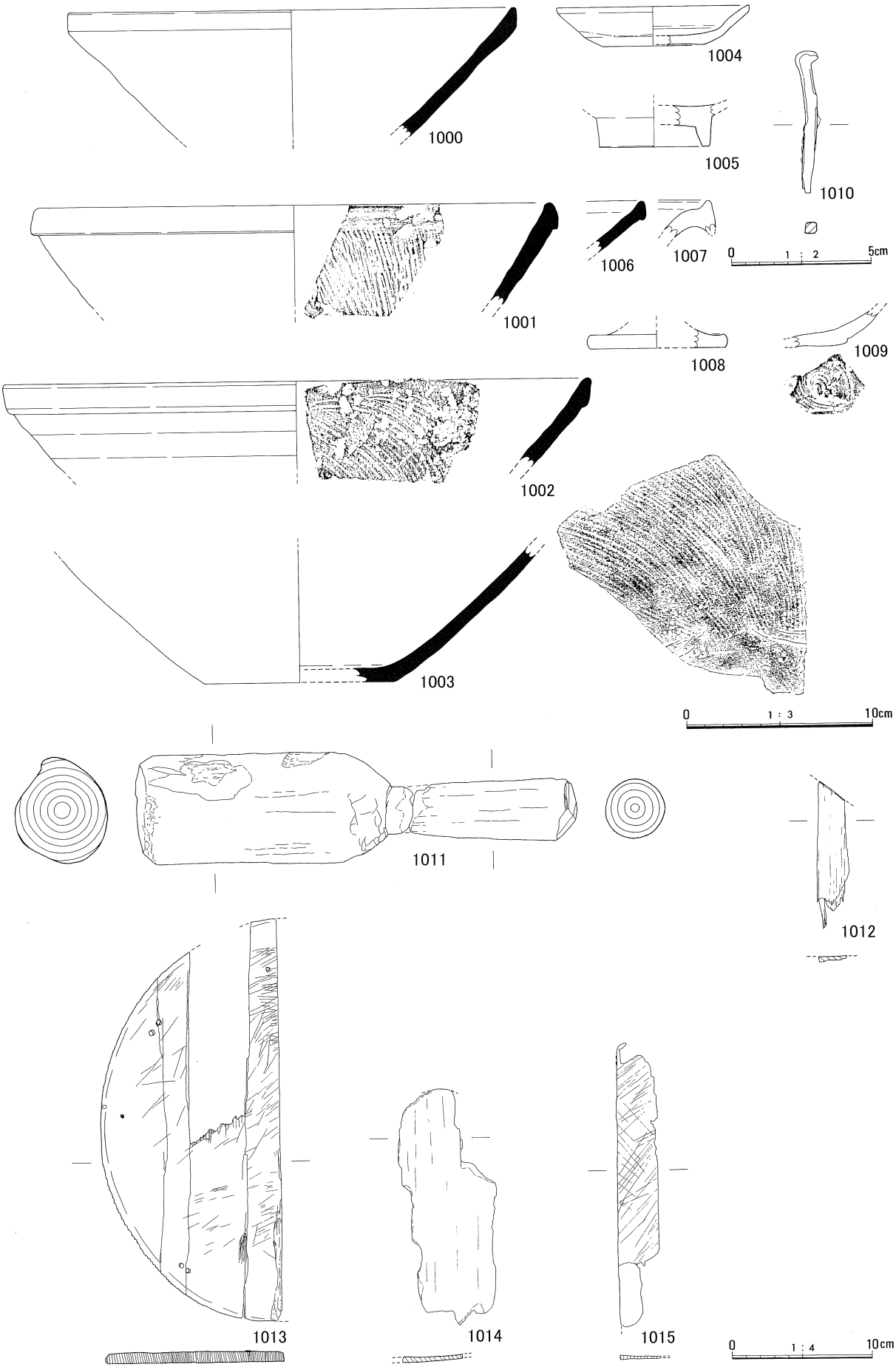


第190図　Ⅱ区土坑４（Ｓ＝1/30）

第141表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1000	29	178	土坑4	レキ	中世須恵器	鉢	(24.3)			鉢Ｃ－1類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ナデ	密　微粒子の長石を含む	内：灰白色(N7/)～黒色10YR2/1) 外：灰白色(5Y7/1) 外口縁：灰色(N5/)	反転実測
1001	35	178	土坑4		中世須恵器	鉢	(27.4)			鉢Z類	内：ナデ、ハケ目 外：ナデ、ナデ	密　きめ細かい	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰白色(2.5Y8/1)	反転実測
1002	41	178	土坑4		中世須恵器	鉢	(31.6)			鉢Z類	内：ナデ、ハケ目 外：ナデ、ナデ	密　微粒子の石英、黒色粒子を含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(2.5Y8/1)	反転実測
1003	42	178	土坑4		中世須恵器	鉢		(10.4)			内：ハケ目 外：ナデ？	密　きめ細かい　微粒子の石英、黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内：青灰色(5B6/1) 外：灰色(N4/)	反転実測
1004	83	177下	土坑4		青磁(同安窯系)	皿	(10.5)	(5.6)	2.1	皿Ｊ－1ａ類（D期）		やや粗い 陶質に近い 灰白色(2.5Y8/2)	内釉：浅黄色(2.5Y7/3) 外釉：浅黄色(2.5Y7/3) 外胎：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
1005	82	177下	土坑4		白磁	椀		(6.0)		椀Ⅴ類（D期）		密　きめ細かい やや砂味が有る 灰白色(5Y7/2)	内釉：灰白色(5Y7/1) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
1006	31	－	土坑4		中世須恵器	鉢	(30.6)			鉢Ａ－4´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/) 外口縁：青黒色(5B1.7/1)	反転実測
1007	37	177下	土坑4		陶器系	壷					内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜の砂粒をわずかに含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
1008	24	177下	土坑4		土師質土器	柱状高台		(7.4)			内：不明 外：不明　回転糸切り	径1㎜の赤色粒子、微粒子の石英を含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	反転実測
1009	44	177下	土坑4		土師質土器	坏		(7.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の石英、赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 内底部：赤橙色(10R 6/6) 外：鈍い橙色(5YR6/4)	反転実測 磨耗が激しい

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	寸法(cm) 長さ	幅	厚さ	形態・文様の特徴	備考
1010	F12	117下	土坑4		釘	(5.1)	(0.4)	(0.5)		



第191図　Ⅱ区土坑４出土遺物（S＝1/3、1010はS＝1/2、1011～1015はS＝1/4）

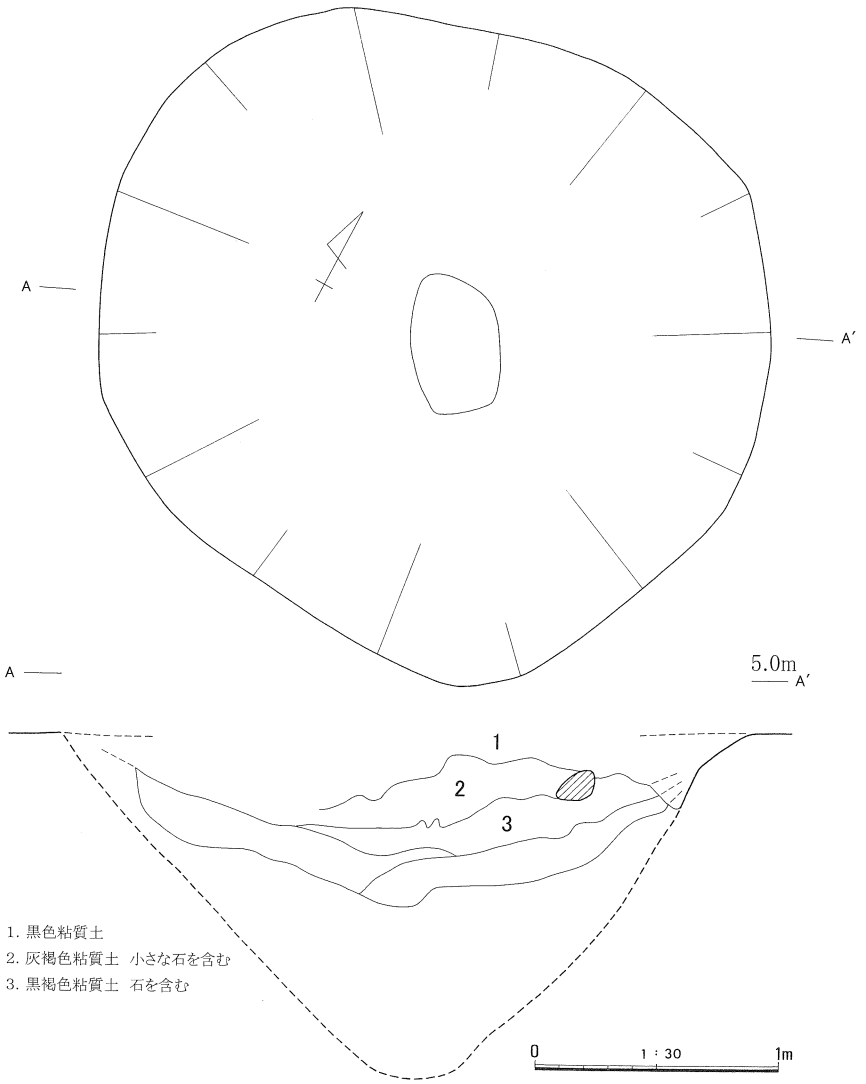
第142表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
1011	187	178	土坑4		木槌	31.7	柄部4.4(最大)	長径(6.8)×(8.0)			
1012	192	177下	土坑4	暗灰色粘質土4層下	不明	(10.6)	(2.4)	(0.3)			
1013	52	178	土坑4	暗灰色粘質土4層下	不明	28.9	(13.0)	0.8			片面：煤？ 両面：刃物等による無数の切痕あり 径4㎜前後の孔が2ヶずつ等間隔に施されている
1014	127－1	177下	土坑4		曲物？	(16.9)	(7.0)	(0.4)			
1015	127－2	178	土坑4		不明	(20.4)	0.3	0.3			片面：刃物等による無数の切痕あり

不明遺構１（第196図）

調査区の中央やや南よりに位置し、直径約40㎝、高さ約15㎝の曲物が出土した遺構で、掘り方は直径50㎝の円形である。曲物は上部は破損が激しく欠損していると思われる。底板はなかった。内面には縦にケビキが確認できる。

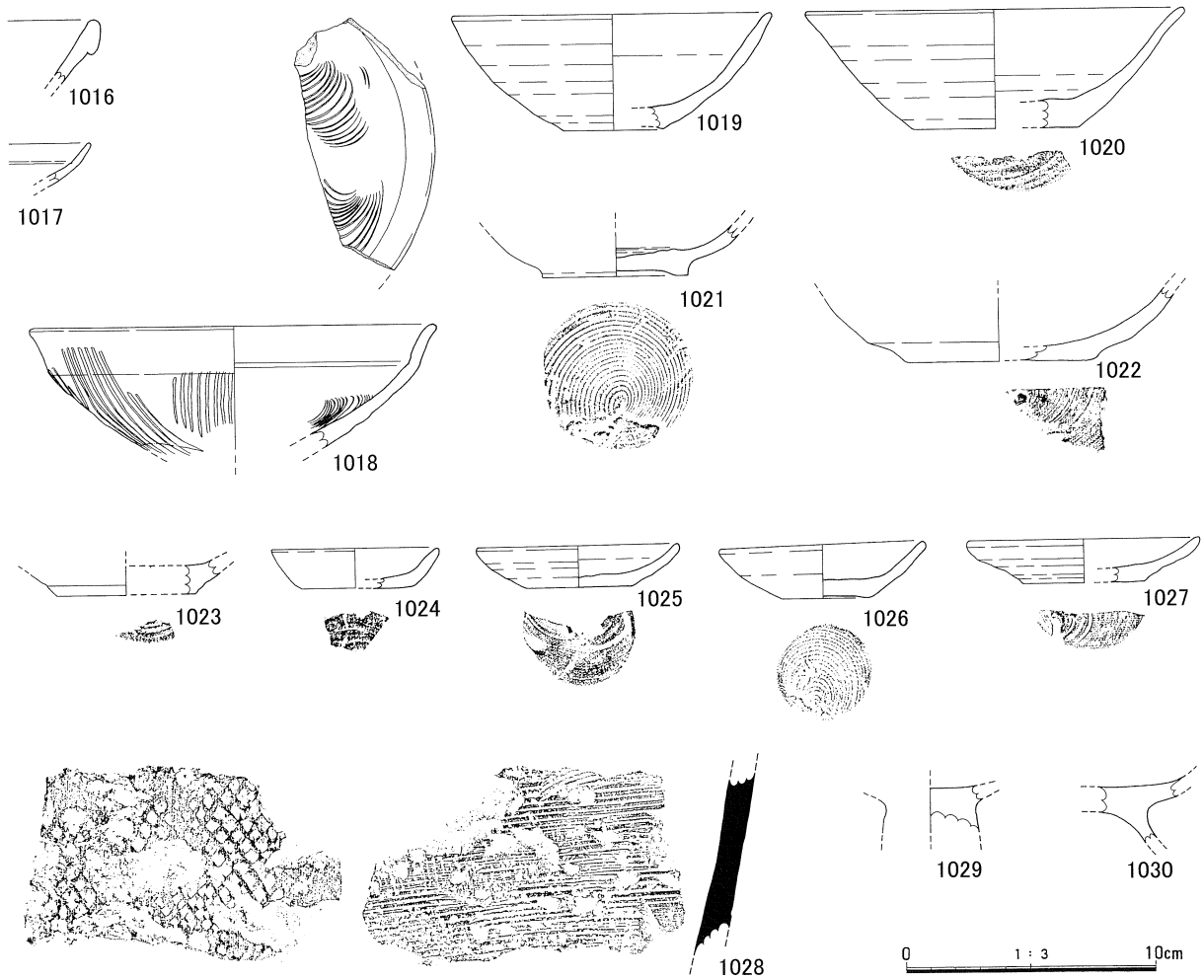
出土遺物は第197図のとおりで、1038は須恵器の甕で内面に自然釉が付着しているので底部付近と考えている。ただこの遺構に直接共うかどうかは不明である。



第192図　Ⅱ区土坑５（S＝1/30）

不明遺構２（第198図）

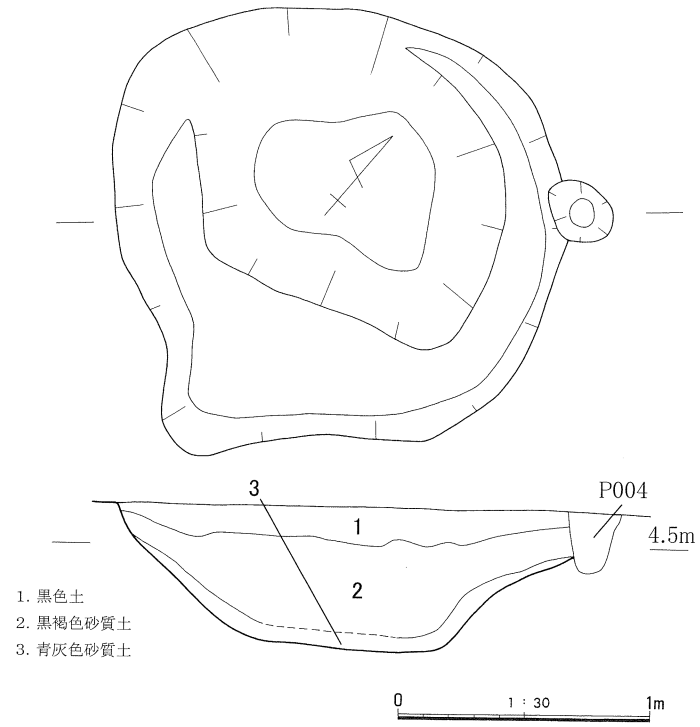
調査区の中央やや南よりに位置し、横約40㎝、縦約24㎝、高さ約14㎝の箱状木製品の出土した遺構で、掘り方は平面箱状木製品を３～５㎝大きくした形である。木製品は側壁が一部内面に倒れ込んでいる。底板があり側壁との固定にはＸ線写真の結果、木製と思われる木釘が使用されていることが分った。側壁は１枚の板材を用い隅の部分は板材を切断することなく、ケビキを入れ屈曲させて板材を一周まわし、一部板材を重ねて留めている。最外部には上下に木目のとおる薄い木材を付



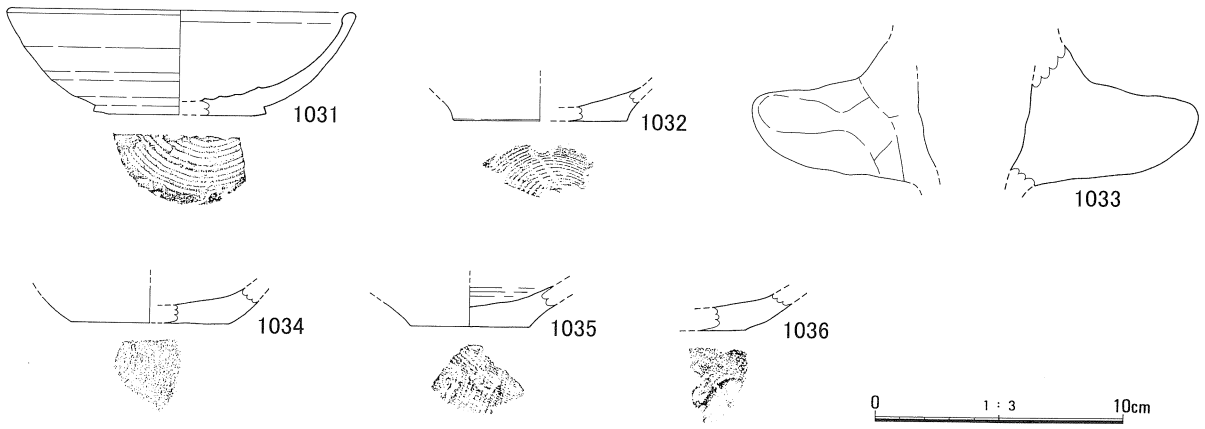
第193図　Ⅱ区土坑５出土遺物（Ｓ＝1/3）

第143表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1016	91	179	土坑5		白磁	椀				Ⅲ類Ⅳ－１ａ類（Ｃ期）		密　きめ細かい 微粒子の黒色粒子を含む 灰白色(5G Y8/1)	内釉：灰白色(7.5Y 7/1) 外釉：灰白色(7.5Y 7/1)	
1017	86	179	土坑5		白磁	Ⅲ				椀Ⅳ類（Ｃ期）		密　きめ細かい 灰白色(5Y 8/1)	内釉：浅黄色(5Y 7/4) 外釉：浅黄色(5Y 7/4)	
1018	87	179	土坑5		青磁 (同安窯系)	椀				椀Ⅰ－１ｂ類　櫛目文 内面　単位：15本/1単位 外面　単位：10本/1単位		密　きめ細かい 灰白色(N7/)	内釉：灰オリーブ色(5Y6/2) 外釉：灰オリーブ色(2.5Y6/1)	反転実測
1019	40	179	土坑5		土師質 土　器	坏	(12.9)	(4.0)	4.7	坏Ⅲ類　内外面に煤付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の金雲母を多く含む	内：灰黄褐色(10Y R6/2) 外：鈍い黄橙色(10Y 7/3) ～橙色(5Y R6/6)	反転実測
1020	39	179	土坑5		土師質 土　器	坏	(15.4)	(6.6)	4.8	坏Ⅱ´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の黒雲母、長石を含む	内：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	反転実測
1021	53	179	土坑5		土師質 土　器	坏		(6.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の石英を多く含む	内：鈍い褐色(7.5Y R6/3) 外：鈍い黄橙色(10R6/3)	一部反転実測
1022	52	179	土坑5		土師質 土　器	坏		(7.5)			内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の金雲母、長石,石英を含む	内：黒褐色(2.5Y3/1) 外：黒色(5Y2/1)	反転実測
1023	45	179	土坑5		土師質 土　器	坏		(7.6)			内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の石英、赤色粒子を多く含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測
1024	36	179	土坑5	1～2	土師質 土　器	Ⅲ	(6.9)	(4.4)	1.6	Ⅲ１類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測
1025	38	179	土坑5		土師質 土　器	Ⅲ	(8.2)	(4.2)	2.7	Ⅲ２類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　きめ細かい 微粒子の石英をわずかに含む	内：灰白色(10Y R8/2) 外：灰白色(10Y R8/2)	反転実測
1026	33	179	土坑5		土師質 土　器	Ⅲ	8.5	3.7	2.3	Ⅲ２類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	微粒子の金雲母、黒雲母、を多く含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測
1027	32	179	土坑5		土師質 土　器	Ⅲ	(9.4)	(5.0)	1.8	Ⅲ３類？	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の黒色粒子を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3) ～淡赤橙色(2.5YR7/4)	反転実測
1028	462	179	土坑5東西トレンチ		中　世 須恵器	甕				甕Ｂ－１類	内：ハケ目 外：格子目タタキ	微粒子の長石、石英、白色粒子を多く含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N4/)	
1029	46	178	土坑5		土師質 土　器	柱状高台					内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の長石、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測
1030	47	179	土坑5		土師質 土　器	高台付坏					内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　きめ細かい 微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	



第194図　Ⅱ区土坑６（Ｓ＝1/30）



第195図　Ⅱ区土坑６出土遺物（Ｓ＝1/3）

第144表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1031	69	180 上	土坑6		土師質土器	坏	(14.0)	(7.0)	4.2	坏VI類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　きめ細かい　微粒子の白色粒子を含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
1032	105	180 上	土坑6	1	土師質土器	坏又は皿		(7.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　きめ細かい　微粒子の金雲母をわずかに含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	反転実測
1033	79	180 上	土坑6		土師器	甕又は甑						径1～2㎜の石英、長石を多く含む	外：浅黄橙色(10YR8/3)	
1034	106	180 上	土坑6		土師質土器	坏又は皿		(6.3)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1㎜弱の石英を含む	内：浅黄橙色(7.5Y R8/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/3)	反転実測
1035	103	180 上	土坑6		土師質土器	坏又は皿		(4.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：橙色7.5Y R7/4)	反転実測
1036	104	180 上	土坑6		土師質土器	坏又は皿					内：不明 外：不明	微粒子の石英、黒色粒子を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	磨耗が激しい

け杉材で作られた帯状のたがを５条以上まわしている。側壁の外部と内部の板材の接合には有機質の革状物質で上下に縫って留められている。木製品の上部は破損が激しく欠損していると思われる。

この箱状の木製品の内部の土から土師質土器・坏または皿の底部１点、口縁部１点細かい破片数点が出土している。また木片と僅かではあるが炭化した木片も確認している。

不明遺構３（第200図）

調査区のほぼ中央に位置し、平面不定形の楕円の土坑である。長軸約1.8m、短軸は長い所で約１m、短い所で約0.5m、深さ約30cmを測る。この土坑から長さ約15～20cm、幅約２～３cmの骨が出土している。ただ人骨もしくは動物の骨かは不明である。

出土遺物は第201図のとおりで、1040は須恵器の甕・口縁部で、1041は使用痕等は認められない表面が滑らかな石である。1042は古銭である。

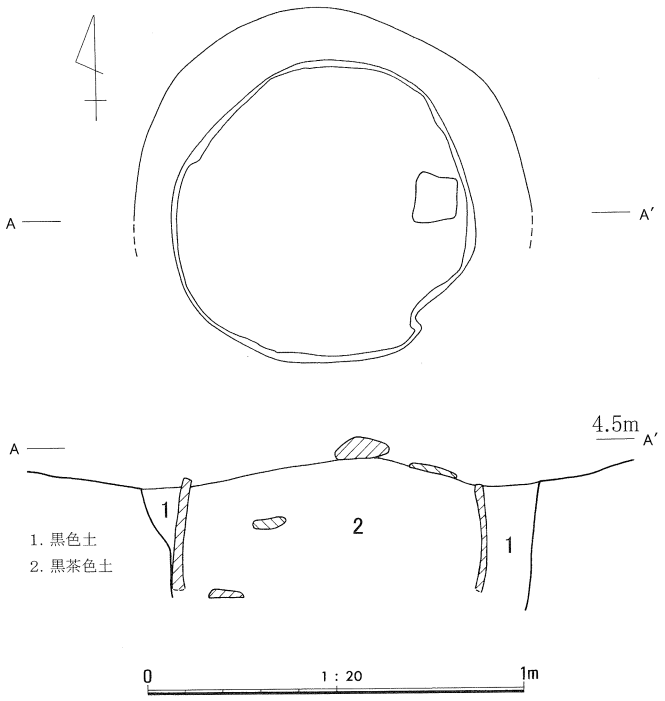
不明遺構４

調査区のやや北よりに位置し、長さ約４m、幅約10～30cm、深さ約５cmの溝状の遺構である。

出土遺物は第202図のとおりで1043は高台付坏である。

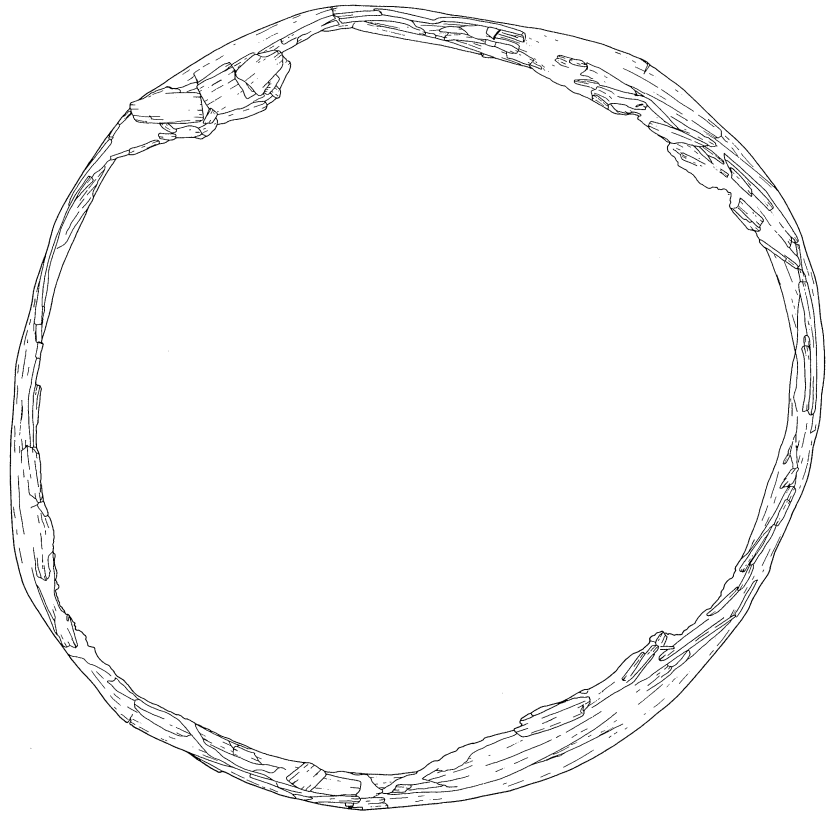
自然河道１（第203図）

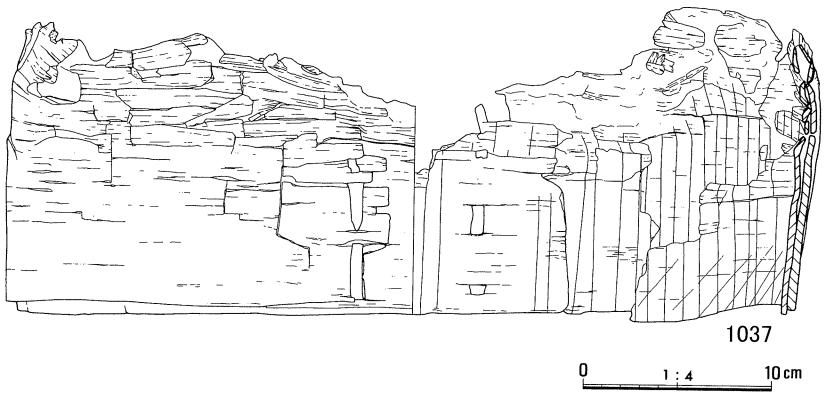
調査区の東よりに位置し、調査区の北から南へ流れている。本調査区の北に位置するＩＢ区でも検出している。本調査区では長さ約20m、幅4.0m、深さ約30cmを検出した。土層図は第203図に示すとおりで、第１層の黄褐色レキ層部分が自然河道１の堆積部分である。第４層は暗茶褐色レキ層で第１層との境界は不明瞭であった。

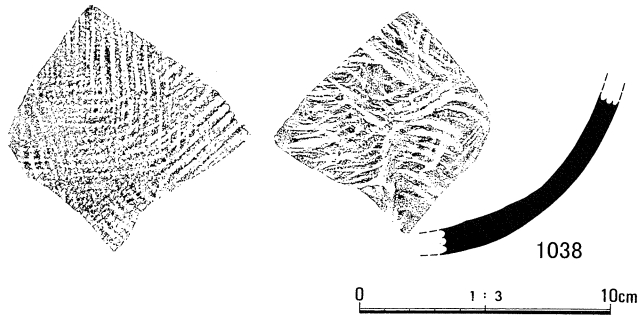


第196図　Ⅱ区不明遺構１（Ｓ＝1/10）

出土遺物は第204図のとおりで、1044、1045は中世須恵器の鉢である。1044は口縁部で、内面には擂り目が施されている。（鉢Ｅ類）1045は焼成がやや軟質であり、また別器種の可能性もある。1046は瓦質土器の鍋・口縁部である。1047、1048は中世須恵器の甕・体部である。（甕Ｄ類）1049、1050は中世土師質土器の鉢で1049は口縁部で擂り目は確認できなく、1050は体部で６条の擂り目がある。1051～1058、1072は土師質土器・坏である。1051、1052は底部ヘラ切りと思われる坏Ｇ類である。1072は轆轤成形ではなく、やや白っぽい色を呈している。







第197図　Ⅱ区不明遺構１出土遺物（1037はＳ＝1/4、1038はＳ＝1/3）

1059は器種不明の口縁部で黒っぽい色調を呈している。1060～1068は土師質土器の皿である。1060～1066は皿Ⅰ類である。1067、1068は皿Ⅲ類である。1069は土師質の高台付坏、1070は柱状高台、1071は土師質で、内面が黒色の土器である。1073は製塩土器である。

（３）第１遺構面の遺構と遺物

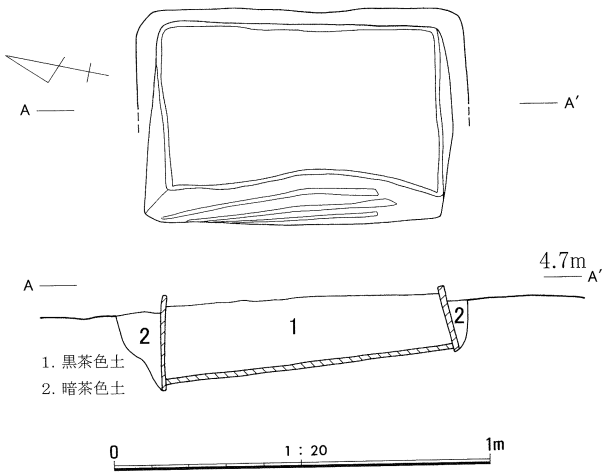
土坑７（第205図）

調査区の南東に位置し、平面楕円形で手鏡の柄状に南東に広がる、断面椀状の石組みの土坑である。長軸約4.5ｍ、短軸約4.0ｍ、深さ約1.0ｍを測る。土坑の側面は直径約10～50㎝の自然石で組まれている。土坑の南側部分は石組みが崩れ内側に一部崩落しているが、北側部分は原位置を保っていると思われる。土坑の底には石組みは検出しなかった。また手鏡の柄状になっている南東

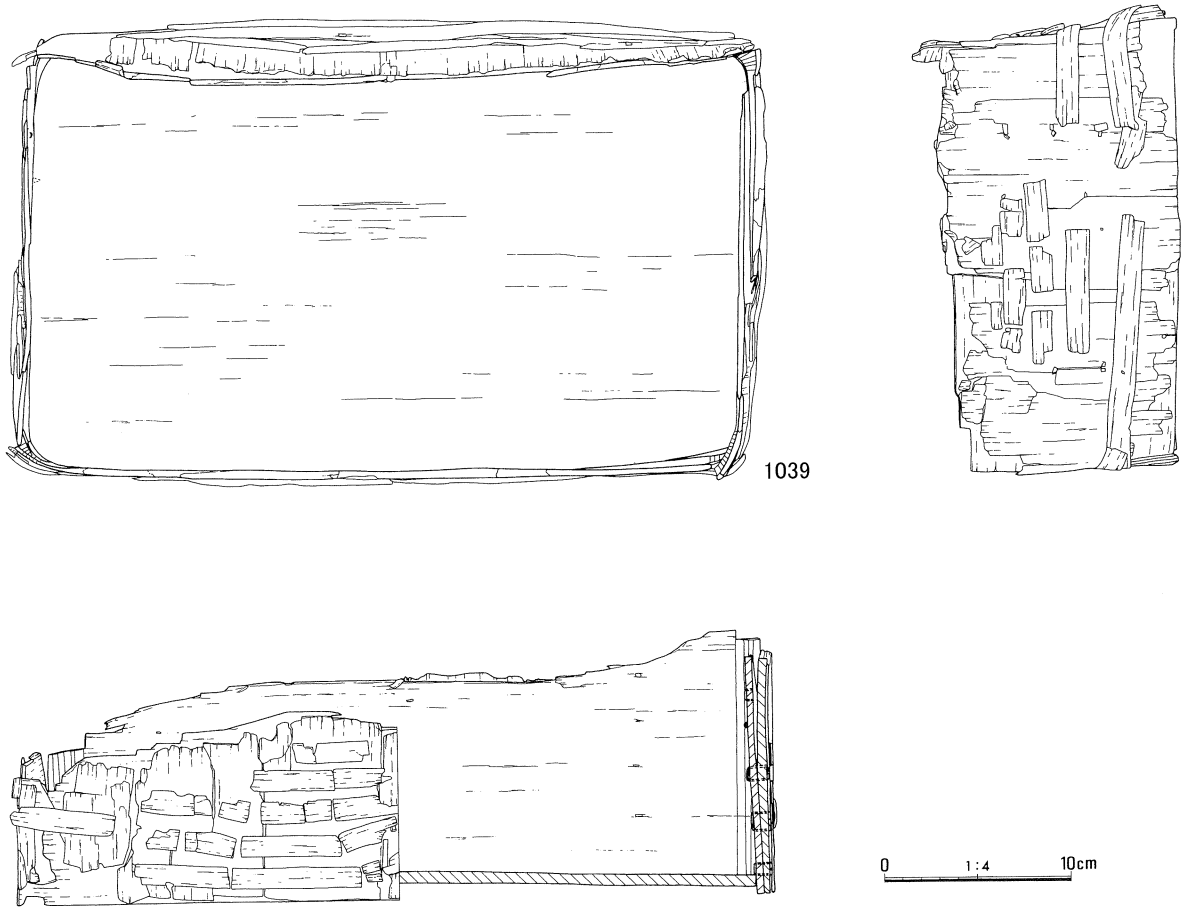
第145表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
1037		182上	不明遺構1		曲物	直径43.0×42.9			(16.7)		

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1038	463	－	不明遺構１		須恵器	甕					内：同心円タタキ 外：格子目タタキ	密	内：青灰色(5P B5/1) 外：青灰色(5P B5/1)	



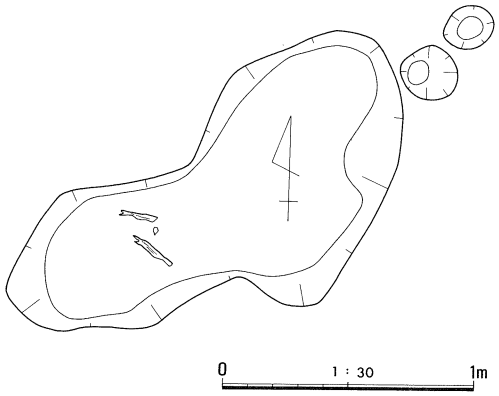
第198図　Ⅱ区不明遺構2（S＝1/10）



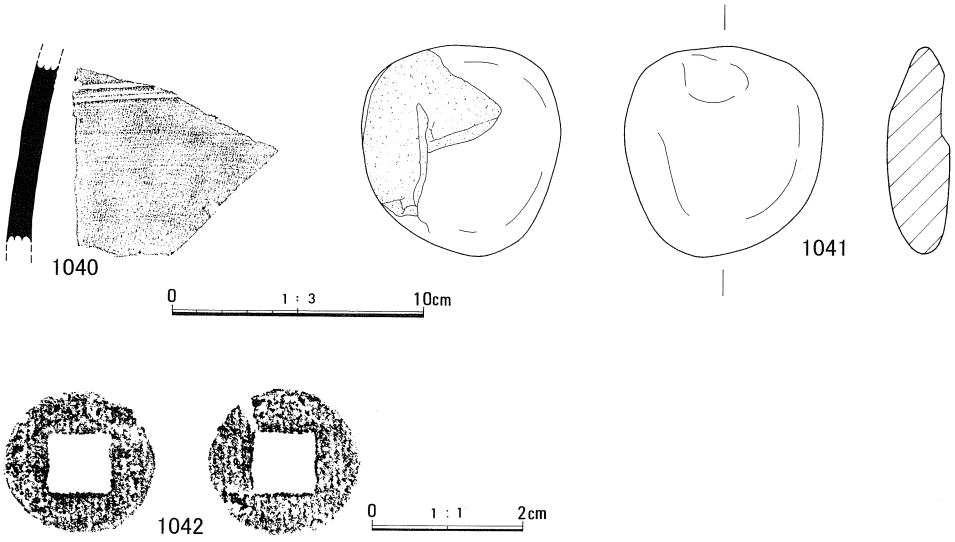
第199図　Ⅱ区不明遺構2出土遺物（S＝1/4）

第146表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
1039		182下	不明遺構2		箱状木製品	40.2	24.9		(15.0)		



第200図　Ⅱ区不明遺構３（Ｓ＝1/30）



第201図　Ⅱ区不明遺構３出土遺物（Ｓ＝1/3、1042はＳ＝1/1）

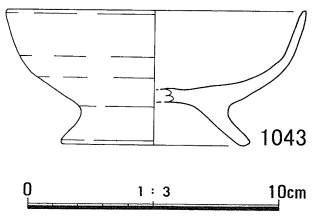
第147表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1040	547	180中	不明 遺構３		須恵器	甕				外面頸部　3条の沈線	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英を含む	内：灰色(10Y4/1) 外：灰色(10Y4/1)	混入の可能性あり

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1041	548	180中	不明遺構3		不明	8.48	7.92	2.62	239.29	

挿図番号	古銭番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	名称	寸法(cm) a	b	c	d	e	f	厚さ	重量 (g)	初鋳年代	備考
1042	C43	180中	不明遺構 3拡張区	16	無文銭？	2.0	1.92	－	－	0.81	0.86	0.08	0.77		風化著しい

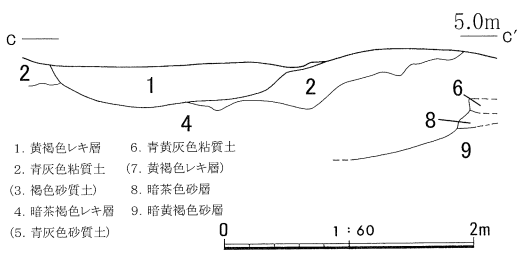
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1043	50	－	不明 遺構４		土師質土器	高台付坏	(12.0)	(8.5)	5.4		内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、黒雲母、石英を含む	内：浅黄橙色(7.5Y R8/4) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/4)	反転実測



第202図　Ⅱ区不明遺構４出土遺物（Ｓ＝1/3）

側部分は石組みでできた幅約1.0ｍ、深さ約40㎝の溝状になっており、土坑と溝部分の接合部付近で溝状部分と直行する状態で第207～210図の板材を確認している。杭で固定されていたようで、この土坑の入水もしくは排水の施設の部材と考えられる。

出土遺物は第206～210図のとおりである。第206図の1074、



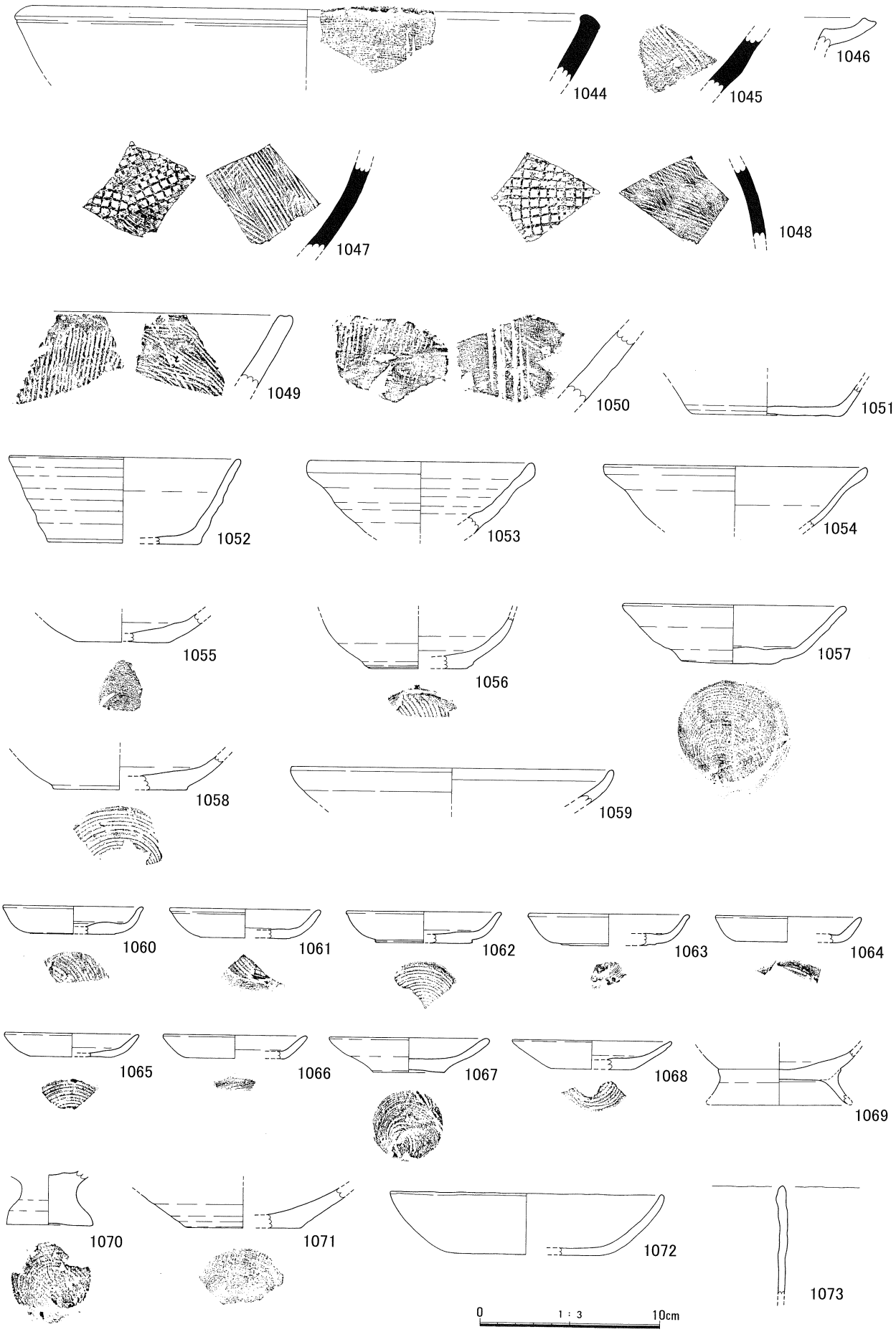
第203図　Ⅱ区自然河道１（Ｓ＝1/60）

1075は白磁の椀である。1076は瓷器系陶器・甕または壷の底部である。1077は中世須恵器の甕・底部で甕Ａ類である。1078は瓦質土器の鍋・口縁部である。1079は柱状高台で、石組みの後ろから出土している。1080は土師質土器の坏・底部である。1081～1083は土師質土器の皿で皿Ⅳ類である。1084～1087は石製品で1084は碁石状の白色の平玉である。1085～1087は砥石である。1088は釘状鉄製品である。1089～1092は不明木製品である。1093～1095は古銭である。第207図の1096は板材で、平面にあいている直径約１㎝の穴から1097の釘が検出された。1098～1100の板材についても、板の平面にあいている穴を確認することができるが人為的な物か腐朽によるものかは分からない。

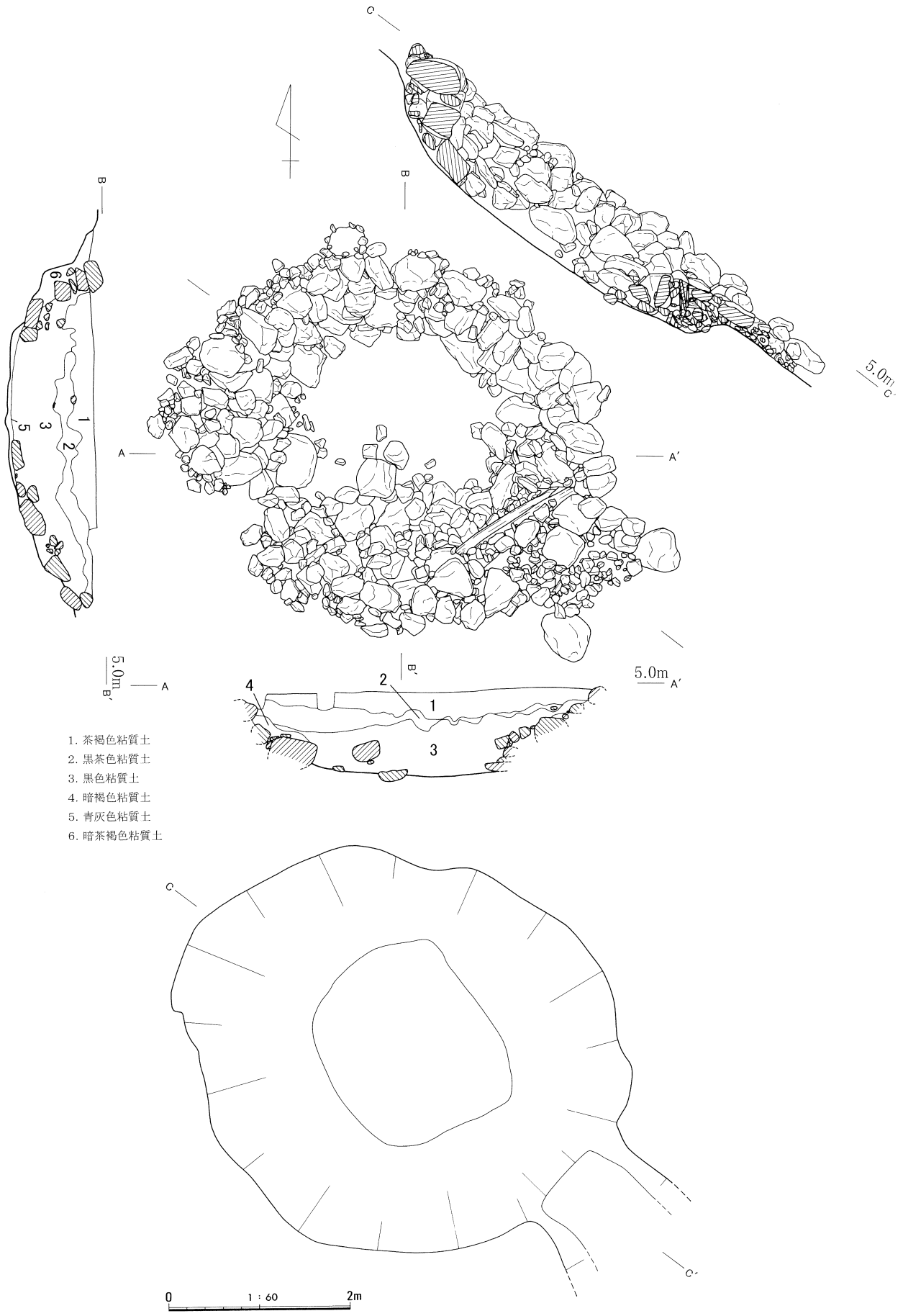
第148表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1044	74	181上	自然河道１		中世須恵器	擂鉢	(30.8)			鉢Ｅ類	内：回転ナデ、カキ目 外：回転ナデ、ハケ目	径1～5㎜の砂粒うを含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰色(5Y6/1)	反転実測
1045	126	181上	自然河道１	レキ	中世須恵器	擂鉢					内：ハケ目 外：	密	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
1046	80	181上	自然河道１	レキ	瓦質土器	鍋						密　きめ細かい	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：黒色(N2/)	瓦質
1047	127	181上	自然河道１	レキ	中世須恵器	甕				甕Ｄ類	内：ハケ目 外：格子目タタキ、ハケ目	密	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：暗灰色(N3/)～灰白色(5Y7/2)	
1048	128	181上	自然河道１	レキ	中世須恵器	甕				甕Ｄ類	内：ハケ目、指頭圧痕 外：格子目タタキ	密	内：灰色(5N5/) 外：暗灰色(N3/)	
1049	81	181上	自然河道１		土師質土器	鉢	(30.9)				内：ナデ、ハケ目 外：ナデ、ハケ目	密　微粒子の石英、黄黄色粒子を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測
1050	125	181上	自然河道１	レキ	土師質土器	擂鉢					内：ハケ目後ナデ？ 外：ナデ、ハケ目	径1㎜前後の石英を含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	
1051	70	181下	自然河道１	レキ	土師質土器	坏		(8.2)		坏Ｖ´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ ヘラ切り後ナデ	密　きめ細かい微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：浅黄橙色(10Y R8/3) 外：浅黄橙色(10Y R8/3)	反転実測
1052	76	181下	自然河道１		土師質土器	坏	(13.0)	(8.4)	4.8	坏Ｖ´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り？	密　きめ細かい微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測 磨耗が激しい
1053	123	181下	自然河道１		土師質土器	坏	(12.4)			口縁部　肥厚	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測
1054	122	181下	自然河道１※		土師質土器	坏	(14.8)			口縁部　肥厚	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/3)	反転実測
1055	120	181下	自然河道１※		土師質土器	坏		(5.4)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を多く含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R6/4)	反転実測
1056	117	181下	自然河道１		土師質土器	坏		(6.0)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/6)	反転実測
1057	124	180下	自然河道１	レキ	土師質土器	坏	(12.5)	5.4	5.3		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を含む	内：橙色(5Y R7/6) 外：褐灰」色(7.5Y R6/1)	一部反転実測
1058	118	181下	自然河道１※		土師質土器	坏		(7.5)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(5Y R7/6) 外：橙色(5Y R7/6)	反転実測
1059	73	181下	自然河道１		土師質土器？	坏？	(18.0)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：褐灰色(10Y R5/1) 内：黒色(2.5Y R2/1)	反転実測
1060	110	181下	自然河道１※		土師質土器	Ⅲ	(7.9)	(4.7)	1.6		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を含む	内：浅黄橙色(7.5Y R8/6) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/6)	反転実測
1061	111	181下	自然河道１		土師質土器	Ⅲ	(8.4)	(5.0)	1.6	Ⅲ１類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を含む	内：浅黄橙色(7.5Y R8/6) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/6)	反転実測
1062	112	181下	自然河道１※		土師質土器	Ⅲ	(8.7)	(5.4)	1.7	Ⅲ１類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(7.5Y R7/4)	反転実測 1063と同一個体の可能性大
1063	113	181下	自然河道１		土師質土器	Ⅲ	(9.0)	(5.2)	1.7	Ⅲ１類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4) 外：鈍い橙色(5Y R7/4)	反転実測 1062と同一個体の可能性大
1064	114	181下	自然河道１※		土師質土器	Ⅲ	(8.2)	(6.0)	1.4	Ⅲ１類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：橙色(2.5Y R6/6) 外：橙色(2.5Y R6/6)	反転実測
1065	115	181下	自然河道１		土師質土器	Ⅲ	(10.6)	(7.6)	1.3	Ⅲ１類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(5Y R7/6) 外：橙色(5Y R7/6)	反転実測
1066	116	181下	自然河道１		土師質土器	Ⅲ	(9.0)	(5.3)	1.3	Ⅲ１類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：橙色(7.5Y R7/6) 外：橙色(7.5Y R7/6)	反転実測
1067	72	181下	自然河道１		土師質土器	Ⅲ	(9.0)	(4.0)	1.9	Ⅲ３類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を含む	内：鈍い橙色(10Y R7/2) 外：灰黄褐色(10Y R6/2)	反転実測
1068	71	181下	自然河道１		土師質土器	Ⅲ	(8.9)	(4.4)	1.6	Ⅲ３類　底部　穿孔？赤彩？	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(7.5Y R7/6) 内赤彩：明赤褐色(2.5Y R5/6) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/6) 外赤彩：明赤褐色(2.5Y R5/6)	反転実測
1069	129	181下	自然河道１		土師質土器	高台付坏					内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(10Y R7/2) 外：鈍い橙色(10Y R7/2)	反転実測
1070	75	181下	自然河道１		土師質土器	柱状高台		4.8			外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石を含む	内：浅黄橙色(10Y R8/4) 外：浅黄橙色(10Y R8/4)	
1071	119	181下	自然河道１		土師質土器	坏		(6.4)		内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母を含む	内：黒色(2.5Y2/1) 外：鈍い橙色(5Y R7/4)	反転実測
1072	121	181下	自然河道１※		土師質土器	坏	(15.2)	(8.0)	3.4	轆轤成形・轆轤調整ではないと思われる	内：ナデ 外：ナデ	密　きめ細かい	内：灰白色(10Y R8/2) 外：鈍い橙色(10Y R7/2)	反転実測
1073	78	181下	自然河道１		製塩土器	－					内：ナデ 外：不明	密　きめ細かい微粒子の石英を含む	内：浅黄橙色(7.5Y R8/6) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/6)	

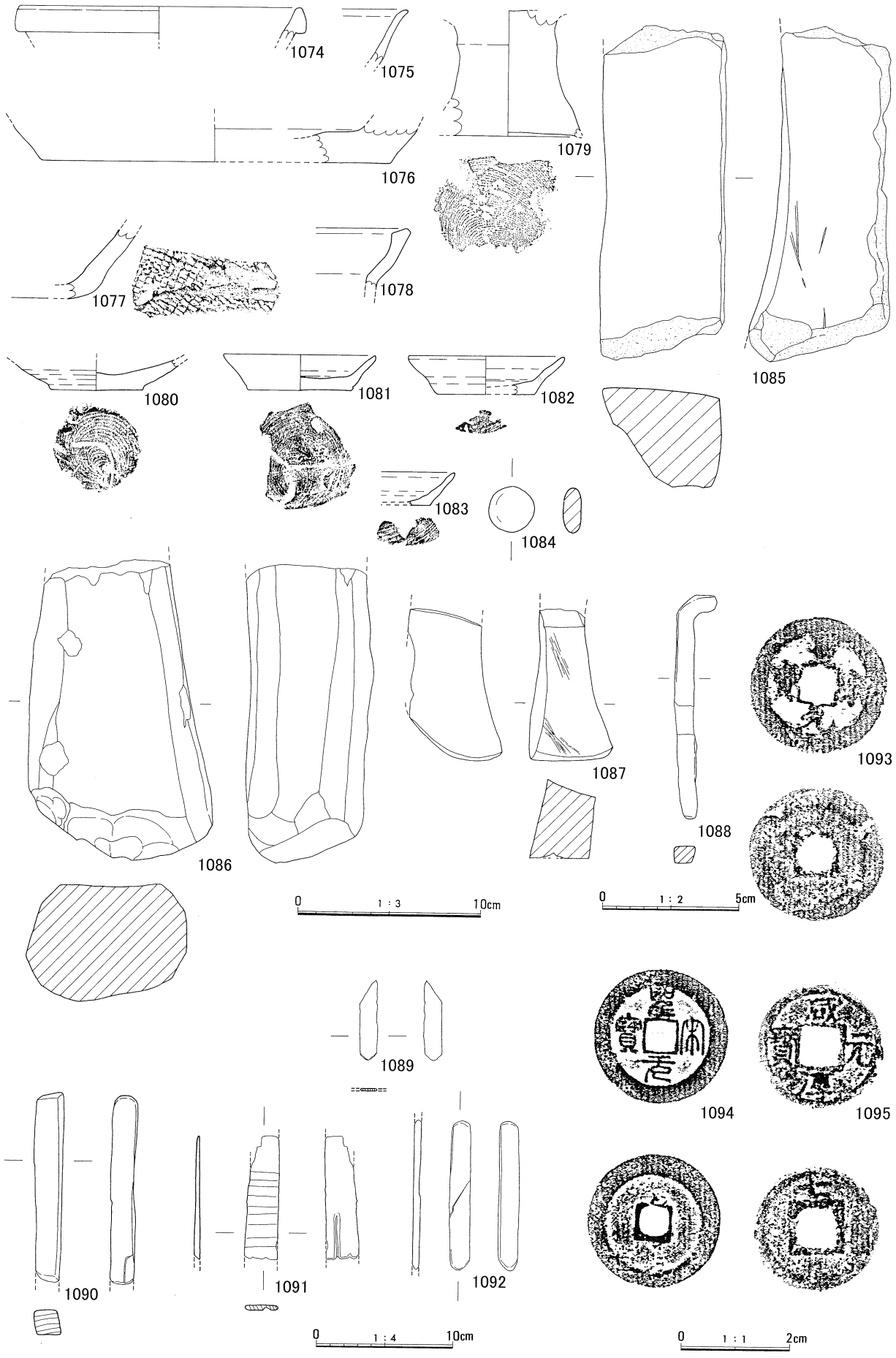
※掘り過ぎの部分の可能性あり



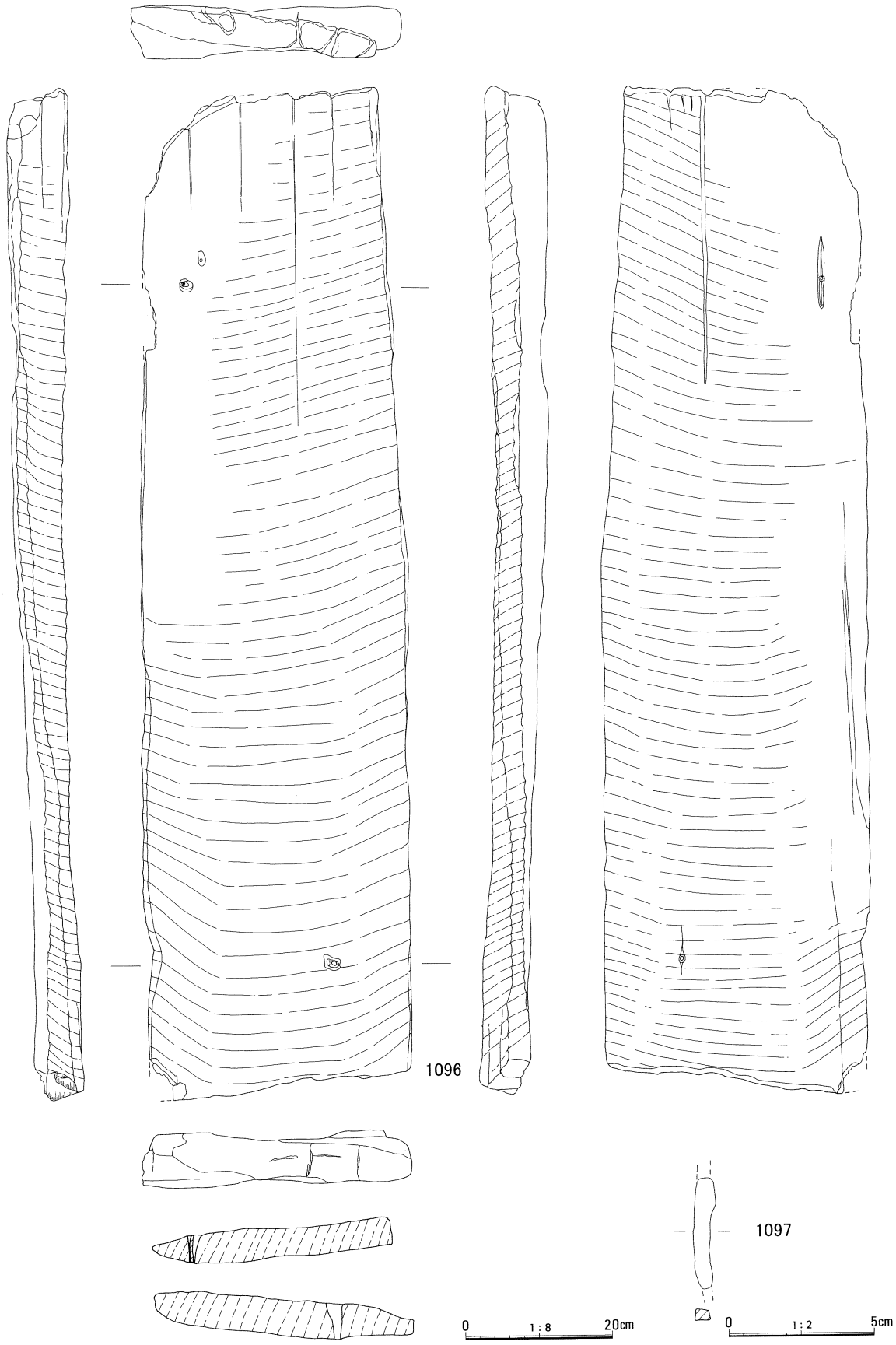
第204図　Ⅱ区自然河道１出土遺物（Ｓ＝1/3）



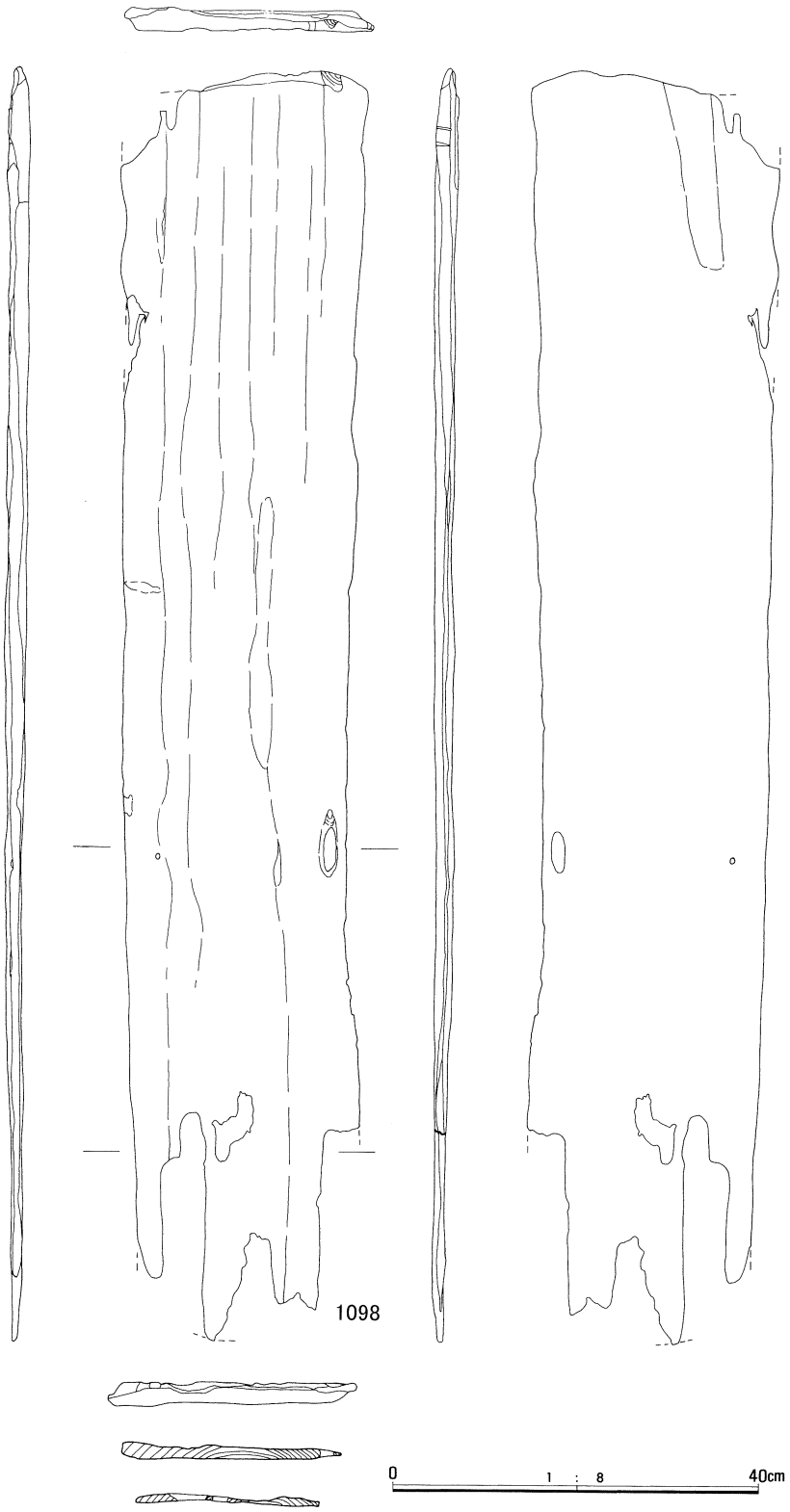
第205図　Ⅱ区土坑７（Ｓ＝1/60）



第206図　Ⅱ区土坑７出土遺物①（S＝1/3、1088はS＝1/2、1089～1092はS＝1/4、1093～1095はS＝1/1）



第207図　Ⅱ区土坑7出土遺物②（1096はS＝1/8、1097はS＝1/2）



第208図　Ⅱ区土坑７出土遺物③（Ｓ＝1/8）

溝状遺構１、２石列１（第211図）

溝状遺構１、２及び石列１は調査区の東に位置する。溝状遺構１は幅約1.0ｍ、深さ約20㎝で、調査区北から南東へ緩やかに曲線を描くように検出した。検出面は近世初めの遺物包含層の上面である。

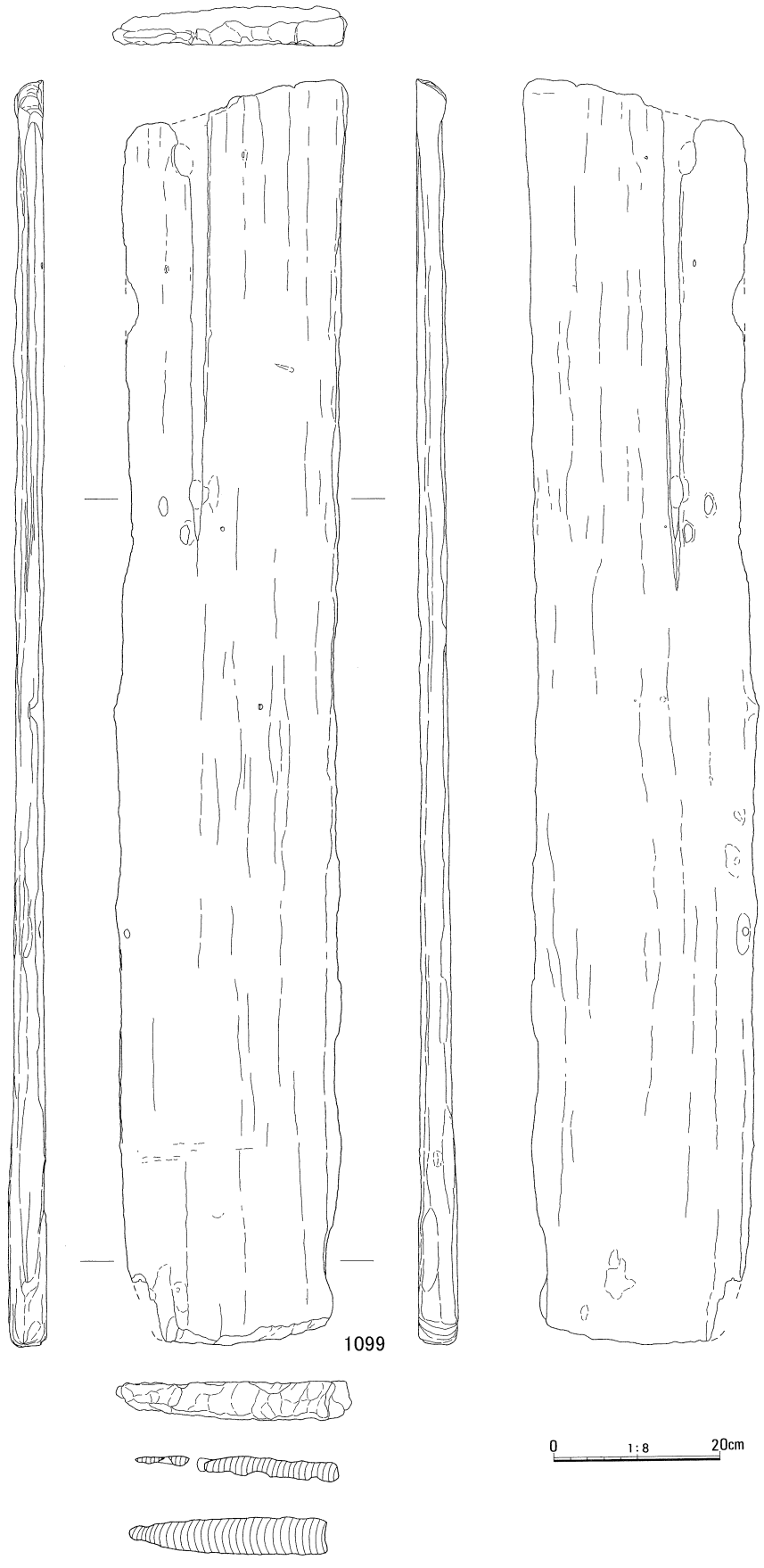
出土遺物は第213図のとおりで、1101は白磁の椀Ⅳ類、1102、1103、土師質土器・坏または皿の底部である。1104は古銭である。

溝状遺構２は幅約60～80㎝、深さ約10㎝で、調査区北から南東へやや直線的に検出した。調査区北側ではほぼ溝状遺構１と重なっており、南に下るに従って溝状遺構１からやや西にずれるように確認した。検出面は中世の包含層の上面である。（第211図土層図の網掛け部分はそれぞれ溝状遺構１、２をあらわす。）

出土遺物は第214図のとおりで、1105は中世須恵器で羽釜の口縁部と思われる。1106～1108は土師質土器・坏または皿の底部である。

第149表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1074	92	183	土坑7	1	白磁	椀	(15.3)			椀Ⅳ類（C期）		密　きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内：灰白色(7.5Y7/1) 外：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
1075	84	183	土坑7 トレンチ		白磁	椀				椀Ⅴ－2類または Ⅵ類またはⅦ類		灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(5Y7/1) 外釉：灰白色(5Y7/1)	
1076	20	183	土坑7		瓷器系陶器	甕又は壷		(19.0)				径1㎜～2㎜の白色粒子を多く含む	内：灰赤色(2.5YR4/2) 外：鈍い赤褐色(2.5YR4/2)	反転実測
1077	67	183	土坑7		中世須恵器	甕				甕Ａ類	内：ナデ 外：格子目タタキ	径1㎜～3㎜の砂粒を含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	
1078	461	183	土坑7		瓦質土器	鍋					内：ハケ目 外：ハケ目	密　微粒子の金雲母をわずかに含む	内：浅き色(2.5Y7/3) 外：黄灰色(2.5Y4/1)	
1079	22	183	土坑7		土師質土器	柱状高台		(8.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	
1080	25	183	土坑7	4－②	土師質土器	坏		5.0		内面底部黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　きめ細かい微粒子の金雲母、黒雲母を多く含む	内：黒褐色(10YR3/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
1081	28	183	土坑7		土師質土器	Ⅲ	(8.4)	5.7	2.0	ⅢⅣ類　内面底部及び外面の一部に黒茶色の物質付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　きめ細かい　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	反転実測
1082	13	183	土坑7	2	土師質土器	Ⅲ	(8.5)	(5.7)	2.1	ⅢⅣ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　きめ細かい　微粒子の金雲母を含む含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰白色(2.5Y8/1)	反転実測
1083	14	183	土坑7	2	土師質土器	Ⅲ	(9.4)	(6.8)	2.8	ⅢⅣ類　内面　煤付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　きめ細かい　微粒子の金雲母を含む含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：浅黄橙色(7.5YR8/4)	反転実測



第209図　Ⅱ区土坑7出土遺物④（S＝1/8）

第210図　Ⅱ区土坑７出土遺物⑤（Ｓ＝1/8）

石列１は溝状遺構の西に直径約10～50㎝の自然石を、長さ約5.0ｍ、幅約1.0ｍの範囲に敷き詰められたような状態で検出した。調査区の北側でしか確認できなかったが、第211図の平面図の網掛け部分には石列１と同じ様な自然石がまとまって広がっており、二次的に東に流れたことも想像できる。石列１がどのように機能していたかは不明である。

出土遺物は第215図のとおりで石の間から1109を確認している。1109は中世須恵器の甕である。（甕Ｄ類）

石列２（第212図）

調査区の中央北寄りに位置し、北から加工段状に３段になっている２段目の南端で検出した。長さ約20～30㎝の平らな自然石を用い加工段状部分と斜面部分のぶつかる線上に配されている。

また第212図下の土層図は、石列２を検出した加工段状の２段目の一部が岬状に下段に向かって（南方向）飛び出した部分の土層を観察したもので、第２遺構面である青灰色粘質土層（第３層）

第150表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1084	460	183	土坑7		平玉	2.50	2.41	0.93	9.17	
1085	546	183	土坑7石組		砥石	18.0	6.76	7.70	1139.73	
1086	556	183	土坑7		砥石	16.3	9.95	6.19	1600.75	花崗岩？7面の研面
1087	554	183	土坑7石組		砥石	7.76	4.47	4.43	187.42	4面の研面

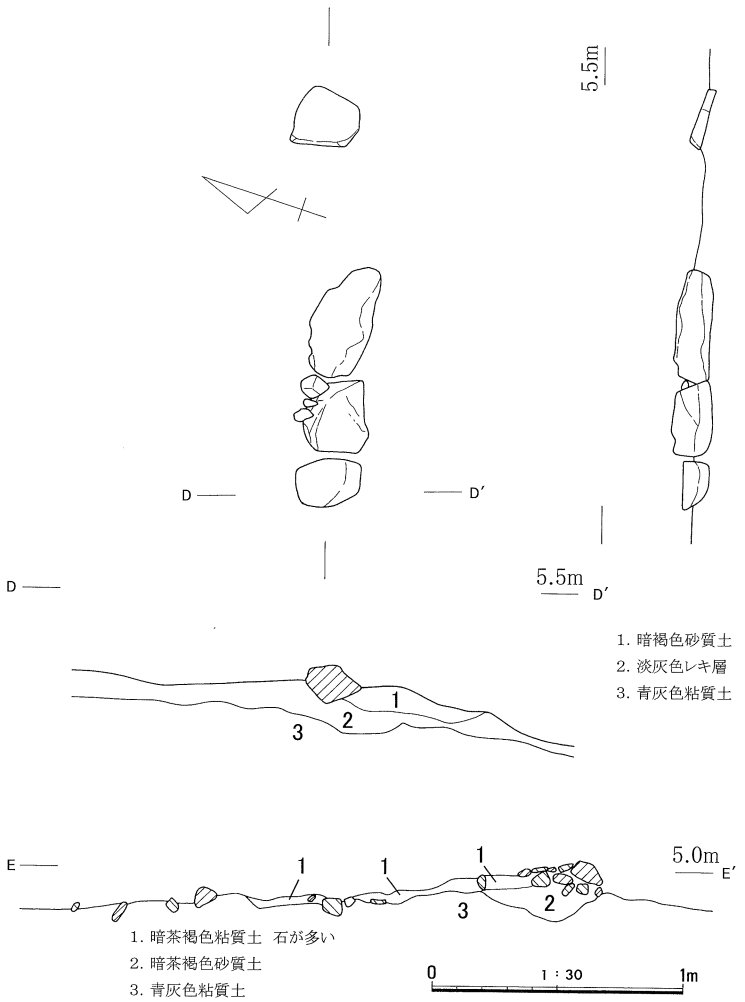
挿図番号	古銭番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	名称	寸法(cm) a	b	c	d	e	f	厚さ	重量 (g)	初鋳年代	備考
1093	C42	183	土坑7		皇宋元寶？	2.48	2.45	1.95	1.95	0.69	0.74	0.12	3.33	(北宋)1101？	行書
1094	C36	183	土坑7		聖宋元寶	2.44	2.43	1.87	1.8	0.57	0.58	0.14	3.56	(北宋)1101	篆書
1095	C44	183	土坑7		咸淳元寶	2.25	2.26	2.03	2	0.72	0.72	0.12	2.64	(南宋)1265	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	寸法(cm) 長さ	幅	厚さ	形態・文様の特徴	備考
1088	F82	183上	土坑7	1	釘	(8.1)	(0.9)	(0.6)		
1097	F99	184上	土坑7		釘	(3.8)	(0.5)	(0.4)		板状木製品1096の平面に打ち込んであったもの

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
1089	88－①	－	土坑7水口付近内側		不明	(5.9)	(1.3)	0.15			1092と同一個体
1090	88－③	－	土坑7水口付近内側		不明	(13.7)	(1.8)	(1.6)			
1091	88－②	183上	土坑7水口付近内側		不明	(9.1)	(2.4)	0.4			
1092	87	－	土坑7水口付近内側		不明	(10.9)	(1.3)	0.5			1089と同一個体
1096	W－②	184	土坑7		板状木製品	(137.0)	(36.8)	(4.6)			
1098	W－③	184	土坑7		板状木製品	(138.2)	(24.5)	(2.5)			
1099	W－①	184	土坑7		板状木製品	(150.4)	(27.1)	(3.5)			
1100	W－④	184	土坑7		板状木製品	(73.5)	(10.0)	(1.7)			

第211図　Ⅱ区溝状遺構１、２・石列1（S＝1/60）

上にレキを多く含む暗茶褐色粘質土（第１層）が展開しておりこの上面が第１遺構面となっている。ただ第１層及び第２層は人為的なものかどうかは分からない。



第212図　Ⅱ区石列２（Ｓ＝1/30）

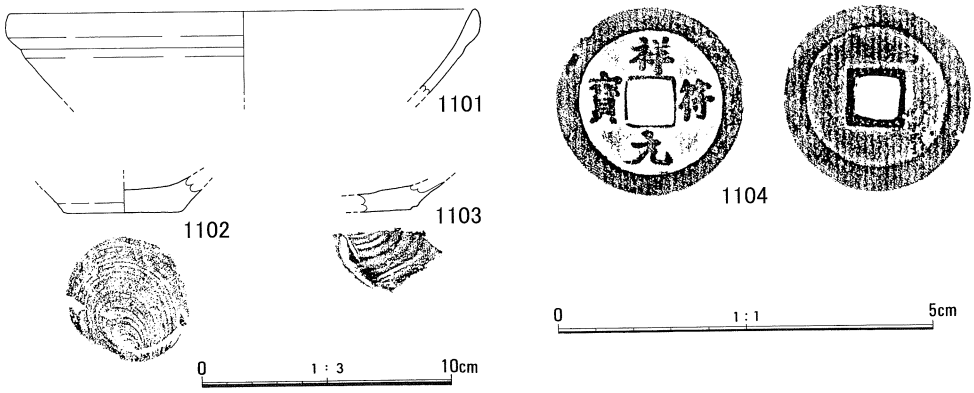
第151表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1101	90	－	溝状遺構１		白磁	椀				椀Ⅳ－２ａｃ類（Ｃ期）		密　きめ細かい 灰白色	内釉：灰白色 外釉：灰白色	
1102	49	185	溝状遺構１	4	土師質土器	坏		4.4			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	一部反転実測
1103	48	185	溝状遺構１		土師質土器	坏		6.6			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：鈍い橙色(10YR7/3) 外：鈍い橙色(10YR7/4)	反転実測

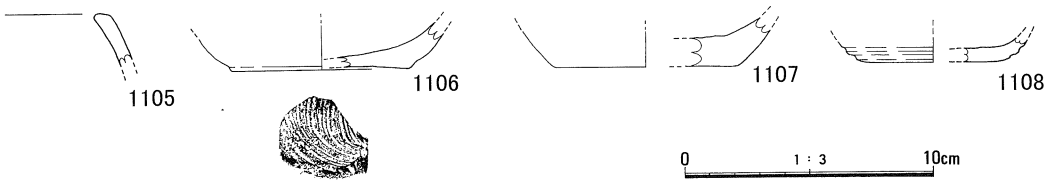
挿図番号	古銭番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	名称	寸法(cm) a	b	c	d	e	f	厚さ	重量(g)	初鋳年代	備考
1104	C06	185	溝状遺構1トレンチD拡張区		祥符元寶	2.53	2.53	1.95	1.95	0.60	0.62	0.11	3.37	(北宋)1009	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1105	60	185	溝状遺構２	青灰砂質土	中世須恵器	羽釜	(29.7)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英を含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	
1106	64	185	(溝状遺構2)		土師質土器	坏		(7.2)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石を含む	内：灰黄褐色(10YR6/2) 外：灰黄褐色(10YR6/2)	反転実測
1107	66	185	溝状遺構２		土師質土器	坏		(7.2)			内：回転ナデ 外：不明	微粒子の黒雲母、石英を含む 径1~2㎜の黒褐色粒子を含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測 磨耗が激しい
1108	59	185	溝状遺構２		土師質土器	坏？		(5.2)			内：不明 外：不明	径１㎜弱の赤色粒子を含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	反転実測 磨耗が激しい

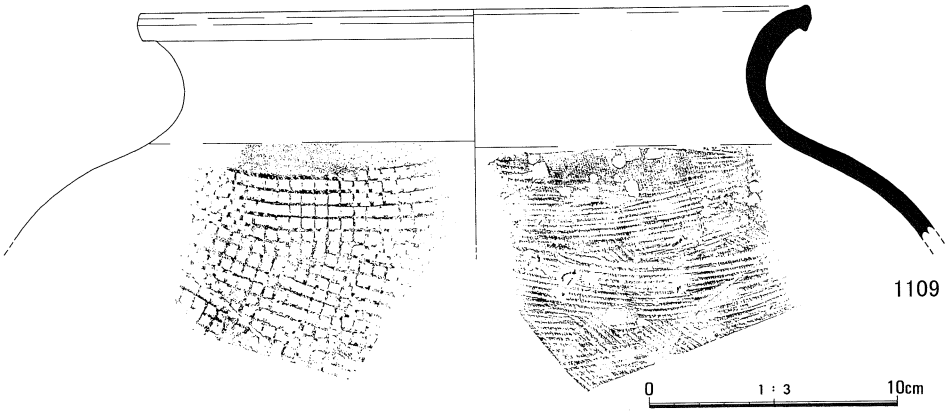
挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1109	77	185	石列１		中世須恵器	甕	(23.9)			甕Ｄ類	内：ナデ、ハケ目 外：ナデ、ハケ目、格子目タタキ	密　きめ細かい 灰白色(2.5Y8/1)	内：黒色(7.5Y2/1) 外：黒色(2.5Y2/1)	反転実測



第213図　Ⅱ区溝状遺構１出土遺物（Ｓ＝1/3、1104はＳ＝1/1）



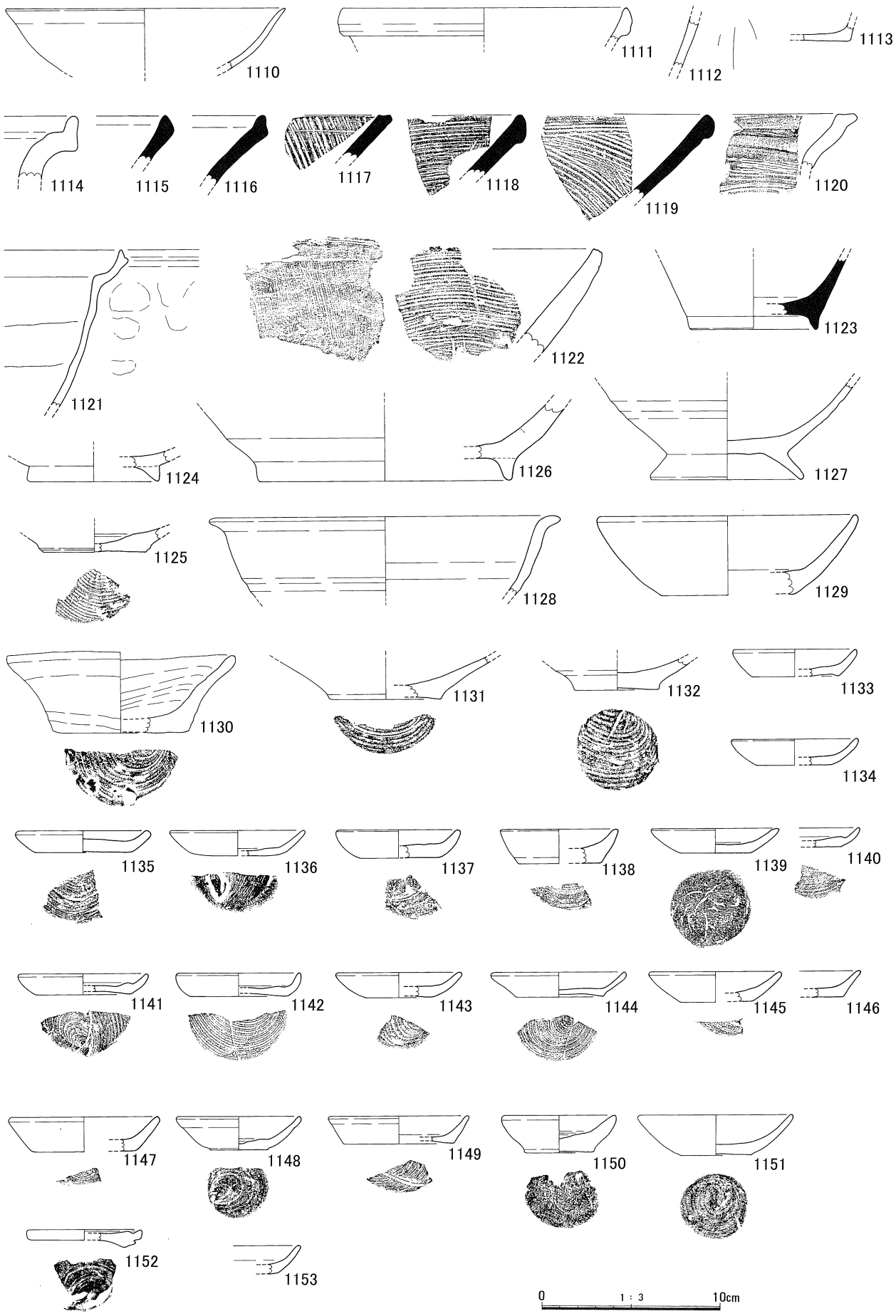
第214図　Ⅱ区溝状遺構２出土遺物（Ｓ＝1/3）



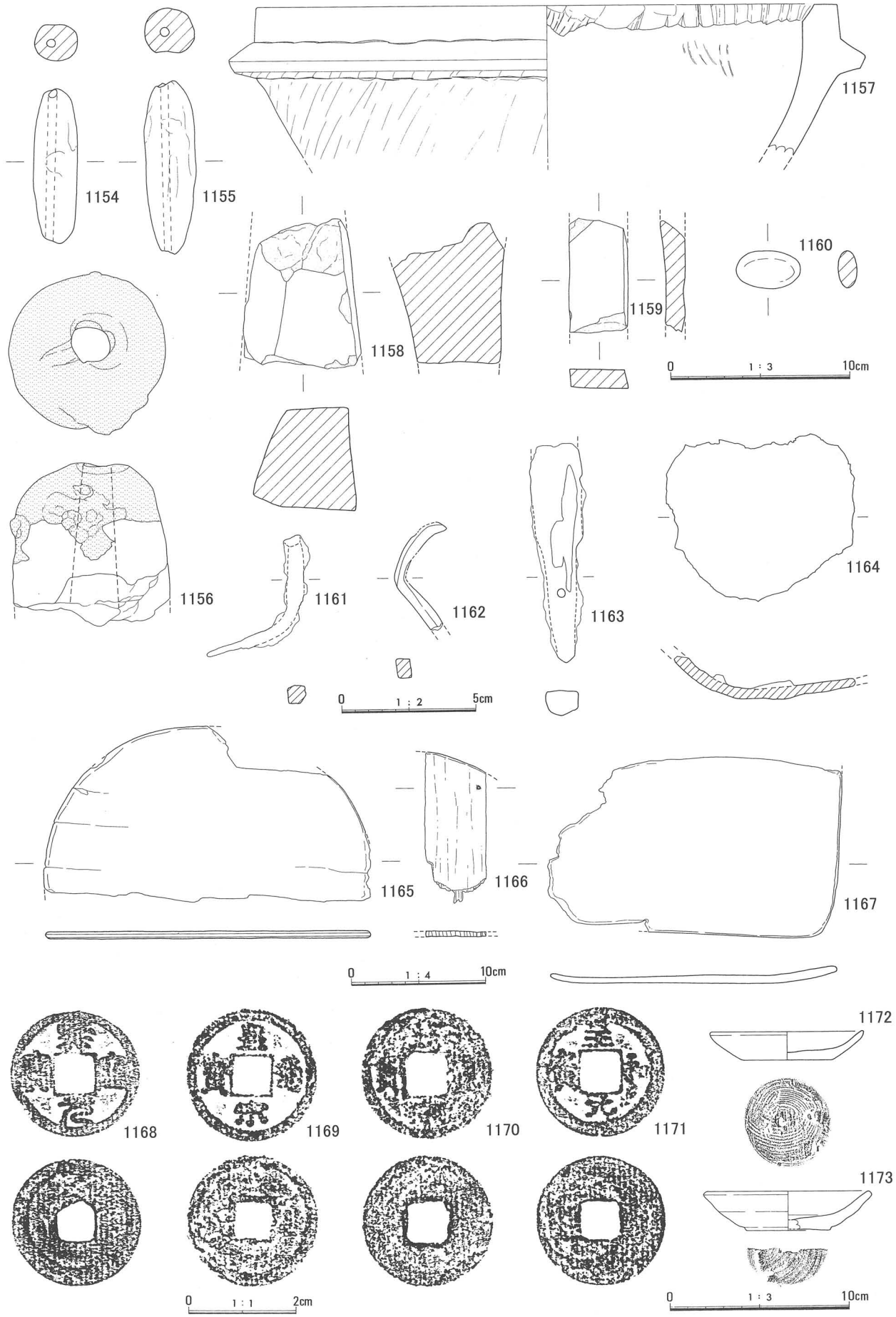
第215図　Ⅱ区石列１出土遺物（Ｓ＝1/3）

（４）柱穴出土遺物（第216図、第217図）

1110～1113は輸入陶磁である。1110は白磁椀で内面に白堆線が確認できる。1111は白磁椀Ⅳ類である。1112は龍泉窯系青磁の椀・体部で、鎬連弁文が施されている。1113は中国陶器の壷類・Ｃ群である。1114は瓷器系陶器・甕または壷の口縁部と思われる。1115～1119は中世須恵器・鉢口縁部である。1115は内面擂り目、ハケ目等は施されていない。（鉢Ａ－５類）1116は口縁端部に縁または段のつかない鉢Ｘ類、1118、1119は口縁端部が玉縁状になっている鉢Ｚ類である。1120は土師質土器に近い焼成の鍋の口縁部、1121は瓦質土器・鍋の口縁部である。1122は種別不明・器種不明で



第216図　Ⅱ区柱穴出土遺物①（S＝1/3）



第217図　Ⅱ区柱穴出土遺物②（S＝1/3、1161～1164はS＝1/2、1165～1167はS＝1/4、1168～1171はS＝1/1）

ある。色調は白っぽく土師質土器に近いが断面を観察すると中央部は黒色である。焼成は良好である。外面は口縁端部に粘土接合部分が残っており、また縦にハケ目が施されている。内面は中世須恵器同様な横へのハケ目が確認できる。口縁端部は面取りしてありハケ目と思われる調整痕が残っている。1123は須恵器・高台付きの坏の底部である。1124、1125は土師質土器でともに内面がやや黒色である。1124は高台付坏、1125は坏の底部と思われる。1126は土師質土器で器種は不明である。体部外面の底部付近はヘラケズリ調整が施されている。内面は炭化して黒色になっており、一部断面部分も炭化して黒色になっている。粘土紐成形、轆轤調整と思われる。1127は土師質土器の高台付坏である。1128は土師質土器の坏・口縁部と思われる。1129～1132は土師質土器の坏である。1130は坏Ⅳ類である。1133～1153は土師質土器の皿である。1133～1142は皿Ⅰ類である。1143～1145は皿Ⅱ類である。1146、1149は皿Ⅳ類である。1147、1148は皿Ⅲ類である。

1154、1155は土錘である。1156は鞴の羽口と思われる。先端部分はガラス質部分が溶けて固まった様である。（図面網掛け部分）1157は滑石製の石鍋である。全体的に黒色であるが、外面鍔より下方は特に煤けて黒色である。口縁部内面など2次的に削られている部分がある。1158、1159は砥石である。1160は石製品である。色は白色と灰色がややまだらになっている。1161～1164は金属製品である。1161は釘状鉄製品、1162はたが状鉄製品、1163は刀子状の鉄製品の中茎部分と思われる。1164は鋳造鉄製品で鍋と思われる。1165～1167は木製品である。1168～1171は古銭である。1172、1173はⅡB区出土の土師質土器・皿でともに皿Ⅲ類である。

第152表　Ⅱ区遺物観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1110	343	186	P820		白磁	椀	(15.8)			椀Ⅱ－3類またはⅡ－4類　内面に白堆線あり		やや砂粒がある 密 微細な黒色粒子を含む 灰白色(2.5Y8/1)	内釉：灰白色(2.5Y8/2) 外釉：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
1111	307	186	Q216		白磁	椀	(16.0)			椀Ⅳ類(C期)		密　灰白色(7.5Y8/1)	内釉：灰白色(2.5GY8/1) 外釉：灰白色(2.5GY8/1)	反転実測
1112	306	186	Q296		青磁(龍泉窯系)	椀？				片彫鎬連弁文		密　鈍い橙色(7.5YR7/3)	内釉：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外釉：鈍い黄橙色(10YR6/3)	
1113	334	186	P356		中国陶器	壷類				陶器C群		密	内：鈍い黄褐色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
1114	344	187	P536		瓷器系陶器(常滑)	甕類				全体的に自然釉を帯びている	内：不明 外：不明	所々に白色粒子を含む	内：灰色(10Y6/1) 外：灰色(7.5Y5/1)	
1115	325	187	P200		中世須恵器	鉢				鉢A－5類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密　微粒子の白色粒子を含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/) 外口縁：暗灰色(N3/)	
1116	336	187	P459		須恵器	鉢					内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/) 口縁：灰色(N4/)	
1117	300	187	Q035		須恵器	鉢				鉢X類	内：ハケ目 外：横ナデ？	密　微粒子の石英、黒色粒子を含む	内：灰白色(N8/) 外：灰色(N5/)	
1118	303	187	Q311		須恵器	鉢				鉢Z類	内：ハケ目 外：横ナデ？	密　微粒子の石英を含む	内：灰白色(N8/) 外：暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)	
1119	339	187	P559		須恵器	鉢				鉢Z類	内：ハケ目 外：横ナデ？、ナデ	密　微粒子の石英、黒色粒子を含む	内：灰白色(N7/) 外：青黒色(5B2/1)～オリーブ灰色(2.5GY6/2)	
1120	317	187	P076		中世土師器	鍋					内：ハケ目、ハケ目後ナデ 外：横ナデ？	径1mm前後の長石、微粒子の金雲母、石英を含む	内：明褐灰色(5YR7/2) 外：明褐灰色(5YR7/2)	
1121	340	187	P647		瓦質土器	鍋					内：横ナデ 外：横ナデ、ナデ、指頭圧痕	密　きめ細かい 灰白色(2.5Y8/1)	内：灰色(N4/) 外：黒色(N1.5/)	外面　煤付着
1122	305	187	Q005		－	－					内：ハケ目　外：ハケ目 口縁端部：2条の沈線(ハケ目？)	微粒子の金雲母、黒雲母、石英を含む　灰色(N 4/)を灰白色(2.5Y 8/2)で覆っている	内：灰白色(2, 5Y8/2) 外灰白色(2.5Y8/2)	
1123	332	187	P315		須恵器	高台付坏		(7.1)		古代	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰白色(2.5GY8/1) 外：灰白色(2.5GY8/1)	反転実測
1124	301	186	Q153		土師質土器	高台付坏		(7.2)		内面黒色	内：不明 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英を少し含む 橙色(5YR6/6)	内：褐灰色(5YR4/6) 外：灰褐色(5YR6/2)	反転実測
1125	316	186	P089		土師質土器	坏		(5.8)		内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密 微粒子の長石、石英、赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(7.5YR5/3) 外：褐灰色(7.5YR5/1)	反転実測
1126	341	186	P647		土師質土器	高台付坏		(14.0)		粘土紐成形・轆轤調整 内面と外面一部炭化	内：不明 外：回転ナデ、ナデ、ヘラ削り？	径3mm前後の長石を多く含む	内：黒色(7.5Y2/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1127	329	186	P210		土師質土器	高台付坏		(8.6)			内：回転ナデ、ナデ？ 外：回転ナデ、ナデ	密　径1mm弱の石英、微粒子の金雲母、黒雲母、石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：灰白色(10YR8/2)	反転実測
1128	310	186	Q489		土師質土器	椀？	(19.0)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	微粒子の金雲母、黒雲母、石英を多く含む	内：褐灰色(10YR6/1) 外：褐灰色(10YR6/1)	反転実測
1129	323	186	P186		土師質土器	椀	(14.6)	(7.6)	4.5		内：回転ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り？	密　微粒子の金雲母、黒雲母を多く含む	内：黄灰色(2, 5Y4/1) 外：黄灰色(2, 5Y4/1)	反転実測
1130	304	186	Q461		土師質土器	坏	(12.7)	(7.6)	4.3	坏Ⅳ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：橙色(5YR6/6) 外：橙色(5YR6/6)	反転実測　かなりの歪み有り

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1131	337	186	P546		土師質土器	Ⅲ		(6.3)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR6/6)	反転実測
1132	314	186	Q391		土師質土器	坏		4.8			内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	
1133	298	—	Q020		土師質土器	Ⅲ	(6.8)	(4.8)	1.5	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ回転糸切り後ナデ?	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	反転実測
1134	308	—	Q901		土師質土器	Ⅲ	(7.0)	(4.2)	1.4	Ⅲ Ⅰ類	内：不明 外：不明	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：鈍い橙色(5YR6/4) 外：褐灰色(7.5YR6/1)	反転実測 風化著しい
1135	318	187	P138		土師質土器	Ⅲ	(7.2)	(5.4)	1.2	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1㎜の長石、微粒子の金雲母、石英を含む	内：灰白色(10YR8/2) 外：灰白色(10YR8/2)	反転実測
1136	309	187	Q781		土師質土器	Ⅲ	(7.4)	(4.8)	1.4	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：鈍い橙色(10YR7/2) 外：鈍い橙色(10YR7/2)	反転実測
1137	320	187	P208		土師質土器	Ⅲ	(6.8)	(4.6)	1.6	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外口縁：淡赤橙色(2.5YR7/3)	反転実測
1138	322	—	P210		土師質土器	Ⅲ	(6.4)	(4.6)	1.9	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を多く含む	内：暗灰黄色(2.5Y5/2) 外：暗灰黄色(2.5Y5/2)	反転実測
1139	319	187	P173		土師質土器	Ⅲ	(7.0)	(4.0)	1.4	Ⅲ Ⅰ類?	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り?	微粒子の金雲母、黒雲母を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1140	321	—	P208		土師質土器	Ⅲ			1.1	Ⅲ Ⅰ類?	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：淡黄色(2.5Y8/3) 外：淡黄色(2.5Y8/3)	
1141	331	187	P324		土師質土器	Ⅲ	(7.2)	(5.3)	1.1	Ⅲ Ⅰ類?	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1142	335	187	P388		土師質土器	Ⅲ	(6.8)	(5.4)	1.3	Ⅲ Ⅰ類?	内：回転ナデ、ナデ? 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
1143	328	—	P223		土師質土器	Ⅲ	(6.9)	(3.8)	1.4	Ⅲ Ⅱ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
1144	330	187	P232		土師質土器	Ⅲ	(7.3)	(5.0)	1.4	Ⅲ Ⅱ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測
1145	327	—	P223		土師質土器	Ⅲ	(7.3)	(4.1)	1.7	Ⅲ Ⅱ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
1146	342	187	P726		土師質土器	Ⅲ			1.5	Ⅲ Ⅳ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色.5YR7/4)	
1147	333	—	P348		土師質土器	Ⅲ	(8.3)	(5.8)	1.9	Ⅲ Ⅲ類	内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(7.5YR7/6) 外：橙色(7.5YR7/6)	反転実測
1148	302	187	Q181		土師質土器	Ⅲ	(6.8)	(3.2)	1.9	Ⅲ Ⅲ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を少し含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
1149	357	187	P223		土師質土器	Ⅲ	(7.8)	(6.2)	1.6	Ⅲ Ⅳ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、長石を含む	内：浅黄色(2.5Y7/3) 外：浅黄色(2.5Y7/3)	反転実測
1150	299	187	Q095		土師質土器	Ⅲ	(6.2)	(3.8)	2.1		内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
1151	338	187	P546		土師質土器	Ⅲ	(8.6)	84.0)	2.3		内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外：浅黄橙色(7.5YR8/4)	反転実測
1152	315	187	Q463		土師質土器	Ⅲ	(6.3)		1.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(2.5Y7/1)	反転実測
1153	324	—	P223		土師質土器	Ⅲ			1.6		内：不明 外：不明	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(5YR6/6) 外：橙色(5YR6/6)	風化著しい

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1154	312	188	Q453		土製品	管状土錘						径1㎜の粒子を含む	黄灰色(2.5Y5/1)	
1155	313	188	Q728		土製品	管状土錘						きめ細かい	黄灰色(2.5Y4/1)	
1156	549	189	Q738		土製品	鞴・羽口							内：明褐色(7.5YR5/6) 外：青灰色(5PB3/1)	
1172	346	188 189	ⅡB区 R18		土師質土器	Ⅲ	8.5	4.9	1.6	Ⅲ Ⅲ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：橙色(5YR6/6) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	
1173	345	188	ⅡB区 I 15側溝		土師質土器	甕	(9.0)	(4.6)	2.2	Ⅲ Ⅲ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を多く含む	内：褐白色(7.5Y6/1) 外：褐白色(7.5Y6/1)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1157	551	189	P607	(18−②)	石鍋(滑石)	口径(32.4)			588.17	反転実測　外面　煤付着　(包含層出土の可能性あり)
1158	296	188	Q20		砥石	8.10	6.32	6.38	438.81	
1159	311	188	Q841		砥石	6.23	3.15	1.27	40.6	
1160	297	188	Q824		平玉?	2.10	3.48	3.0	1122	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	寸法(cm) 長さ	幅	厚さ	形態・文様の特徴	備考
1161	F50	188下	Q393		釘	(5.7)	(0.8)	(0.9)		
1162	F45	188下	Q509			(3.0)	(0.7)	(0.3)		
1163	F39	188下	P204		刀子?	(8.3)	(2.1)	(0.9)	刀子の茎部分に別個体が錆で接合している	
1164	F34	188下	Q148		鍋?	(3.8)	(6.5)	(0.3)		

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
1165	50	189	P645		曲物	直径 24.1	(13.0)	0.6			
1166	125	189	P604		曲物	(21.5)	(13.3)	0.6			
1167	49	189	P187		曲物	(11.3)	(4.5)	0.4			

挿図番号	古銭番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	名称	寸法(cm) a	b	c	d	e	f	厚さ	重量(g)	初鋳年代	備考
1168	C61	188下	P326		熙寧元寶	2.38	2.4	2.04	2.07	0.76	0.72	0.12	3.73	(北宋)1068	篆書
1169	C18	188下	P692	遺構検出面	皇宋通寶	2.52	2.48	2.13	2.12	0.76	0.69	0.17	3.27	(北宋)1038	篆書
1170	C63	188下	P504			2.47	2.45	—	—	0.75	0.77	0.14	2.9		風化著しい
1171	C58	188下	P567		至和元寶	2.43	2.4	1.98	1.95	0.76	0.77	0.12	3.6	(北宋)1054	真書

（5）包含層の遺物

弥生土器

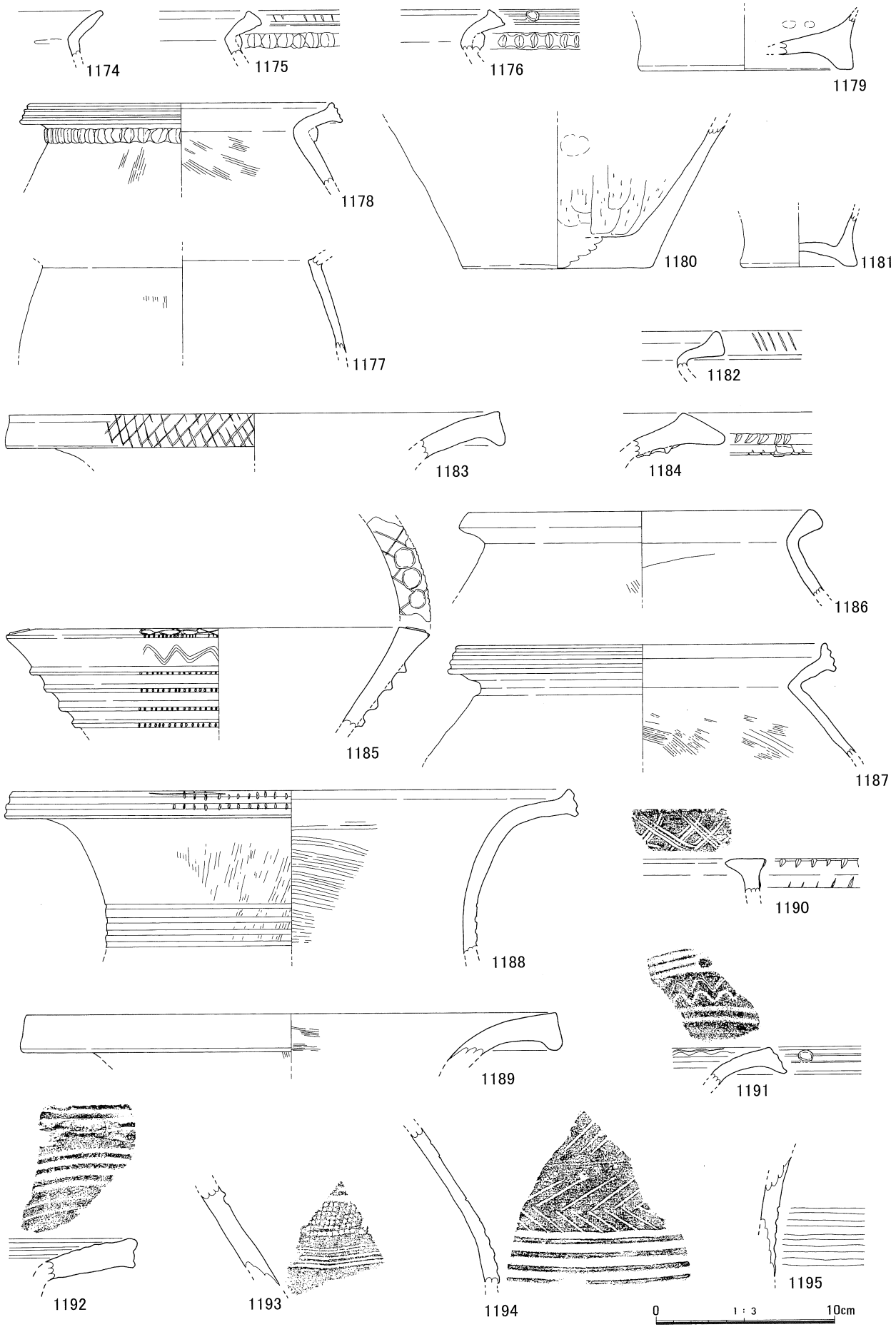
第218図、第219図は弥生土器である。

1174～1181は中期の甕である。1174は甕で体部内面にケズリが施されており、Ⅲ様式もしくは土師器の可能性もある。1175、1176、1178はⅣ－2様式の口縁部で頸部に突帯がついている。1179、1181は底部で上げ底状になっている。1182～1186は中期（Ⅲ様式）の壷である。1184は口縁部外面に、口縁部に平行する2条の刻目突帯とそれに直行する突帯が貼り付けられている。1187～1197は中期（Ⅳ様式）の壷である。1188の頸部外面にはヘラ状原体による4条の凹線文が施されている。1195の外面にはヘラ状原体による4条の凹線文が施されている。1196の頸部外面にはヘラ状原体による5条の凹線文が施されている。1197の外面は文様が施される前に縦方向にミガキが入っている。1198はⅢ～Ⅳ－1様式の壷・底部である。1199はⅣ－1様式の可能性のある高坏・口縁部である。1200～1210はⅤ様式の甕である。1204は口縁部に貝殻原体と思われる擬凹線文が施されており、擬凹線文の継ぎ目部分も確認できる。1205はⅤ－4もしくは草田編年6期と思われる。1208、1209はⅤ－4様式の甕・体部で外面に貝殻原体と思われる刺突文が施されている。1211はⅤ－1様式の壷または甕である。1212はⅤ－2様式の壷と思われる。1213はⅤ－3様式の高坏・口縁部である。1214はⅤ－3様式の低脚坏である。1215はⅤ－2様式の高坏・口縁部である。1216はⅤ－4様式の器台、1217はⅤ－2様式の器台である。

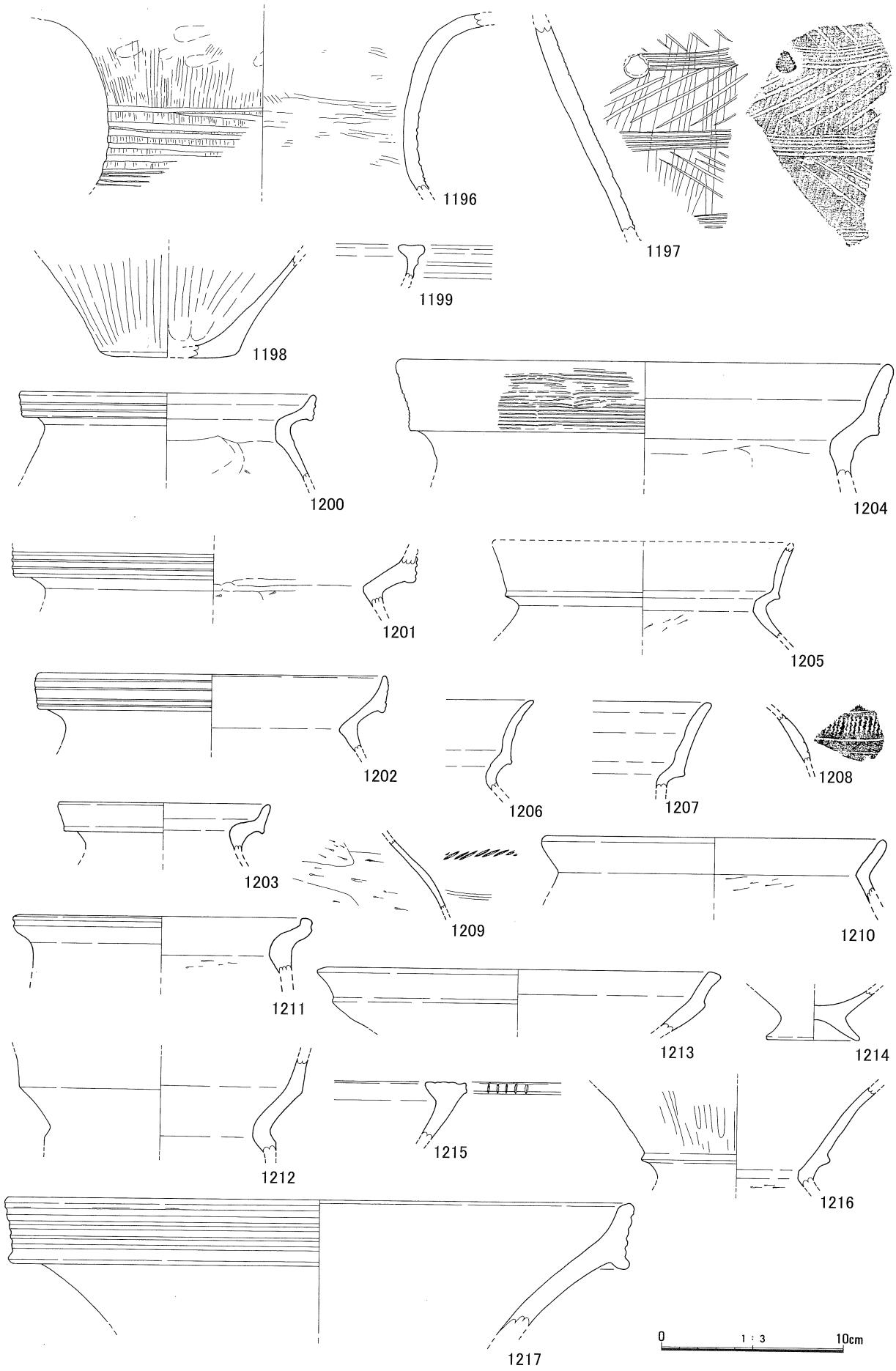
土師器

第220図、第221図は土師器である。

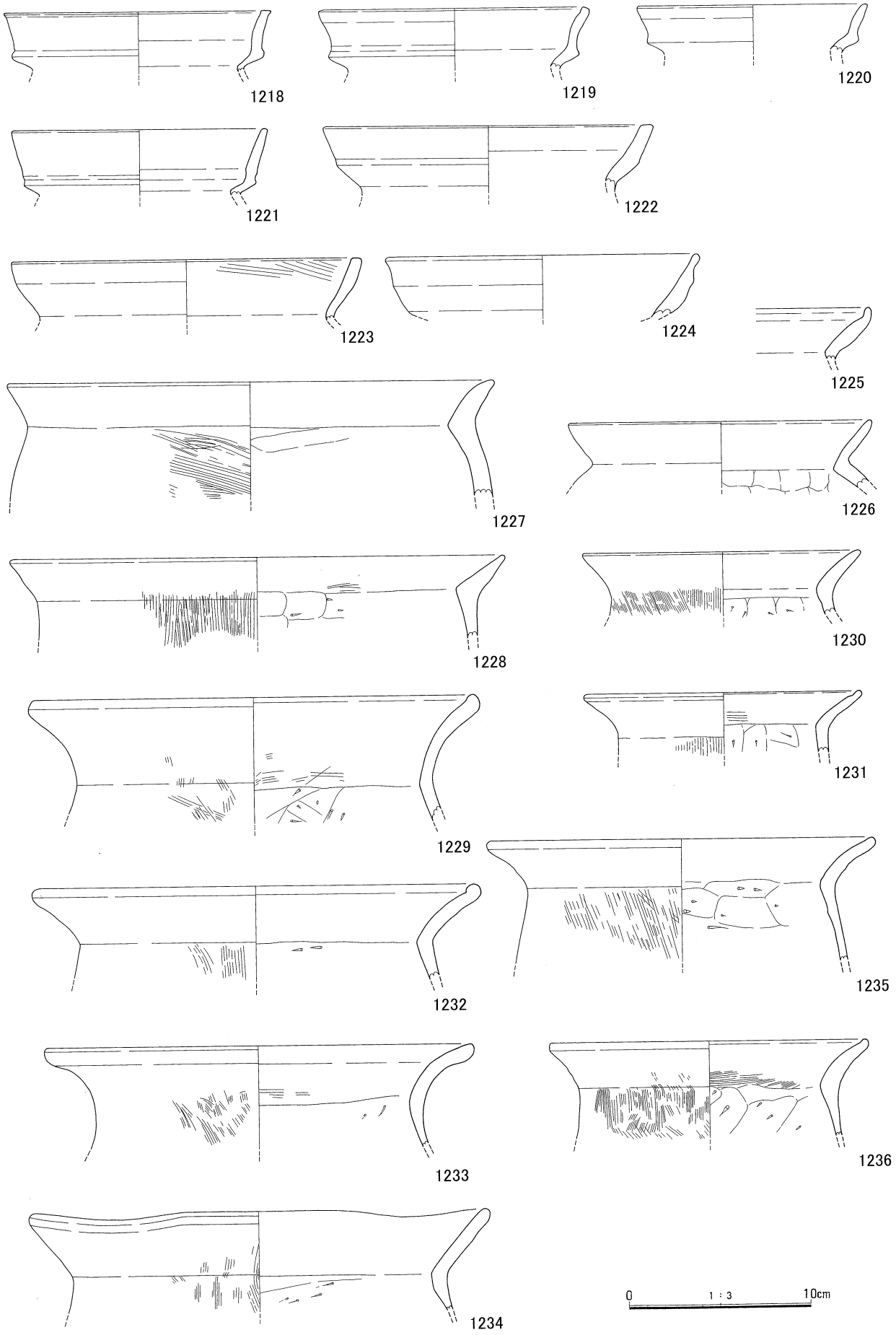
1218～1237は甕の口縁部である。1218、1219は草田6期または7期と思われる。1220～1224は古墳時代前期頃と思われる。単純口縁の甕は口縁部の形態を中心に大きく4種類に分かれる。1225～1228は口縁部が短い。（Ⅰ類）1229～1236は口縁部が長く頸部の屈曲が緩やかである。（Ⅱ類）1237は口縁部が長く上部が外反する。（Ⅲ類）1239は小型の甕である。（Ⅳ類）さらにⅠ類は頸部の形態より2種類に細分する。1225、1226は頸部が明瞭に屈曲している。（Ⅰ－A類）1227、1228は頸部が緩やかに屈曲している。（Ⅰ－B類）またⅡ類はさらに口縁部の長さで3種類に細分し、口縁端部の形態で2種類に細分する。1229は口縁部が長い。（Ⅱ－A類）1230、1231は口縁部が短い。（Ⅱ－C類）1232は口縁部の長さは中程度で、口縁端部内側に段がついている。（Ⅱ－B1類）1233～1236は口縁部の長さは中程度で、口縁端部内側に段はついていない。（Ⅱ－B2類）1237は口縁部が長くⅢ類もしくはⅡ－A類である。1238は甕の体部である。1239は甕Ⅳ類である。1240は甕の底部と思われる。1241は低脚坏の脚部で、脚部内側は調整があまり丁寧でなく凹凸がある。1242～1247は高坏である。1248、1249は土製支脚である。1250、1251は移動式竈で、1250は焚き口正面の部分で縁の部分が剥がれて落ちている。1251は竈の上部と思われる。



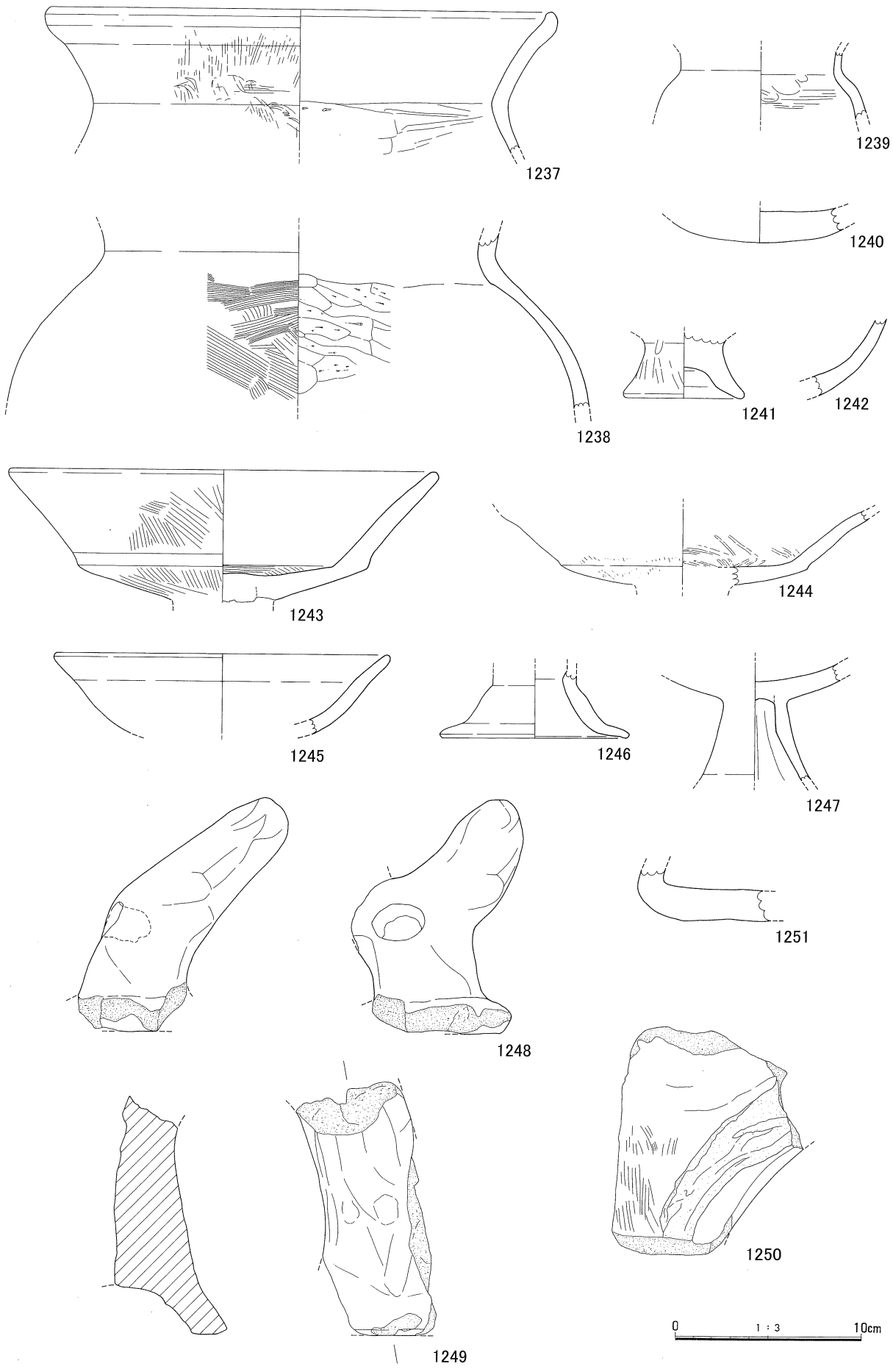
第218図　Ⅱ区弥生土器①（S＝1/3）



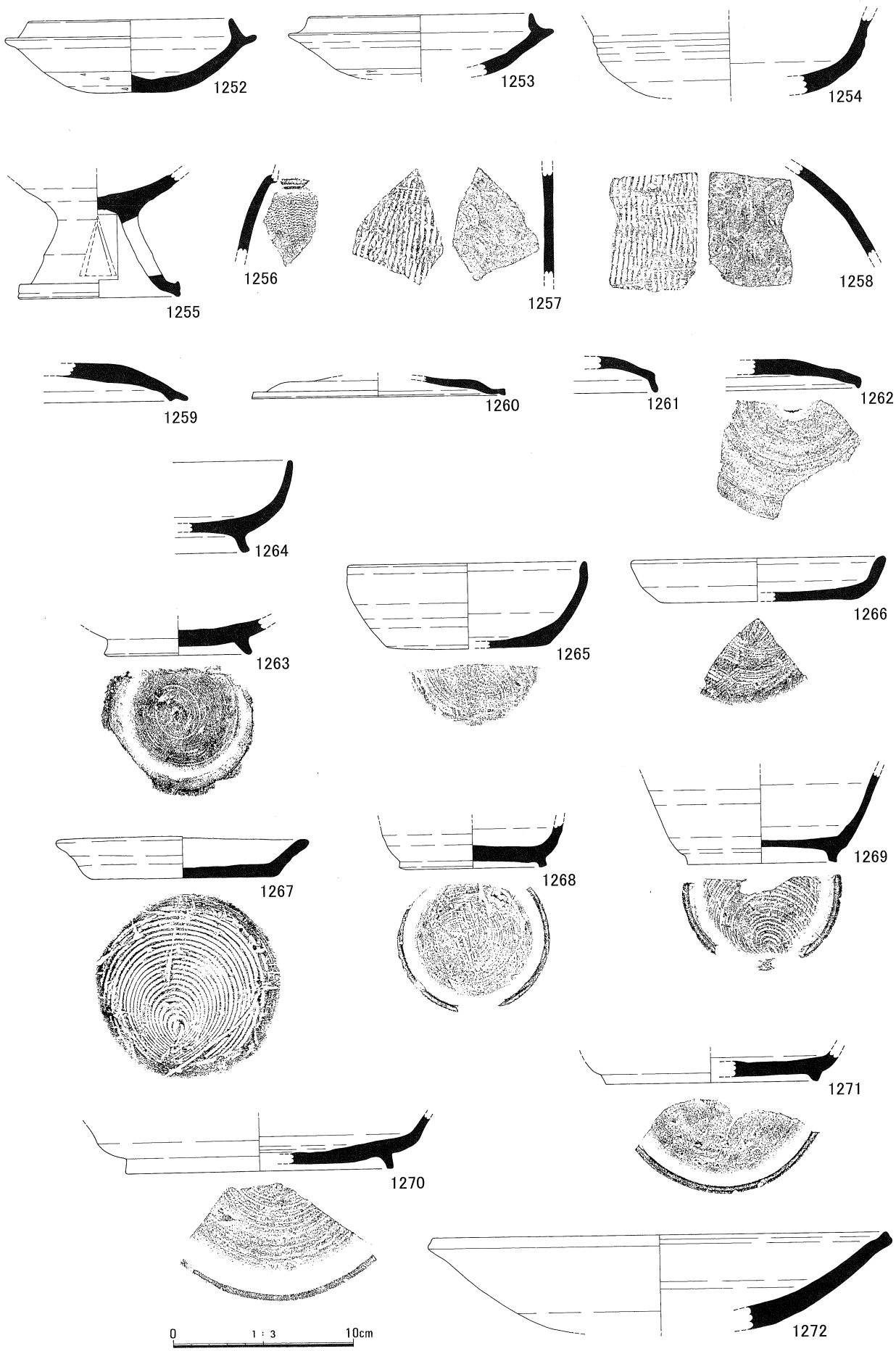
第219図　Ⅱ区弥生土器②（S＝1/3）



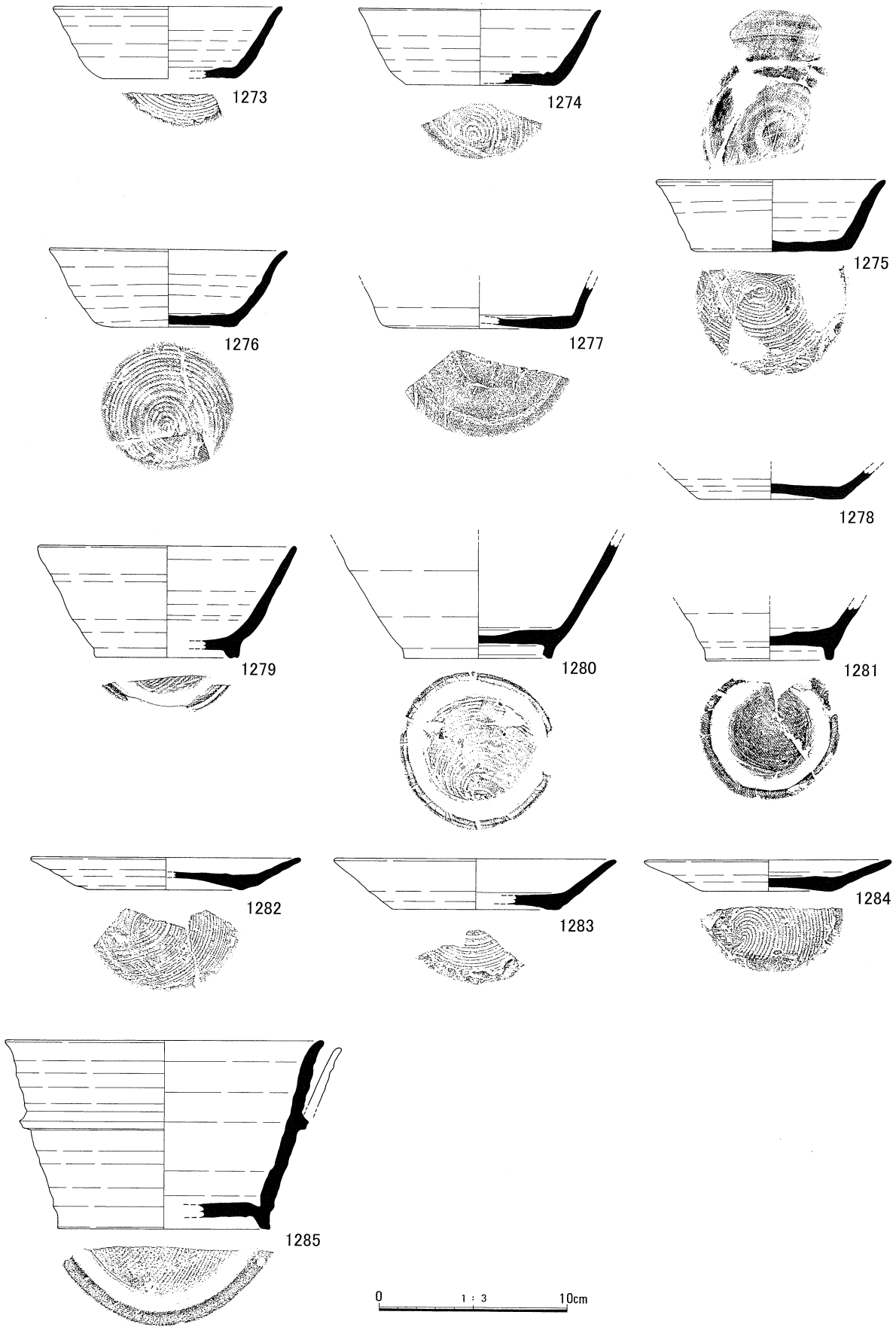
第220図　Ⅱ区土師器①（S＝1/3）



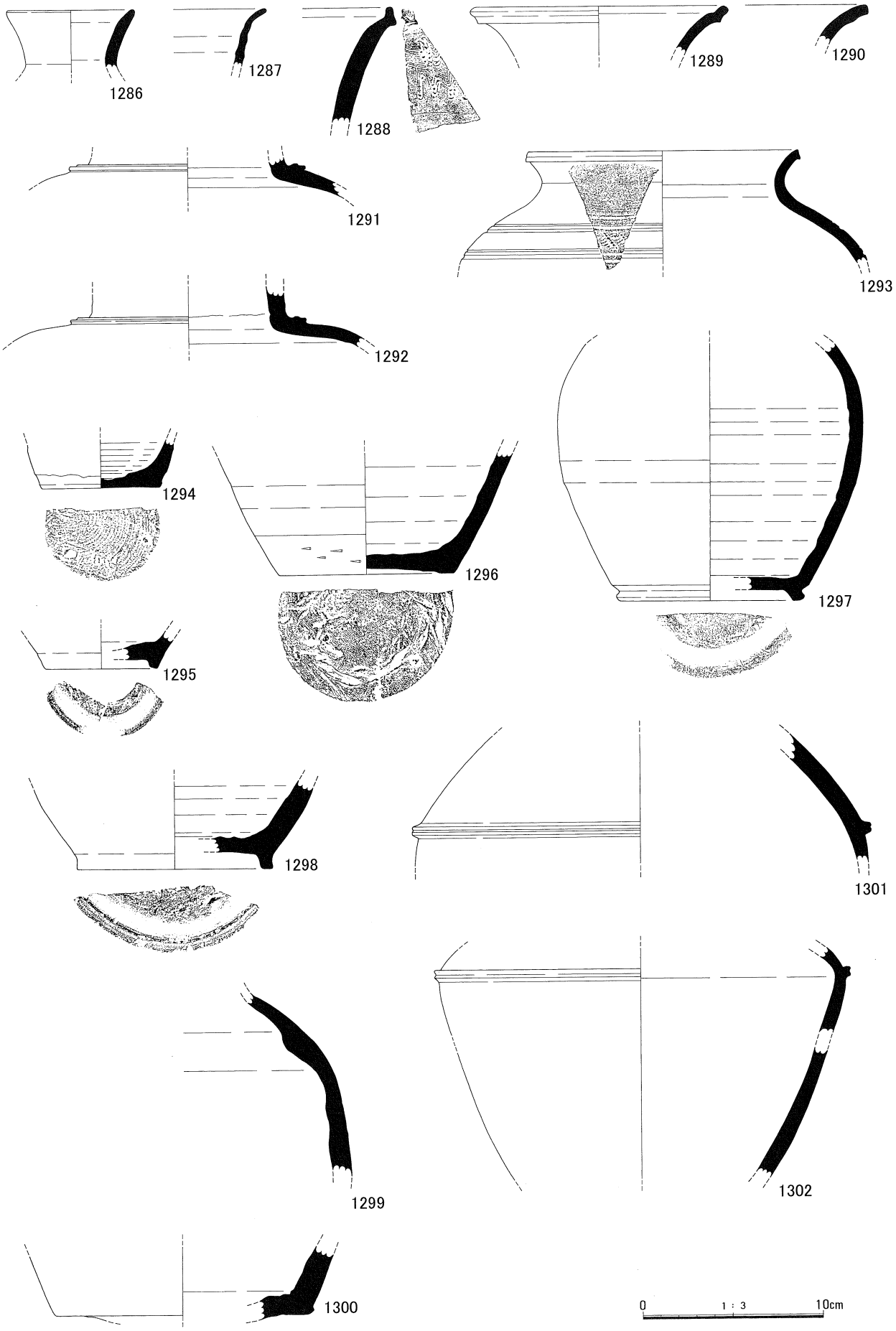
第221図　Ⅱ区土師器②（S＝1/3）



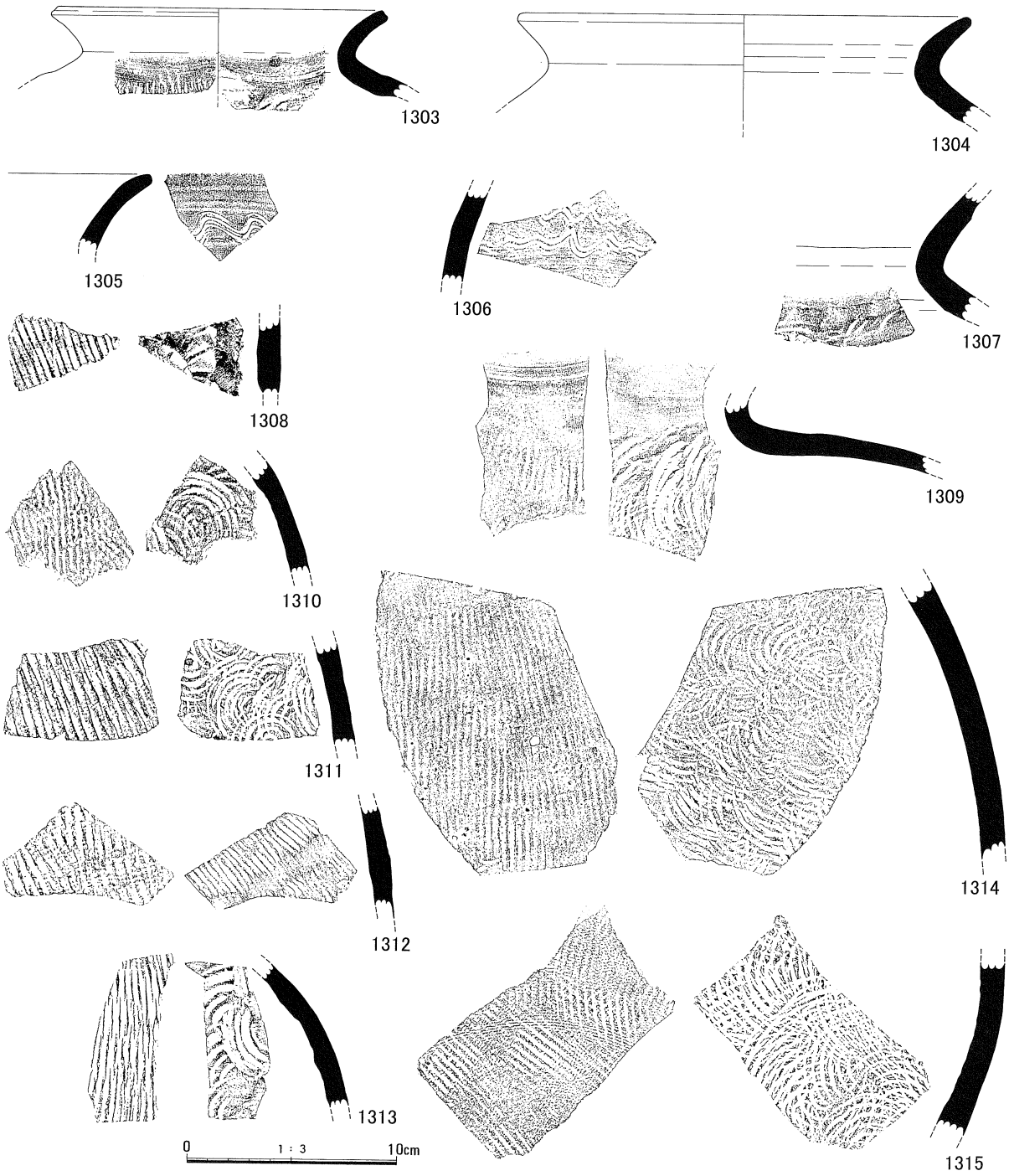
第222図　Ⅱ区須恵器①（S＝1/3）



第223図　Ⅱ区須恵器②（S＝1/3）



第224図　Ⅱ区須恵器③（Ｓ＝1/3）



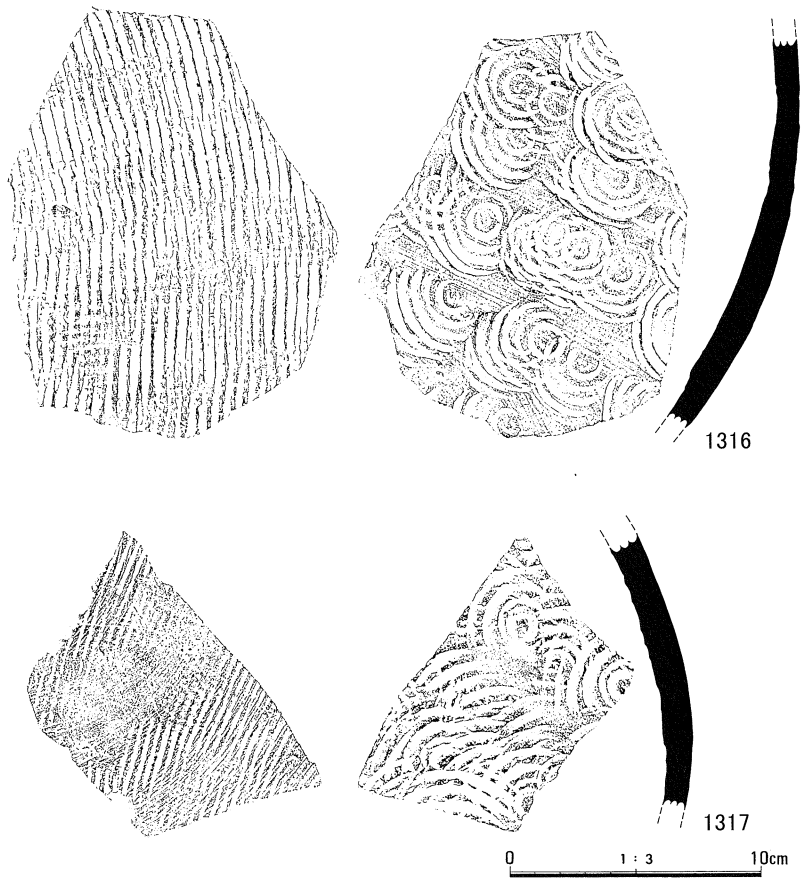
第225図　Ⅱ区須恵器④（S＝1/3）

須恵器

第222図～第226図は須恵器である。

1252～1258は古墳時代の須恵器である。1252、1253は坏である。1254は無蓋高坏の坏底部である。1255は高坏の脚部で透かしは2方向である。1256は甕の口縁部と思われる。1257、1258は甕の体部で、内面当て具痕はナデ消してある。

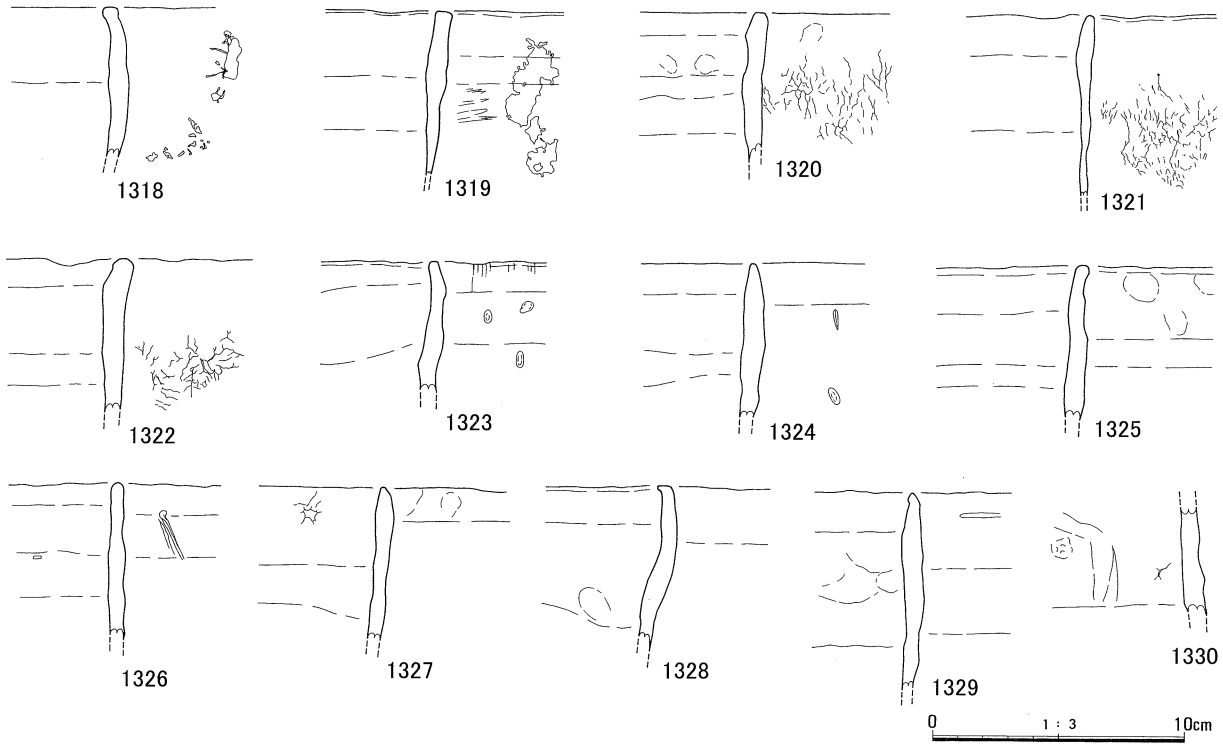
1259～1272は古代（7世紀後半～9世紀前半）の須恵器である。1259～1262は坏蓋で、端部の形態で3種類に分類している。1259はかえりが付いている。（坏蓋Ⅰ類）1260、1262はかえりが付かず、短く屈曲している。（坏蓋Ⅲ類）1261はかえりが付かず、高く屈曲している。（坏蓋Ⅱ類）坏は



第226図　Ⅱ区須恵器⑤（S＝1/3）

高台がつくもの（坏Ⅰ類）と付かないもの（坏Ⅱ類）で大別し、さらに高台の付く坏のなかで底部から口縁部の立ち上がりの形態でさらに2種類分けた。口縁部が内湾するものを坏Ⅰ－A類、口縁部が直線的に外傾するものを坏Ⅰ－B類とする。さらに全ての坏及び皿で底部がヘラ切りのものを1類、糸切りのものを2類とする。1263、1271は坏Ⅰ－B1類、1264は坏Ⅰ－A類、1265は坏Ⅱ－2類、1268、1269は坏Ⅰ－B2である。皿についても、高台が付くもの（皿Ⅰ類）と付かないもの（皿Ⅱ類）の2種類に分類する。1266、1267は皿Ⅱ－2類、1270は皿Ⅰ－2類である。1275は高坏の坏部である。

1273～1302は古代（9世紀後半以降）の須恵器である。坏は高台が付くもの（坏ⅰ類）と、高台が付かないもの（坏ⅱ類）の2種類に分ける。さらにヘラ切りの底部を1類、糸切りの底部を2類とする。1273～1276は坏ⅱ－2類である。1277、1278は坏ⅱ－1類である。1279～1281は坏ⅰ－2類である。1282～1284は底部糸切りの皿である。1285は体部外面に1条の突帯の付く坏である。また1275内面底部から体部にかけてヘラ記号が施されている。1286～1290は壷の口縁部で、その形態から2種類に分類する。単純口縁のもの（壷α類）と、口縁端部に段が付くもの（壷β類）に分ける。1286、1287は壷α類、1288、1289は壷β類である。1290は壷または甕の口縁部で口縁端部に自然釉が付いていない、もしくは剥がれ落ちている。1291、1292は頸部に突帯の付く壷である。1293は短頸壷で時期は8世紀頃と思われる。1294は糸切りの底部の壷である。1295は高台の付く壷である。1296～1302は長胴壷で坏の分類同様に高台の有無（Ⅰ類またはⅡ類）、底部ヘラ切りまたは糸切り（1類、2類）で分類する。1296は長胴壷Ⅱ－2類である。体部外面の底部付近はヘラケズリが施されている。1297、1298は長胴壷Ⅰ類で、底部ヘラ切りまたは糸切りかは不明である。1299、1300は同一個体の可能性のある長胴壷である。（長胴壷Ⅰ類）1301、1302は胴部に1条の突帯の付く長胴壷である。

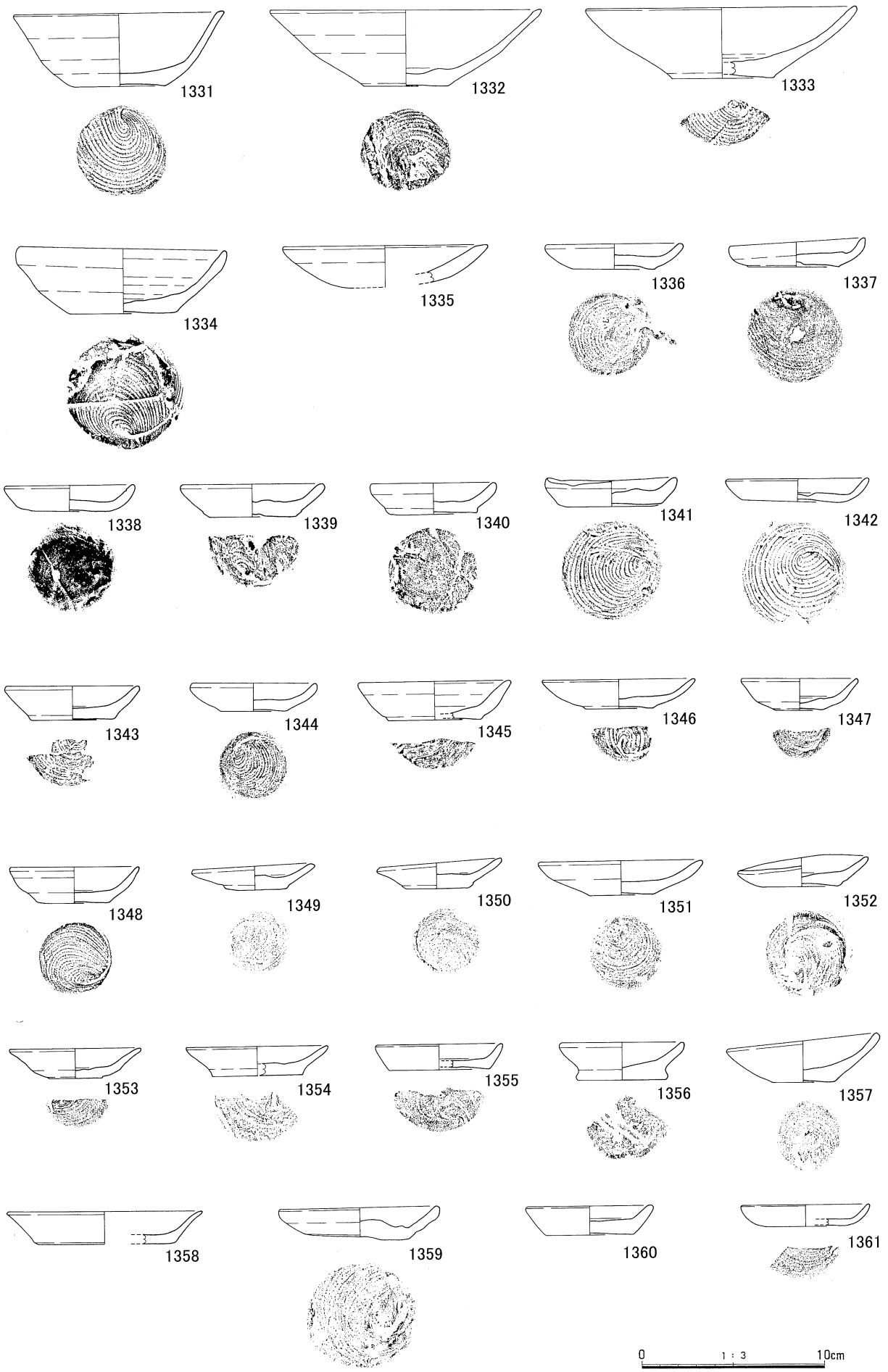


第227図　Ⅱ区製塩土器（S＝1/3）

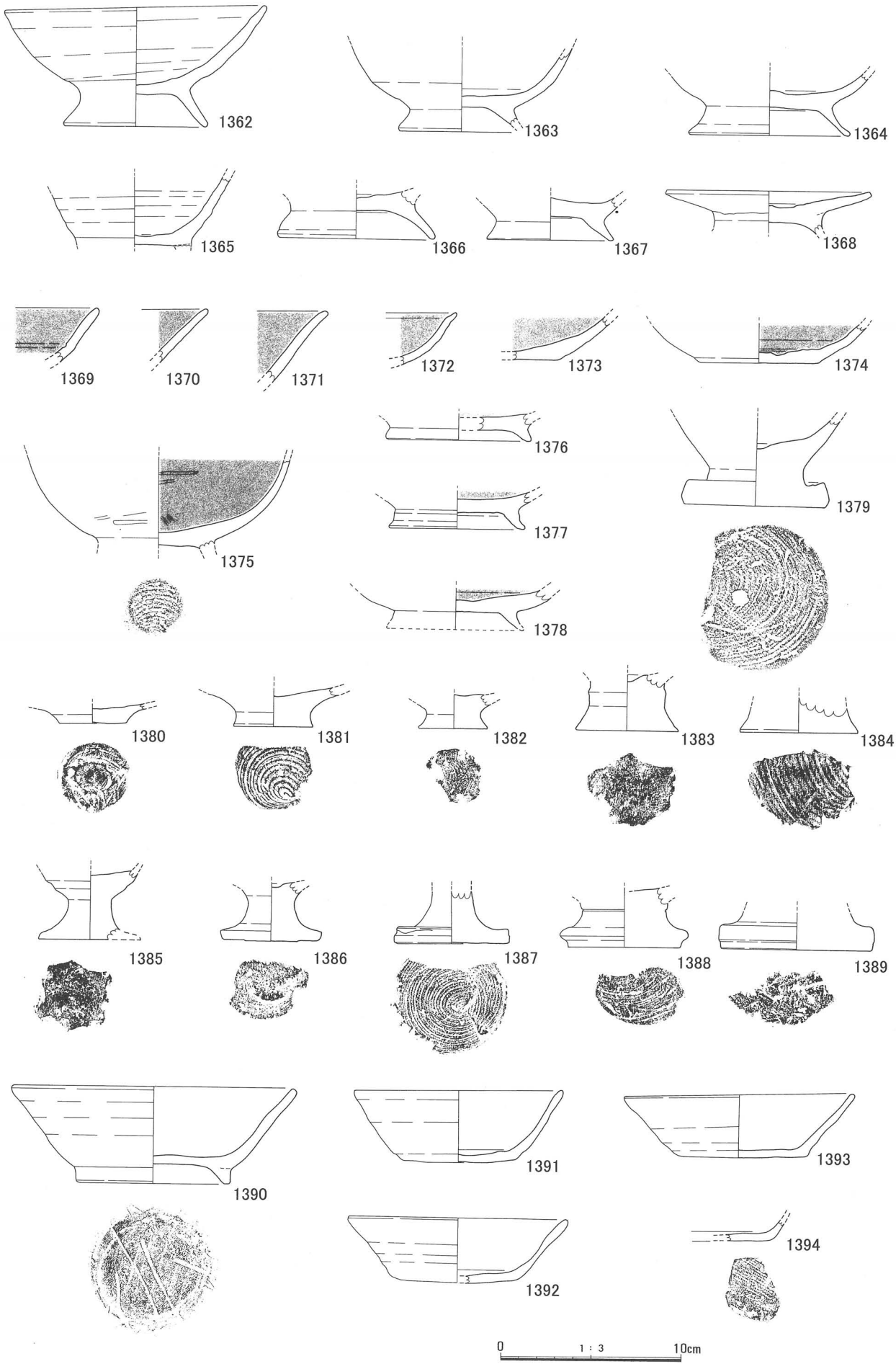
1303～1317は古墳時代から古代の甕で、口縁部の形態で2種類、体部外面の調整で2種類、体部内面の調整で3種類にそれぞれ分類する。短頸のもの（甕S類）と、長頸のもの（甕L類）に分ける。また外面が平行タタキのもの（甕Ⅰ類）と格子タタキのもの（甕Ⅱ類）に分ける。さらに体部内面が粗いタタキのもの（甕a類）、やや密なタタキのもの（甕b類）、平行タタキのもの（甕c類）、輪花状タタキのもの（甕d類）に分ける。1303、1304は甕S類である。1305、1306は甕または壷の口縁部である。1306、1307は甕L類である。1308、1310は甕Ⅱd類、1311は甕Ⅰb類、1312は甕Ⅰc類、1313は甕Ⅰa類、1314、1315は甕Ⅱb類、1316、1317は甕Ⅱa類である。

製塩土器

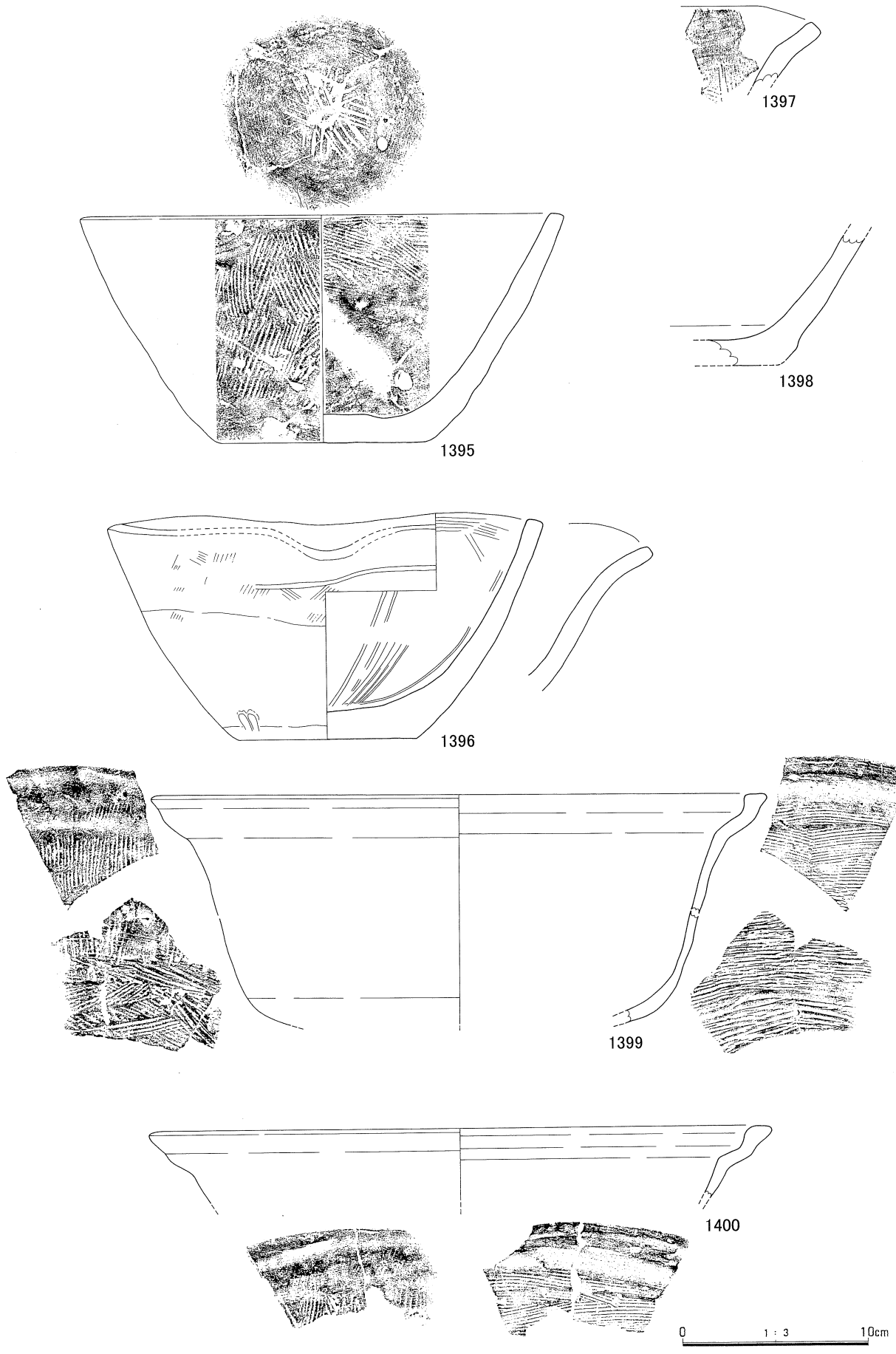
第227図は製塩土器である。1318は内面に長さ約1.7cm、幅約0.5cm直径約3㎜の黒色物質が付着している。また同じく内面下方には灰色の付着物が確認できる。1319は外面に灰色物質の付着及び繊維状の物質を押しあてた痕のようなものを確認している。1320は外面がしわ状に弱いひび割れが見られ、内面は指頭圧痕が確認できる。1321、1322についても外面にしわ状の弱いひび割れが確認できる。1323、1324は外面に直径約4㎜、深さ約2㎜程度の空隙が数カ所確認できる。1325は外面に指頭圧痕状の窪みが確認できる。1326は外面に米粒大の大きさの窪みと長さ約2.5cmの繊維状物質を押しあてたような痕が確認できる。1327は内面に放射状のひび割れが確認できる。1328は内面に指頭圧痕、1329は外面に繊維状物質痕が確認できる。1330は内面に指先もしくは先端の丸い物質で上下になぞったような痕跡が確認できる。また土器の割れ口を観察すると灰白色の層を層状に確認できる土器が多数見受けられる。



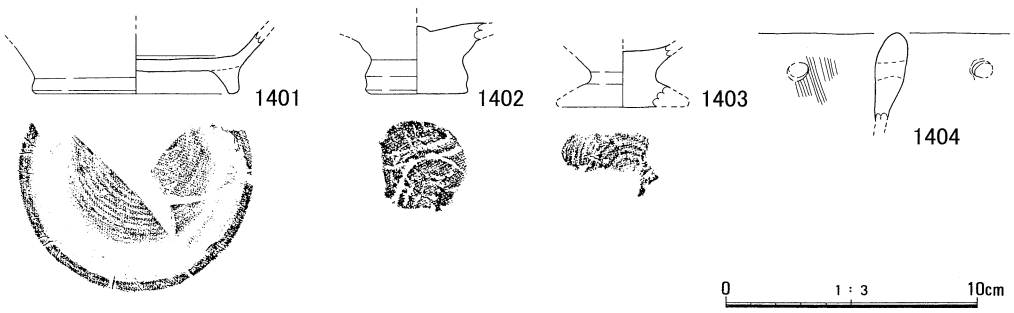
第228図　Ⅱ区土師質土器①（S＝1/3）



第229図　Ⅱ区土師質土器②（S＝1/3）



第230図　Ⅱ区土師質土器③（S＝1/3）



第231図　Ⅱ区土師質土器④（S＝1/3）

土師質土器

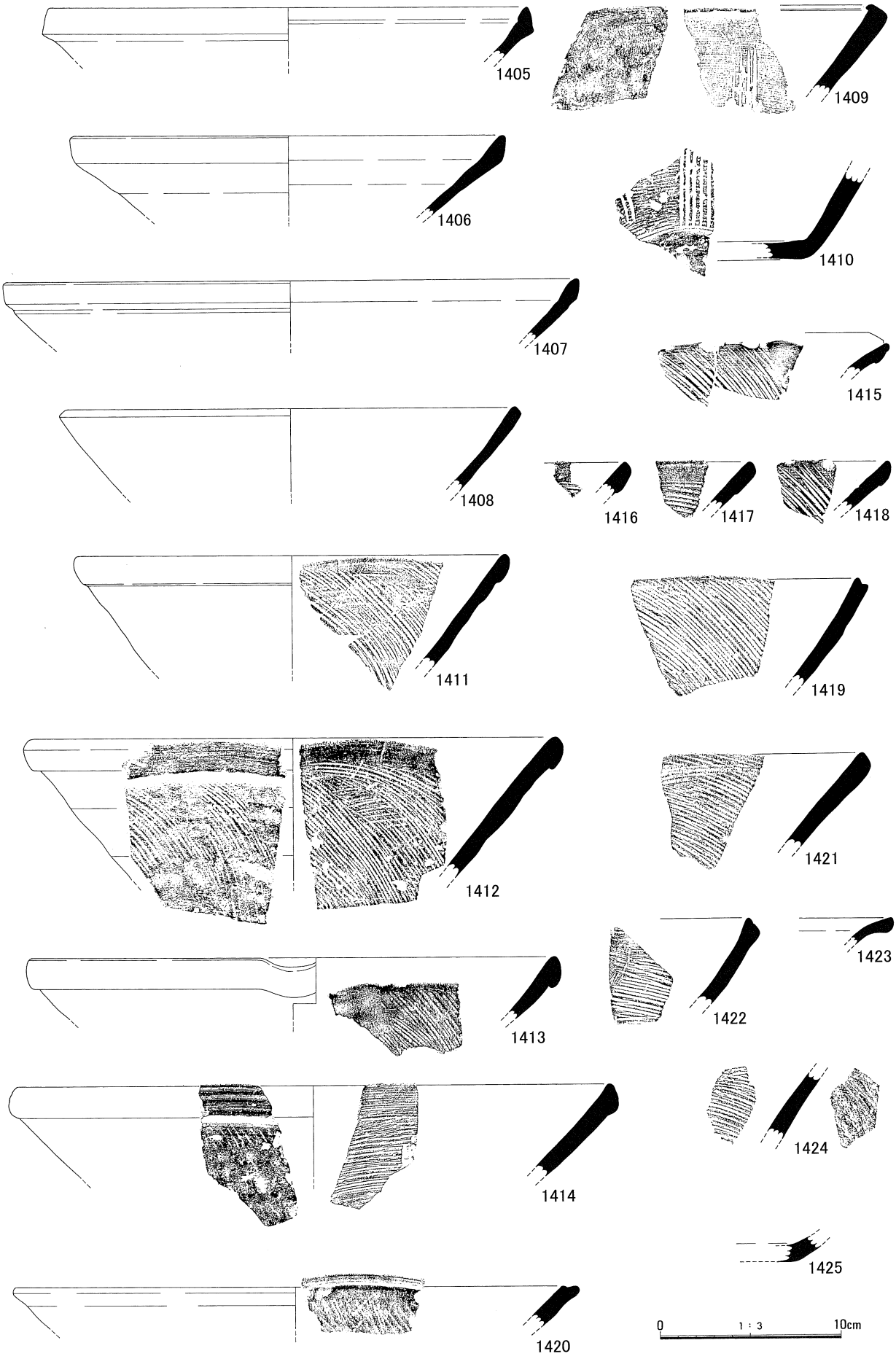
第228図～第230図は土師質土器である。1331～1335は坏である。

1331は坏Ⅰ類、1332は坏Ⅱ類、1333は坏Ⅲ類、1334は坏Ⅳ類1335は轆轤成形・轆轤調整でない京都系の坏と思われる。1336～1361は皿である。1336～1343は皿Ⅰ類である。1344～1348は皿Ⅱ類、1349～1353は皿Ⅲ類、1354～1356、1358は皿Ⅳ類、1359は皿Ⅵ類である。

1362～1367は古代から中世にかけての高台付坏である。1362は胎土中（体部外面）に直径約5㎜の明赤橙色の粒子を1ヶ所含んでいる。1365は高台部分が接合部分から剥がれ落ちている。1368は高台付皿で内面はわずかに炭化している。1369～1378は内面が黒色の土師質土器である。1369は内外面にミガキは確認できず、また轆轤調整と思われる。1370、1371は内面にミガキが確認できる。1372は轆轤調整と思われる。1373は底部糸切りである。1374は底部回転糸切りである。1375は内外面ミガキで底部は糸切りである。1376は内面ミガキの可能性がある。1378は内面ミガキと思われる。1375と1378は胎土、焼成等が類似している。1379～1389は柱状高台である。1379は高台部分上のくびれ部分の胎土中に直径約1.4㎝くらいの石を1ヶ所含む。1390～1394はⅡB区出土の土師質土器である。1390は内面及び体部外面が赤彩の高台付坏である。底部外面に「小」の字に似たヘラ記号状の削った痕がある。1391～1394は摩耗してるが、内面及び体部外面は赤彩で底部はヘラ切りと思われる。

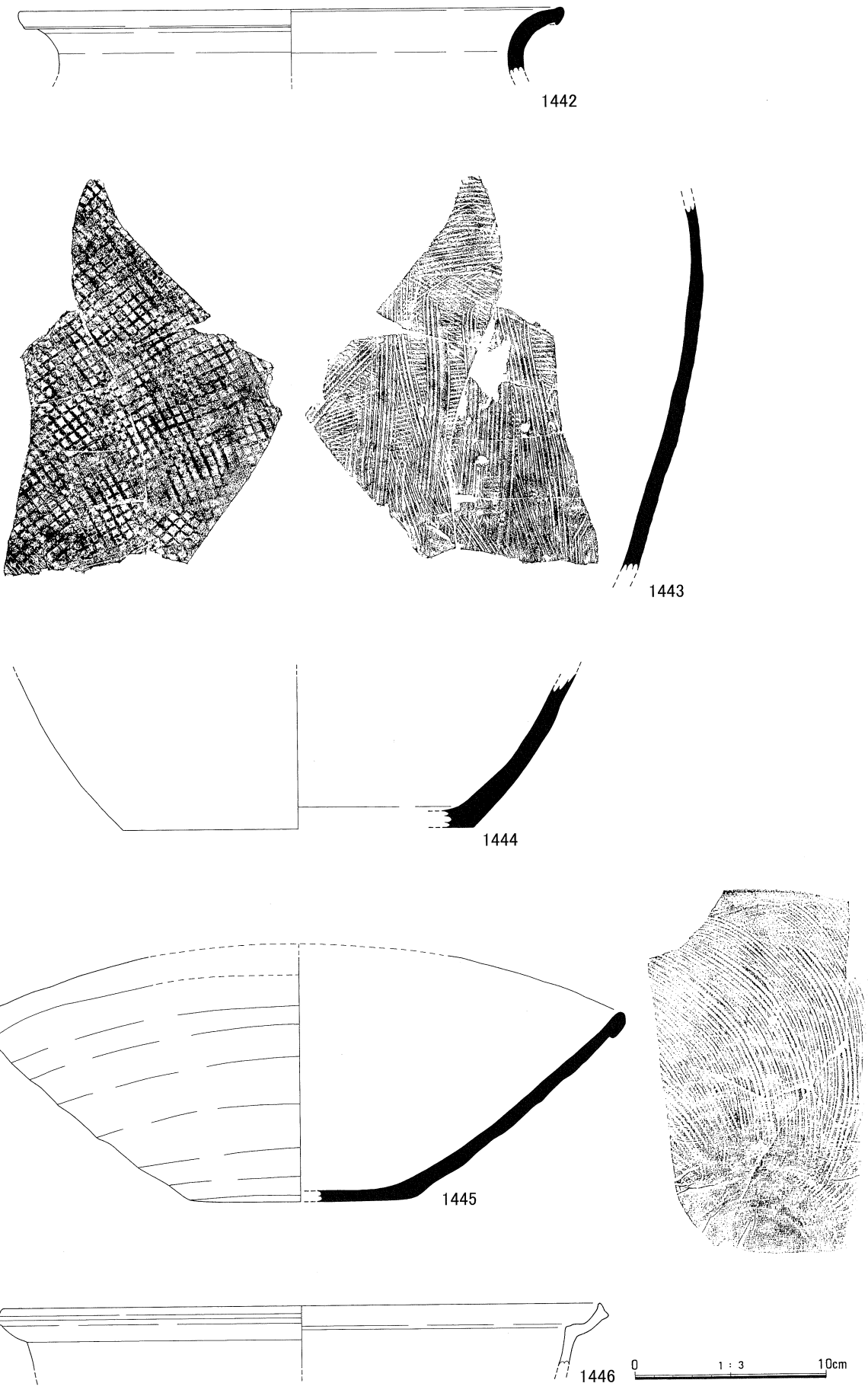
1395～1398は鉢である。1395は擂鉢で擂り目は1単位あたり最低6本で全体で8ヶ所である。かなり使い込んであり擂り目が残っているのは底部中央のみである。1396は擂鉢で1単位7本／2.8㎝で全体で7ヶ所である。口縁部は片口状になっている。1397は擂鉢の片口部分の破片で擂り目は現状で4本確認できる。現状の色調が鮮やかな橙色を呈している。1398は鉢でかなり使い込んであり、またその後の摩耗も激しく擂り目は確認できない。現状で内外面が煤けたような黒色を呈している。1299、1300は鍋である。

1401～1404はⅡB区出土の土師質土器である。1401は高台付坏、1402、1403は柱状高台、1404は甑と思われる。

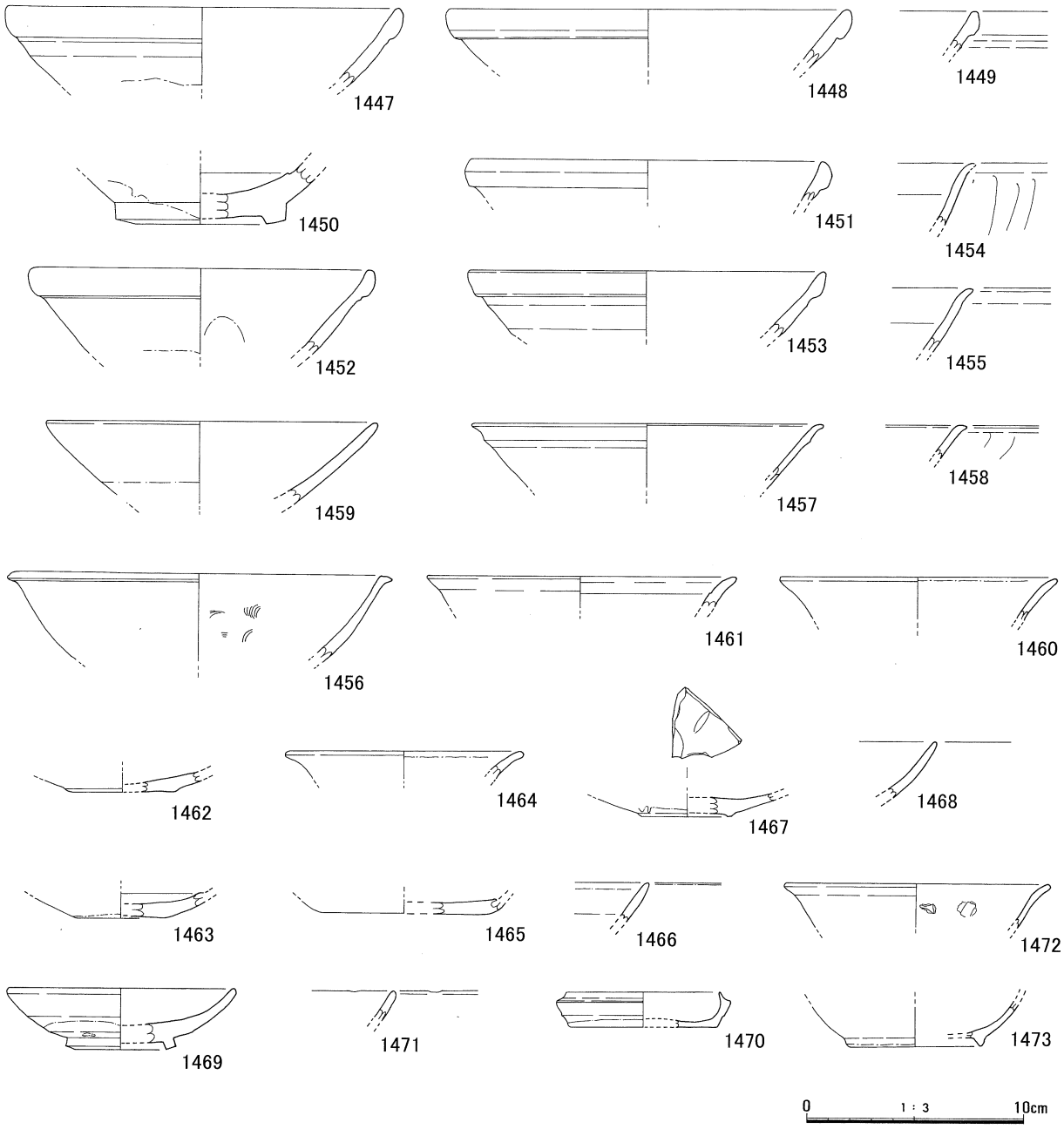


第232図　Ⅱ区中世須恵器①（Ｓ＝1/3）

第233図　Ⅱ区中世須恵器②（S＝1/3）



第234図　Ⅱ区中世須恵器③（Ｓ＝1/3）

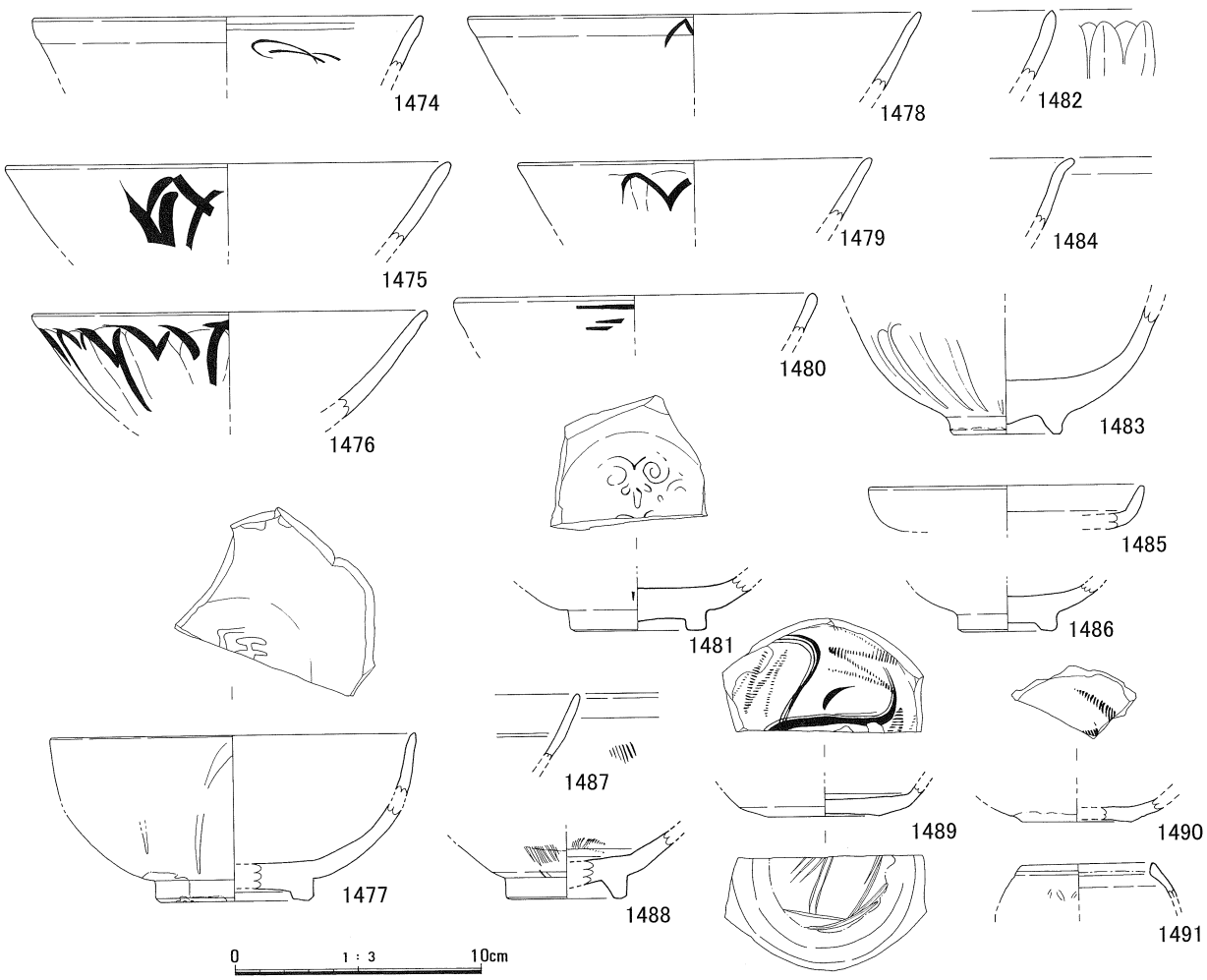


第235図　Ⅱ区白磁（S＝1/3）

中世須恵器

第232図～第234図は中世須恵器である。1405～1425は鉢である。1405は鉢A－1類、1406は鉢B－1類、1407は鉢B－3類である。1408はD－1類で内面の一部に灰色の物質が付着している。以上1405～1408は内面に擂り目またはハケ目は施されていない。1409、1410は鉢E類で、擂り目が施されている。1409の擂り目は1単位最低5本／2.7㎝、1410は6本／1.9㎝である。1411～1418は鉢Z類で1413、1415は片口部分である。（1415と1418は同一個体である。）1419は鉢W－1類、1420は鉢W－2類、1421は鉢Y類、1422は鉢X類である。1411～1422は内面に斜めのハケ目が施されている。1423は鉢の片口部分、1424は体部、1425は底部と思われる。

1426～1439は甕である。1426～1428は甕A類である。1429は甕B－2類、1430は甕B－1類、1431は甕B－3類、1432は甕C類、1433は甕H類、1434は甕F類、1435は甕L類、1436は甕M類、



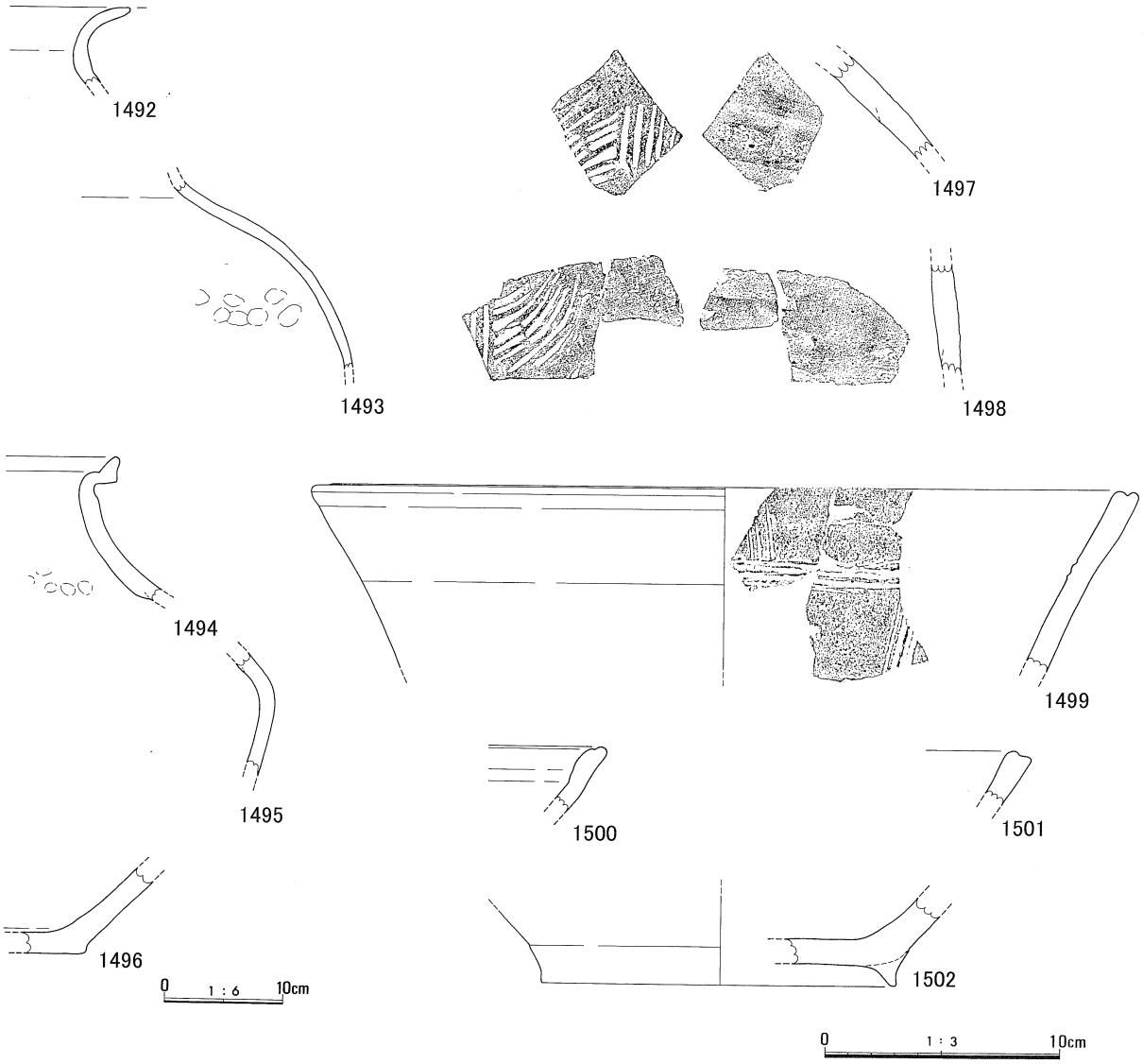
第236図　Ⅱ区青磁（Ｓ＝1/3）

1437は甕Ｅ類、1438は甕Ｎ類、1439は甕Ⅰ類である。1440は壷の体部、1441は壷の底部で同一個体と思われる。体部外面の底部付近はヘラケズリで、焼成は悪く胎土中に空気が入り膨らんでいる部分が数カ所ある。

1442～1444は甕Ｄ類である。同一個体かどうかは分からない。1445は鉢Ｚ類で、全体的な形が歪んで焼成されたと思われる。1446は瓦質土器の鍋である。

白磁

第235図は白磁である。1447～1453は椀Ⅳ類である。1454は椀Ｖ－２ｂ類で、外面に縦篦花弁文が施されている。1455、1461は椀Ｖ、ⅥまたはⅦ類である。1456は椀Ｖ－４ｂ類で内面に櫛目文が施されている。1457はＶ－４ｂ類もしくはⅧ－１，３類である。1458はＶ－４ｃ類の可能性があり、外面に縦篦花弁文が施されている。1459は椀Ⅷ－２類の可能性がある。1460は口縁端部の釉を掻き取っている椀または皿のⅨ類である。1462、1463は皿Ⅳ類である。1464、1465、1466は口縁端部の釉を掻き取っている皿Ⅸ類である。1467は皿Ⅶ－１ｂまたは Ⅷ－１ｂ類で底部内面に篦描き文が施されている。1468は皿Ｖ～Ⅷ類である。1469は皿Ｄ類、1470は合子の身である。1471は輪花状の口縁部の椀または皿である。1472はＥ類の皿で内面に重ね焼きの目跡が残っている。また外面に直径約４㎜の黒色のシミがあるがこれは胎土中に含まれる鉄分などの不純物、もしくは焼成時に付

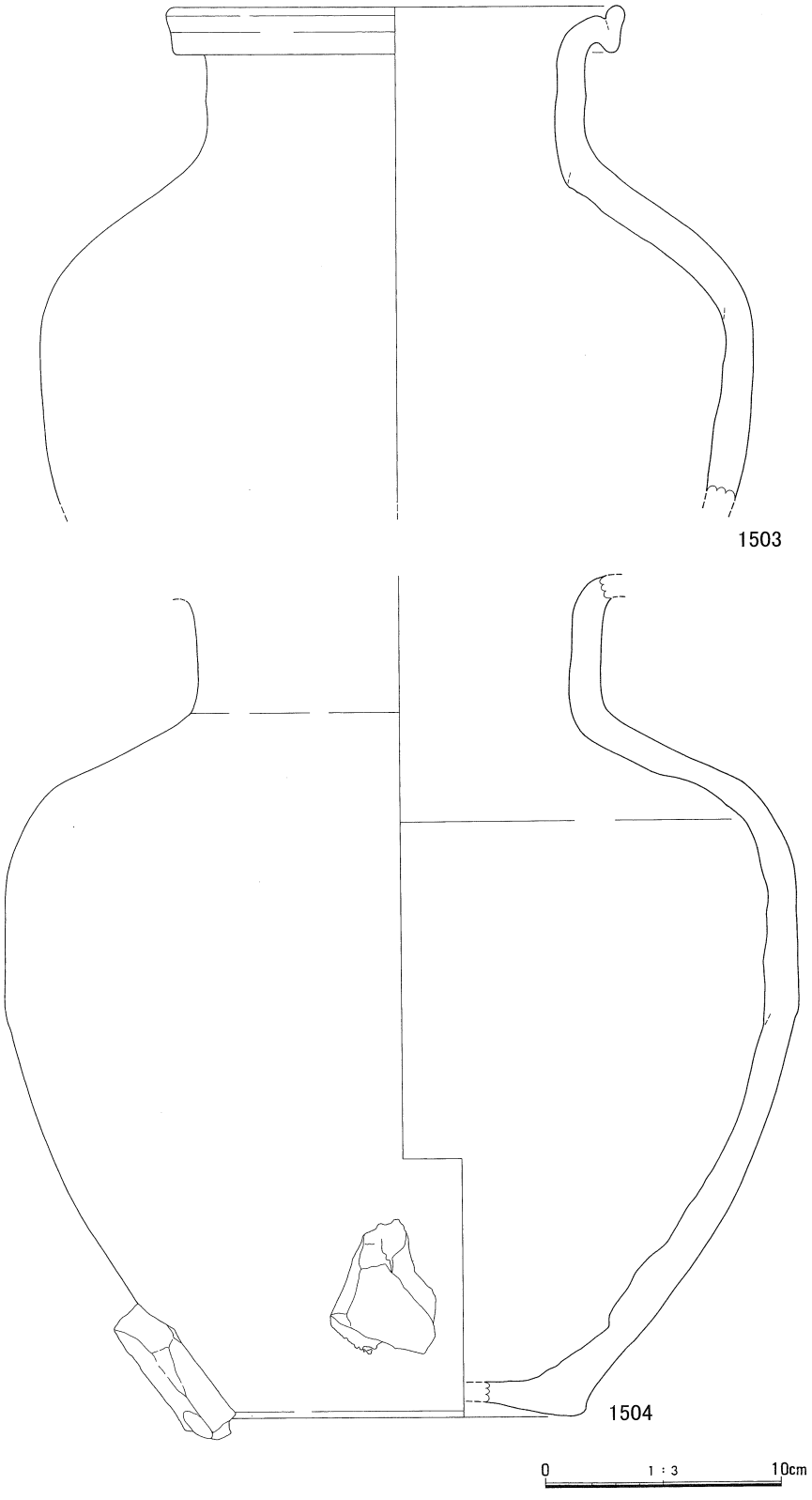


第237図　Ⅱ区中世陶器①（1492～1496はS＝1/6、1497～1502はS＝1/3）

着した不純物などによると思われる。1473はE類の椀である。

青磁

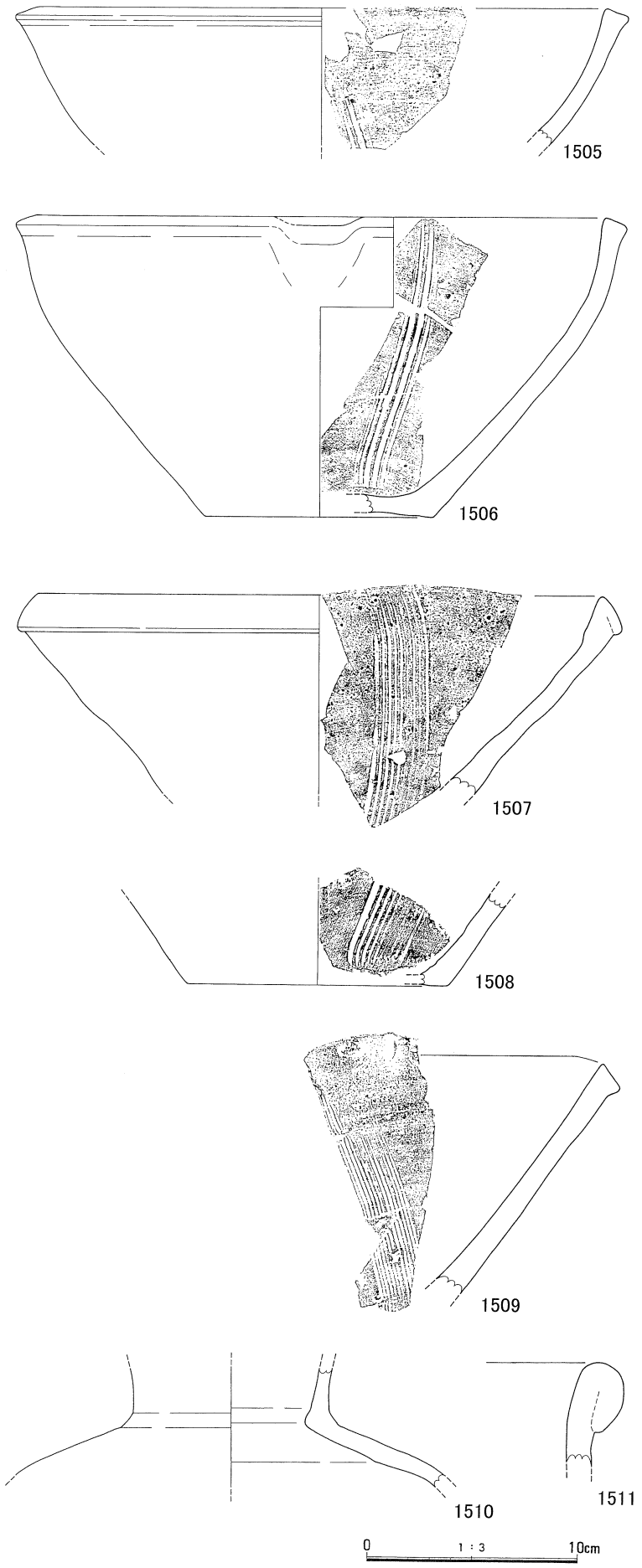
第236図は青磁で、1474～1486は龍泉窯系青磁、1487～1490は同安窯系青磁、1491は青白磁である。1474は椀Ⅰ－2類で内面に片彫蓮華文の一部が確認できる。1475～1479は青磁椀で体部外面に片彫連弁文が施されている。1478、1479は鎬連弁文で椀Ⅱ－b類である。1476は2枚の花弁を1単位として復元した場合完形の椀で10単位になると推定できる。1477は椀Ⅱ－a類で、内面見込みに「王」の字の陽刻がある。1478は椀Ⅱ－a類で、1479は椀Ⅱ－b類で鎬連弁文である。1480は口縁部外面に雷文帯のある椀C－2類である。1481は椀Ⅱ－c類の底部で、内面見込みには幾何学花文のスタンプ、外面には鎬連弁文の最下部が確認できる。1482は椀Ⅲ－2 c類で体部外面は鎬連弁文である。1483は椀Ⅳ－1 b類で内面見込みに陰刻による文様が確認できる。また体部外面には連弁文があり花弁1枚を1単位として復元した場合完形で24単位となる。全体として貫乳が見られる。1484は坏Ⅲ類の口縁部である。1485は皿Ⅰ類である。1486は小椀Ⅱ類である。1487、1488は椀Ⅰ－b類で、体部外面に櫛目文が施されている。1489は皿Ⅰ－2 b類で、内面見込みはヘラによる文様とジグザグ状の櫛点描文が施されいる。外面底部は施釉・乾燥後に釉を削り取っておりその工具痕が残っている。1490は皿Ⅰ－1 b類である。1491は青白磁・小壷の口縁部である。



第238図　Ⅱ区中世陶器②（S＝1/3）

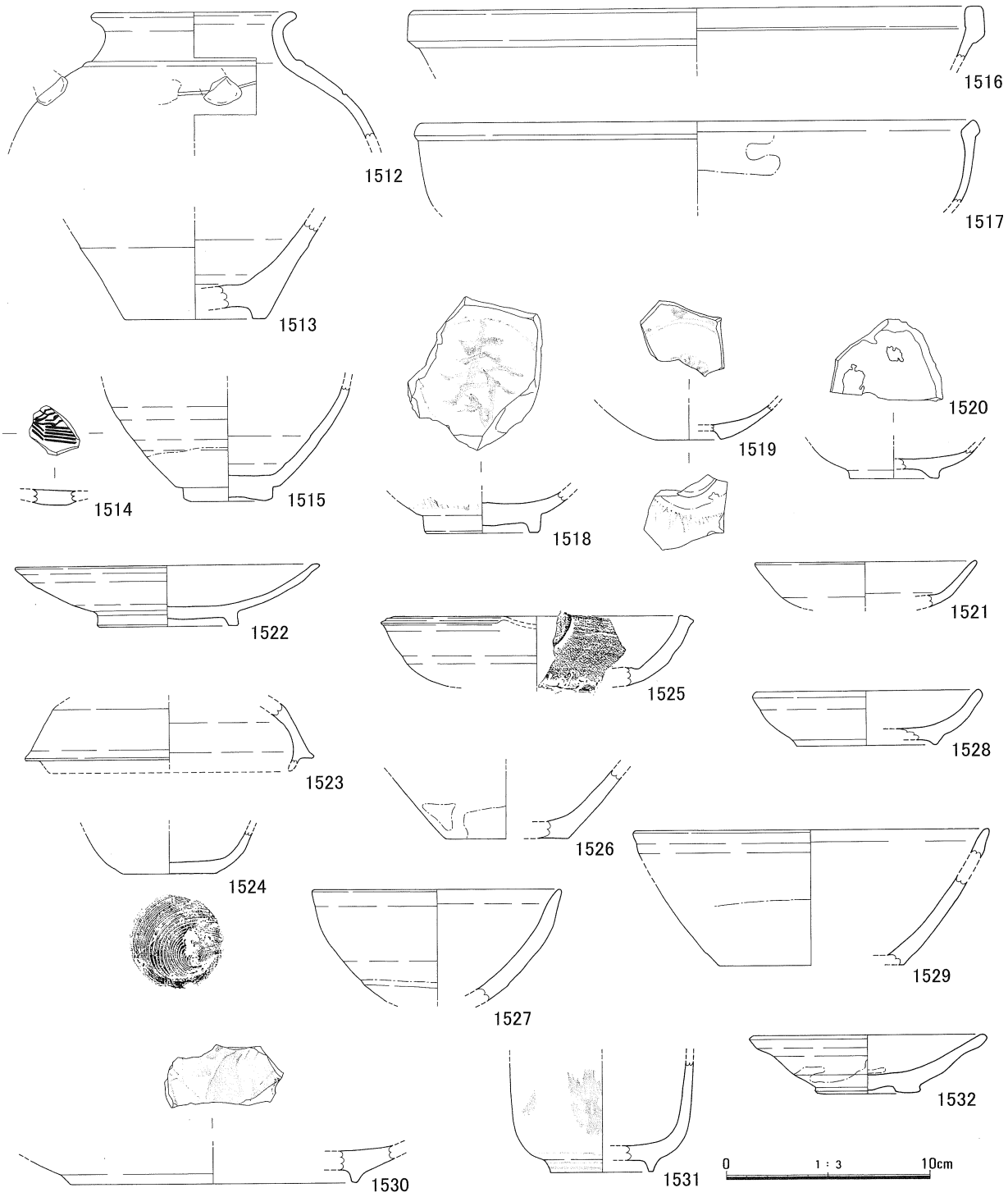
中世陶器

第237図～第239図は中世陶器である。1492～1498は中世陶器の大甕で同一個体の可能性がある。時期は12世紀代と思われる。口縁部は単純口縁で外側に大きく外反する。口縁部から体部上面にかけては自然釉と思われる緑色または灰色の釉がかかっている。1497、1498は粘土の接合部分付近で外面に押印文が施されている。1494～1496は越前の大甕で、時期は14世紀代と考えられる。口縁端部は断面Ｌ字状になっている。1499～1502は鉢である。1499は擂鉢の口縁部で、擂り目は１単位４本／１㎝で、縦と横に入っている。現状で確認できる部分では縦の擂り目が先で、その後横の擂り目を施している。口縁端部上面に１条の沈線が入っている。産地、時期は不明である。1500は越前で時期は13世紀末から14世紀頃である。口縁端部には１条の沈線が入っている。1501も越前の口縁部で色調は青灰色に近く、また口縁端部には１条の沈線が入っている。1502は越前の底部で断面三角形の高台が付いている。また体部外面はケズリが施されており、内面は使用のため摩耗している。1503、1504は同一個体の可能性のある信楽の壷で、時期は13世紀頃である。口縁部は断面Ｎ字状を呈している。口縁部から体部上面にかけては自然釉が付着しており緑色を呈している。また1504の底部付近の体部外面には焼成時に付着したと思われる別個体の一部が２ヶ所に付いている



第239図　Ⅱ区中世陶器③（S＝1/3）

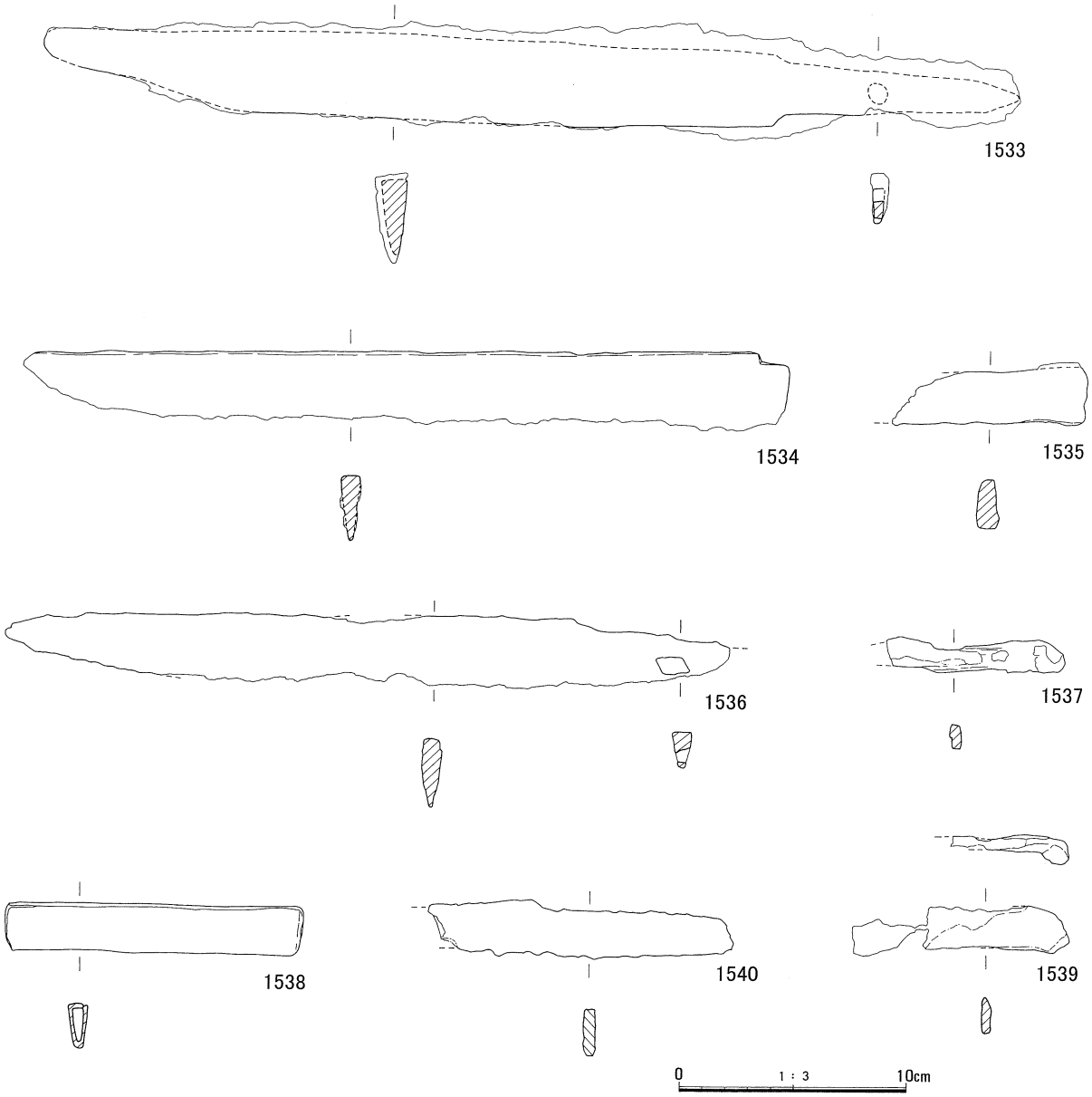
のが確認できる。この付着の原因等は分からない。1505～1511は備前である。1505～1509は擂鉢である。1505は備前第Ⅱ期または第Ⅲ期と思われる。擂り目は現状で1単位4本／1.1cmである。1506は備前第Ⅱ期で、備前の鉢に擂り目が入り出す初現期の擂鉢である。擂り目は1単位5本／1.5cmである。1507は備前第Ⅳ期と思われる。擂り目は1単位9本／2.5cmである。1508は擂鉢の底部で擂り目の1単位は9本／2.6cmで、内面は使用のため摩耗している。1507と同一個体の可能性がある。1509は片口部分で、擂り目の1単位は13本／2.3cmである。内面下方は使用のため摩耗している。1510は壷の頸部から体部と思われる。体部内面の頸部側は回転ナデ調整が行われている。また外面は淡黄色の自然釉が付着している。1511は備前第Ⅲ期または第Ⅳ期甕の口縁部と思われる。割れ口の片面に黒色物質が付着している。



第240図　Ⅱ区中世陶磁器（S＝1/3）

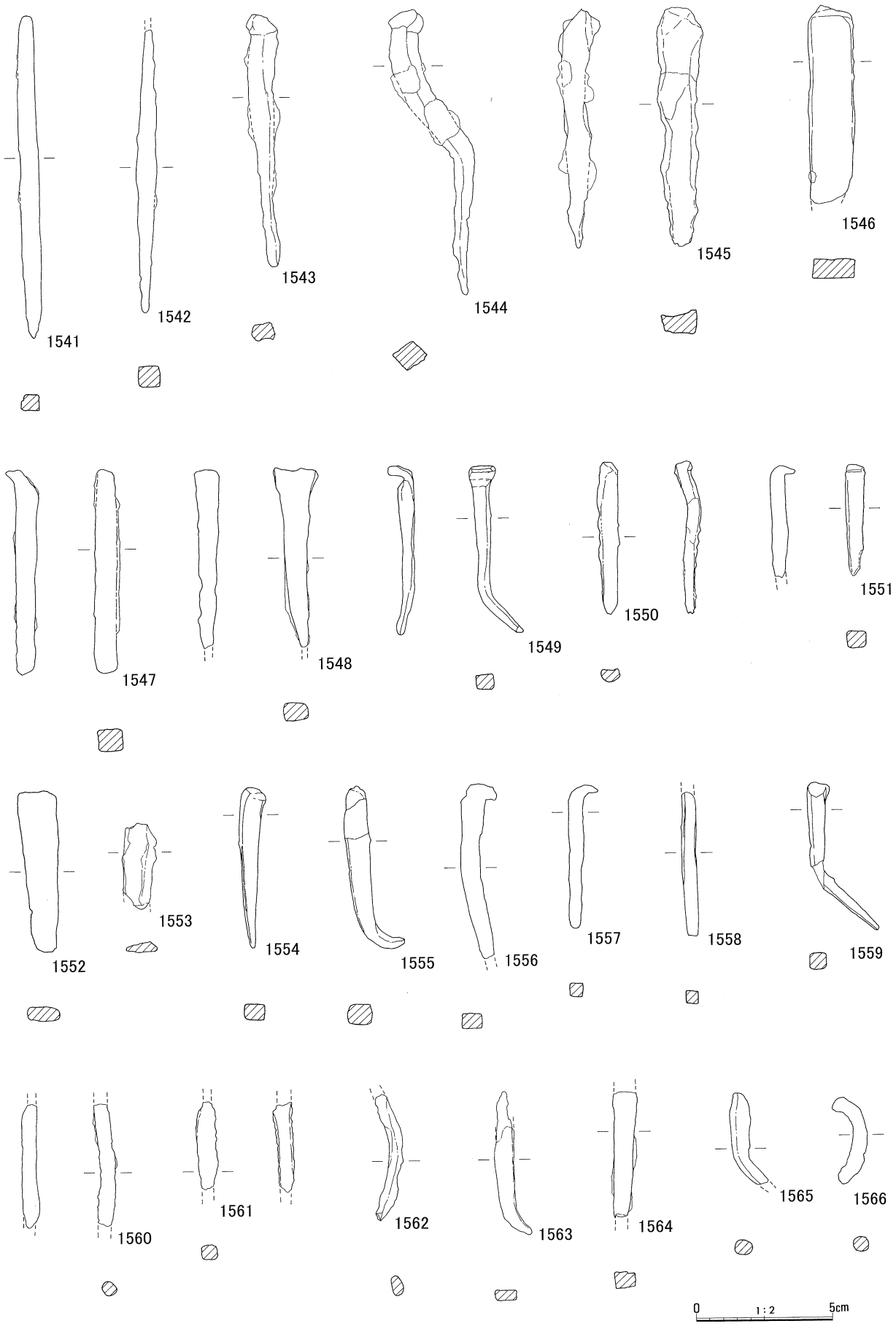
中世陶磁器

第240図は中世の陶磁器である。1512～1521は輸入陶磁器と思われる。1512、1513は同一個体の可能性のある褐釉陶器・耳壺のB群である。1514は器種不明で、焼成は土師質に近くまた表面は櫛状の工具で陰刻を施し、緑色の釉を施釉したと思われる。1515は中国天目茶碗である。体部内面及

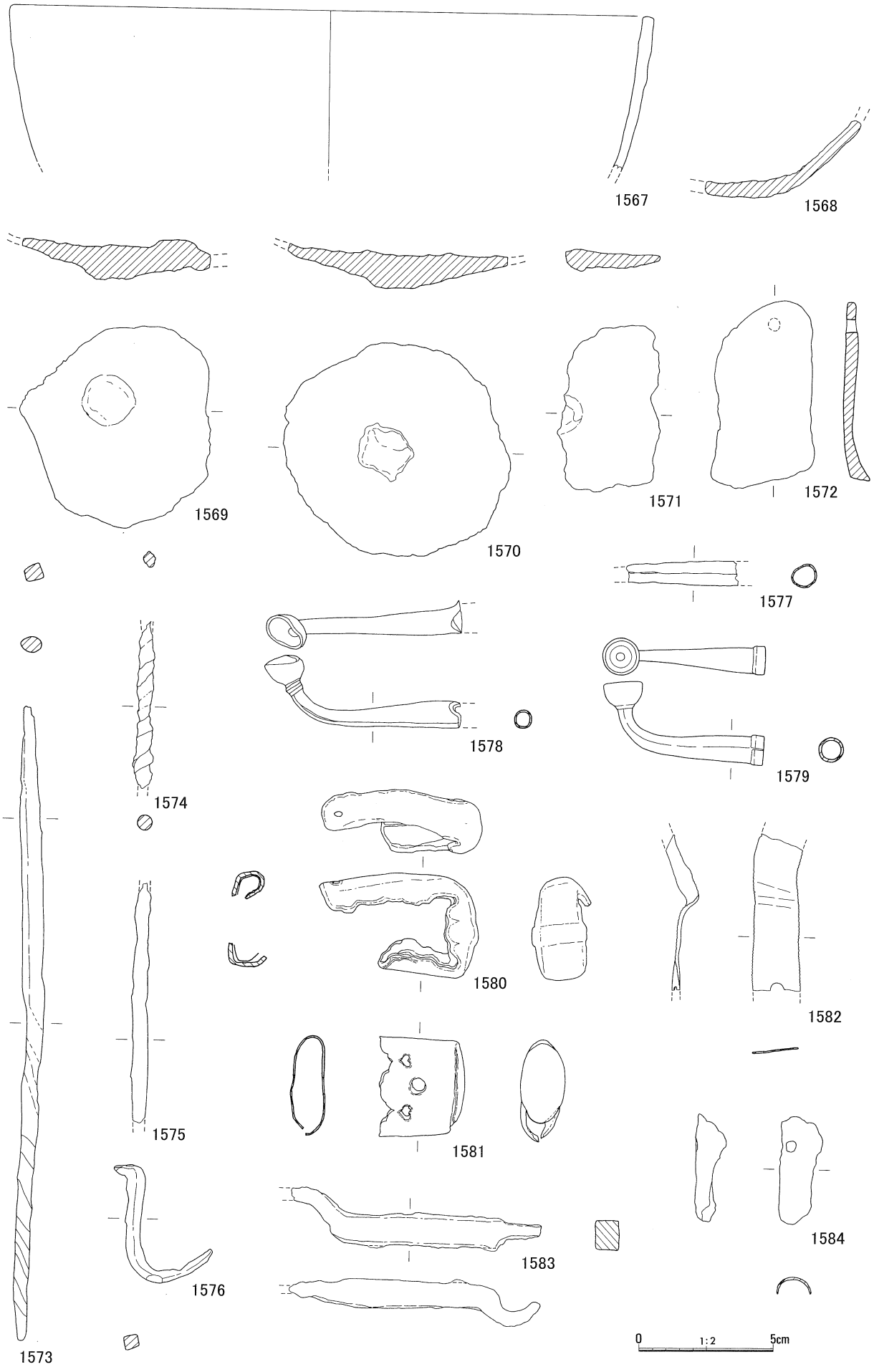


第241図　Ⅱ区金属器①（S＝1/2）

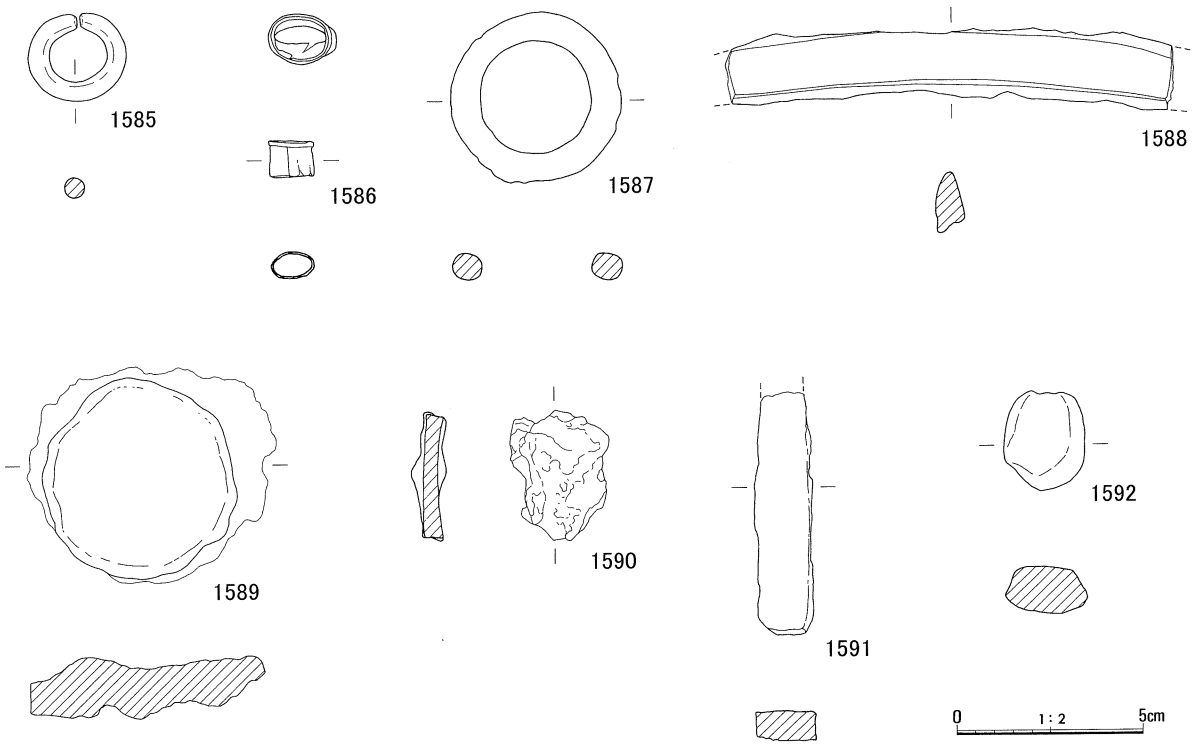
び外面は黒色と赤褐色のまだら状に発色している。1516は盤または鉢の口縁部と思われる。胎土はきめ細やかで赤褐色を呈している。1517は黄釉陶器・盤の口縁部である。口縁端部付近は化粧土が施されており、内面と外面の一部に黄釉が施されている。1518は青花・椀である。内面見込みに「寿」の文字が書かれている。1519は青花・皿である。底部は碁笥底である。1520、1521は李朝陶器・皿と思われる。1520は内面見込みに砂土目跡が残っている。1522～1530は古代から中世にかけての国内産の陶磁器および不明陶磁器である。1522は緑釉陶器の皿である。1523は灰釉陶器の可能性のある不明陶器で蓋状の器種であると思われる。1524は灰釉陶器と思われ、器種は不明である。底部糸切りで体部外面にはハケ目が確認できる。1525～1529は古瀬戸及び瀬戸大窯期と思われる。1525は片口の卸皿である。1526は平底末広椀と思われ、内面及び外面上方はオリーブ色の釉が施されている。底部は糸切りである。1527は天目茶碗である。1528は大窯期の丸皿と思われる。1529は平椀と思われる。1530～1532は肥前系陶磁器である。1530は染付・大皿である。1531は染付・椀である。1532は肥前系唐津の皿で、内面見込みに砂土目跡が4ヶ所残っている。



第242図　Ⅱ区金属器②（S＝1/2）



第243図　Ⅱ区金属器③（S＝1/2）



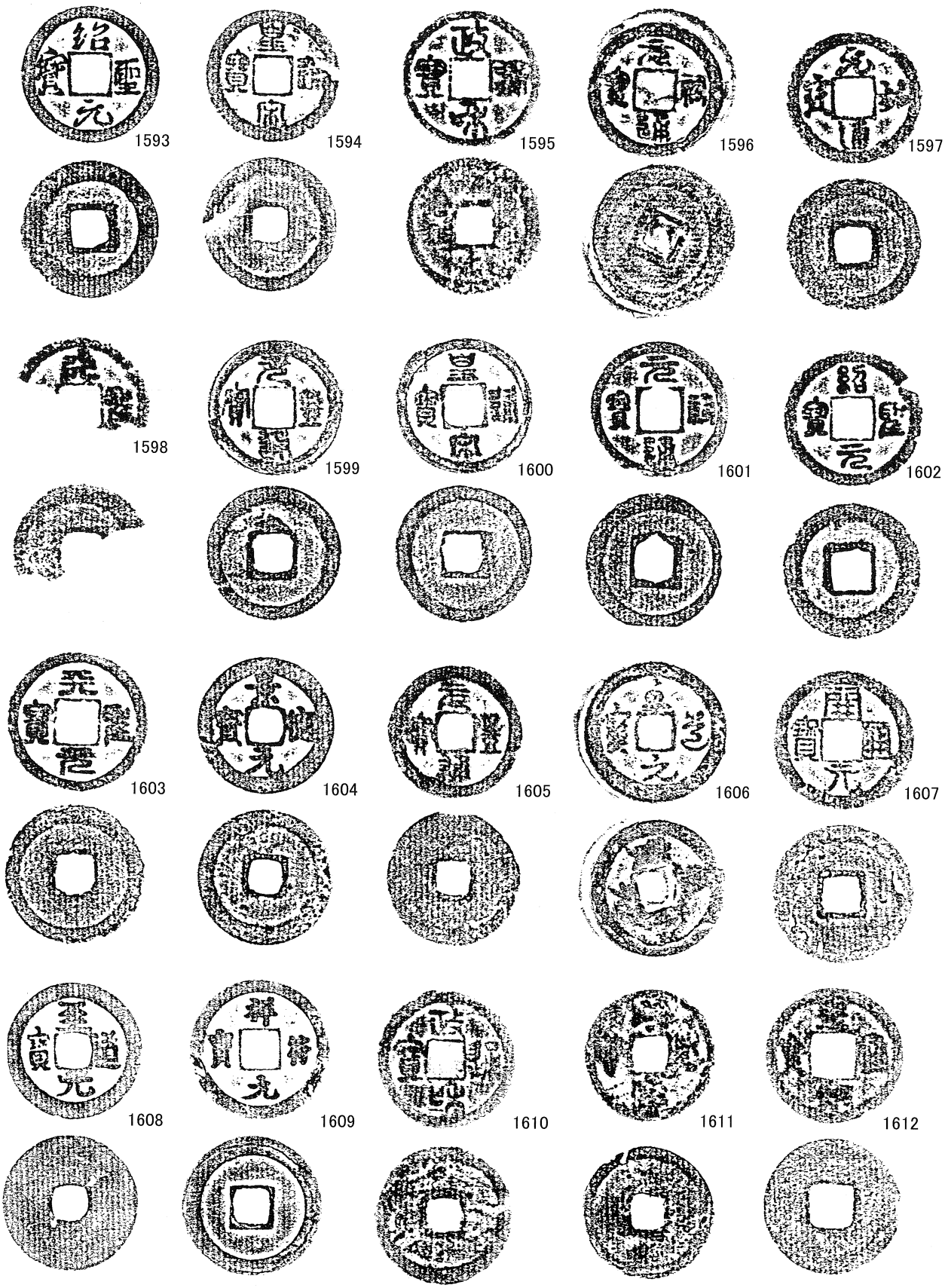
第244図　Ⅱ区金属器④（Ｓ＝1/2）

金属器

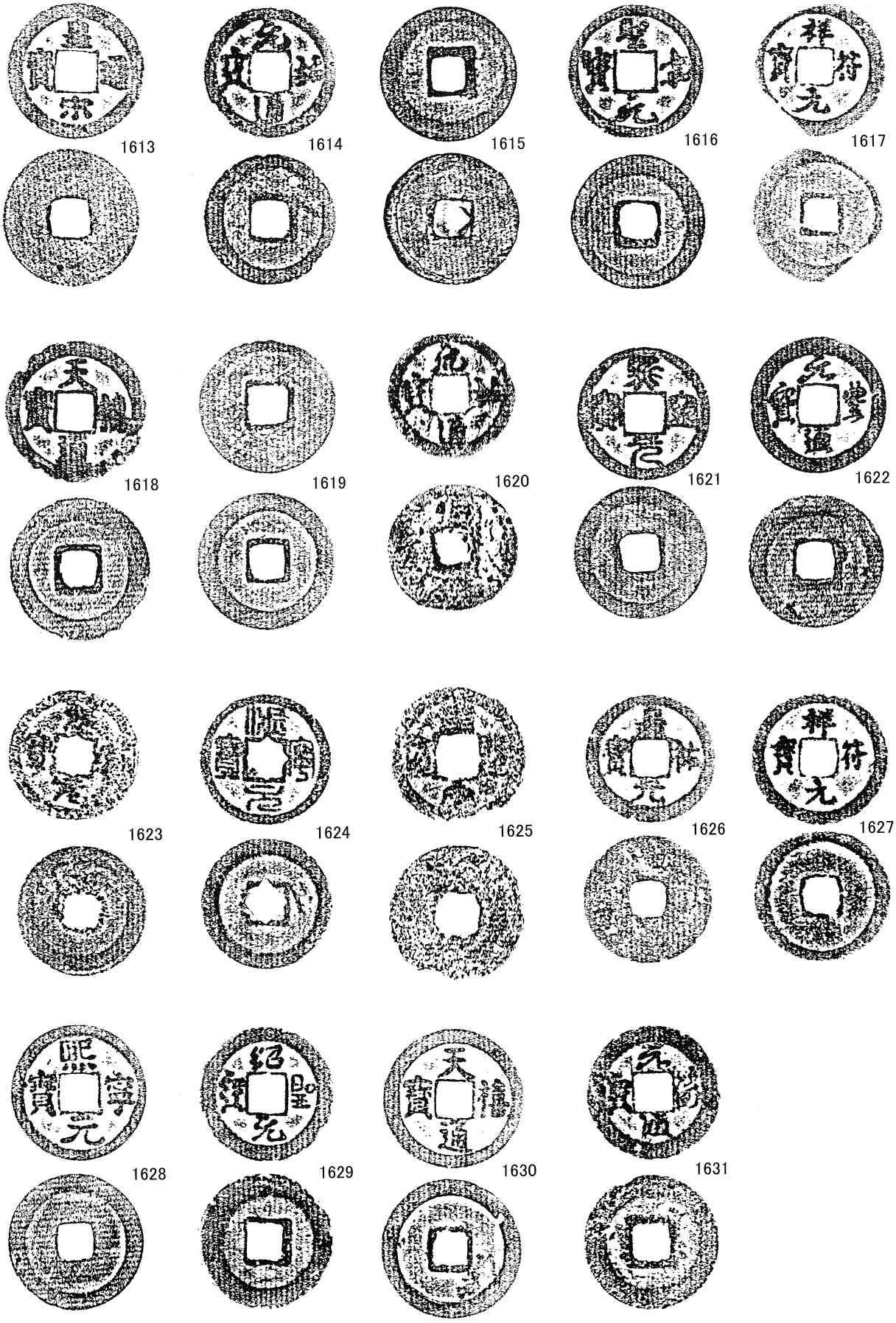
第241図～第244図は金属器である。1533～1539は刀子など刃物系の金属器と思われる。1533は茎の部分に目釘穴が１ヶ所あいている。1535は楔等の可能性もある。1536は茎部分に目釘穴が１ヶ所あいている。1537は器種不明で、部分的に赤色を呈している。1538は銅製の小柄である。1539は図面の右端部分が手前にやや反りかえっており、鎌等の可能性がある。また全体的に赤色を呈している。

1541～1566は釘・楔である。1546は楔の可能性がある。1553は器種不明である。1566は断面が円形に近く釘以外の可能性がある。1545、1547、1548、1553、1555、1556、1557、1560、1561、1563、1565は部分的に赤色を呈している。

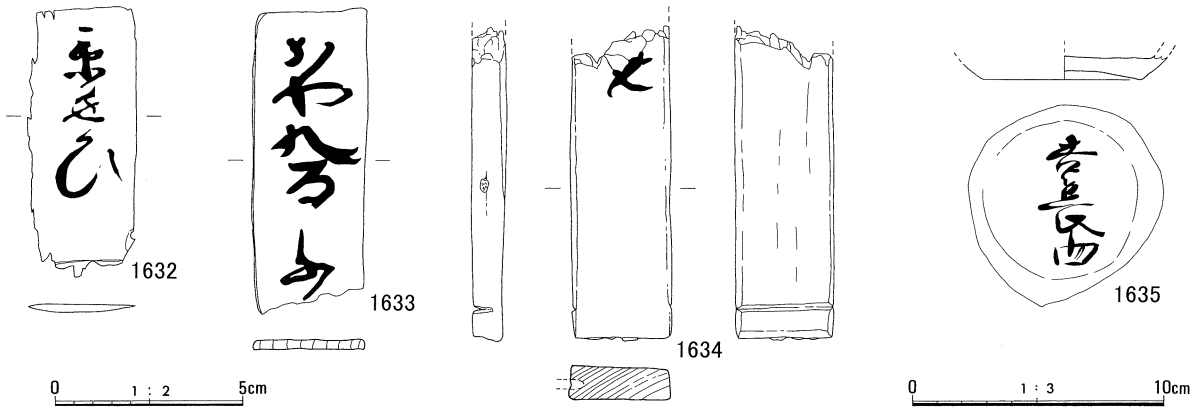
1567～1572は鋳造品と思われる。1567、1568はそれぞれ鉄鍋の口縁部、底部と思われる。1569～1572は器種不明であるが、鉄鍋などと思われる。1573、1574、1575は火箸と思われる。1576はフック状の鉄製品、1577～1579は銅製の煙管と思われる。1580、1581は銅製品で鐺・柄頭等の可能性がある。1582は銅製で左右両脇はギザギザ状になっており加工もしくは工具で切り取ったような痕である。1583は器種不明の銅製品である。1585は銅製と思われる耳環状銅製品である。1586は金色をした環状の金属製品である。1587～1592は器種不明の鉄製品である。1587は環状の鉄製品、1589は鋳造と思われる鉄製品である。1590、1592は部分的に赤色を呈している。



第245図　Ⅱ区古銭①（S＝1/1）



第246図　Ⅱ区古銭②（S＝1/1）



第247図　Ⅱ区木簡・墨書土器（S＝1/3）

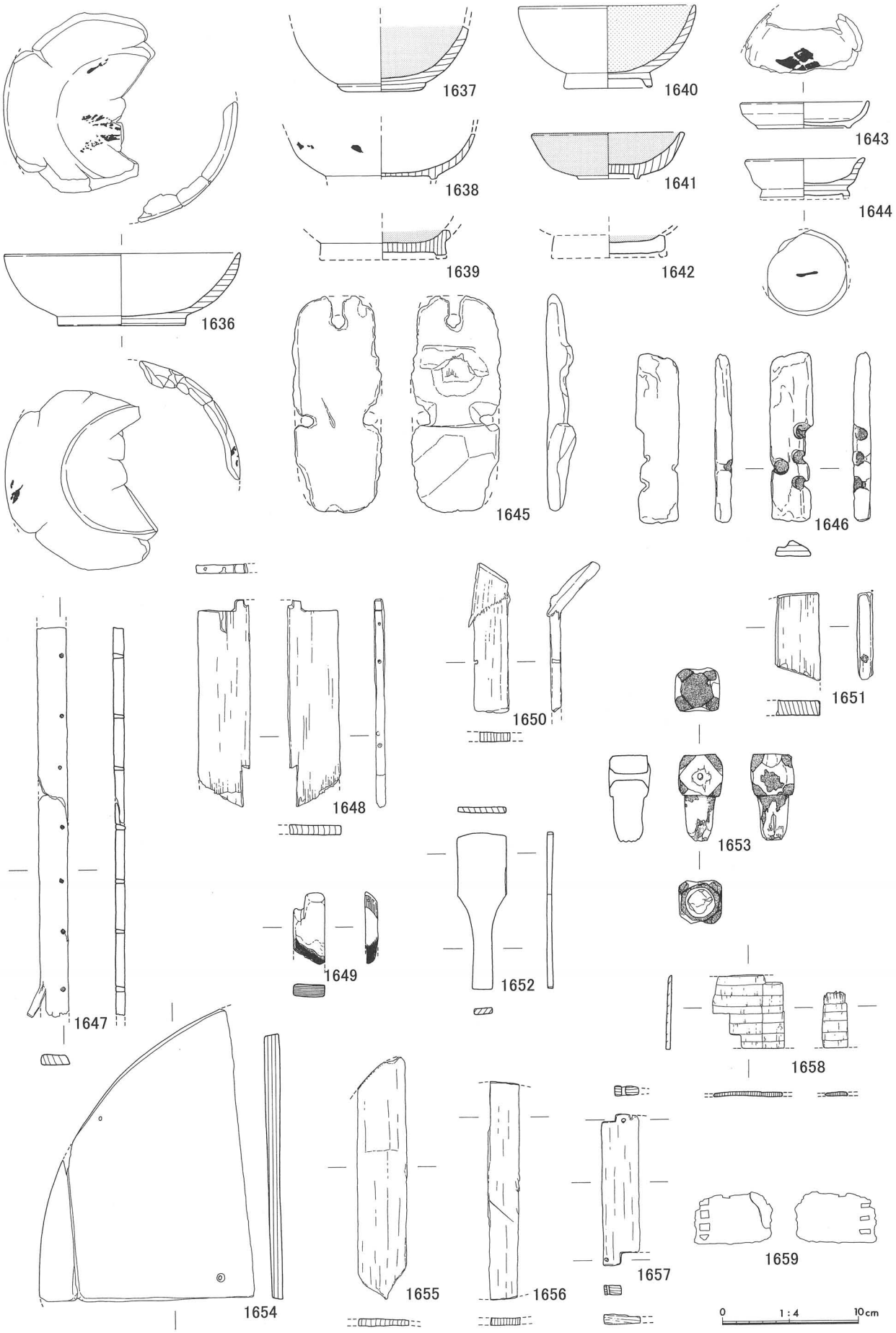
古銭

第245図～第246図は古銭である。

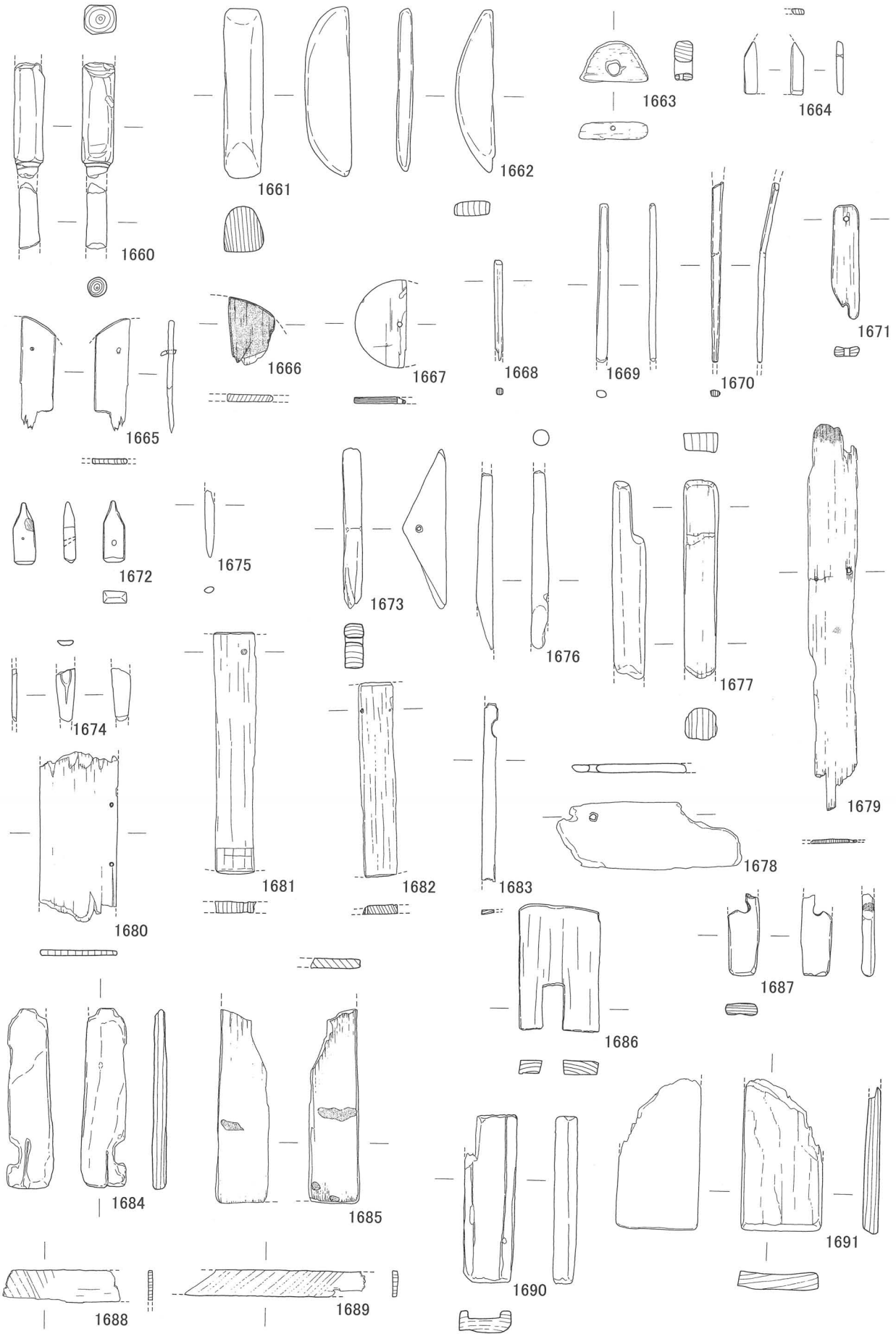
木簡・墨書土器

第247図は木簡・墨書土器である。1632は「京世ひ」と墨書されていると思われる。「京世ひ」とは京済（きょうせい）を表すと思われる。なおこの木簡は削屑と思われる。1633は「かや九百ふ」と墨書されている。『九』の部分は書き直されており、『九』の前に『八』と書かれていたと思われる。かやとは様々な意味があり、（①茅・屋根を葺くのに用いる草の総称、②榧・イチイ科の常緑高木で、材は建築、器具、造船材とし、とくに碁盤、将棋台によいとされる、③蚊帳・蚊を防ぐために、四隅をつって、寝具をおおう具など）があげられる。1634は本来は折敷等の側板と思われ、幅約１㎜、深さ約５㎜の加工溝、また木釘穴等も確認できる。文字は不明である。

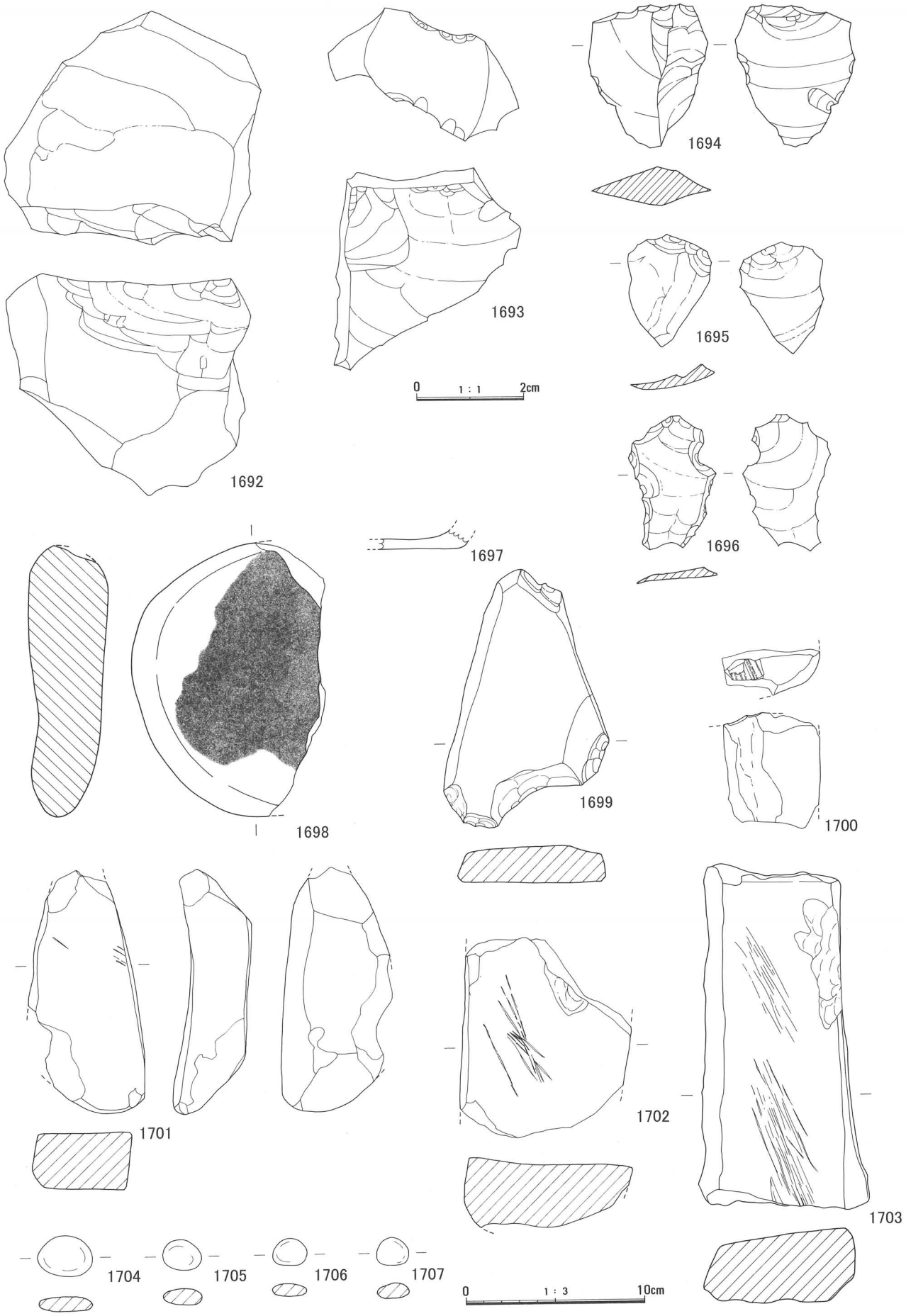
1635は墨書土器で須恵器の底部である。「吉長西」と墨書されている。吉祥句と思われる。



第248図　Ⅱ区木製品①（S＝1/4）



第249図　Ⅱ区木製品②（S＝1/4）



第250図　Ⅱ区石製品（1692～1696はＳ＝1/1、1697～1703はＳ＝1/3）

木製品

第248図、249図は木製品である。（網掛け部分は赤漆、黒色部分は黒漆）1636～1644は漆碗である。1636は内面及び体部外面は黒漆で所々赤漆が使われている。ただ風化が激しく模様等は分からない。器形は広く浅めであり、底部は削り出し高台になっていない。1637は内面赤漆、外面黒漆で底部は削り出し高台になっていない。1638は内面及び体部外面は黒漆で、内面見込みに1ヶ所赤漆で雁のような模様が施されており、体部外面にも赤漆が残っている。高台内部は現状で漆は残っていない。1639は内面赤漆、外面黒漆で、底部高台内面も黒漆と思われる。1640は内面現状茶色の漆、外面は底部高台内も含めて黒漆で、体部に1ヶ所「ハ」の字状に赤漆を確認している。また内面の茶色であるが、もともと茶色なのか、埋蔵中等に変化したものかは分からない。1641は内面及び高台内も含めた外面ともに赤漆である。1642は内面赤漆、外面黒漆で高台内は現状で漆は残っていない。1643は内面及び高台内も含めた外面黒漆で内面見込みに赤漆で模様が施されている。1644は内面及び高台内も含めた外面黒漆で高台内中央に「一」と赤漆で書かれている。1645は連歯下駄である。1646は火きり臼である。板状の木材に4ヶ所穴があいており、中は炭化している。1647～1651は折敷等の部材と思われる。1649は焼痕が残っている。1652は杓文字状木製品である。1653は栓状木製品である。全体は黒漆が塗られていたと思われる。1ヶ所穴が穿たれており、また頭の部分の門は面とりされている。棒状の部分は途中で折れていると思われる。1654～1656は曲物等の部材であると思われる。1657は折敷等の部材と思われる。1658、1659はケビキの入った部材である。1659は有機質の革状物質で2枚の材を留めている部分である。1660は棒状木製品で断面四角い部分と丸い部分からなっている。1661～1663は把手状木製品である。1664は駒状木製品である。1665～1667は円状木製品である。1666は表面が炭化している。1668～1670は箸状木製品である。1671～1673は有孔木製品である。1674は笄の一部の可能性があり、骨角器もしくは木製品と思われる。1675は不明木製品である。1676、1677は棒状木製品である。1678～1682は有孔の板状木製品である。1683～1686は板状木製品である。1685は両面に朱色の顔料の様なものが付着している。1687は2ヶ所穿孔されたような痕があり、その内側はやや炭化している。火切り臼の可能性がある。1688、1689はケビキのある木製品である。1690、1691は不明木製品である。

石製品

第250図は石製品である。1692、1693は石核、1694～1696は剥片の可能性のある石製品である。1697は滑石製石鍋の底部である。外面底部は煤けて黒色になっている。二次利用している可能性がある。1698は台石の可能性がある。網掛け部分は煤けた可能性があり、やや黒色に変色している。1699は石斧の可能性がある。1700は不明石製品である。1701～1703は砥石である。1704～1707は平玉である。

第153表　Ⅱ区土器観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
1174	516	190下	L11	18	弥生	甕				Ⅲ様式	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ	径1㎜弱の砂粒を含む	内：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/2) 外：鈍い黄橙色810ＹＲ7/2)	
1175	475	190上	L11	18	弥生	甕				Ⅳ－2様式 口縁外部 刻み目文 頸部　刻み目貼付突帯	内：横ナデ 外横ナデ	微粒子の金雲母、長石、石英を多く含む	内：灰色(5Ｙ4/1) 外：灰色(5Ｙ4/1)	
1176	476	190上	L10	18	弥生	甕				Ⅳ－2様式 口縁端部 円形浮文 頸部　刻み目貼付突帯	内：横ナデ 外：横ナデ、3条の凹線	微粒子の長石、石英を多く含む	内：浅黄橙色(10ＹＲ8/3) 外：浅黄橙色(10ＹＲ8/3)	
1177	515	190上	L9	18	弥生	甕				Ⅲ様式	内：横ナデ 外：ハケ目	径1㎜弱の砂粒を多く含む	内：灰黄色(10Ｙ6/2) 外：灰黄色(10Ｙ6/2)	反転実測 磨耗が激しい
1178	533	190上			弥生	甕	(16.8)			Ⅲ－2またはⅣ－1様式 頸部　刻み目貼付突帯	内：横ナデ、ハケ目 外：横ナデ、ハケ目？、3条の凹線	微粒子の長石、石英、黒色粒子を含む	内：灰黄色(2.5Ｙ7/1) 外：灰黄色(2.5Ｙ7/1)	反転実測
1179	526	190下	J K11	18－ ②	弥生	甕		(11.8)		Ⅲ～Ⅳ－1様式	内：指頭圧痕 外：	微粒子の砂粒を多く含む	内：黄灰色(2.5Ｙ6/1) 外：黄灰色(2.5Ｙ6/1)	反転実測
1180	487	189	M10	18－ ②	弥生	甕		(10.4)		Ⅳ様式	内：ヘラ削り、指頭圧痕 外：不明	径1㎜弱の金雲母、長石、石英を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ7/1) 外：灰白色(2.5Ｙ7/1)	反転実測
1181	505	190上	M10	18－ ②	弥生	甕		(6.2)		Ⅲ～Ⅳ－1様式	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜弱の金雲母、黒雲母、長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：褐灰色(7.5ＹR6/1)～淡赤橙色(2.5ＹR7/4) 外底部：黒色(2.5Y2/1)	反転実測
1182	503	190上	ⅡＢ区		弥生	壺				Ⅲ－2様式　口縁端部刻み目文	内：横ナデ 外：横ナデ	径1㎜弱の金雲母、長石、石英を多く含む	内：鈍い橙色(7.5ＹＲ7/3) 外：灰白色10ＹＲ7/1)	
1183	525	190上	M8		弥生	壺	(27.3)			Ⅲ様式　口縁部　斜格子状刻み目文	内：ミガキ？ 外：横ナデ	径1㎜弱の黒雲母、長石、石英を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ7/1) 外：灰白色(2.5Ｙ7/1)	反転実測
1184	523	190上	ⅡＢ区		弥生	壺				Ⅲ様式　口縁部　刻み目文 頸部　2条の刻み目貼付突帯に7～8㎜幅の粘土を貼り付け	内：横ナデ 外：横ナデ	径2～3㎜大の長石、微粒子の長石、石英を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/1) 外：灰白色(2.5Ｙ8/1)	
1185	522	190上	L12	18	弥生	壺	(20.4)			Ⅲ様式　口縁端部　斜格子状刻み目文、円形浮文　刻み目文　外面　少なくとも4条の刻み目貼付突帯3状の波状文	内：ハケ目 外：横ナデ	径1㎜前後の黒雲母、長石、石英を多く含む 径1㎜大の白色粒子を含む	内：灰黄色(2.5Ｙ7/2) 外：灰黄色(2.5Ｙ7/2)	反転実測
1186	502	190上	ⅡＢ区 北壁溝		弥生	壺	(19.2)			Ⅲ－2様式　口縁端部刻み目文	内： 外：ハケ目	径2～3㎜大の石英、微粒子の石英を多く含む	内：灰白色(10ＹＲ8/2) 外：灰白色(10ＹＲ8/2)	反転実測 磨耗が激しい
1187	474	190下	K10	24	弥生	甕	(20.6)			Ⅳ－1様式　口縁部　3条の凹線	内：横ナデ、ハケ目 外：横ナデ、ナデ	微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/3) 外：鈍い黄橙色810ＹＲ7/3)	反転実測
1188	484	190下	M10	18－ ②	弥生	壺	(31.0)			Ⅳ様式　口縁部　2～3条の凹線、2状の刻目文 頸部　少なくとも4条の凹線	内：横ナデ、横ハケ目 横ナデ、縦ハケ目	径1㎜前後の金雲母、長石、石英を多く含む 径1～3㎜の赤色粒子を含む 径5㎜大の小石をわずかに含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：灰白色(10YR8/2)	反転実測
1189	524	190下	ⅡＢ区	24	弥生	壺	(29.5)			Ⅲ様式	内：横ナデ、ハケ目 外：横ナデ、ハケ目	径1㎜弱の黒雲母、長石、石英を多く含む	内：灰白色(5Ｙ8/2) 外：灰白色(5Ｙ8/2)	反転実測
1190	508	190下	L11	24	弥生	壺				Ⅳ様式　口縁端部　篦描斜格子文、刻み目文 頸部　刻み目文	内：ナデ 外：ナデ	径1㎜前後の長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/4) 外：鈍い黄橙色810ＹＲ7/4)	
1191	507	190下	北壁溝		弥生	壺				Ⅳ様式　口縁端部 円形浮文、3条の凹線　内面　3条の沈線、3条の波状文	内：不明 外：不明	やや粗い	内：鈍い橙色(7.5ＹＲ7/3) 外：鈍い橙色(7.5ＹＲ7/3)	
1192	506	190下			弥生	壺				Ⅳ様式　口縁端部 2条の凹線 内面　6条の凹線	内：不明 外：不明	径1㎜前後の長石石英を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/2) 外：灰白色(2.5Ｙ8/2)	磨耗が激しい
1193	510	190下			弥生	壺				Ⅳ様式　外面　少なくとも2条の凹線と最低5条の擬凹線の間に、櫛状工具による刺突文が施されている	内：不明 外：不明	径1㎜前後の金雲母、長石、石英を多く含む	内：灰白色(5Ｙ8/2) 外：灰白色(5Ｙ8/2)	
1194	509	190下	L9	18	弥生	壺				Ⅳ様式　外面　最低4条の凹線を施した後、少なくとも2段の羽状文を施している	内：不明 外：ハケ目	径1㎜前後の長石、石英を多く含む石英を多く含む	内：浅黄橙色(10ＹＲ8/3) 外：浅黄橙色(10ＹＲ8/3)	鉄分付着の為赤黄色に変色 風化著しい
1195	511	190下	北壁溝 トレンチ	18	弥生	壺				Ⅳ様式　外面　篦状工具による凹線文(最低5条)	内：ハケ目 外：不明	径1㎜弱の金雲母、長石、石英を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/2) 外：灰白色(2.5Ｙ8/2)	磨耗が激しい
1196	485	191上	L10	16下	弥生	壺				Ⅳ様式　煤付着	内：横ナデ、ヘラミガキ、ハケ目　外：ハケ目、幅3～4㎜の5条の凹線、2㎜前後の沈線少なくとも4条確認、指頭圧痕	微粒子の金雲母、長石、石英を多く含む　径1～5㎜の赤色粒子を含む	内：鈍い黄褐色(10ＹＲ7/2) 外：鈍い黄褐色(10ＹＲ7/2)	反転実測
1197	490	191上	K9 K10		弥生	壺				Ⅳ様式	内：ナデ　外：ヘラミガキ後3.5㎝幅ごとに5条の擬凹線少なくとも3段、後文様が入る、円形浮文	径2㎜弱の砂粒を含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/2) 外：灰白色(2.5Ｙ8/2)	
1198	530	192	K9 K10	18－ ②	弥生	壺		(5.6)		Ⅲ～Ⅳ－1様式	内：ヘラミガキ 外：ヘラミガキ	径3㎜弱の砂粒を含む	内：灰白色(2.5Ｙ7/1) 外：灰白色(2.5Ｙ7/1)	反転実測 磨耗が激しい
1199	517	191上	K9	18	弥生	高坏				Ⅳ－1様式	内：回転ナデ 外：回転ナデ、少なくとも2条の凹線	径1㎜弱の砂粒を含む	内：灰白色(10ＹＲ8/2) 外：灰白色(10ＹＲ8/2)	
1200	527	191上	K11		弥生	甕	(16.0)			Ⅴ－1様式	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目？	径3㎜弱の砂粒を多く含む	内：浅黄橙色(10ＹＲ8/3) 外：浅黄橙色(10ＹＲ8/3)	反転実測
1201	528	191上	L12	18	弥生	甕				Ⅴ－1様式	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、少なくとも4条の擬凹線	径1㎜弱の砂粒を含む 径1㎜前後の赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(7.5ＹＲ7/4) 外：鈍い橙色(7.5ＹＲ7/4)	反転実測
1202	535	191上	K12		弥生	甕	(18.8)			Ⅴ－2様式	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、4条の擬凹線	径1㎜大の砂粒を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/2) 外：灰白色(2.5Ｙ8/2)	反転実測 磨耗が激しい
1203	536	191上	L12	16	弥生	甕	(11.6)			Ⅴ－2様式	内：横ナデ 外：横ナデ、擬凹線？	径5㎜弱の砂粒を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/2) 外：灰白色(2.5Ｙ8/2)	反転実測 磨耗が激しい
1204	541	191下	J12	24上面	弥生	甕	(26.6)			Ⅴ－3様式	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、5条前後の擬凹線を数回に亘って、施している	径4㎜弱の砂粒を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/1) 外：灰白色(2.5Ｙ8/1)	反転実測 磨耗が激しい
1205	498	191下	M8	第一遺構面	弥生	甕				Ⅴ－4様式	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ	径1㎜前後の長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/3) 外：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/3)	反転実測
1206	499	191下	K11 北東トレンチ		弥生	甕				Ⅴ－4様式	内：横ナデ 外：横ナデ	微粒子の金雲母、黒雲母、石英を若干含む	内：灰白色(10ＹＲ8/2) 外：浅黄橙色(7.5ＹＲ8/4)	
1207	495	191下	K11 北東トレンチ		弥生	甕				Ⅴ－4様式または草田6期	内：横ナデ 外：横ナデ	微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：灰白色(7.5ＹＲ8/2) 外：灰白色(7.5ＹＲ8/2)	
1208	496	191下	K12	24	弥生	甕				Ⅴ－4様式 外面　貝殻刺突文？	内：ヘラ削り 外：少なくとも3条の沈線	微粒子の黒雲母、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/2) 外：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/2)	
1209	497	191下	西壁溝		弥生	甕				Ⅴ－4様式 外面　貝殻刺突文、列点文	内：ヘラ削り 外：少なくとも3条の沈線	径2㎜大の石英を含む 微粒子の金雲母、長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/3) 外：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/3)	
1210	537	191下	K11	24	弥生	甕	(18.4)			弥生～古墳時代	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ	微粒子の黒雲母、長石、石英を多く含む	内：浅黄色(2.5Ｙ7/3) 外：黄灰色(2.5Ｙ5/1)	反転実測
1211	539	191下	K12		弥生	甕				Ⅴ－1様式	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、1条の凹線	径1㎜大の砂粒を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/2) 外：灰白色(2.5Ｙ8/2)	反転実測
1212	540	191下	K12	18	弥生	壺				Ⅴ－2様式または土師器	内：横ナデ 外：横ナデ	微粒子の黒雲母、長石を多く含む　径1～2㎜の赤色粒子をわずかに含む	内：灰白色(2.5Ｙ7/1) 外：灰白色(2.5Ｙ7/1)	反転実測
1213	531	191下	北東壁溝	14	弥生	高坏	(22.1)			Ⅴ－3様式	内：横ナデ 外：横ナデ	密　径2㎜弱の砂粒を含む　径1㎜前後の赤色粒子を含む	内：灰白色(10ＹＲ8/2) 外：灰白色(10ＹＲ8/2)	反転実測
1214	534	192	N9－09 トレンチ	18－ ②	弥生	低脚坏		(5.1)		Ⅴ－3様式	内：ヘラミガキ 外：ナデ	微粒子の砂粒をわずかに含む	内：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/2) 外：鈍い黄橙色(10ＹＲ7/2)	反転実測
1215	532	191下	J10北側溝		弥生	高坏				Ⅴ－2様式 口縁端部 4条の擬凹線 口縁外面 1段の刻み目文	内：横ナデ 外：横ナデ	微粒子の金雲母、黒雲母、長石、石英を多く含む	内：灰白色(2.5Ｙ8/2) 外：灰色(5Ｙ4/1)	
1216	538	191下	ⅡＢ区	24	弥生	器台				Ⅴ－4様式	内：横ナデ後ヘラミガキ 外：横ナデ後ヘラミガキ、ヘラミガキ	微粒子の金雲母、石英、赤色砂粒を多く含む	内：浅黄橙色(7.5ＹＲ8/3) 外：浅黄橙色(7.5ＹＲ8/3)	反転実測
1217	521	192	西壁溝		弥生	器台				Ⅴ－2様式	内：不明 外：不明	径1～2㎜の赤色粒子、砂粒を含む	内：橙色(5ＹＲ7/6) 外：橙色(5ＹＲ7/6)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1218	459	192	J 11 12 K11 12	24	土師器	甕	(14.8)			草田6期	内：横ナデ 外：横ナデ	径1㎜弱の砂粒を多く含む 径2㎜前後の赤色粒子を含む	内：淡橙色(5Y R8/4) 外：淡橙色(5Y R8/4)	反転実測
1219	477	192	東側トレンチ		土師器	甕	(14.4)			草田6～7期	内：横ナデ 外：横ナデ	微粒子の砂粒をわずかに含む	内：灰白色(10Y R8/2) 外：灰白色(10Y R8/2)	反転実測
1220	486	192	J 12		土師器	甕	(12.6)			古墳時代前期？	内：横ナデ 外：横ナデ	径1㎜大の赤色粒子わずかに含む	内：浅黄橙色(10Y R8/3) 外：浅黄橙色(10Y R8/3)	反転実測
1221	473	192	ⅡB区 I15側溝		土師器	甕	(14.0)			草田7期以降	内：横ナデ 外：横ナデ	微粒子の砂粒を多く含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	反転実測
1222	479	192	K11南北トレンチ		土師器	甕	(18.0)			古墳時代前期？	内：横ナデ？ 外：横ナデ？	微粒子の砂粒を多く含む	内：灰黄褐色(10Y R6/2) 外：灰黄褐色810Y R6/2)	反転実測 磨耗が激しい
1223	478	192	L8		土師器	甕	(19.2)			古墳時代前期？	内：横ナデ、ハケ目？ 外：横ナデ	径1㎜大の砂粒をわずかに含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測
1224	488	192	K11北東トレンチ		土師器	甕	(17.0)			古墳時代前期？	内：横ナデ 外：横ナデ	微粒子の砂粒を多く含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/2) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/2)	反転実測
1225	494	192	ⅡB区 I J 13 14	24	土師器	甕				甕Ⅰ－A類	内：横ナデ 外：横ナデ、ハケ目	径1㎜弱の砂粒を多く含む	内：黄灰色(2.5Y5/1) 外：黄灰色(2.5Y4/1)	
1226	493	192	M9 10	レキ	土師器	甕	(16.7)			甕Ⅰ－A類	内：ハケ目後ナデ？、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	密 微粒子の砂粒を多く含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/3) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/3)	反転実測
1227	512	192	K11 中央溝	24 上面	土師器	甕	(26.8)			甕Ⅰ－B類	内：横ナデ 外：横ナデ、ハケ目(単位：9本(1.3cm)/1単位)	径1㎜弱の砂粒を含む	内：灰黄色(2.5Y6/2) 外：灰黄色(2.5Y6/2)	反転実測
1228	513	192	K11	24 上面	土師器	甕	(27.2)			甕Ⅰ－B類	内：ハケ目後ナデ消し、横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	微粒子の金雲母、黒雲母、長石、石英を多く含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：黒色(5Y2/1)	反転実測 外面 煤付着
1229	467	192	ⅡB区	24	土師器	甕	(24.2)			甕Ⅱ－A類	内：ハケ目後ナデ消し、横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径2㎜弱の砂粒を多く含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/2) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/2)	反転実測
1230	491	192	ⅡB区	24	土師器	甕	(15.3)			甕Ⅱ－C類	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径1㎜大の砂粒を多く含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測
1231	492	192			土師器	甕	(15.2)			甕Ⅱ－C類	内：ハケ目後ナデ消し、横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径1㎜弱の砂粒を多く含む 径1㎜前後の赤色粒子を含む	内：浅黄橙色(7.5Y R8/4) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/4)	反転実測
1232	466	192	J 12	18	土師器	甕	(24.0)			甕Ⅱ－B1類	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径1㎜前後の赤色粒子をわずかに含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/2) 外：褐灰色(10Y R4/1)	反転実測
1233	481	192	K11	18	土師器	甕	(23.6)			甕Ⅱ－B2類	内：ハケ目後ナデ消し、横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径4㎜弱の砂粒を多く含む	内：灰黄褐色(10Y R6/2) 外：灰黄褐色(10Y R6/2)	反転実測
1234	483	192	ⅡB区	24 層下	土師器	甕	(25.0)			甕Ⅱ－B2類	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径3㎜弱の砂粒を多く含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/2) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/2)	反転実測
1235	480	192	ⅡB区	24 層下	土師器	甕	(21.2)			甕Ⅱ－B2類	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径1㎜弱の赤色粒子を含む 径2㎜弱の砂粒を多く含む	内：鈍い黄橙色(10Y R6/3) 外：鈍い黄橙色(10Y R6/3)	反転実測 煤付着
1236	482	192	ⅡB区 周溝		土師器	甕	(17.4)			甕Ⅱ－B2類	内：ハケ目後ナデ消し、横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	径3㎜弱の砂粒を多く含む	内：灰黄褐色(10Y R6/2) 外：灰黄褐色(10Y R6/2)	反転実測 煤付着
1237	465	193	ⅡB区 I 14		土師器	甕	(27.2)			甕Ⅲ類またはⅡ－A類	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、 ハケ目	微粒子の黒雲母をわずかに含む 2㎜大の長石を多く含む	内：鈍い黄橙色(10Y R7/3) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/3)	反転実測
1238	514	193	NO9 トレンチ		土師器	甕				外面 煤付着	内：横ナデ、ヘラ削り 外：横ナデ、ハケ目	微粒子の金雲母、黒雲母を多く含む 2㎜大の長石を多く含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測
1239	468	193	L8		土師器	甕				甕Ⅳ類	内：横ナデ、ヘラ削り、指頭圧痕 外：横ナデ、	微粒子の金雲母、黒雲母を含む 1㎜大の長石、石英を多く含む	内：灰褐色(10Y R6/2) 外：灰褐色(10Y R6/2)	反転実測
1240	489	193	L11		土師器	甕					内：ナデ 外：ナデ	微粒子の金雲母、黒雲母を含む	内：鈍い黄色(2.5Y6/3) 外：鈍い黄色(2.5Y6/3)	
1241	472	193	ⅡB区 北側溝		土師器	低脚坏				赤彩 二次的火を受けているか？	外：ハケ目 単位：4本(0.9cm)/1単位 外底部：粗いハケ目	微粒子の金雲母を多く含む	外：橙色(5YR6/8)	反転実測
1242	501	193	M8	18	土師器	高坏	(16.8)				内：不明 外：不明	微粒子の金雲母を含む 1～3㎜大の赤色粒子を含む	内：鈍い橙色(7.5Y7/3) 外：鈍い橙色(7.5Y7/3)	反転実測
1243	3	193	北壁溝	24	土師器	高坏	(23.4)				内：横ナデ、ヘラミガキか？ 内底部： 外：横ナデ、ハケ目	微粒子の金雲母、黒雲母、石英を含む 1㎜大の長石を含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	反転実測
1244	7	193	北東壁溝	青灰色砂レキ	土師器	高坏				赤彩	内：ミガキ 外：ハケ目	微粒子の金雲母を含む	内：明赤褐色(2.5YR5/6) 外：明赤褐色(2.5YR5/6)	反転実測
1245	500	193	ⅡA区		土師器	高坏	(15.6)				内：不明 外：不明	微粒子の金雲母、黒雲母、石英を多く含む 1㎜弱の長石を含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測 磨耗激しい
1246	471	193	北壁溝		土師器	高坏					脚部内：横ナデ 脚部外：横ナデ	密	内：鈍い橙色(7.5Y R7/4)～黒色(7.5R5/3) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/2) 外赤彩：鈍い赤褐色(7.5Y R5/3)	反転実測
1247	504	－	M7 8第一遺構面下		土師器	高坏				赤彩	脚部内：絞り込み 脚部外：横ナデ、ハケ目	微粒子の金雲母を含む	内：鈍い橙色(10Y R7/3) 内赤彩：橙色(5Y R6/8) 外：鈍い黄橙色(10Y R7/3) 外赤彩：橙色(5Y R6/8)	反転実測
1248	470	193	L8	青灰色粘質土	土師器	土製支脚						微粒子の黒雲母、石英を含む 径1～2㎜大の長石、石英多く含む	鈍い黄褐色(10Y R6/3)	
1249	469	193	K9 10	第一遺構面	土師器	土製支脚						微粒子の黒雲母、長石、石英を含む	灰白色2.5Y7/2)	
1250	464	193	L8	18－②	土師器	竈					内：ナデ、 ケズリ 外：ナデ、 ハケ目	径1㎜前後の赤色粒子、石英をわずかに含む 径1～2㎜大の長石、多く含む	内：灰白色(2.5Y8/2) 外：灰白色(2.5Y8/2)	
1251	545	193	J 11		土師器	竈					内：ナデ、 ケズリ 外：不明	微粒子の黒雲母、金雲母を含む 径1㎜前後の長石、石英を含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：浅黄橙色(7.5Y R8/3)	
1252	429	－	M9		須恵器(古墳)	坏身	11.1	4.5	4.0		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ヘラ削り	密 微粒子の黒色粒子を多く含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N5/)	
1253	430	194 上	M9	18	須恵器(古墳)	坏身	12.1				内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ削り	径1㎜弱の白色粒子の石英を含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1254	428	194 上			須恵器(古墳)	無蓋高坏				無蓋高坏	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1255	409	－	L10	18-②	須恵器(古墳)	高坏		(8.8)		2方透かし	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	密 微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N5/)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1256	427	194上	J12	16	須恵器(古墳)	甕				外面　小さい波状文	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英、白色粒子をわずかに含む	内：灰色(5Y5/1) 外：暗灰色(N3/)	
1257	423	194上	東北壁溝	14	須恵器(古墳)	甕					内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密	内：灰白色(N7/) 外：灰色(N6/)	
1258	424	194上			須恵器(古墳)	甕					内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密	内：灰色(10Y6/1) 外：暗灰色(N3/)	
1259	418	194上	L11 南壁溝	24上面	須恵器(古代)	坏蓋				坏蓋Ⅰ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石を多く含む	内：灰色(10Y5/1) 外：灰色(N5/)	
1260	403	194上	K10		須恵器(古代)	坏蓋	(13.9)			坏蓋Ⅲ類	内：回転ナデ後ナデ 外：回転ナデ、ヘラ削り？	密　微粒子の長石を多く含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1261	417	194上	L8	18	須恵器(古代)	坏蓋				坏蓋Ⅱ類　外面　自然釉付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英、白色粒子をわずかに含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	
1262	404	194上	L9	18	須恵器(古代)	坏蓋				坏蓋Ⅲ類　かなりの歪みあり	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、ヘラ削り後ナデ	密　径1㎜弱の長石、石英を多く含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
1263	406	194下	K10	18－②	須恵器(古代)	高台付坏		(7.8)		坏Ⅰ－B1類	内：不明 外：回転ナデ　ヘラ切り	径1㎜大の長石、石英を多く含む	内：灰色(5Y6/1) 外：灰色(6Y6/1)	反転実測
1264	413	194下	L8		須恵器(古代)	高台付坏			5.1	坏Ⅰ－A類	内：回転ナデ後ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(10Y5/1) 外：灰色(10Y5/1)	
1265	412	195	Ⅱ区西壁溝		須恵器(古代)	坏	12.9		(4.7)	坏Ⅱ－2類	内：回転ナデ後ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の砂粒をわずかに含む	内：青灰色(5B5/1) 外：青灰色(5B5/1)	
1266	414	194下	Ⅱ区東側トレンチ	粘土	須恵器(古代)	Ⅲ	14.0	(10.0)	2.4	ⅢⅡ－2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　糸切り	密　微粒子の白色粒子をわずかに含む	内：灰色(N5/)　外：灰色(N5/) 外口縁：灰色(N4/)	反転実測
1267	2	195	ⅡB区 J13	24	須恵器(古代)	Ⅲ	13.9	10.3	2.3	ⅢⅡ－2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　糸切り	径1～2㎜の砂粒をわずかに含む	内：灰色(5Y6/1) 外：灰色(5Y6/1)～灰色(N6/)	
1268	411	195			須恵器(古代)	高台付坏		(8.2)		坏Ⅰ－B2類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1㎜の白色粒子を含む 径3㎜の砂粒をわずかに含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N4/)	反転実測
1269	410	195	J12	18－②	須恵器(古代)	高台付坏		(8.2)		坏Ⅰ－B2類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1㎜弱の白色粒子、微粒子の石英、黒色粒子を含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1270	415	194下	北壁溝		須恵器(古代)	高台付坏		(14.6)		ⅢⅠ－2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1～3㎜大の長石を含む	内：オリーブ灰色(2.5Y6/1) 外：オリーブ灰色(2.5Y6/1)	反転実測
1271	416	194下	M9 10 N9	第1遺構面下	須恵器(古代)	高台付坏		(11.8)		坏Ⅰ－B1類	内：回転ナデ後ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り	密　微粒子の長石、石英を含む 径5㎜の石を1ヶ含む	内：灰白色(N7/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1272	421	194下	M9 10 11 トレンチ		須恵器(古墳)	高坏	(24.9)				内：回転ナデ後ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英をわずかに含む	内：灰色(5Y6/1) 外：灰色(5Y6/1)	反転実測
1273	387	196上	ⅡB区 I14		須恵器(古代)	坏	(12.0)	(7.0)	3.8	坏ii－2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石をわずかに含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1274	386	196上	K12		須恵器(古代)	坏	(12.8)	(7.9)	4.0	坏ii－2類　体部　歪みあり	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：灰白色(7.5Y7/1) 外：灰色(7.5Y6/1)	反転実測
1275	384	195	トレンチ9		須恵器(古代)	坏	(12.1)	8.3	3.8	坏ii－2類　内面　ヘラ記号	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：灰色(10Y6/1) 外：灰色(10Y5/1)～灰色(10Y6/1)	一部反転実測
1276	385	195	ⅡB区 I14		須恵器(古代)	坏	12.6	6.7	4.2	坏ii－2類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英をわずかに含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(7.5Y7/1)	磨耗が激しい
1277	383	196上	K12	18	須恵器(古代)	坏		(10.0)		坏ii－1類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1278	382	196上			須恵器(古代)	坏		(7.6)		坏ii－1類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り	密　微粒子の長石をわずかに含む	内：灰白色(N7/) 外：灰白色(N7/)	反転実測
1279	392	196上	L11	24	須恵器(古代)	高台付坏	(13.6)	(7.6)	5.9	坏i－2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1280	402	195	ⅡB区	24	須恵器(古代)	高台付坏		(7.9)		坏i－2類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y8/1)～黒色(10Y2/1)	反転実測 二次的火を請けているか？
1281	399	196上	K10 J12	18 24 層上面	須恵器(古代)	高台付坏		(6.6)		坏i－2類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：灰色(10Y6/1) 外：灰色(10Y6/1)	反転実測
1282	390	196上	ⅡB区	24	須恵器(古代)	Ⅲ		(14.2)	(8.2)	底部　歪みあり	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1㎜大の赤色粒子、長石をわずかに含む 微粒子の石英をわずかに含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1283	389	196上	東壁溝		須恵器(古代)	Ⅲ		(14.8)	(8.8)		内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1284	391	196上	J12	18	須恵器(古代)	Ⅲ		(12.8)	(6.8)		内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰白色(N7/) 外：灰白色(N7/)	反転実測
1285	4	196上	ⅡB区	24	須恵器	高台付坏Ⅰ(体部突帯付き)	(17.0)	(11.3)	10.0	体部に1条の突帯あり 口縁部　歪みあり	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1286	398	196下	K9 K11	18－②	須恵器(古代)	壷	(6.8)			壷α　内面　自然釉付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰色(5Y5/1) 外：灰色(10Y4/1)	反転実測
1287	397	196下	J12	16	須恵器(古代)	壷				壷α	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰白色(N7/1) 外：灰白色(N7/1)	
1288	396	196下	L10 L11		須恵器(古代)	壷				壷β　外面　二段の粗い波状文	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(N4/) 外：黒色(N2/)	
1289	395	196下	J13	14 下面	須恵器(古代)	壷	(14.4)			壷β　内面　自然釉付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰色(10Y6/1) 外：灰色(N5/)	反転実測
1290	426	196下	L10	16	須恵器(古代)	甕又は壷				外面　自然釉付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石を含む	内：灰色(5Y5/1) 外：灰色(5Y6/1)	
1291	394	196下	K12	18	須恵器(古代)	壷				外面頸部　貼付突帯	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰色(N6/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1292	393	196下	K12	18	須恵器(古代)	壷				外面頸部　貼付突帯	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1293	400	196下	L9	遺構検出面	須恵器(古代)	短頸壷	(15.0)			口縁部　自然釉付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1294	405	196下	西壁溝		須恵器(古代)	壷		6.5			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N4/)	
1295	408	196下	L10 J11 J12ベルト	砂層	須恵器(古代)	壷		(6.2)		内面　自然釉付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N4/)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm)			形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
							口径	底径	器高					
1296	401	197上	ⅡB区側溝		須恵器(古代)	長胴壷		(10.1)		長胴壷Ⅱ類　内面自然釉付着	内:回転ナデ 外:回転ナデ、ヘラ削り	密　微粒子の白色』粒子を含む　鈍い赤褐色(5YR5/4)	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1297	458	197上	ⅡB区	24	須恵器(古代)	長胴壷		(10.0)		長胴壷Ⅰ類　外面肩部　自然釉付着	内:回転ナデ、ナデ？ 外:回転ナデ	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1298	407	197上	K10	18上面	須恵器(古代)	長胴壷		(11.0)		長胴壷Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：灰色(N6/) 外：暗灰色(N3/)	反転実測
1299	442-1	197上	J11 K9 K10 J10 K10 L10	18－② 24	須恵器(古代)	長胴壷				外面肩部　二条の沈線	内：回転ナデ 外：回転ナデ	空気が入り、大きな膨らみが多く観られる	内：灰白色(N7/) 外：灰色(N6/)	1300と同一個体の可能性大
1300	442-2	197上	K11	24	須恵器(古代)	長胴壷		(14.2)		長胴壷Ⅱ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ	空気が入り、大きな膨らみが多く観られる	内：灰白色(N7/) 外：灰色(N6/)	反転実測 1299と同一個体の可能性大
1301	422	197上	K12	18	須恵器(古代)	長胴壷				貼付突帯	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(7.5Y5/1) 外：灰色(10Y5/1)	反転実測
1302	425	197上	ⅡB区	24	須恵器(古代)	長胴壷				貼付突帯	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰白色(N7/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1303	419	198	J12 K12	17 24	須恵器(古代)	甕	(16.0)			甕S類	内:同心円タタキ、回転ナデ 外:平行タタキ、回転ナデ	密	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1304	420	198	K10	18－②	須恵器(古代)	甕	(21.2)			甕S類　外面頸部自然釉付着	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英を含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1305	435	198	ⅡB区	24	須恵器(古代)	甕				外面　4条の波状文	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の長石、石英を含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N4/)	
1306	444	198	L10	18－②	須恵器(古代)	甕				甕L類　外面　2条の波状文が少なくとも2段確認できる	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	
1307	432	198	K12		須恵器(古代)	甕				甕L類　外面頸部自然釉付着	内:回転ナデ、同心円タタキ 外:回転ナデ	密	内：灰色(7.5Y4/1) 外：灰色(7.5Y4/1)	反転実測
1308	443	198	J11 8 北側溝	17	須恵器(古代)	甕				甕Ⅱd類	内：輪花状タタキ 外：平行タタキ	密　径1㎜弱の白色粒子を含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N5/)	
1309	431	198	K12	青灰色砂質土	須恵器(古代)	甕				外面肩部　自然釉付着	内:同心円タタキ、回転ナデ 外:平行タタキ、回転ナデ	密	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	
1310	437	198	K9	18－②	須恵器(古代)	甕				甕Ⅱd類	内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
1311	436	198	ⅡB区 北壁西側		須恵器(古代)	甕				甕Ⅰb類	内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密　径1㎜弱の白色粒子を含む　微粒子の石英をわずかに含む	内：白灰色(N7/) 外：白灰色(N7/)	
1312	441	198	J11 12 K11 12	24	須恵器(古代)	甕				甕Ⅰc類	内：平行タタキ 外：平行タタキ	密	内：青灰色(5PB6/1) 外：青灰色(5PB6/1)	
1313	440	198	ⅡB区	24	須恵器(古代)	甕				甕Ⅰa類	内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密　径1㎜弱の白色粒子を含む　微粒子の石英をわずかに含む	内：白灰色(N7/) 外：白灰色(N7/)	
1314	438	198	ⅡB区		須恵器(古代)	甕				甕Ⅱb類　外面肩部自然釉付着	内：同心円タタキ 外：平行タタキ	微粒子の石英をわずかに含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N5/)	
1315	439	198	ⅡB区 北側溝		須恵器(古代)	甕				甕Ⅱb類	内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密	内：灰白色(N7/) 外：灰色(N6/)	
1316	433	199	ⅡB区		須恵器(古代)	甕				甕Ⅱa類	内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密　径1㎜前後の長石、石英をわずかに含む	内：灰白色(N7/) 外：灰白色(N7/)	
1317	434	199	K11	18－②	須恵器(古代)	甕				甕Ⅱa類	内：同心円タタキ 外：平行タタキ	密　微粒子の長石、石英をわずかに含む	内：灰色(10Y5/1) 外：灰色(10Y5/1)	
1318	449	200	ⅡB区	24	製塩土器	－					内：不明 外：未調整	径1～3㎜の赤色粒子を含む　径1～3㎜の黒色粒子を多く含む　1ヶ所16×5㎜の黒色粒子を含む　微粒子の金雲母を含む　灰白色の層をわずかに1ヶ層状に含む	内：淡赤褐色(2.5YR7/4) 外：鈍い橙色(2.5YR7/4)	
1319	446	200	ⅡB区	24	製塩土器	－				内面　製塩時に物質付着か？(灰白色N7/) 外面繊維状の空隙あり	内：ナデ 外：未調整	径1㎜弱の黒色粒子、赤色粒子を多く含む 灰白色の層を層状に含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/3)	
1320	451	200	L10北東トレンチ	24	製塩土器	－				口縁径推定10.0㎝	内：ナデ、指頭圧痕 外：指頭圧痕	径1㎜前後の赤色粒子をわずかに含む 微粒子の金雲母、石英をわずかに含む 黄白色の層を層状に含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/6) 外：浅黄橙色(7.5YR8/4)	
1321	445	200	ⅡB区	24	製塩土器	－					内：横ナデ 外：未調整	径1㎜弱の赤色粒子を少し含む 微粒子の金雲母を含む 灰白色の層を層状に含む	内：橙色(7.5YR7/6) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	
1322	452	200	L10北東トレンチ排土		製塩土器	－				口縁径推定8.0㎝	内：ナデ 外：未調整	径1㎜前後の赤色粒子を多く含む　径1㎜弱の黒色粒子を含む　微粒子の金雲母、石英を多くに含む 灰白色の層を層状に含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	
1323	454	200	K11北東トレンチ		製塩土器	－				口縁部外面　成形・調整中にできた押し当て痕か？	内：横ナデ 外：未調整	径1～4㎜の赤色粒子を多く含む　微粒子の金雲母をわずかに含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/3) 外：浅黄橙色(7.5YR8/6)	
1324	447	200	ⅡB区Ⅰ15側溝		製塩土器	－					内：横ナデ 外：未調整	径1㎜弱の赤色粒子を含む 微細な黒色粒子をわずかに含む　微粒子の金雲母をわずかに含む 灰白色の層を層状に含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	
1325	456	200	K11	18－②	製塩土器	－					内：横ナデ 外：指頭圧痕	微細な赤色粒子をわずかに含む 微粒子の金雲母を含む 灰白色の層を層状に含む	内：鈍い橙色(5YR6/3) 外：黄灰色(2.5Y6/1)	
1326	448	200	L11 K11	18上面 18－②	製塩土器	－				外面繊維状の空隙あり	内：横ナデ 外：未調整	径1㎜大～1㎜弱の赤色粒子を含む 微粒子の金雲母を含む 灰白色の層を層状に含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	
1327	453	200	K11	24	製塩土器	－				口縁径推定10.0㎝	内：横ナデ 外：指頭圧痕	径1㎜前後の黒色粒子、赤粒子、長石を含む　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/3)	
1328	455	200	ⅡB区	24	製塩土器	－					内：ナデ、指頭圧痕 外：未調整	径1㎜前後の赤色粒子を含む　径1㎜弱の黒色粒子をわずかに含む 灰白色の層を層状に含む	内：明褐灰色(5YR7/2) 外：鈍い橙色(5YR6/3)	
1329	450	200	ⅡB区	24	製塩土器	－				外面口縁部付近　沈線状の空隙あり	内：ナデ 外：未調整	径1㎜大の赤色粒子を含む 灰白色の層を層状に含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：浅黄橙色(7.5Y8/4)	
1330	457	200	ⅡB区 周溝		製塩土器	－				内面　指頭圧痕 外面　径4㎜～5㎜大の黒色粒子が入り込んだ部分は、焼成時に空洞化して、膨張あるは、ひび割れ 外表面　褐灰色状の物質が付着	内：ナデ 外：未調整	径1～5㎜大の黒色粒子をわずかに含む 径2～3㎜の赤色粒子を少し含む	内：褐灰色(5YR6/1) 外：橙色(2.5YR6/6)	未使用の可能性大

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1331	9	202	L9	16 17	土師質土器	坏	(11.6)	5.0	4.1	坏Ⅰ´類	内：回転ナデ,ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、長石、石英を含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	一部反転実測
1332	210	202	K11	18	土師質土器	坏	(14.8)	(4.6)	4.2	坏Ⅱ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母をわずかに含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	反転実測
1333	208	－	L10	18	土師質土器	坏	(14.8)	(5.5)	3.9	坏Ⅲ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	反転実測
1334	207	202	N8		土師質土器	坏	11.3	5.8	3.7	坏Ⅳ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/6) 外：浅黄橙色(7.5YR8/6)	
1335	258	202	L10東側 サブトレ	16	土師質土器	坏	11.3			轆轤成形・轆轤調整ではない	内：ナデ 外：ナデ	密	内：灰白色(2.5YR8/2) 外：灰白色(2.5YR8/2)	
1336	255	201	K11	18－②	土師質土器	Ⅲ	7.4	4.5	1.4	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	
1337	254	201	M9	16～17	土師質土器	Ⅲ	7.9	5.0	1.6	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	
1338	256	201		18－②	土師質土器	Ⅲ	7.0	4.3	1.5	Ⅲ Ⅰ´´類　底部糸切り後ナデか？	内：不明 外：不明	密　微粒子の金雲母を含む	内：暗灰黄色(2.5Y5/2) 外：暗灰黄色(2.5Y5/2)	磨耗が激しい
1339	248	201	K10	18	土師質土器	Ⅲ	(7.6)	(4.8)	1.8	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の赤色粒を含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	反転実測
1340	250	201	K11	18－②	土師質土器	Ⅲ	6.8	4.9	1.7	Ⅲ Ⅰ´類　底部糸切り後ナデか？	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密 微粒子の石英を含む 径5㎜大の粒子を含む	内：鈍い黄(2.5Y6/3) 外：鈍い黄色(2.5Y6/3) 外一部：鈍い赤褐色(5YR5/4)	
1341	253	201	K10	18－②	土師質土器	Ⅲ	7.0	5.7	1.6	Ⅲ Ⅰ´類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
1342	251	201	MN9 M10	第一遺構面下	土師質土器	Ⅲ	7.7	5.3	1.4	Ⅲ Ⅰ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1～2㎜前後の赤色粒子を含む	内：浅橙色(5YR8/3) 外：橙色(5YR7/6)	
1343	247	201			土師質土器	Ⅲ	(7.3)	(4.6)	1.8	Ⅲ Ⅰ´類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密 微粒子の金雲母、赤色粒子をわずかに含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	反転実測
1344	267	201	K9 10	レキ層	土師質土器	Ⅲ	(6.8)	(3.6)	1.5	Ⅲ Ⅱ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測 磨耗が激しい
1345	239	201	K10	18－②	土師質土器	Ⅲ	(8.2)	(5.2)	2.1	Ⅲ Ⅱ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(5YR7/3) 外：灰褐色(7.5YR5/2)	反転実測 磨耗が激しい
1346	244	201	L10	17	土師質土器	Ⅲ	(8.0)	(3.6)	1.6	Ⅲ Ⅱ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：明褐灰色(7.5YR7/2) 外：灰白色(10Y8/2) 外底部：鈍い橙色(5YR7/3)	反転実測 磨耗が激しい
1347	240	201	J11(SD 03含む)	18－②	土師質土器	Ⅲ	(6.4)	(2.5)	1.8	Ⅲ Ⅱ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ？	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	反転実測 磨耗が激しい
1348	245	201	J11	18 上面	土師質土器	Ⅲ	(7.1)	4.0	2.0	Ⅲ Ⅱ´類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：明褐灰色(7.5YR7/2) 外：浅黄橙色(7.5YR8/3)	一部反転実測 磨耗が激しい
1349	233	201	K11	18－②	土師質土器	Ⅲ	6.6	3.3	1.9	Ⅲ Ⅲ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR6/3) 外：鈍い黄橙色(10YR6/3)	
1350	234	201	K11	18－②	土師質土器	Ⅲ	6.6	3.5	1.7	Ⅲ Ⅲ類　底部の一部煤付着	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	
1351	243	201	L12	18	土師質土器	Ⅲ	(8.8)	(3.5)	1.9	Ⅲ Ⅲ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	微粒子の金雲母、長石、石英を多く含む	内：橙色(2.5Y6/6) 外：橙色(2.5Y6/6)	磨耗が激しい
1352	235	201	K10	18－②	土師質土器	Ⅲ	7.2	4.2	1.8	Ⅲ Ⅲ類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い橙色(5YR7/4) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	磨耗が激しい
1353	241	201			土師質土器	Ⅲ	(7.2)	(3.0)	1.6	Ⅲ Ⅲ´類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を多く含む	内：灰黄褐色(10YR6/2) 外：灰黄褐色(10YR6/2)	反転実測
1354	232	201	K10	18 上面	土師質土器	Ⅲ	(7.8)	(5.0)	1.6	Ⅲ Ⅳ類　外面灰色物質付着	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い橙色(5YR7/4)	反転実測 磨耗が激しい
1355	238	201	K10	16	土師質土器	Ⅲ	(6.8)	(5.6)	1.4	Ⅲ Ⅳ類	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/4) 外：鈍い黄橙色(10YR7/4)	反転実測
1356	231	201	K9 K11	18－②	土師質土器	Ⅲ	(6.7)	(4.8)	2.1	Ⅲ Ⅳ類	内：不明 外：不明　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測 磨耗が激しい
1357	236	201	L11	18	土師質土器	Ⅲ		(8.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英を多く含む	内：鈍い橙色(7.5YR7/4) ～明褐灰色(7.5Y R7/1) 外：鈍い橙色(7.5YR7/4)	反転実測
1358	242	201	L10	16	土師質土器	Ⅲ	(10.6)	(7.8)	1.6	Ⅲ Ⅳ´類	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　底部不明	密　微粒子の黒雲母、石英を多く含む	内：灰褐色(7.5YR6/2) 外：灰褐色(7.5YR6/2)	反転実測
1359	237	201	Q222		土師質土器	Ⅲ	8.6	5.7	1.8	Ⅲ Ⅶ類	内：回転ナデ,ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密2～3㎜前後の長石、石英を多く含む 底部に径10㎜大の石を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
1360	249	201	K10	18	土師質土器	Ⅲ	(6.8)	4.8	1.6		内：回転ナデ 外：不明　底部？	密　微粒子の石英をわずかに含む	内：灰黄色(2.5Y7/2) 外：灰黄色(2.5Y7/2)	一部反転実測
1361	252	201	K10	18	土師質土器	Ⅲ	(7.0)	(4.2)	1.2		内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を多く含む	内：浅黄色(5Y7/3) 外：鈍い橙色(7.5YR6/4)	
1362	1	202		第2遺構面	土師質土器	高台付坏	14.5	17.9	6.8		内：回転ナデ 外：回転ナデ	密 雲母多く含む径5㎜大の明赤褐色の粒子を含む	内：淡褐橙色(10Y R8/3) 外：鈍い赤褐色(5Y R5/4) ～鈍い黄橙色(10Y R7/3)	
1363	264	202		24	土師質土器	高台付坏					内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	一部反転実測
1364	263	202	L12		土師質土器	高台付坏					内：回転ナデ,ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ	1㎜前後の朱色の砂粒を含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	反転実測 全体的に磨耗しており調整分かりにくい
1365	262	202	L11	24	土師質土器	高台付坏					内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ	密 黄粒子の金雲母、石英を多く含む 5㎜大の粒子を1ヶ含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
1366	265	203	K11	24	土師質土器	高台付坏		8.4			内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/3) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	外面一部黒色
1367	266	203	JK10	18- ②	土師質土器	高台付坏		(7.0)			内：回転ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1368	226	204	N～O9 トレンチ		土師質土器	高台付皿	(11.4)			内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、石英を多く含む	内：灰褐色(7.5Y R5/2) 外：鈍い黄橙色(7.5YR7/4)	反転実測
1369	225	204	K11	24	土師質土器	坏				内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：黄灰色(2.5Y4/1) 外：灰白色(5Y7/1)	
1370	228	204	北壁溝		土師質土器	坏				内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の黒雲母、石英を少し含む	内：黒褐色(10Y R3/1) 外：鈍い黄橙色(10Y R6/3)	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1371	223	204	KL8 L9	第1遺構面下	土師質土器	坏				内面黒色	内：ミガキ？ 外：？	密　微粒子の長石、石英を少し含む	内：黒色(10YR2/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	
1372	224	204	K11	24	土師質土器	坏				内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母を含む	内：黒褐色(10YR3/2) 外：黒褐色(10YR3/2)	
1373	227	204	KL11	18	土師質土器	坏				内面黒色	内：回転ナデ後ミガキ？ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母を含む	内：黒褐色(10YR2/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2) ～褐灰色(10YR5/1)	
1374	222	204	MN9 M10	第1遺構面下	土師質土器	坏		(6.5)		内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の石英を少し含む	内：黒色(10YR2/1) 外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	反転実測
1375	381	204	P777		土師質土器	高台付坏				内面黒色	内：回転ナデ後ミガキ 外：回転ナデ後ミガキ　回転糸切り	密　微粒子の黒雲母、金雲母、長石、石英を多く含む	内：黒色(10YR2/1) 外：オリーブ黄色(5Y6/4)	一部反転実測 内面丁寧なミガキ全体的に磨耗が激しい
1376	230	204	L11	18	土師質土器	高台付坏		(8.0)		内面黒色	内：ミガキ？ 外：回転ナデ	密　微粒子の石英を多く含む	内：暗灰色(N3/1) 外：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測
1377	229	204	K12	16	土師質土器	高台付坏		(7.6)		内面黒色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：暗灰色(N3/1) 外：明褐灰色(7.5YR7/2)	反転実測
1378	221	204	K11	24	土師質土器	高台付坏				内面黒色	内：回転ナデ後ミガキ 外：回転ナデ	密　微粒子の黒雲母、金雲母、長石、石英を多く含む	内：黒色(2.5Y2/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)	反転実測
1379	8	202	南北トレンチ(サブトレ内)	18	土師質土器	柱状高台		8.2		径14㎜の石を底部付近に1ヶ所含む	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	径1～2㎜の雲母を含む	内：鈍い黄橙色(7・5YR7/4) 外：鈍い黄橙色(7・5YR7/4)	
1380	220	203	K11	18-②	土師質土器	柱状高台？		(3.8)			内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(7・5YR7/3) 外：鈍い黄橙色(7・5YR7/3)	反転実測 磨耗が激しい
1381	212	203	J11	24	土師質土器	柱状高台		(4.4)			内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：浅黄橙色(10YR8/3) 外：浅黄橙色(10YR8/3)	反転実測
1382	219	203	MN9 M10	18	土師質土器	柱状高台					内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1383	216	203	J10東西トレンチ	18	土師質土器	柱状高台					内：不明 外：不明　回転糸切り？	密　微粒子の金雲母、長石を多く含む	内：鈍い黄橙色(7・5YR7/4) 外：鈍い黄橙色(7・5YR7/4)	反転実測
1384	218	203	L11	18	土師質土器	柱状高台		(6.6)			内：不明 外：回転ナデ　静止糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	内：鈍い黄橙色(7・5YR7/3) 外：鈍い黄橙色(7・5YR7/3)	反転実測
1385	217	203	JK11	18-②	土師質土器	柱状高台					内：ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：鈍い黄橙色(7・5YR7/3) 外：鈍い黄橙色(7・5YR7/3)	一部反転実測
1386	215	203	J12	18	土師質土器	柱状高台		(5.4)			内：ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り？	1㎜前後の砂粒の黒雲母、長石、石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1387	211	203	M10	18	土師質土器	柱状高台		(6.4)			内：不明 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母を多く含む	外：鈍い黄橙色(10YR7/3)	
1388	214	203	K10	18-②	土師質土器	柱状高台		(6.2)			内：不明 外：回転ナデ　回転糸切り	密　微粒子の金雲母、長石を含む	内：橙色(2.5YR7/6) 外：橙色(2.5YR7/6)	反転実測
1389	213	203	L11	18-②	土師質土器	柱状高台		(8.2)			内：不明 外：回転ナデ　回転糸切り？	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	反転実測
1390	278	202	ⅡB区	24	土師質土器	高台付坏	(15.6)	(8.6)	5.3	赤彩　底部削り痕有り	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ	密　微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：橙色(2.5YR6/6) 外体部：橙色(2.5YR6/6) 外底部：鈍い橙色(7.5YR7/3)	反転実測 現状で色は剥げ落ちている
1391	276	202	ⅡB区	周溝	土師質土器	坏	(11.5)	(6.2)	(5.0)	赤彩	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り？	密　微粒子の金雲母、黒雲母を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測 現状で色は剥げ落ちている
1392	275	202	ⅡB区	24	土師質土器	坏	12.0	6.5	5.6	赤彩	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り？	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：橙色(2.5YR6/6) 外：橙色(2.5YR6/6)～鈍い橙色(5YR6/4)	現状で色は剥げ落ちている
1393	274	203	ⅡB区	24	土師質土器	坏	12.6	7.0	3.7	赤彩	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ　ヘラ切り？	密　微粒子の金雲母、長石、石英を含む	内：橙色(5YR6/8) 外：鈍い黄橙色(7・5YR7/4)	磨耗が激しい
1394	277	203	ⅡB区	24	土師質土器	坏				赤彩	内：回転ナデ、ナデ後ハケ目？ 外：回転ナデ ヘラ切り？ハケ目状の痕跡あり	密　微粒子の金雲母を含む	内：橙色(5YR6/6) 外：鈍い橙色(5YR6/3)	
1395	206	205	K11 K12 K12トレンチ	18上面	土師質土器	擂鉢	(26.2)	(11.0)	12.3	擂目：(1単位)6本8ヶ所 ハケ目単位：12本(2.9cm)/1単位	内：ハケ目 外：ハケ目	径1㎜前後の長石を少し含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外：浅黄橙色(7.5YR8/6)	反転実測
1396	205	205	L11 L12 K11 L11 12ベルト SX04	17 18 18上面 18-② 青灰色	土師質土器	擂鉢	(23.6)	(9.6)	12.2	擂目：(1単位)7本/2.8cm　7ヶ所	内：ハケ目、ナデ 外：ハケ目、ナデ	微粒子の金雲母、石英をわずかに含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/6) 外：浅黄橙色(7.5YR8/6)	反転実測
1397	260	206	L18		土師質土器	擂鉢				擂目：4本	内：ハケ目、ナデ 外：ハケ目？、ナデ	黄粒子の金雲母、長石、石英を多く含む　黒土灰白色(GY8/1)	内：橙色(5YR7/6) 外：橙色(5YR7/6)	
1398	259	206	N9南溝 KL8L9	第一遺構面下	土師質土器	鉢					内：不明 外：不明	色2mm前後の砂粒を含む	内：浅黄橙色(7.5YR8/3) 外：浅黄橙色(7.5YR8/3)	磨耗が激しい 廃棄後の煤か？
1399	294	206	J11 K11	16 18 24	土師質土器	鍋	(33.0)			内面底部やや煤けている 外面煤けている	内：ハケ目 外：ハケ目	径1～2㎜の金雲母を含む	内口縁付近：灰白色(2.5Y8/2) 内底部付近：暗灰黄色(2.5Y8/2) 外：黒色(2.5Y2/1)	反転実測
1400	293	206	J11 K11	16 暗渠内撹乱	土師質土器	鍋	(33.8)				内：ハケ目 外：ハケ目	微粒子の金雲母、黒雲母、長石を多く含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1401	272	203	ⅡB区	24青灰砂質土	土師質土器	高台付坏		8.0			内：不明 外：不明 回転糸切り	密	内：灰白色(7.5YR8/2) 外：浅黄橙色(7.5YR8/3)	磨耗が激しい
1402	270	203	ⅡB区	24	土師質土器	柱状高台		(3.8)			内：不明 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の石英を含む	内：鈍い黄橙色(10YR7/2) 外：鈍い黄橙色(10YR7/2)	反転実測
1403	271	203	ⅡB区		土師質土器	柱状高台					内：ナデ 外：回転ナデ 回転糸切り	密　微粒子の長石、石英を含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：灰白色(2.5Y7/1)	一部反転実測
1404	273	203	ⅡB区	24	土師質土器	甑形土器					内：不明 外：ハケ目	径1㎜前後の長石を多く含む	内：灰白色(7.5YR8/2) 外：淡橙色(5YR8/4)	

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1405	61	207	溝状遺構2	埋土チレンチ	中世須恵器	鉢	(26.4)			鉢A－1類　煤付着	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密　微粒子の金雲母、石英を含む	内：灰白色(N7/) 外：灰白色(N7/) 外口縁：灰色(N6/)	反転実測
1406	378	207	K11	18－②	中世須恵器	鉢	(23.6)			鉢B－1類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密　きめ細かい 微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	反転実測
1407	326	207	P179 J11 L11	18上面 18－②	中世須恵器	鉢	(31.3)			鉢B－3類	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密　きめ細かい 微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰色(N7/) 外：灰色(N7/) 口縁端部：灰色(N5/)	反転実測
1408	377	201			中世須恵器	鉢	(24.6)			鉢D－1類　灰色状の物質付着(灰色N4/)	内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	微粒子の石英、白色粒子を含む	内：灰色(N8/) 外：灰色(N8/) 外口縁：暗灰色(N3/)	反転実測
1409	280	207	J12東側溝		中世須恵器	擂鉢				鉢E類　擂目：(1単位)最低5本/1.7㎝	内：ナデ？、ハケ目 外：ナデ？、ハケ目	径1㎜前後の石英を含む	内：灰色(5Y7/1) 外：灰色(5Y7/1)	
1410	279	207	K12	18	中世須恵器	擂鉢				鉢E類　擂目：(1単位)6本/(1.9㎝) 底部使用の為磨耗	内：ハケ目 外：ナデ？、ハケ目 外底部：ナデ？	径1～2㎜大の長石、石英を多く含む	内：灰色(5Y7/1) 外：灰色(5Y7/1)	
1411	282	207	K10 L10	17 18 18－②	中世須恵器	鉢				鉢Z類	内：ナデ？ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の黒色粒子を多く含む	内：灰色(N8/) 外：灰色(N8/)	反転実測
1412	168	208	SD01		中世須恵器	鉢	(28.8)			鉢Z類	内：ナデ？ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英、黒色粒子を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	反転実測
1413	286	207	M10	17	中世須恵器	鉢	(28.7)			鉢Z類	内：ナデ？ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	密　微粒子の石英、白色粒子を含む 灰白色(5Y7/1)	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1414	163	207		2～3	中世須恵器	鉢	(32.6)			鉢Z類	内：ナデ？ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英、黒色粒子をわずかに含む	内：灰白色(N8/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1415	285	207	K11 J11	16	中世須恵器	鉢				鉢Z類	内：ナデ？ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	密	内：灰色(N7/) 外：灰色(N6/) 外口縁：灰色(5/)	
1416	162	208	K12	14層上面	中世須恵器	鉢				鉢Z類	内：不明 外：不明	微粒子の黒色粒子を多く含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	磨耗が激しい
1417	167	207			中世須恵器	鉢				鉢Z類	内：ハケ目 外：横ナデ？	微粒子の石英、黒色粒子を含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰色(N5/)	
1418	166	－	SD01		中世須恵器	鉢				鉢Z類	内：ハケ目 外：横ナデ？			
1419	295	208	M8	18－②	中世須恵器	鉢	(36.8)			鉢W－1類	内：ナデ？ハケ目 外：ナデ？ 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英を含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	
1420	284	207	L9	遺構検出面	中世須恵器	鉢	(31.0)			鉢W－2類	内：ハケ目 外：横ナデ？、ナデ	密　微粒子の石英を含む	内：鈍い橙色(5YR6/3) 外：灰赤色(2.5YR4/2)	反転実測 二次的焼成か？
1421	283	208		18－②	中世須恵器	鉢	(30.3)			鉢Y類	内：ハケ目(幅2.6㎝位) 外：不明 口縁部：横ナデ？	微粒子の石英を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
1422	281	208		18－②	中世須恵器	鉢				鉢X類	内：ハケ目 外：ナデ？	微粒子の金雲母、石英を含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	
1423	164	208			中世須恵器	鉢					内：ナデ？ 外：ナデ？	密　微粒子白色粒子、黒色粒子を含む 灰白色(5Y7/1)	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
1424	160	208			中世須恵器	鉢					内：ハケ目 外：ナデ？	微粒子の石英、黒色粒子を多く含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰白色(5Y7/1)	
1425	153	208	L10	14	中世須恵器	鉢					内：ナデ？ 外：ナデ？	微粒子の石英を含む 灰白色(5Y8/1)	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	
1426	287	209	K9 K10 K11	18－② 24上面	中世須恵器	甕	(30.6)			甕A類	内：横ナデ 外：格子目タタキ 外頸部：指頭圧痕	微粒子の長石、石英を多く含む	内：灰色(N5/) 外：灰色(N5/)	反転実測
1427	137	209	K9	18－②	中世須恵器	甕				甕A類	内：ナデ 外：格子目タタキ	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
1428	289	209	L11	18上面	中世須恵器	甕又は壷				甕A類　内面にハケ目状痕跡あり(幅1.6㎝位/1単位)	内：ナデ 外：格子目タタキ後一部ナデ	微粒子の長石、石英を多く含む	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	
1429	139	209	L11	17	中世須恵器	甕				甕B－2類	内：ナデ 外：格子目タタキ	径1㎜前後の長石、微粒子の石英を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
1430	156	209			中世須恵器	甕				甕B－1類	内：ハケ目 外：格子目タタキ	密　微粒子の長石、石英を多く含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
1431	290	209	K10	18	中世須恵器	甕				甕B－3類	内：ナデ 内底部：指頭圧痕 外：格子目タタキ	径2㎜前後の長石、石英、微粒子の石英を多く含む	内：灰白色(2.5Y7/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1	
1432	136	209	M8	18	中世須恵器	甕				甕C類	内：ハケ目？ 外：格子目タタキ	密　微粒子の石英を多く含む	内：灰白色(2.5Y8/1) 外：灰白色(2.5Y8/1)	
1433	138	209	J12	18	中世須恵器	甕				甕H類	内：ナデ 外：格子目タタキ	密　微粒子の長石、石英を含む	内：灰色(N5/) 外：暗灰色(N3/)	
1434	152	209	L10	18－②	中世須恵器	甕				甕F類	内：ナデ 外：格子目タタキ	径1㎜前後の石英、その他を多く含む	内：鈍い橙色(5YR7/3) 外：灰色(5Y4/1)	
1435	288	209	L11 南壁溝		中世須恵器	甕又は壷				甕L類	内：タタキ後ナデ 外：タタキ、ナデ	密　微粒子の長石、石英を含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N6/)	
1436	380	209	L8	第一遺構面下	中世須恵器？	甕				甕M類	内：放射状タタキ 外：平行タタキ	径1㎜前後の白色粒子をわずかに含む	内：灰色(N6/) 外：灰色(N5/)	
1437	151	209	JK11	18－②	中世須恵器	甕				甕E類	内：ハケ目 外：格子目タタキ	密　微粒子の黒雲母、石英を含む	内：灰白色(10YR8/1) 外：鈍い橙色(10YR7/2)	
1438	146	209	N8		中世須恵器	甕	(21.8)			甕N類	内：横ナデ 外：横ナデ	径1㎜前後の石英、黒色粒子を含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/) 外口縁部：灰白色(5Y8/1)	反転実測
1439	132	209	K10	24層上面	中世須恵器	甕				甕I類	内：同心円タタキ 外：格子目タタキ	密	内：灰色(5Y8/1) 外：灰色(5Y8/1)	
1440	291-15	209	L8 K12 J11	18－②	中世須恵器	壷					内：ハケ目？後回転ナデ 外：ハケ目？後回転ナデ	密　きめ細かい	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	反転実測 1441と同一個体の可能性大
1441	291-16	209	L8 K12 J11	18－②	中世須恵器	壷		(7.0)			内：ハケ目後回転ナデ 内底部：ハケ目後ナデ 外：ハケ目後回転ナデ、ケズリ？	密　きめ細かい	内：灰色(N4/) 外：灰色(N4/)	反転実測 1440と同一個体の可能性大

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1442	147	209	J K12	18－②	中 世 須恵器	甕	(28.6)			甕D類	内：ナデ? 外：ハケ目 口縁部：横ナデ?	密 微粒子の石英を含む	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	反転実測
1443	159	209	K10 L11	18 18－②	中 世 須恵器	甕				甕D類	内：ハケ目(1単位・8本/13cm) 外：格子目タタキ	密	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	
1444	154	209	K10	18	中 世 須恵器	甕		(18.6)		甕D類	内：ハケ目 外：格子目タタキ	密	内：暗灰色(N3/) 外：暗灰色(N3/)	反転実測
1445	379	210	J 11		中 世 須恵器	鉢	(34.2 最大)	(11.8)		鉢Z類 内面体部,底部の一部に煤付着 底部使用の為磨耗 口縁の歪みかなり厳しい	内：ハケ目 外：ナデ? 口縁部横ナデ?	微細な黒色粒子、白色粒子を含む	内：灰白色(5Y7/1) 外：灰色(N5/)	反転実測
1446	292	209	J 11 K10	18 24	瓦質 土器	鍋	(31.5)				内：横ナデ? 外：横ナデ?	密 微粒子の石英、石英を含む	内：暗灰色(N3/) 外：オリーブ黒色(5G R2/1)	反転実測
1447	185	224 上	L 10 北東トレンチ		白磁	椀	(17.8)			椀Ⅳ類 (C期)		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(10Y8/1) 外釉：灰白色(10Y8/1)	反転実測
1448	183	224 上	K11 K12		白磁	椀	(18.4)			椀Ⅳ類 (C期)		密 きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
1449	93	224 上	J 11		白磁	椀				椀Ⅳ類 (C期)		密 きめ細かい 砂味がわずかにある 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	
1450	190	224 上	L 11	18－②	白磁	大椀又は鉢		(3.8)		椀Ⅳ－1a類		密 きめ細かい やや陶質に近い 灰黄色(2.5Y7/2)	内釉：灰黄色(2.5Y7/2) 外釉：灰黄色(2.5Y7/2) 外胎：灰色(5Y5/)	反転実測
1451	94	224 上	K12		白磁	椀	(16.2)			椀Ⅳ類 (C期)		灰白色(7.5Y 8/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
1452	186	224 上	L 10 L 11	18	白磁	椀	(15.4)			椀Ⅳ類 (C期)		密 きめ細かい 微細な黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(5Y7/1) 外釉：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1453	184	224 上	L 10	18－②	白磁	椀	(16.4)			椀Ⅳ類 (C期)		密 きめ細かい 黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
1454	179	224 下	J 11	16	白磁	椀				椀Ⅴ－2b類 内面体部一条の線 外反口縁		密 きめ細かい 黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(N8/) 外釉：灰白色(N8/)	
1455	175	224 下	L 9	16	白磁	椀				椀Ⅴ－2類またはⅥ類またはⅦ類 外面体部白い凸線(白堆線?) 外反口縁		密 きめ細かい 微細な黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	
1456	180	224 下	J K10	18－②	白磁	椀	(16.7)			椀Ⅴ－4b類 外反口縁		密 灰白色(10 Y7/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
1457	174	224 下	L 11	18	白磁	椀	(16.2)			椀Ⅴ－4a類またはⅦ－1またはⅦ－3類 内面口縁部付近一条の沈線 外反口縁		密 きめ細かい 灰白色(10Y7/1)	内釉：灰白色(5Y7/2) 外釉：灰白色(5Y7/2)	反転実測
1458	181	224 下	L 9	16	白磁	椀	(12.8)			椀Ⅴ－4c類		密 きめ細かい 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(5Y7/2) 外釉：灰白色(5Y7/2)	
1459	176	224 下			白磁	椀	(16.2)			椀Ⅶ－2類?		やや粗い 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1) 外胎：灰黄色(2.5Y7/2)	反転実測
1460	173	224 下			白磁	椀又は皿	(12.8)			椀Ⅸ類または皿Ⅸ類 口縁部釉掻き取り		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(2.5GY8/1) 外釉：灰白色(2.5GY8/1)	反転実測
1461	178	－	L 12	18－②	白磁	椀	(14.2)			椀Ⅴ－2類またはⅥ類またはⅦ類 外反口縁		砂味がやや多い 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(5Y7/1) 外釉：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1462	96	225 上	L 10	18	白磁	皿		(5.2)		皿Ⅵ類または同安窯系青磁皿		密 きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰色(5Y6/1) 外：黄灰色(2.5Y6/1)	反転実測
1463	99	225 上	M10	18 上面	白磁	皿		(4.0)		皿Ⅵ類 内面底部付近一条の沈線		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(5Y7/2) 外釉：灰白色(5Y7/2) 外胎：灰白色(N7/)	反転実測
1464	172	－	K10	17	白磁	皿		(10.8)		皿Ⅸ類 口縁部釉掻き取り		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(5Y7/1) 外釉：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1465	98	225 上	K9	18	白磁	皿		(8.0)		皿Ⅸ類 内面底部付近一条の沈線 外面底部磁糸状の物質付着		密 きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰色(7.5Y6/1)	反転実測
1466	171	225 上	西側溝	18	白磁	皿？				皿Ⅸ類 口縁部釉掻き取り		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(10Y7/1) 外釉：灰白色(10Y7/1)	
1467	101	225 上	L 11	18－②	白磁	皿		4.2		皿Ⅶ－1b類または Ⅷ－1b類 内面底部櫛描文		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(10Y8/1) 外釉：灰白色(10Y8/1) 外胎：黄灰色(2.5Y5/1)	反転実測
1468	177	225 上	L 12南側溝	16	白磁	皿				皿Ⅴ類～Ⅶ類 直口縁 上向傾向		密 きめ細かい 微細な白色粒子を含む 灰白色(2.5Y8/2)	内釉：灰白色(5Y8/2) 外釉：灰白色(5Y8/2)	
1469	95	225 上	L 11	16 18	白磁	皿				皿D類		密 きめ細かい 陶質に近い 黒色粒子を含む 灰白色(2.5 Y8/1)	内釉：灰白色(5Y8/1) 外釉：灰白色(5Y8/1) 外胎：灰白色(2.5Y7/1)	反転実測
1470	182	225 上	L 10	18	白磁	椀又は皿				口縁部に輪花		やや粗い やや陶質に近い 灰白色(2.5Y8/1)	内釉：灰白色(2.5Y8/2) 外釉：灰白色(2.5Y8/2)	
1471	187	225 上	K11	17	白磁	椀	(12.0)			皿E類 内面目跡あり 外反口縁		密 きめ細かい 微細な黒色粒子を含む 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(7.5Y7/1) 外釉：灰白色(7.5Y7/1)	反転実測
1472	189	225 上	M9	18	白磁	椀		(6.2)		皿E類		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(N8/) 外釉：灰白色(N8/)	反転実測
1473	130	225 上	L 10 K11	17 18上面	白磁	合子	(7.0)	(6.8)	1.6			密 きめ細かい 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(10Y7/1) 外釉：灰白色(10Y7/1)	反転実測
1474	196	226	M 9 M10		青磁 (龍泉窯系)	椀	(16.0)			椀Ⅰ－2類(D期) 内面 片彫文		密 きめ細かい 灰白色(7.5Y7/1)	内釉：オリーブ灰色(2.5G Y6/1) 外釉：オリーブ灰色(2.5G Y6/1)	反転実測
1475	197	226	J 12	16 17	青磁 (龍泉窯系)	椀	(18.2)			椀Ⅱ－b類(E期)		密 きめ細かい 黒色粒子の砂粒を含む 灰白色(5Y7/1)	内釉：明オリーブ灰色(5G Y7/1) 外釉：明オリーブ灰色(5G Y7/1)	反転実測
1476	89	225 下	J 11 J 12 L10	16 17 18	青磁 (龍泉窯系)	椀	(16.0)			椀Ⅱ－b類(E期)		密 きめ細かい 灰白色(7.5Y7/1)	内釉：灰オリーブ色(7.5Y5/3) 外釉：灰オリーブ色(7.5Y5/3)	反転実測
1477	193	225 下	K10	18	青磁 (龍泉窯系)	椀	(14.8)	(6.4)		椀Ⅱ－a類(E期) 内面見込み 陽印文「王」		密 やや砂味がある 灰白色(5Y7/1)	内釉：明灰白色(5G Y7/1) 外釉：明灰白色(5G Y7/1)	反転実測
1478	198	226	ⅡA区		青磁 (龍泉窯系)	椀	(18.4)			椀Ⅱ－a類(E期)		密 きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	反転実測
1479	199	226	L 10	17	青磁 (龍泉窯系)	椀	(14.3)			椀Ⅱ－b類(E期)		密 きめ細かい 灰白色(10Y7/1)	内釉：オリーブ黄色(5Y6/3) 外釉：オリーブ黄色(5Y6/3)	反転実測
1480	195	226	J 11		青磁 (龍泉窯系)	椀	(14.4)			椀C2類 口縁部外面 雷文		密 きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	反転実測
1481	192	225 下	K11	18	青磁 (龍泉窯系)	椀		(5.6)		椀Ⅱ－c類 内面見込み 幾何学文		密 きめ細かい 径1mm前後の黒色粒子を含む 灰白色(7.5Y7/1)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	反転実測
1482	200	226			青磁 (龍泉窯系)	椀				外面		密 きめ細かい 灰白色(N7/)	内釉：オリーブ灰色(2.5G Y6/2) 外：オリーブ灰色(2.5G Y6/2)	
1483	88	225 下	ⅠA区 K11	2(ⅠA区) 16~17 18	青磁 (龍泉窯系)	小椀		(4.4)		内面見込み スタンプ文? 外面 片彫連弁文		密 貫入が見られる 灰白色7.5Y7/1	内釉：明オリーブ灰色(5G Y6/1) 外釉：明オリーブ灰色(5G Y6/1)	反転実測
1484	194	226	L 10	17	青磁 (龍泉窯系)	坏				椀Ⅳ類		密 きめ細かい 灰白色(N7/)	内釉：明オリーブ灰色(5G Y7/1) 外釉：明オリーブ灰色(5G Y7/1)	
1485	100	226	L 10	18上面	青磁 (龍泉窯系)	皿	(11.3)			皿Ⅰ類		密 きめ細かい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(10Y7/1) 外釉：灰白色(10Y7/1)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1486	191	226	L10	17	青磁（龍泉窯系）	小椀		(4.0)		小椀Ⅰ類またⅡ類		密 きめ細かい 灰色（N5/）	内釉：オリーブ灰色(5GY6/1) 外釉：オリーブ灰色(5GY6/1)	反転実測
1487	203	226			青磁（同安窯系）	椀				椀Ⅰ－b類　外面　櫛目文		密 きめ細かい 明紫灰色(5PB7/1)	内釉：灰色(10Y6/1) 外釉：灰色(10Y6/1)	
1488	204	226	M10	18	青磁（同安窯系）	椀		(5.0)		椀Ⅰ－1b類　内面　櫛点描文　外面　櫛目文		密　きめ細かい 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(7.5Y7/2) 外釉：灰白色(7.5Y7/2) 外胎：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1489	202	226	K11	16、17	青磁（同安窯系）	皿		(4.5)		Ⅲ1－2b類　内面　1筋による文様、鞆点描文　外面底部　全面施釉後、掻き取り		密 きめ細かい 灰白色（N7/）	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	反転実測
1490	201	226	L10	17	青磁（同安窯系）	皿		(4.5)		皿Ⅰ－1b類　内面　ジグザグ状の櫛点描文		密 きめ細かい 灰白色（N7/）	内釉：灰オリーブ色(7.5Y6/2) 外釉：灰オリーブ色(5Y5/2) 外胎：灰オリーブ色(5Y6/2)	反転実測
1491	169	226			青白磁	小壷	(6.0)			外面　沈線状の文様（12C後半以降）		密 きめ細かい 灰白色（N7/）	内釉：灰白色(2.5G Y8/1) 外釉：灰白色(5G Y8/1)	反転実測
1492	369	227上	J11 J12 K13	18－②24上面	瓷器系陶　器	大甕					内：横ナデ？ 外：横ナデ？	径1～5mm前後の灰色粒子を含む	内：黒褐色(10Y R3/2) 外：オリーブ灰色(10Y5/2)	外面自然釉
1493	370	227上	J11 M12	18 18.-② 24上面	瓷器系陶　器	大甕				外面　押印文	内：指頭圧痕、ナデ 外：不明	径1～6mm前後の灰色粒子を含む	内：黒褐色(10Y R3/2) 外：灰白色(10Y7/1)	外面自然釉 同時期の大甕
1494	371	227下	SX02 L10 J11 J12	18－②24上面	瓷器系陶器（越前）	大甕					内：横ナデ、指頭圧痕 外：横ナデ	径1mm前後の白色粒子を含む	内：鈍い赤褐色(2.5Y5/3) 外：鈍い赤褐色(2.5Y5/3)	
1495	372	227下	L9 L10 L11	17 18	瓷器系陶器（越前）	大甕						径1mm前後の白色粒子を含む	内：鈍い赤褐色(2.5Y5/3) 外：鈍い赤褐色(2.5Y5/3)	
1496	373	227下	K11	18	瓷器系陶器（越前）	大甕					内：ナデ 外：ナデ	径1mm前後の白色粒子を含む	内：鈍い赤褐色(2.5Y5/3) 外：鈍い赤褐色(2.5Y5/3)	
1497	543	228	K10	18－②	瓷器系陶　器	甕				外面　押印文	内： 外：	きめ細かい 径1～10cmの濃灰色粒子を含む	内：黒褐色(2.5Y3/2) 外：灰白色(7.5Y8/1) ～黒褐色(10Y R3/2)	
1498	544	228	ⅠB区 I11	5 16	瓷器系陶器（越前）	甕				外面　押印文	内：ナデ、指頭圧痕 外：	きめ細かい 径1～10mmの濃灰色粒子を含む	内：灰黄褐色(10Y R6/2) 外：灰褐色(5Y R5/2)	
1499	388	228	M11 L11	18上面 18－②	瓷器系陶　器	擂鉢				擂目単位　縦：4本/(1.0cm)　横：4本/(1.0cm)　縦横、横に施している	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1mm前後と、径3mm前後の白色粒子（小石）を含む	内：赤灰色(7.5R5/1) 外：赤褐色(7.5R5/1)	反転実測
1500	366	228	L10	18	瓷器系陶器（越前）	鉢				（13C末～14C頃）口縁端部　一条の沈線	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1mm前後と、径3mm前後の白色粒子（小石）を含む	内：鈍い赤褐色(2.5Y5/3) 外：鈍い赤褐色(2.5Y5/3)	
1501	368	228	L10	17	瓷器系陶器（越前）	鉢				口縁端部　一条の沈線	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1mm前後の小石を含む	内：褐灰色(5Y R4/1) 外：褐灰色(5Y R4/1)	1502と同一個体の可能性大
1502	367	228	M9 M10	遺構検出面	瓷器系陶器（越前）	鉢				高台付き	内：使用の為磨耗 外：回転ナデ、ケズリ	径1mm前後の小石を含む	内：褐灰色(5Y R4/1) 外：褐灰色(5Y R4/1)	反転実測 1501と同一個体の可能性大
1503	375	230	J12 K11	18－②	瓷器系陶器（信楽）	壷	(19.0)			（12C頃）		径2mm前後の白色粒子、赤色粒子を含む 灰色(7.5Y6/1)	内釉：灰褐色(7.5YR4/2)　内胎：灰色(N6/)　外釉：（オリーブ灰色10Y5/2) 外胎：（オリーブ黒色(7.5Y3/1)	反転実測 1504と同一個体の可能性大
1504	374	230	K11南北トレンチ K12 K13壁 P172	18 18－②	瓷器系陶器（信楽）	壷		(14.8)		（12C頃）		径2mm大の白色粒子を含む 灰色(N6/)	内：灰色(N6/)～褐色(7.5YR4/3) 外釉：暗オリーブ色(7.5Y4/3) 外胎：灰色(N4/)～鈍い赤褐色(5YR4/3)	反転実測 1503と同一個体の可能性大
1505	363	229	N8		陶器（備前）	擂鉢	(27.0)			間壁Ⅱ～Ⅲ期？　擂目単位：不明 （少なくとも4本確認）	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1mm前後の黄灰色粒子を含む	内：暗赤灰色(10R4/1) 外：暗赤灰色(10R4/1)	反転実測
1506	364	229	E13 L10 L11 J12 K10 K11 K12 SX05	17 18 18-②24	陶器（備前）	擂鉢	(27.0)	(10.8)		間壁Ⅱ期？　擂目：（1単位）5本/1.5cm 底部使用の為磨耗	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径2mm前後の黄灰色粒子を含む	内：暗赤灰色(10R4/1) 外：暗赤灰色(10R4/1)	反転実測 底径が小さいか？
1507	360-1	229			陶器（備前）	擂鉢	(27.0)			間壁Ⅳ期？　擂目：（1単位）9本/2.5ｃｍ	内：回転ナデ 外：回転ナデ？	径1～4mm前後の黄灰色粒子を含む	内：褐灰色(7.5YR5/1) 外：灰黄褐色(10YR/2)	反転実測 1508と同一個体の可能性大
1508	360-2	229	L10	18	陶器（備前）	擂鉢		(12.5)		擂目：（1単位）9本/2.6ｃｍ底部使用の為磨耗	内：不明 外：回転ナデ	径1mm前後の白色粒子を含む 径3～5mmの黄灰色粒子を含む	内：褐灰色(7.5YR5/1) 外：褐灰色(7.5YR5/1)	反転実測 1507と同一個体の可能性大
1509	365	229	K12南溝 K11	16～17 18	陶器（備前）	擂鉢				擂目：(1単位)13本/2.3ｃｍ 内面自然釉がかかり白色に変色	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径3～5mmの黄灰色粒子を含む 鈍い赤色7.5R4/4	内：赤色(7.5R4/2) 外：褐灰色(7.5R4/2)	
1510	362	229	K11 東北		陶器（備前）	壷				肩部自然釉	内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1mm位の白色粒子をわずかに含む きめ細かい所々層状	内：赤灰色(10R5/1) 外：赤灰色(10R5/1) 外肩部：淡黄色(5Y8/4)	
1511	361	229	L11	16～17	陶器（備前）	甕				間壁Ⅲ～Ⅳ期？	内：横ナデ 外：横ナデ	径1～5mmの白色砂粒子を多く含む 鈍い赤褐色(5YR5/4)	内：暗赤灰色(10R4/1) 外：暗赤灰色(10R4/1)	破片断面に漆の様な物質付着
1512	347-1	231	L10 L11	17 18上面	中国陶器	壷	(9.6)			四耳壷か？　褐釉	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　所々に径1mm弱の黒色粒子を含む 褐灰色(5YR6/5)	内釉：黒褐色(2.5Y3/1) 外釉：オリーブ黒色(7.5Y3/2)	反転実測 1513と同一個体の可能性大
1513	347-2	231	L11	18	中国陶器	壷	(7.0)			褐釉	内：回転ナデ 外：回転ナデ	密　所々に径1mm弱の黒色粒子を含む 褐灰色(5YR6/5)	内釉：暗オリーブ色(5Y4/3) 内胎：灰白色(N7/) 外釉：灰オリーブ色(5Y4/2)	反転実測 1512と同一個体の可能性大
1514	529	231	L10	16	不明陶器	不明				文様　櫛状？の施文具のような物で施釉前に彫り込んでいる	内：不明 外：不明	密　土師質 やや赤っぽい	釉：緑 その他：灰白色(7.5Y R8/2)	
1515	358	231	M9 K11 12 J K11	16 18－②	中国陶器	天目茶碗		(4.2)			内：－ 外：回転ナデ？	密 きめ細かい かなり黄褐な白色粒子を含む 暗青灰色(5PB4/1)	内釉：鈍い赤褐色(2.5Y R5/3) 外釉：鈍い赤褐色(2.5Y R5/3) 外胎：褐灰色(10YR6/1)	反転実測
1516	359	231	K L12トレンチ J11北側溝		不明陶器	鉢？・盤？	(27.6)				内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密 灰赤色（2.5Y R5/2）	内釉：褐灰色(7.5Y R5/1) 外釉：褐灰色(7.5Y R5/1) 外胎：鈍い赤褐色(5Y R5/3)	反転実測
1517	520	232	M8		中国陶器	盤	(26.8)			黄釉		密　微細な赤色粒子をわずかに含む 微細な白色粒子を含む　砂味が強い 灰白色(2.5Y8/2)	内釉：黄褐色(2.5Y5/6)　内胎：灰白色(5Y8/2)　外釉：黄褐色(2.5Y5/6) 外胎：鈍い橙色(5Y R6/3)	反転実測
1518	352	232	K12	17	青花	椀		(5.4)		椀B群又はE群又はG群（Ⅳ期）	内：－ 外：回転ナデ？	密 かなり粉っぽい 灰白色(2.5Y8/2)	内釉：灰白色(5Y8/2) 外釉：灰白色(5Y8/2) 外胎：灰白色(2.5Y8/3)	反転実測
1519	355	232	K9		青花	皿				皿C群　底部　碁笥底		密　きめ細かいがやや粉っぽい 灰白色(N7/)	内釉：明オリーブ灰色(5G Y7/1) 外釉：明オリーブ灰色(5G Y7/1) 外胎：灰白色(10Y7/1)	反転実測
1520	356	232	K11 南溝		李朝陶器？	皿		(4.4)		砂目跡		径1mm前後の白色粒子を含む 灰白色(N7/)	内釉：灰オリーブ灰色(5Y6/2)～灰白色(5Y8/1)　外釉：灰オリーブ灰色(5Y6/2)～灰白色(5Y8/1)	反転実測

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	器種	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	調整	胎土	色調	備考
1521	376	232			李朝陶器	Ⅲ？	(10.8)				内：回転ナデ 外：回転ナデ	径1㎜弱の粒子をわずかに含む 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰色(5Y6/1) 外釉：灰色(5Y6/1)	反転実測
1522	10	231	K11	18 18−②	緑釉陶器	Ⅲ	(14.4)	7.0	3.1		内：回転ナデ 外：回転ナデ	密 灰色(7.5Y6/1)	内釉：オリーブ灰色(10Y6/2) 外釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	一部反転実測
1523	518	232	K11東北		灰釉陶器？	蓋？					内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密 灰白色5Y7/1)	内：灰白色(N8/) 外釉：灰色(7.5Y6/1)	反転実測
1524	519	232	J11 12 K1112 KR土手東	17 24	灰釉陶器	不明		(4.6)			内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？ 回転糸切り	密　所々に径1㎜前後の粒子を含む 灰白色(5Y7/1)	内釉：灰白色(5Y7/2) 外釉：灰白色(5Y7/2)	一部反転実測
1525	542	232	M9 M10 L10	16 18	瀬戸	卸皿 (片口)	(14.0)				内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密　やや砂味を帯びている 灰白色(2.5Y8/2)	内釉：淡黄色(2.5Y8/3) 外釉：淡黄色(2.5Y8/3)～橙色(2.5YR6/6)	反転実測
1526	348	232	K M 9 ベルト		瀬戸？	平底 末広椀		(6.0)		中Ⅰ～Ⅳ期？	内：− 外：回転ナデ？ 回転糸切り	密　微細な黒色粒子をわずかに含む 灰白色(2.5Y7/1)	内釉：オリーブ黄色(7.5Y6/3) 外釉：オリーブ黄色(7.5Y6/3) 外胎：灰色(5Y6/1)	反転実測
1527	349	231	K10 K11 K12 L10	16 17 18上面	瀬戸	天目茶碗	(12.0)				内：回転ナデ？ 外：回転ナデ？	密 灰白色(5Y7/1)	内釉：黒色(7.5Y2/1) 外釉：オリーブ黒色(5Y3/1) 外胎：灰白色(5Y7/1)	反転実測
1528	350	232	M8	18	瀬戸	丸皿	(10.9)	(6.8)	2.7	16C後半？		密　砂味がある 灰白色(2.5Y8/2)	内釉：オリーブ黄色(7.5Y6/3) 外釉：オリーブ黄色(7.5Y6/3)	反転実測
1529	351	232	K10 K11 L10	18上面 18−②	瀬戸	平椀	(17.3)	(9.2)	6.6	後Ⅲ期？	内：− 外：回転ナデ・ケズリ？	密　やや砂味を帯びている 淡黄色(5Y8/3)	内釉：暗オリーブ色(7.5Y4/3) 外釉：暗オリーブ色(7.5Y4/3) 外胎：淡黄色(5Y8/3)	反転実測 口縁内部に二次的火を受けた後あり
1530	354	232	ⅡB区 Ⅰ J14側溝		肥前系陶磁器	大皿		(14.0)				密　やや粉っぽい 灰白色(5Y8/1)	内釉：灰白色(N8/) 外釉：灰白色(N8/)	反転実測
1531	353	232	K11	17	肥前系陶磁器	椀		(5.0)				密　やや粉っぽい 灰白色(N8/)	内釉：灰白色(2.5G Y8/1) 外釉：灰白色(2.5G Y8/1)	反転実測
1532	6	231	K10	16	肥前系陶磁器	Ⅲ	(11.8)	5.2	2.8	内面4ヶ所に砂目跡	内：− 外：回転ナデ　ケズリ？　回転糸切り	密　鈍い橙色 (7.5YR7/3)	内釉：褐灰色(10Y R5/1) 外釉：褐灰色(10Y R5/1) 外胎：鈍い橙色(7.5YR6/4)	一部反転実測
1635	墨書 269	214 上	ⅡB区	24	須恵器	坏	−	6.3	−	「吉長西」	内：回転ナデ 外：回転ナデ　回転糸切り	密	内：灰白色(N7/) 外：灰白色(N7/)	

第154表　Ⅱ区金属器観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	備考
1533	F89	211上	K10	24上面	小刀？	(28.6)	(3.1)	(0.9)		
1534	F1	212上			小刀？	(22.5)	(2.3)	(0.6)		
1535	F30	211上	南北　トレンチ	16	不明	(5.75)	(1.85)	(0.6)		
1536	F72	211上	K10	18	刀子？	(21.4)	(2.09	(0.6)		
1537	F25	211上	L10	18上面	不明	(5.4)	(0.7)	(0.3)		赤色部分あり
1538	F48	211上	NO9ベルト	18	小柄？	8.9	1.3	0.6		
1539	F75	211上	L12	18上面	鎌？	(6.4)	(1.3)	(0.4)		赤色・青色部分あり
1540	F96	211上	N8		刀子？	(9.0)	(1.5)	(0.3)		青色部分あり
1541	F88	211	L10	18−②	釘？	11.7	0.7	0.6		
1542	F87	211	L10	18	釘？	(10.3)	0.8	0.75		
1543	F36	211	K10		釘	(9.2)	0.7	0.7		
1544	F84	211	L10	18	釘	(10.4)	(0.9)	(0.7)		
1545	F60	211	M8	18−②	釘	(8.7)	1.2	0.8		赤色・青色部分あり
1546	F42	211	K11	18	楔？	(7.2)	1.5	0.5		
1547	F24	211	L10	18	釘？	7.6	0.7	0.6		赤色部分あり
1548	F07	211	排土		釘？	6.5	1.0	0.6		赤色部分あり
1549	F03	211	L10	18上面	釘	6.1	0.6	0.5		
1550	F41	211	K10	18−②	釘	5.55	0.6	0.3		
1551	F13	211	M　N8	旧18	釘	(4.0)	0.6	0.4		赤色部分あり
1552	F11	211	M10	17	楔？	5.85	(1.3)	(0.5)		
1553	F15	211	N8		不明	(4.7)	(1.8)	(0.5)		赤色部分あり
1554	F44	211	K11	18上面	釘	(5.9)	(0.7)	(0.5)		
1555	F26	211	L10	18上面	釘？	5.9	(0.7)	0.6		赤色部分あり
1556	F09	211	L11	18	釘	(6.4)	(0.6)	(0.7)		赤色・青色部分あり
1557	F08	211	K11	18上面	釘	(5.25)	0.5	0.4		赤色・青色部分あり
1558	F86	211	K D01		釘？	(4.3)	0.4	0.4		
1559	F51	211	K D01		釘	(5.4)	(0.6)	(0.5)		
1560	F22	211	L11北側 トレンチ		釘？	(4.5)	(0.5)	(0.5)		赤色部分あり
1561	F14	211			釘？	(3.2)	(0.7)	(0.6)		赤色部分あり
1562	F53	211	L10	18−②	釘？	(4.6)	(0.7)	(0.4)		
1563	F28	211	N10南壁溝	16～18	釘	(5.3)	(0.6)	(0.35)		赤色部分あり
1564	F10	211	L8	18	釘？	(4.5)	0.8	0.4		青色部分あり
1565	F83	211	L11	18	釘？	(3.3)	(0.5)	(0.5)		赤色・青色部分あり
1566	F43	211	K10	18	不明	(3.2)	(0.4)	(0.4)		

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	寸法(cm) 口径	底径	器高	形態・文様の特徴	備考
1567	F90	212上	J12	18－②	鍋？	(5.8)	(5.9)	(0.45)	口径(23.6)	反転実測
1568	F74	212上	K11	18	鍋？	(2.8)	(3.3)	(0.45)		
1569	F77	212上	K11	18	鍋？	(7.1)×(7.4)		(1.2)		赤色部分あり
1570	F38	212上			鍋？	(9.5)×(7.9)		(1.2)		
1571	F31	212上	K11	16	不明	(6.2)	(3.85)	(0.7)		青色部分あり　鋳造品
1572	F85	212上	L10	18	不明	(7.0)	(3.6)	(0.6)		
1573	F23	212上			火箸	23.5	(0.5)	(0.5)		
1574	F33	212上	K10	18	火箸？	(6.2)	(0.75)	(0.6)		
1575	F46	212上	L8	18	火箸？	(8.9)	(0.5)	(0.5)		
1576	F49	212上	L10	18	不明	(4.4)	(0.5)	(0.55)		
1577	F06	212上	J11	14上面	煙管	4.15	1.0	0.05		銅製？
1578	F12	212上	M8		煙管	7.3	1.0	0.05	口径1.6×0.95	銅製？
1579	F61	212上	L9		煙管	6.0	1.1	0.08	口径1.4×1.4	
1580	F62	212上	M9		鐙又は柄頭？	6.0×3.7	2.0	0.2		銅製？
1581	F58	212上	N9	18－②	鐙又は柄頭？	3.2×3.6	1.2	0.15		
1582	F70	212上	L10	18上面	不明	(5.6)	1.8	0.02		
1583	F37	212上	K11北側サブトレ	黒色粘質土	飾り金具？	(4.05)	1.6	0.015		
1584	F91	212上	KD01	18	不明	(9.4)	0.8	0.8		
1585	F57	211下	L10	17	耳環？	2.4×2.6		0.5		銅？
1586	F56	211下	K10		環状製品	0.9		0.02	口径1.2×0.7	材質不明
1587	F59	211下	L8	18	環状製品	(4.6)×(4.5)		(0.8)		
1588	F52	211下	J12	16	不明	(12.0)	(1.6)	(0.8)		鋳造品？
1589	F78	211下	K9	18上面	不明	(6.6)×(5.8)		(1.5)		
1590	F97	211下	M8	18	不明	(3.4)	(2.6)	(1.0)		赤色・青色部分あり
1591	F94	211下	J10	18上面	不明	(6.4)	(1.6)	(0.8)		
1592	F92	211下	L11	18	不明	(2.2)	(2.6)	(1.25)		赤色部分あり

第155表　Ⅱ区古銭観察表

挿図番号	古銭番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	名称	寸法(cm) a	b	c	d	e	f	厚さ	重量(g)	初鋳年代	備考
1593	C33	212下	J11	24	紹聖元寶	2.43	2.47	2.01	2.01	0.69	0.70	0.14	3.15	(北宋)1094	行書
1594	C62	212下	K10	24	皇宋通寶	2.37	2.38	2	2	0.60	0.62	0.12	2.82	(北宋)1038	篆書
1595	C15	212下	J12	18	政和通寶	2.45	2.43	2.13	2.13	0.67	0.66	0.12	2.57	(北宋)1111	篆書
1596	C48 C49	212下	K10	18	元祐通寶	2.40 (上)	2.38 (上)	1.95 (上)	1.98 (上)	0.69 (上)	0.69 (上)	0.29 (2枚)	8.02 (2枚)	(北宋)1086	2枚　錆付き　篆書
1597	C29	212下	K11	18	元○通寶	2.36	2.36	1.94	1.94	0.65	0.66	0.13	2.71	(北宋)1086	行書
1598	C41	212下	K12	18	天聖(元寶)	－	－	－	－	－	－	0.14	1.51	(北宋)1078	元豊の2文字から元豊通寶とした　篆書
1599	C26	212下	L10	18	元豊通寶	2.40	2.40	2.05	1.97	0.68	0.68	0.15	3.54	(北宋)1078	篆書
1600	C19	212下	L10	18	皇宋通寶	2.44	2.43	2.04	2.06	0.65	0.67	0.14	3.88	(北宋)1038	篆書
1601	C30	212下	L10	18	元祐通寶	2.43	2.43	2.08	2.14	0.73	0.70	0.11	2.99	(北宋)1086	篆書
1602	C31	212下	L11	18上面	紹聖元寶	2.43	2.41	1.99	2.04	0.70	0.73	0.12	3.16	(北宋)1094	篆書
1603	C50	212下	L11	18	天聖元寶	2.49	2.49	2.19	2.12	0.69	0.73	0.15	4.02	(北宋)1023	篆書
1604	C13	212下	M8	18	景徳元寶	2.43	2.43	1.90	1.90	0.61	0.62	0.12	2.96	(北宋)1004	
1605	C25	212下	J11	18上面	元豊通寶	2.37	2.39	1.92	1.87	0.60	0.60	0.12	2.76	(北宋)1078	篆書
1606	C03 C04	212下	J11	18上面	至道元寶 (2枚重ね)	2.46 (上)	2.48 (上)	1.89 (上)	1.94 (上)	0.58 (上)	0.55 (上)	0.39 (2枚)	7.52 (2枚)	(北宋)995	2枚　錆付き　草書
1607	C02	212下	J11	18上面	開元通寶	2.48	2.48	2.03	1.96	0.66	0.67	1.02	2.97	(唐)621、845 (南唐)960	
1608	C05	212下	K10	18上面	至道元寶	2.40	2.39	1.90	1.90	0.65	0.64	0.17	2.09	(北宋)995	真書
1609	C08	212下	東北トレンチ	18上面	祥符元寶	2.50	2.50	2.05	2.05	0.63	0.65	0.11	3.13	(北宋)1009	
1610	C14	212下	K10	18上面	政和通寶	2.43	2.44	2.06	2.06	0.62	0.64	0.09	1.56	(北宋)1111	篆書
1611	C40	212下	東北トレンチ	18上面		2.33	2.35	1.93	2.03	0.59	0.61	0.12	2.33		風化著しい
1612	C17	212下	K11	18上面	皇宋通寶	2.42	2.40	2.04	2.04	0.79	0.77	0.09	2.65	(北宋)1038	真書

挿図番号	古銭番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	名称	寸法(cm) a	b	c	d	e	f	厚さ	重量(g)	初鋳年代	備考
1613	C53	213上	K11	18上面	皇宋通寶	2.49	2.46	2	2.04	0.74	0.74	0.10	3.04	(北宋)1038	真書
1614	C27	213上	L10	17	元〇通寶	2.38	2.38	1.83	2.04	0.67	0.68	0.12	2.92	(北宋)1086	行書
1615	C45 C46 C47	213上	L10	18上面		2.45 (※)	2.45 (※)	1.92 (※)	2.01 (※)	0.65 (※)	0.61 (※)	0.38 (3枚)	11.03 (3枚)		3枚 錆付き ※1枚目のみ
1616	C35	213上	K10	16下面 17	聖宋元寶?	2.43	2.44	2.06	2.02	0.66	0.67	0.10	3.22	(北宋)1101	
1617	C07	213上	K11	17	祥符元寶	2.4	2.36	1.95	1.97	0.58	0.62	1.50	3.29	(北宋)1009	
1618	C10	213上	L10	17	天禧通寶	2.58	2.57	2.22	2.05	0.68	0.65	0.15	3.7	(北宋)1017	
1619	C11 C12	213上	L10	17		2.43 (※)	2.45 (※)	1.98 (※)	1.96 (※)	0.73 (※)	0.75 (※)	0.22 (2枚)	7.21 (2枚)		2枚 錆付き ※1枚目のみ
1620	C51	213上	L10	17	元祐通寶	2.29	2.35	1.95	1.97	0.58	0.57	0.14	3.51	(北宋)1068?	行書
1621	C22	213上	L11	17	熙寧元寶	2.42	2.42	2.04	2.04	0.70	0.71	0.11	2.77	(北宋)1068	篆書
1622	C24	213上	L11	17	元豊通寶	2.48	2.45	2	1.94	0.73	0.72	0.13	3.66	(北宋)1078	行書
1623	C39	213上	J11	16		2.39	2.34	1.93	1.98	0.67	0.70	0.15	3.71		
1624	C23	213上	K11	16	熙寧元寶	2.34	2.38	2.07	2.07	0.75	0.79	0.15	3.91	(北宋)1068	篆書
1625	C52	213上	K11	16	皇宋通寶?	2.42	(2.45)	1.98	2.03	0.8	0.78	0.17	2.94		
1626	C20	213上	L10	16	嘉祐元寶	2.33	2.33	1.97	1.97	0.66	0.68	0.12	2.8	(北宋)1056	真書
1627	C09	213上	L9		祥符元寶	2.4	2.44	1.98	1.96	0.66	0.65	0.10	2.74	(北宋)1009	
1628	C59	213上	M8	第1遺構面下	熙寧元寶	2.48	2.47	2.17	2.15	0.67	0.69	0.10	2.67	(北宋)1068	真書
1629	C34	213上	M9		紹聖元寶	2.47	2.46	1.92	1.9	0.69	0.67	0.12	3.46	(北宋)1094	行書
1630	C60	213上	M9 N10		天禧元寶	2.55	2.55	2.16	2.07	0.66	0.65	0.11	3.33	(北宋)1017	
1631	C37	213上	L10	16 SD02直面	元符通寶	2.44	2.42	1.93	1.94	0.73	0.70	0.11	2.87	(北宋)1098	行書

第156表　Ⅱ区木製品観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
1632	190	213下			木簡	(7.2)	(2.9)	0.15			「京世ひ」
1633	189	213下	P178	2	木簡	(8.1)	3.0	0.3			「かや九百　ふ」
1634	146	213下	L10	17	木簡	(8.3)	(2.7)	0.9			「■」
1636	186	215上	13東西トレンチ		漆椀	(17.4) 口径	(9.5) 底径		5.3		反転実測　内：黒漆 外：黒漆　赤漆で文様
1637	184	215上		17	漆椀	—	(6.6) 底径		—		反転実測　内：赤漆　外：黒漆
1638	183	215上	L9又はL8		漆椀	—	—		—		反転実測　内：黒漆 外：黒漆　赤漆で文様
1639	178	215上	K12	18	漆椀	—	—		—		内：赤漆　外：黒漆
1640	185	214下			漆椀	(12.8) 口径	(6.2) 底径		6.1		一部反転実測　内：赤漆 外：黒漆、赤漆で文様
1641	179	215下	ⅡB区	16より上層	漆椀	(11.3) 口径	4.6 底径		3.4		一部反転実測　内：赤漆　外：赤漆
1642	180	215下	L11	17	漆椀	—	—		—		反転実測　内：赤漆　外：黒漆
1643	176	215下	土坑2	2又は4	漆椀(皿)	(9.1) 口径	(6.8) 底径		1.9		反転実測　内：黒漆、赤漆で文様 外：黒漆
1644	181	215下	L11	16	漆椀	(8.8) 口径	—		2.8		反転実測　内：黒漆　外：黒漆 外底部：赤漆で一の文字
1645	62	216上	K10	18上面	連歯下駄	(16.0) 台部	(6.6) 台部		(2.2)		
1646	61	216上	K10	17	火きり臼	12.7	3.1	1.3			
1647	143・144	216上	K10	18上面	折敷?	(28.3)		0.7	2.1		木製の止杭(?)が底部に等間隔(3.5～4cm)に施されている
1648	121	216上	P511		折敷?	(15.2)	(3.7)	0.8			断面に止孔が施されている
1649	48	216上	K11	16	折敷?	(5.3)	(2.2)	0.8			焼痕
1650	117	216上	K10	16	折敷?	(10.9)	(2.4)	0.6			
1651	111	216上	M10	16又は17	折敷?	6.5	(3.2)	1.1			断面に止孔が施されている
1652	68	216上		18－②	杓子状木製品	11.5	3.4 1.4(柄部分)	0.4			
1653	73	216上	L10	18	栓状木製品	(6.4)	3.2×3.3 2.0(軸部分)				黒漆
1654	51	216下	M9	18	曲物?	(21.1)	(15.9)	1.1			
1655	139	216上	土坑5東面トレンチ		曲物?	(17.9)	(3.7)	0.5			
1656	140	216上	土坑5東面トレンチ		曲物?	16.1	(2.3)	0.5			
1657	126	216上	M10	18	曲物?	(11.2)	(2.7)	0.6			
1658	97	216上	K12	24上面	曲物?		(5.3) (1.8)	0.3	5.4		等間に刻み目(0.6～0.8cm)痕あり
1659	55	216上	L9又はL8		曲物?		(5.9)	0.4	(3.7)		
1660	59	216下		暗黒褐色土	棒状木製品	—	柄部1.5 (最大)	縦2.1×横2.4			
1661	79	216下	M11		把手状木製品	12.5	2.9	3.3			
1662	82	216下	L10	18上面	把手状木製品	(12.0)	(2.8)	0.8			
1663	66	216下	J12	18	把手状木製品	3.0	4.9	1.3			

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点	層位	種別	寸法(cm) 長	幅	厚	高	樹種	備考
1664	109	216下	K10	16	駒状木製品	(3.8)	(0.9)	0.5			
1665	70	216下	L12	24	円状木製品	(8.2)	82.6)	0.4			
1666	86	216下			円状木製品	直径6.4		0.5			
1667	75	216下	L11東側トレンチ		円状木製品	(5.0)	(3.3)	0.5			両面：焼痕有り
1668	58	216下	P157		箸状木製品	(7.3)	0.5	0.4			
1669	93	216下	P456		箸状木製品	(11.7)	0.8	0.5			
1670	72	216下			箸状木製品	(13.2)	0.8	0.5			
1671	84	216下	北壁溝	黒色土	有孔木製品	(8.6)	0.3		2.3		
1672	74	216下	K12	16又は17	有孔木製品	(8.4)	(2.0)	0.7			
1673	67	216下	K12南側溝		有孔木製品	4.5	1.5	0.8			片面：焼痕有り
1674	80	216下	ⅡB区 I J13 14	24	笄？	(5.0)	0.7	0.5			
1675	54	216下	P178	2	不明	(3.9)	1.4 (最大)	0.3			
1676	96	216下			棒状木製品	11.7	3.3	1.4			
1677	99	216下	土坑5東面トレンチ		棒状木製品	(13.2)	0.3	1.9			内面：斜めに刃物等による切れ込みを無数施している
1678	60	217上	南北トレンチ	16	板状木製品	(13.1)	1.2	1.2			
1679	53	217上	J12	24上面	板状木製品	(14.5)	2.4	2.4			
1680	123	217上	土坑2		板状木製品	(28.4)	(3.7)	0.3			片面：焼痕有り
1681	141	217上	M9	18	板状木製品	(12.5)	5.7	0.4			
1682	129	217上	L11	18上面	板状木製品	14.3	(2.5)	0.7			片面：切痕あり
1683	56	217上	L11	24上面	板状木製品	17.5	(2.9)	0.8			
1684	57	217上	土坑4		板状木製品	(13.0)	(1.0)	0.3			
1685	128	217上	K12	17	板状木製品	(13.5)	(6.0)	0.6			片面：焼痕有り
1686	83	217上	M10	18上面	板状木製品	14.0	5.8	1.0			
1687	81	217上	K10	18－②	板状木製品	(6.0)	2.3	0.9			直径8ミリ大の孔が2ヶ所
1688	131	216下	K12	16	板状木製品	13.2	3.3	1.0			
1689	138	216下	K10	16	板状木製品	(14.1)	(3.7)	0.7			両面：一部に朱色の付着物
1690	65	217上	K12東側溝		不明	12.4	3.7	1.6			中央を幅2.3cmの溝状に加工
1691	100	217上	K10	16	不明	(11.2)	6.0	1.1			両面：焼痕有り

第157表　Ⅱ区石製品観察表

挿図番号	実測番号	写真番号	出土地点 Gr/遺構	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1692	561	217下	K12	18	石核？	3.76	4.59	4.05	87.84	玉髄
1693	562	217下	L10	18－②	石核	3.40	3.19	1.60	15.94	玉髄　2回打
1694	558	217下	K10	16	剥片	2.52	2.14	0.67	3.64	玉髄 剥片
1695	559	217下	L10	16	剥片	2.01	1.45	0.27	0.94	玉髄 剥片
1696	560	217下	ⅡB区北側溝		剥片	2.45	1.44	0.22	1.32	玉髄 2次加工の剥片
1697	564	218	L10		石鍋 (滑石)			1.05	28.76	2次利用の可能性有り
1698	552	218			台石？	(長径)15.26	(短径)10.74	4.50	1031.39	
1699	553	218	K9		石斧？	12.59	8.52	2.010	343.7	簡単に加工 刃部は再加工？
1700	563	218		14		6.10	5.17	2.2	89.76	
1701	555	218	K10		砥石	13.15	6.05	3.53	387.96	4研面
1702	557	218	J11		砥石	10.96	9.32	4.09	501.68	5研面
1703	550	218	北東K11杭	18上面	砥石	18.6	9.47	4.2	1080.47	5研面　多孔質
1704	568	218	西側溝	16	平玉	2.23	2.98	0.86	8.97	
1705	567	218	J11	16	平玉	1.74	2.12	0.90	5.24	
1706	566	218	K12	17	平玉	1.54	1.90	0.64	3.19	
1707	565	218	J　K12	18－②	平玉	1.65	1.83	0.89	4.16	

（6）小　　結

本調査区では、①近世初めと考えられる遺構・遺物、②中世前半から後半にかけての遺構・遺物、③中世初め頃以前の自然河道、④時期不明の遺構・遺物（ⅡＢ区）⑤古代の遺物、⑥弥生時代中期から後期の遺物を検出した。他の調査区同様、遺構・遺物の種類や量を多く確認したのは、②である。掘立柱建物に伴うと考えられる柱根はⅡＡ区で約1,800確認しており、全調査区の中でも特に密度が高くなっている。

註

（1）弥生土器

松本岩雄　「出雲・隠岐編」『弥生土器の様式と編年　－山陰・山陽編－』　木耳社　1992

鹿島町教育委員会　『南講武草田遺跡』　1992

（2）土師器

松山智弘　「出雲における古墳時代前半期の土器の様相－大東式の再検討」『島根考古学会誌』第8集　島根考古学会

鹿島町教育委員会　『南講武草田遺跡』　1992

（4）須恵器

大谷晃二　「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集　島根県考古学会　1994

島根県教育委員会　『西川津遺跡Ⅷ』　2001

（1）土師質土器

広江耕史　「島根県における中世土器について」『松江考古』第8号　松江考古談話会　1992

島根県教育委員会　『古志本郷遺跡Ⅰ』1999

島根県教育委員会　『蔵小路西遺跡』1999

（2）陶磁器・中世須恵器

太宰府教育委員会　『太宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』　2000

中世土器検討会　概説　『中世の土器・陶磁器』　真陽社　1997

上田秀夫　「14～16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁器研究No.2』

山陰中世土器検討会『中世須恵器の生産と流通　－山陰地方を中心に－』2003

※白磁の編年は、基本的には『太宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』の山本信夫氏の編年を参考にし、山本氏の編年より新しい部分は『中世の土器・陶磁器』の森田勉氏の編年を参考にした。

青磁についても、基本的には『太宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』の山本信夫氏の編年を参考にし、山本氏の編年より新しい部分は「14～16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁器研究No.2』の上田秀夫氏の編年を参考にした。

備前、古瀬戸の編年は、『中世の土器・陶磁器』を参考にした。

（3）金属器

広島県草戸千軒遺跡調査研究所編『草戸千軒遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅴ』1993～1996

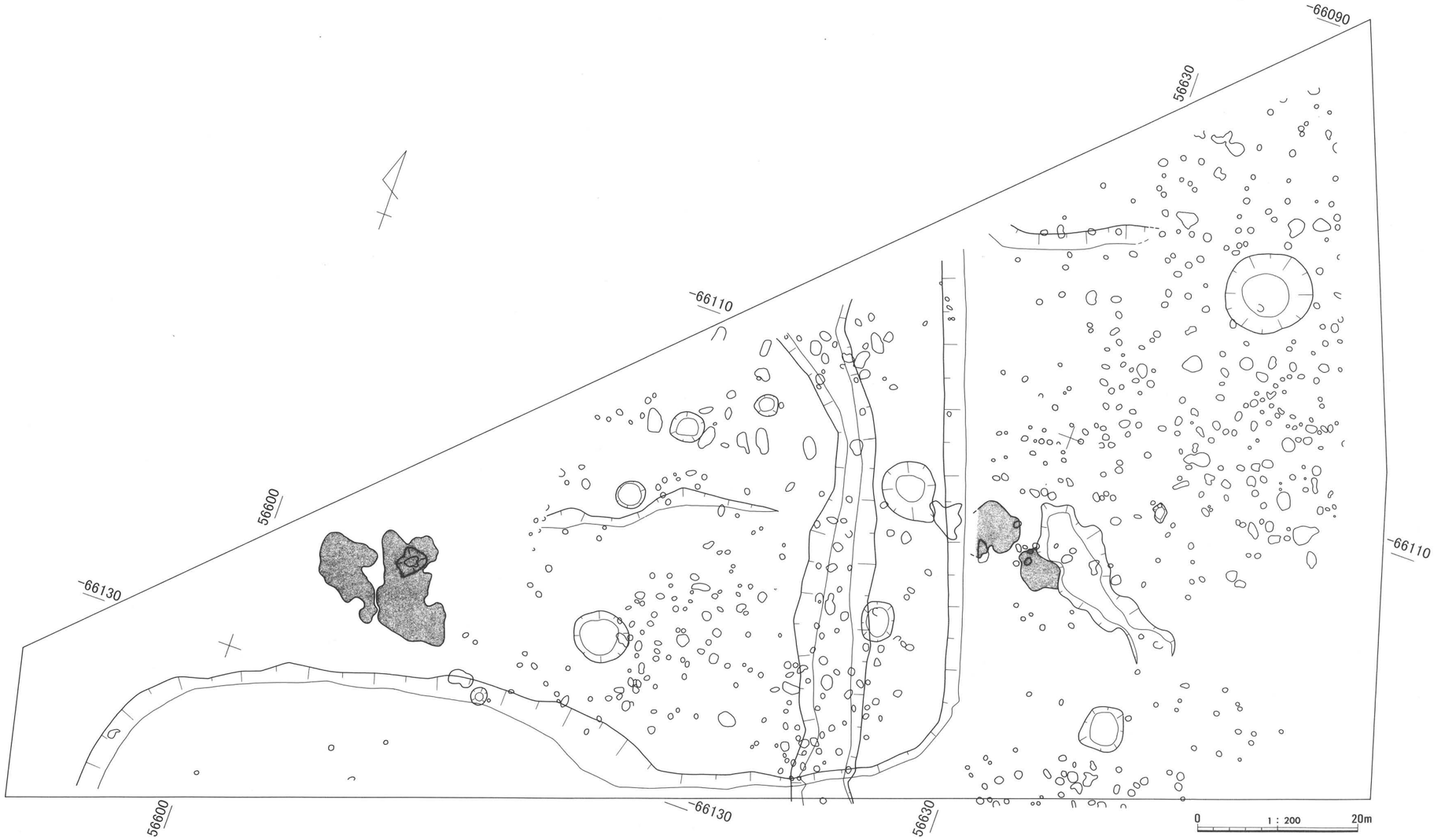
（4）木製品

奈良国立文化財研究所「木器集成図録　近畿古代編」1984

広島県草戸千軒遺跡調査研究所編『草戸千軒遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅴ』1993～1996

（5）石製品

石器の分類については古代文化センター丹羽野裕、埋蔵文化財調査センター柳浦俊一の指導を得た。



第251図　ＩＤ区全体図（Ｓ＝1/200）

第252図　Ⅱ区全体図（S＝1/200）

第５章　理化学分析

青木遺跡出土中世須恵器の胎土分析

白石　　純（岡山理科大学自然科学研究所）

１．分析目的

青木遺跡出土の中世須恵器には、外面に格子状タタキ、内面にカキ目が施された須恵器の甕が出土している。これら格子状タタキが施された甕の生産地は、岡山県の亀山焼や勝間田焼に類例があることが知られている。そこで、理化学的手法により生産地・消費地の須恵器胎土の分析を実施し、どの生産地から持ち込まれているのか推定した。また、最近の研究では、山陰地方にもこの時期の窯跡があることが想定されており[(1)(2)]、この窯跡と考えられる松江市別所遺跡、亀山および勝間田との比較を行い、生産地推定を実施した。また、甕以外の壺・鉢・鍋などについても併せて分析した。そして、比較試料として、出雲市大井谷Ⅱ遺跡出土の中世須恵器の甕も分析した。

２．分析方法

理化学的な分析方法は、蛍光Ｘ線分析法で実施した。この方法は、試料に含まれる成分(元素)量を測定するもので、その成分量の違いから生産地を推定する方法である。また、分析装置の特徴は、分析試料の作製が簡単で、測定も短時間でできるため、多量に試料を分析するのに有効である。しかし、測定試料は均質性が求められるため、分析試料を２ｇほど粉末にする必要があり、破壊分析である。

測定装置は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（セイコーインスツルメンツ製SEA2010L）を使用し、Si・Ti・Al・Fe・Mn・Mg・Ca・Na・K・P・Rb・Sr・Zrの13元素を測定した。

分析試料は、第１表に示した青木遺跡出土の甕60点、壺４点、鉢38点、鍋３点、羽釜３点の合計108点と大井谷Ⅱ遺跡の甕７点である。

３．分析結果

第１表の生産地遺跡分析値一覧表から、各試料のあいだでTi（チタン）、Ca（カルシウム）、Sr（ストロンチウム）、Zr（ジルコウム）の各元素に顕著な違いがみられる。そこで、これらの元素のXY散布図を作成し、胎土の比較を行った。

《青木遺跡出土須恵器の分類》

甕の場合

第１図Ti-Ca散布図は、青木遺跡内から出土した甕・壺の胎土を比較した。すると、Ca量に違いがみられ、大きく３類に判別できる。それは、Ca量が約0.8%以上（A類）、約0.4%～0.8%（B類）、約0.4%以下（C類）である。なお、古代の甕はC類に分布し、壺はBとC類の両方に分布した。

鉢の場合

第２図Ti-Ca散布図は、青木遺跡内から出土した鉢の胎土を比較した。すると、Ca量とTi量の両

方に違いがみられ、大きく5類に分類できる。それは、Ca量が約1.0%以上（A類）、約0.4%～1.0%（B類）、約0.4%以下（C類）、Ti量が約2.0%～4.0%（D類）、約4.0%以上（E類）である。在地で生産されたと考えられる土師質の鉢2点は、A類とB類に分布し胎土が異なっていた。

第3図Ti-Ca散布図では、青木遺跡内から出土した鍋・羽釜の胎土を比較した。すると、CaおよびTi量で3類に分類できた。このうちC類が生産地である別所遺跡の鍋が分布している。

《各生産地と青木遺跡出土須恵器の比較》

第4図Ti-Ca、第5図Zr-Sr散布図では甕の生産地を推定した。推定方法は両散布図の各生産地分布範囲に分布しているかいないか。また、多変量解析のクラスター分析を用いてグループ分類を行い検討した。

その結果、青木遺跡出土の甕は、以下の生産地に推定された。

別所遺跡 …… 試料番号3・24・25・76・78・84

亀山焼 …… 試料番号5・6

どの生産地にも属さない …… 試料番号9・16・20・21・26・67・68・79・80・82・83

これ以外の甕は、各散布図とクラスター分析の結果が一致せず生産地がわからなかったものである。

また、どの生産地にも属さないものは、今回比較した、生産地以外に推定されると想定される。

そして、大井谷Ⅱ遺跡の甕は、別所遺跡に近いものの胎土が一致しなかった。

第6図Ti-Ca、第7図Zr-Sr散布図では鉢の生産地を推定した。推定方法は甕の場合と同様である。

その結果、青木遺跡出土の鉢は、以下の生産地に推定された。

勝間田焼 …… 試料番号23・50

亀山焼 …… 試料番号43・44・45・46

神出、魚住焼 …… 試料番号39・40・58

どの生産地にも属さない …… 試料番号30・32・36・37・38・47・48・51・52・54・60・61・62・63・107

なお、これ以外の鉢は、甕と同様に生産地がわからなかったものである。

また、土師質の鉢（107・108）は107がどの生産地にも属さず、108は別所遺跡付近に分布した。

第8図Ti-Ca、第9図Zr-Sr散布図では鍋、羽釜の生産地を推定した。すると、試料番号41（羽釜）と、別所遺跡の鍋2点と近いところに分布している。その他のものは、試料番号94・95がほぼまとまり、96・97・98が散漫な分布で、まとまらなかった。

4．まとめ

この分析結果から以下のことが明らかになった。

（1）蛍光X線分析法により青木遺跡出土の甕・鉢の胎土分析を実施し、第1図・第2図で青木遺跡のものが、どのように分類できるか検討したところ、3種類から5種類の胎土にわかれ、明らかに複数の生産地から持ち込まれていることが推定された。しかし、生産地との比較では、甕・鉢とも明確に生産地が推定されたものは限られた。第1図のA・B・C類を大まかにみる

と、Ca量でA類が未知の生産地、B類が別所・勝間田・亀山、C類が神出・魚住の領域にわかれる。

（2）今回の分析では、別所・勝間田・亀山・神出・魚住のいずれの生産地にも属さなかったものが多くあった。これは、データを増やせば別所遺跡の分布範囲が広がるのか、新たな別の生産地があるのか再検討する必要がある。しかし、分析データをみると、鉢のなかには明らかに分析値が異なり中国地方以外の生産地を求める必要があるのかもしれない。

（3）鍋、羽釜類の分析では、試料番号41の羽釜が別所遺跡の鍋と胎土的に類似していた。器種は異なるものの別所遺跡あるいは周辺で生産されていたことが推定されるが、生産地の分析データが2点と非常に少なく、今後データを蓄積し再検討する必要がある。

以上のように、青木遺跡から出土した中世須恵器の甕、鉢、鍋類の生産地推定を実施したが、一部の須恵器のみの産地が推定されただけである。今回の胎土分析では、別所・勝間田・亀山・神出・魚住以外の生産地から搬入されたものがあると考えられ、今後も生産地試料を蓄積する必要がある。

この分析の機会を与えて頂いた、西尾克己氏、伊藤　智氏をはじめ、島根県埋蔵文化財調査センターの方々には、いろいろとお世話になった。また、分析試料の提供では、以下の各機関お世話になりました。末筆ではありますが記して感謝いたします。

岡山県古代吉備文化財センター、島根県埋蔵文化財調査センター、松江市教育委員会、出雲市教育委員会

註

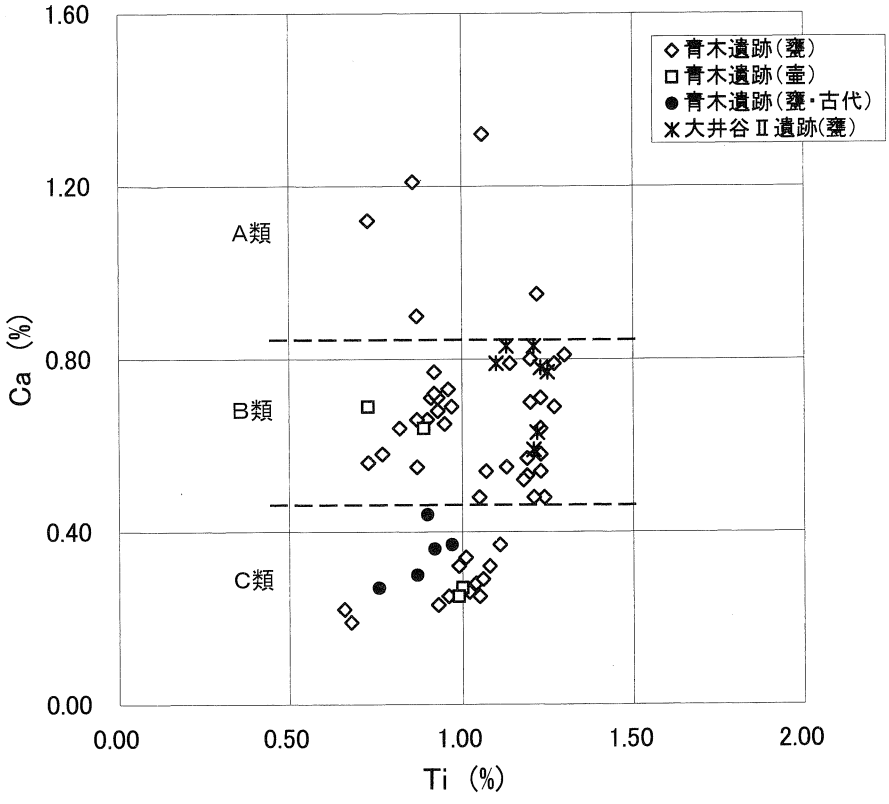
(1) 八峠　興、西川　徹　ほか『鳥取県西伯郡名和町茶畑六反田遺跡・押平弘法堂遺跡、大山町富岡播磨洞遺跡・安原溝尻遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書77　2002

(2)「中世須恵器の生産と流通」－山陰地方を中心に－　山陰中世土器検討会　2003

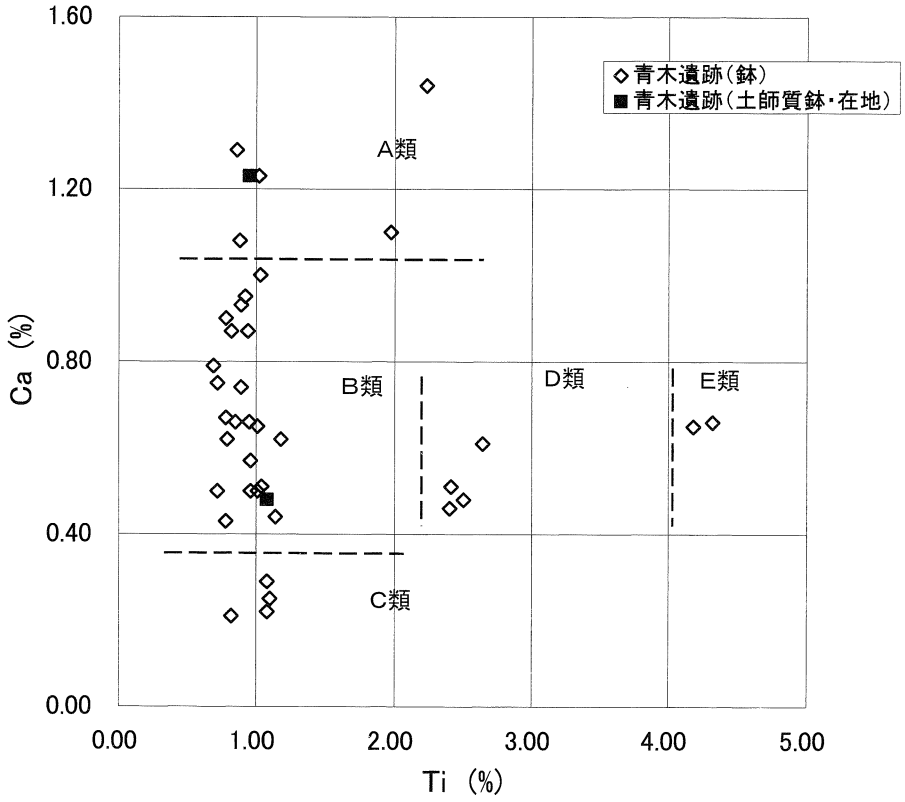
第1表　胎土分析一覧表（%）　ただし、Rb・Sr・Zrはppm.

試料番号	遺跡名	器種		遺物No.	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr
1	青木遺跡	須恵器	甕	—	69.66	0.97	16.76	4.54	0.05	1.95	0.69	2.42	2.31	0.47	164	197	340
2	青木遺跡	須恵器	甕	1439	70.68	1.07	19.25	3.67	0.06	1.66	0.54	0.89	1.93	0.06	144	125	315
3	青木遺跡	須恵器	甕	—	67.81	1.24	19.29	3.51	0.05	1.91	0.48	2.54	2.66	0.29	184	151	352
4	青木遺跡	須恵器	甕	—	69.72	1.04	18.32	4.20	0.03	1.75	0.28	2.25	2.18	0.08	201	100	330
5	青木遺跡	須恵器	甕	—	69.26	0.77	19.32	3.08	0.03	1.85	0.58	2.60	2.31	0.06	265	126	215
6	青木遺跡	須恵器	甕	1432	68.79	0.73	20.23	2.94	0.05	1.81	0.56	2.47	1.97	0.21	235	141	203
7	青木遺跡	須恵器	甕	1427	69.38	0.90	16.56	5.67	0.08	1.72	0.66	2.77	1.98	0.12	208	129	279
8	青木遺跡	須恵器	甕	1433	66.06	1.17	18.75	5.55	0.08	2.24	0.62	3.58	1.70	0.05	181	143	299
9	青木遺跡	須恵器	甕	1429	64.48	0.73	19.97	3.77	0.11	1.93	1.12	2.60	1.72	3.06	231	354	278
10	青木遺跡	須恵器	甕	—	68.60	0.91	16.96	5.76	0.08	1.87	0.71	2.70	2.08	0.14	211	148	330
11	青木遺跡	須恵器	甕	—	68.83	0.87	17.02	5.81	0.09	1.84	0.66	2.48	2.05	0.13	216	138	329
12	青木遺跡	須恵器	甕	1426	69.11	0.82	16.93	5.75	0.08	1.84	0.64	2.39	2.07	0.11	212	123	327
13	青木遺跡	須恵器	甕	—	64.93	1.11	21.58	5.61	0.08	1.99	0.37	2.28	1.35	0.51	179	146	308
14	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.18	1.08	21.44	5.54	0.08	1.93	0.32	2.62	1.38	0.27	145	99	307
15	青木遺跡	須恵器	甕	—	63.72	0.93	21.66	3.53	0.06	2.44	0.71	4.71	1.81	0.29	202	149	277
16	青木遺跡	須恵器	甕	1438	67.70	1.30	18.79	3.97	0.12	1.81	0.81	2.11	1.74	1.29	188	275	337
17	青木遺跡	須恵器	甕	1442	65.55	1.05	21.35	5.39	0.08	2.02	0.25	2.65	1.42	0.07	175	79	323
18	青木遺跡	須恵器	甕	—	66.58	1.02	21.08	5.36	0.07	1.92	0.26	2.03	1.45	0.06	181	78	283
19	青木遺跡	須恵器	甕	—	63.89	1.05	21.52	5.31	0.10	1.92	0.48	2.91	2.11	0.51	156	129	278
20	青木遺跡	須恵器	甕	—	66.45	1.23	20.76	3.69	0.08	1.97	0.71	1.81	1.95	0.89	205	262	356
21	青木遺跡	須恵器	甕	1437	63.65	1.06	19.64	3.65	0.10	1.93	1.32	2.80	2.53	2.64	270	523	327
22	青木遺跡	須恵器	甕	1434	65.69	0.96	21.42	3.75	0.05	2.01	0.73	2.92	2.02	0.29	237	162	284
23	青木遺跡	須恵器	鉢	1425	69.54	0.95	18.45	3.87	0.06	1.90	0.66	2.37	1.83	0.18	135	87	288
24	青木遺跡	須恵器	甕	1444	68.19	1.23	19.49	3.39	0.06	1.90	0.54	2.81	1.68	0.45	151	168	352
25	青木遺跡	須恵器	甕	—	68.79	1.19	19.78	3.30	0.05	1.99	0.53	2.04	1.93	0.09	201	196	347
26	青木遺跡	須恵器	甕	1430	67.30	0.87	18.66	3.72	0.12	1.82	0.90	2.46	1.86	1.84	212	351	319
27	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.96	1.01	21.24	5.45	0.09	1.71	0.34	2.27	1.44	0.29	178	106	308
28	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.71	1.06	21.35	5.52	0.07	2.01	0.29	2.13	1.38	0.33	159	113	328
29	青木遺跡	須恵器	甕	1443	65.23	0.99	21.34	5.57	0.08	1.89	0.32	2.74	1.43	0.20	162	119	293
30	青木遺跡	須恵器	鉢	—	64.74	2.41	18.47	7.29	0.16	1.95	0.51	2.38	1.77	0.12	130	95	726
31	青木遺跡	須恵器	鉢？	—	66.84	0.78	19.46	5.58	0.07	1.89	0.43	2.55	2.16	0.08	157	117	241
32	青木遺跡	須恵器	鉢	1416	64.88	2.50	18.58	7.24	0.16	1.87	0.48	2.15	1.71	0.15	131	121	602
33	青木遺跡	須恵器	鉢	1414	68.27	0.69	20.05	2.95	0.08	1.89	0.79	2.52	1.75	0.73	224	229	185
34	青木遺跡	須恵器	鉢	1423	69.23	0.78	18.56	3.72	0.06	2.06	0.67	2.74	1.80	0.16	137	93	284
35	青木遺跡	須恵器	鉢	—	68.28	1.18	18.98	3.79	0.07	1.98	0.62	2.89	1.79	0.24	150	110	291
36	青木遺跡	須恵器	鉢	1415	66.33	0.94	18.83	4.44	0.06	2.15	0.87	3.13	2.07	0.92	195	228	275
37	青木遺跡	須恵器	鉢	1417	65.12	2.40	18.45	7.44	0.15	1.83	0.46	2.09	1.76	0.10	176	100	707
38	青木遺跡	須恵器	鉢	1412	64.31	1.97	18.97	5.78	0.18	1.83	1.10	1.89	1.72	1.82	141	320	590
39	青木遺跡	須恵器	鉢	1000	70.78	0.82	18.11	5.49	0.04	1.58	0.21	1.38	1.32	0.13	172	63	297
40	青木遺跡	須恵器	鉢	1006	70.86	1.08	16.44	6.45	0.09	1.60	0.22	2.10	0.84	0.14	143	64	363
41	青木遺跡	須恵器？	羽釜	1105	68.53	1.28	18.65	3.95	0.07	1.97	0.58	2.76	1.89	0.13	149	101	317
42	青木遺跡	須恵器	鉢	1405	68.43	1.01	18.93	3.11	0.03	2.03	0.65	3.76	1.73	0.11	184	211	358
43	青木遺跡	須恵器	鉢	—	61.36	1.04	24.50	5.12	0.07	2.19	0.51	2.46	2.46	0.11	234	66	224
44	青木遺跡	須恵器	鉢	—	60.64	0.96	24.48	5.39	0.07	2.10	0.57	2.23	3.20	0.19	307	90	231
45	青木遺跡	須恵器	鉢	—	61.98	0.96	24.41	4.93	0.05	2.07	0.50	2.77	2.10	0.04	232	73	216
46	青木遺跡	須恵器	鉢	—	62.10	1.01	24.21	5.41	0.06	1.95	0.50	2.29	2.24	0.03	232	63	215
47	青木遺跡	須恵器	鉢	—	65.87	0.78	17.86	6.74	0.11	1.93	0.90	2.18	2.03	1.16	182	238	261
48	青木遺跡	須恵器	鉢	1445	63.48	4.32	17.05	8.38	0.25	1.77	0.66	2.42	1.45	0.00	135	102	1130
49	青木遺跡	須恵器	鉢	—	65.24	1.08	22.15	5.23	0.08	1.92	0.29	2.15	1.67	0.03	156	83	299
50	青木遺跡	須恵器	鉢	—	69.39	1.14	18.55	3.63	0.04	1.83	0.44	2.01	2.27	0.50	199	134	306
51	青木遺跡	須恵器	鉢	—	63.80	2.64	17.94	7.81	0.16	1.84	0.61	2.69	2.23	0.06	150	101	773
52	青木遺跡	須恵器	鉢	—	65.82	0.88	19.71	3.42	0.05	1.97	1.08	2.45	2.00	2.38	165	247	236
53	青木遺跡	須恵器	鉢	—	63.22	0.85	20.30	7.16	0.10	1.74	0.66	2.30	2.63	0.85	173	164	250
54	青木遺跡	須恵器	鉢	—	61.51	2.23	18.78	5.92	0.24	1.78	1.44	2.33	1.78	3.60	106	384	628
55	青木遺跡	須恵器	鉢	—	67.86	0.89	18.25	5.36	0.05	2.03	0.74	2.21	2.13	0.21	190	195	300
56	青木遺跡	須恵器	鉢	—	67.19	0.72	19.30	5.58	0.06	1.99	0.50	2.14	2.21	0.10	175	112	256
57	青木遺跡	須恵器	鉢	—	67.87	0.92	18.23	5.16	0.06	1.90	0.95	2.07	2.19	0.48	184	207	313
58	青木遺跡	須恵器	鉢	—	65.35	1.10	20.94	6.21	0.07	1.98	0.25	2.51	1.35	0.12	151	74	281
59	青木遺跡	須恵器	鉢	—	67.39	0.79	18.01	6.10	0.06	1.96	0.62	2.74	2.08	0.08	180	143	284
60	青木遺跡	須恵器	鉢	—	64.11	1.02	19.34	4.77	0.18	1.92	1.23	2.14	1.73	3.27	118	348	317
61	青木遺跡	須恵器	鉢	—	61.44	0.86	20.22	4.40	0.19	1.85	1.29	2.40	2.02	4.79	155	407	382
62	青木遺跡	須恵器	鉢	—	67.62	0.82	18.57	4.61	0.06	2.00	0.87	2.84	2.07	0.36	167	216	270
63	青木遺跡	須恵器	鉢	—	63.11	4.18	16.92	8.51	0.28	1.85	0.65	2.67	1.46	0.00	129	100	128
64	青木遺跡	須恵器	鉢	1419	67.74	0.72	18.48	5.27	0.06	1.96	0.75	2.01	2.71	0.16	221	152	290
65	青木遺跡	須恵器	鉢	—	67.56	0.89	17.28	4.89	0.06	2.08	0.93	3.64	2.23	0.20	195	207	339
66	青木遺跡	須恵器	鉢	—	67.25	1.03	18.17	5.27	0.06	1.94	1.00	1.94	2.22	0.86	184	224	361
67	青木遺跡	須恵器	甕	1431	64.57	0.86	19.42	3.60	0.12	1.82	1.21	2.31	1.73	4.01	231	431	263
68	青木遺跡	須恵器	甕	864	64.88	1.14	20.34	4.09	0.09	1.97	0.79	2.04	2.01	2.20	221	273	344
69	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.74	1.20	20.84	3.50	0.07	1.98	0.70	2.43	2.25	0.95	196	247	346
70	青木遺跡	須恵器	甕	—	66.11	0.95	21.36	3.69	0.07	2.10	0.65	2.46	2.11	0.20	236	190	263
71	青木遺跡	須恵器	甕	—	68.94	0.66	18.66	4.32	0.05	1.88	0.22	2.17	2.60	0.24	277	124	348
72	青木遺跡	須恵器	甕	—	68.35	0.68	18.78	4.24	0.05	1.82	0.19	2.76	2.61	0.30	289	112	354
73	青木遺跡	須恵器	甕	—	71.21	0.93	16.98	5.09	0.03	1.74	0.23	1.79	1.68	0.09	172	106	362
74	青木遺跡	須恵器	甕	—	69.77	0.87	16.65	4.94	0.05	1.91	0.55	2.24	2.34	0.46	152	201	351
75	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.69	1.23	20.79	3.58	0.07	2.03	0.64	2.56	1.95	1.06	197	261	342
76	青木遺跡	須恵器	甕	—	66.92	1.19	20.58	3.19	0.05	2.05	0.57	2.64	1.92	0.56	193	220	342

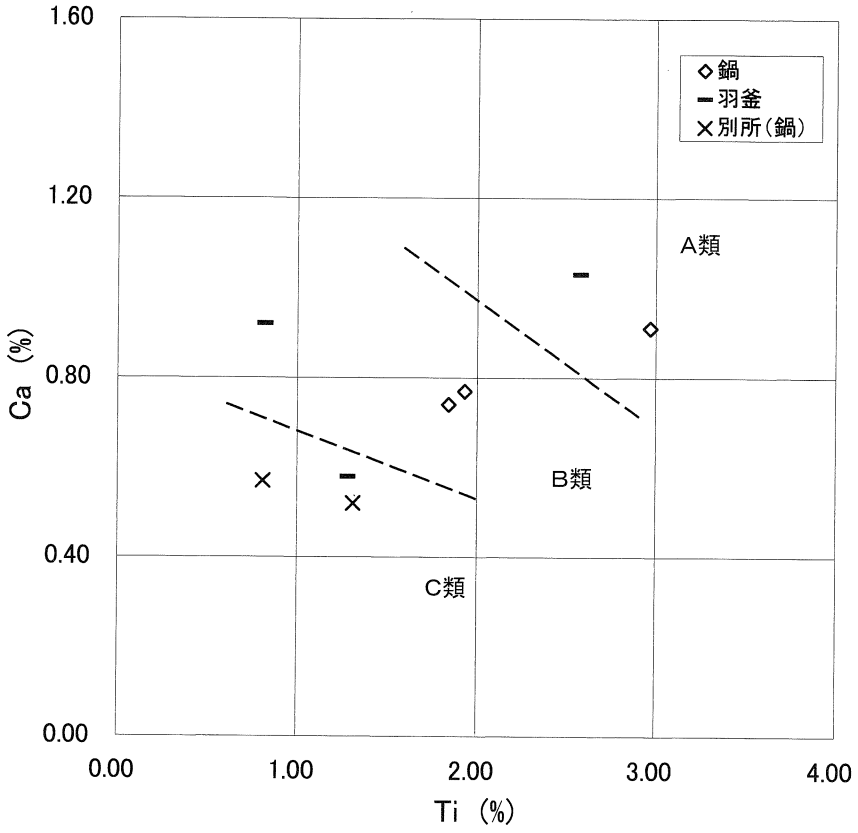
試料番号	遺跡名	器種		遺物No.	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr
77	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.59	1.23	21.25	3.61	0.05	2.02	0.58	2.27	1.88	1.11	205	239	343
78	青木遺跡	須恵器	甕	—	67.30	1.18	20.52	3.52	0.04	2.02	0.52	2.34	1.95	0.34	219	195	342
79	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.81	1.27	20.79	3.80	0.08	2.05	0.79	1.63	2.08	1.39	165	276	354
80	青木遺跡	須恵器	甕	—	64.71	1.20	21.07	3.70	0.07	2.03	0.80	2.41	2.23	1.48	193	274	342
81	青木遺跡	須恵器	甕	—	66.29	1.20	20.75	3.45	0.05	2.05	0.70	2.32	2.15	0.73	209	230	347
82	青木遺跡	須恵器	甕	—	64.47	1.22	21.35	3.35	0.07	1.90	0.95	2.06	2.01	2.09	182	343	373
83	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.43	1.27	20.58	3.75	0.05	2.01	0.69	1.71	2.53	1.72	212	248	323
84	青木遺跡	須恵器	甕	—	67.21	1.21	20.27	3.45	0.04	1.94	0.48	2.33	2.42	0.39	236	185	371
85	青木遺跡	須恵器	甕	—	66.49	1.13	21.06	3.63	0.04	1.90	0.55	2.37	1.84	0.72	211	142	324
86	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.28	0.93	20.56	5.33	0.08	2.04	0.68	2.70	1.79	0.37	204	218	307
87	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.16	0.92	20.60	5.41	0.09	2.06	0.72	2.61	1.86	0.36	213	207	310
88	青木遺跡	須恵器	甕	—	65.04	0.92	20.84	5.17	0.08	2.05	0.77	2.42	1.85	0.68	197	227	331
89	青木遺跡	須恵器	壺	—	70.01	0.73	18.69	3.64	0.04	1.74	0.69	1.78	2.20	0.19	267	142	278
90	青木遺跡	須恵器	壺	—	67.69	0.89	18.85	4.52	0.06	1.95	0.64	3.41	1.63	0.16	221	128	315
91	青木遺跡	須恵器	壺	—	69.56	1.00	17.88	5.16	0.05	1.91	0.27	2.10	1.78	0.15	168	101	351
92	青木遺跡	須恵器	壺	—	68.99	0.99	18.47	5.48	0.05	1.92	0.25	1.91	1.59	0.18	150	98	324
93	青木遺跡	須恵器	不明	—	68.78	1.04	20.26	3.43	0.06	1.90	0.11	2.49	1.53	0.14	163	72	358
94	青木遺跡	須恵器?	鍋	872	64.55	1.84	19.19	5.48	0.12	1.87	0.74	2.28	1.83	1.37	130	172	777
95	青木遺跡	須恵器?	鍋?	—	64.68	1.93	19.00	5.79	0.12	1.91	0.77	2.27	1.82	1.41	138	163	660
96	青木遺跡	須恵器?	羽釜	870	62.27	2.58	20.53	4.47	0.21	1.77	1.03	2.30	1.63	2.73	114	237	644
97	青木遺跡	須恵器?	鍋	871	61.33	2.97	19.63	6.98	0.22	1.81	0.91	1.44	1.71	2.66	106	269	1272
98	青木遺跡	須恵器?	羽釜	869	62.42	0.82	21.60	5.80	0.13	1.88	0.92	1.80	1.82	2.36	149	301	289
99	青木遺跡	須恵器	甕	1109	65.67	0.96	21.63	5.38	0.09	1.95	0.25	2.32	1.44	0.18	158	84	295
100	青木遺跡	須恵器?	不明	—	65.51	1.69	18.28	5.02	0.08	2.41	0.73	4.26	1.73	0.13	132	108	394
101	青木遺跡	須恵器	不明	—	69.75	1.10	18.92	2.74	0.04	1.92	0.49	2.32	2.28	0.26	217	112	282
102	青木遺跡	須恵器	甕	—	68.84	0.97	17.14	5.75	0.06	1.85	0.37	2.76	1.83	0.21	162	124	309
103	青木遺跡	須恵器	甕	—	70.37	0.90	17.04	5.28	0.06	1.73	0.44	2.00	1.75	0.21	178	141	327
104	青木遺跡	須恵器	甕	—	67.87	0.76	17.97	6.52	0.06	1.83	0.27	2.72	1.69	0.15	142	104	281
105	青木遺跡	須恵器	甕	—	69.67	0.87	15.94	5.73	0.06	1.90	0.30	3.12	1.95	0.26	205	120	314
106	青木遺跡	須恵器	甕	—	71.71	0.92	16.23	4.35	0.05	1.76	0.36	2.35	1.88	0.18	186	122	330
107	青木遺跡	土師質	鉢	1395	63.44	0.95	20.58	3.83	0.12	1.82	1.23	2.34	2.04	3.27	144	342	311
108	青木遺跡	土師質	鉢	1396	64.45	1.08	22.45	4.07	0.10	1.85	0.48	1.85	1.89	1.55	138	166	271
1	大井谷Ⅱ遺跡	須恵器	甕		67.65	1.21	19.93	2.90	0.03	1.89	0.59	2.27	1.91	1.18	184	270	374
2	大井谷Ⅱ遺跡	須恵器	甕		67.50	1.22	20.10	2.86	0.04	1.96	0.63	2.23	1.87	1.11	181	276	371
3	大井谷Ⅱ遺跡	須恵器	甕		66.06	1.25	19.61	2.99	0.06	1.92	0.77	2.95	1.87	1.93	182	344	372
4	大井谷Ⅱ遺跡	須恵器	甕		66.03	1.13	19.97	2.92	0.06	1.97	0.83	2.74	1.85	1.72	165	399	376
5	大井谷Ⅱ遺跡	須恵器	甕		66.46	1.21	19.98	3.07	0.07	2.03	0.83	2.23	1.91	1.55	199	364	379
6	大井谷Ⅱ遺跡	須恵器	甕		67.40	1.10	19.43	3.25	0.08	2.02	0.79	2.51	1.99	0.83	200	323	357
7	大井谷Ⅱ遺跡	須恵器	甕		66.11	1.23	19.94	3.00	0.07	1.79	0.78	2.50	1.84	2.06	173	381	371



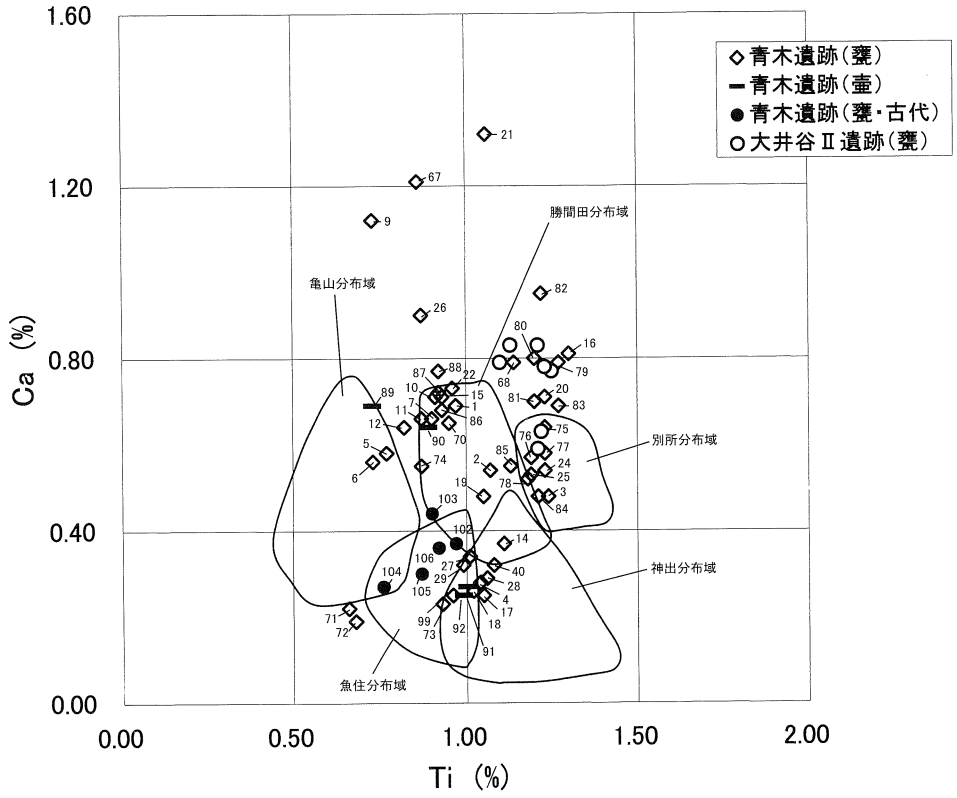
第1図　青木遺跡内出土甕の胎土比較(Ti-Ca散布図)



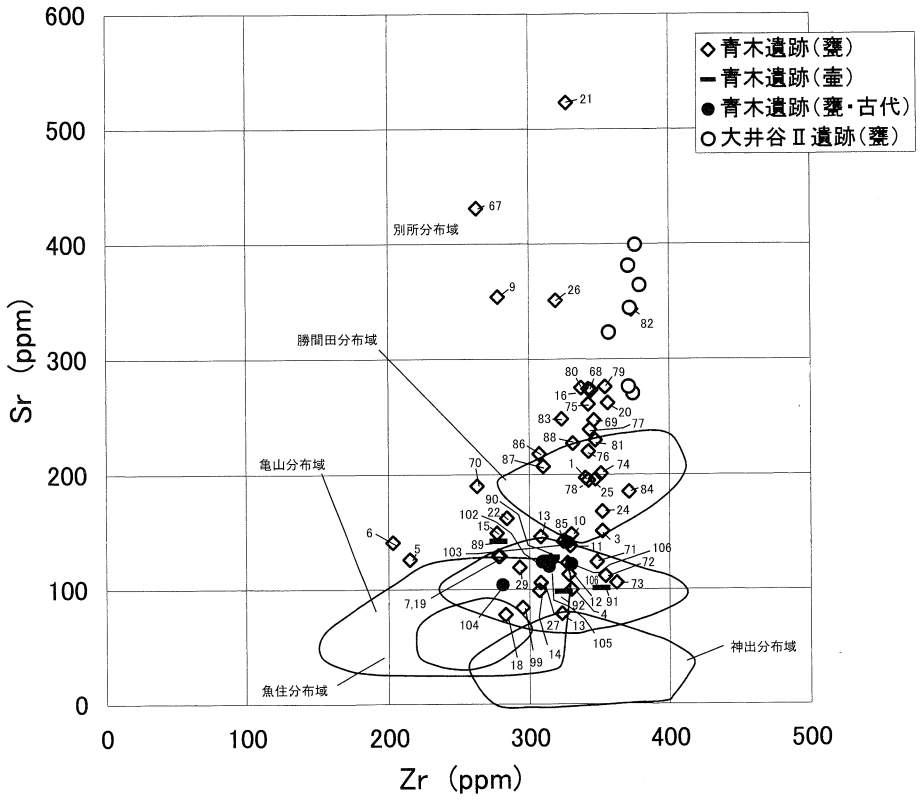
第2図　青木遺跡内出土鉢の胎土比較(Ti-Ca散布図)



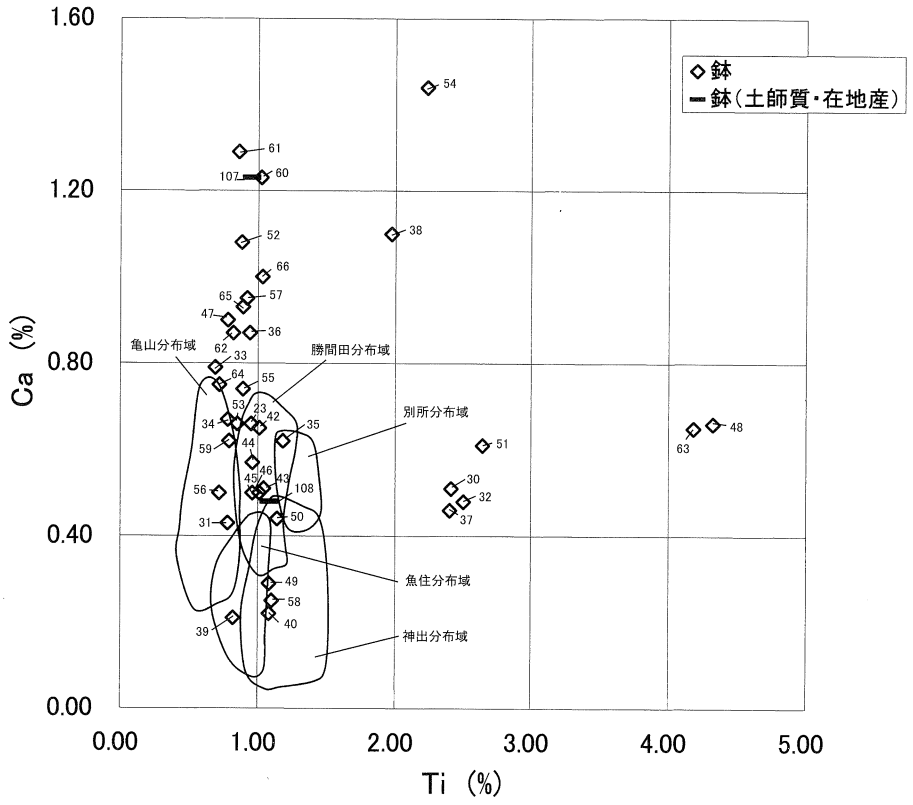
第3図　青木遺跡内出土鍋、羽釜の胎土比較(Ti-Ca散布図)



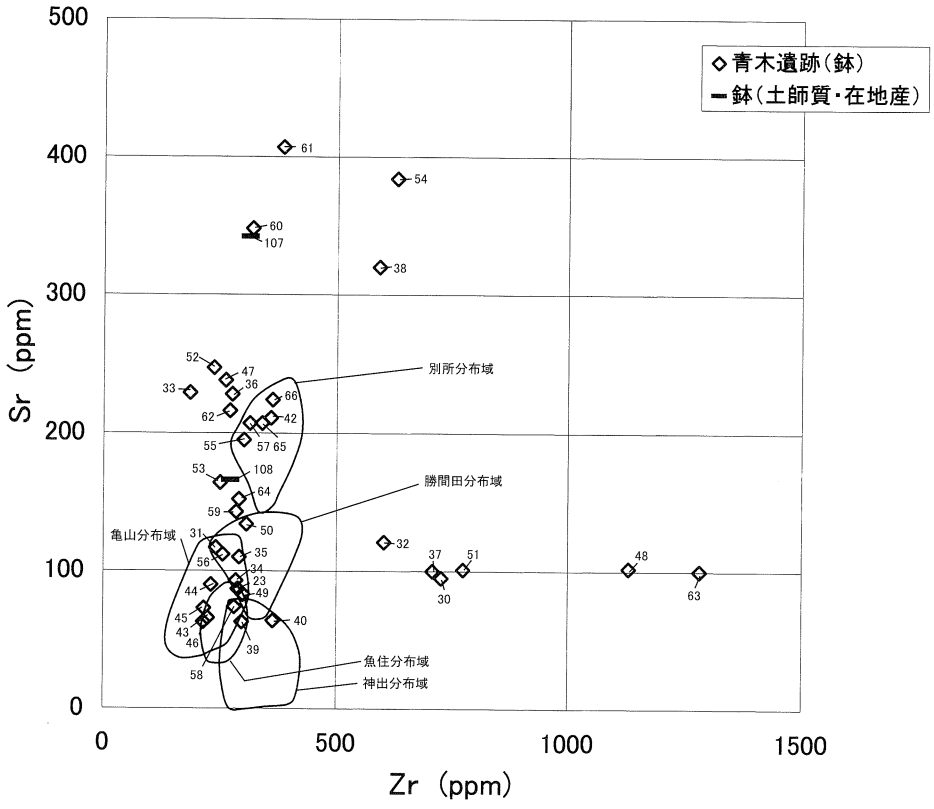
第4図　青木遺跡内出土甕と各生産地との比較(Ti-Ca散布図)



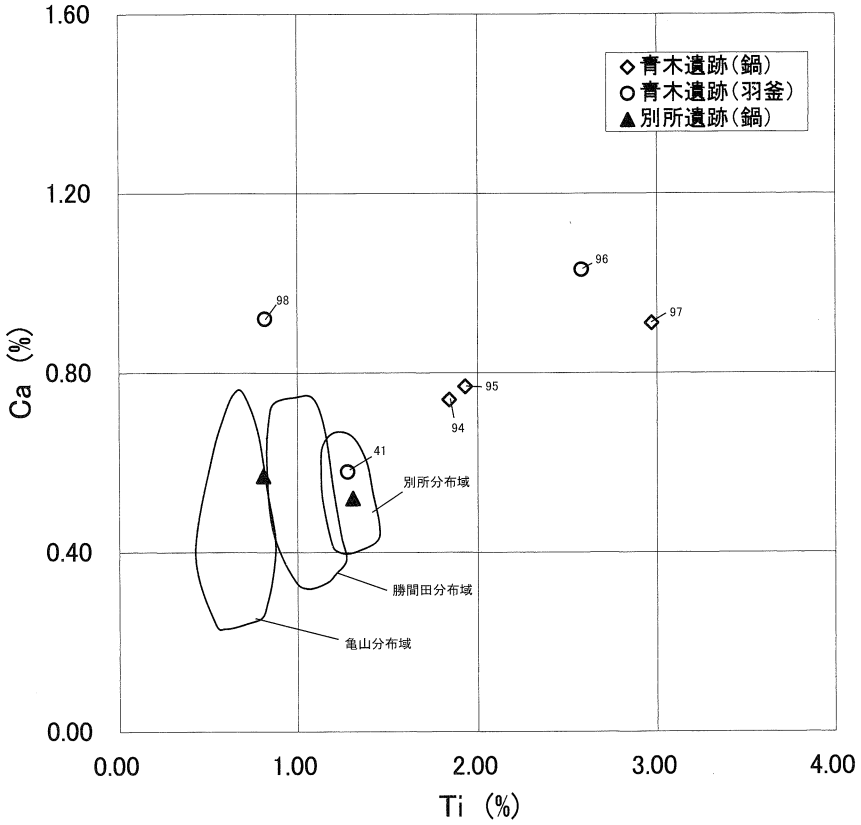
第5図　青木遺跡内出土甕・壷と各生産地との比較(Zr-Sr散布図)



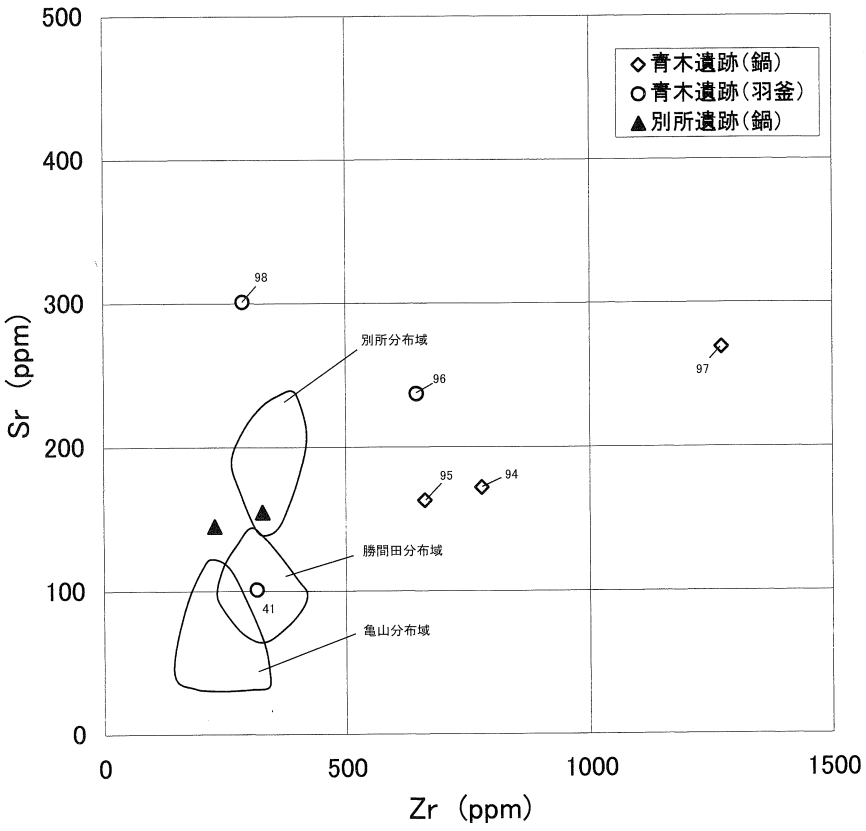
第6図　青木遺跡内出土鉢と各生産地との比較(Ti-Ca散布図)



第7図　青木遺跡内出土鉢と各生産地との比較(Zr-Sr散布図)



第8図　青木遺跡出土鍋、羽釜と別所遺跡との比較(Ti-Ca散布図)



第9図　青木遺跡出土鍋羽釜と別所遺跡との比較(Zr-Sr散布図)

青木遺跡出土木製品の樹種

株式会社　京都科学
伊東　隆夫（京都大学木質科学研究所）

出雲市東林木町に所在する青木遺跡から、平安時代終わりから中世末にかけてのものである土師器、須恵器、石器、金属器、骨の他に、多くの木器が出土している。今回、そのうち、188点の木器の樹種を同定した。定法にしたがい、木器の木片から安全カミソリで木口面、柾目面、板目面の3断面の薄い切片をつくり、スライドガラスに載せて、抱水ガムクロラールで封入して顕微鏡標本を作製し、以下の識別拠点に基づいて樹種を同定した。

スギ（*Cryptomeria japonica*）

樹脂道を欠く。晩材幅が広い。樹脂細胞は接線方向に点在する。分野壁孔はスギ型。

ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*）

樹脂道を欠く。晩材幅が狭い。樹脂細胞は接線方向に点在する。分野壁孔はヒノキ型。

二葉マツ（*Pinus* sp. *Diploxylon*）

垂直・水平樹脂道がみられる。窓状壁孔。放射仮道管に鋸歯状突起がみられる。

カヤ（*Torreya nicifera*）

樹脂道、樹脂細胞ともに欠く。仮道管に対になったらせん肥厚がみられる。

トチノキ（*Aesculus turbinata*）

散孔材。小型の道管が散在する。放射組織は層階状となる。

クリ（*Castanea crenata*）

環孔材。孔圏に大型の道管が並ぶ。孔圏外道管は小さく集合して火炎状となる。単列放射組織のみ見られる。

ケヤキ（*Zelkova serrata*）

孔圏道管は大きくほぼ一層となる。孔圏外道管は集団となり斜線上に並ぶ傾向がある。放射組織は4－5列で、縁辺細胞に大型の結晶がみられる。

シイ属（*Castanopsis* sp.）

孔圏に大型の道管が間隔を空けて並ぶ。孔圏外道管は放射状ないし火炎状に並ぶ。放射組織は単列。

ブナ属（*Fagus* sp.）

散孔材。年輪始めの道管は他よりもやや大きい。単穿孔と階段穿孔がみられる。放射組織の大きさは変化に富む。

カツラ（*Cercidiphyllum japonicum*）

散孔材。小さい道管が密に並ぶ。バーのしっかりした階段穿孔がみられ、道管側壁は階段状となる。

ムクノキ（*Aphananthe aspera*）

散孔材。中型の道管がまばらに並ぶ。道管の壁は厚い。帯状柔組織がみられる。

サカキ（*Cleyera japonica*）

散孔材。小さい道管が散在する。バーの多い階段穿孔がみられる。放射組織は単列。

ウツギ（*Deutzia crenata*）

散孔材。小さい道管が散在する。放射組織の高さは高い。

ホオノキ（*Magnolia obovata*）

散孔材。道管側壁は階段状となる。放射組織は1－2列。

カエデ（Acer sp.）

散孔材。中型の道管が単独ないし、2－3個放射方向に連なる。単穿孔。放射組織は4－5列で、同性。

フジキ（*Cladrastis platycarya*）

環孔材。孔圏道管は大きい。孔圏外道管は集団状。単穿孔。放射組織は異性Ⅲ型。

ツバキ（*Camellia japonica*）

散孔材。小さい道管が散在する。放射組織に大型の結晶がみられる。

ヌルデ（*Rhus javanica*）

環孔材。道管にチロースが詰まる。単穿孔。放射組織は異性Ⅲ型で1－3列。

ムクロジ（*Sapindus mukorossi*）

環孔材。単穿孔。小道管にらせん肥厚。柔組織は翼状、連合翼状、帯状となる。放射組織は同性。

クスノキ科（Lauraceae）

散孔材。道管は単独ないし2個複合。階段穿孔。放射組織は異性Ⅲ型。油細胞はほとんど目立たない。

このほかに、散孔材2点と環孔材1点が同定されたが、様様な特徴を照らし合わせても樹種は特定できなかった。

樹種同定結果は表1に示した通りである。同表から樹種ごとの点数をまとめたのが表2である。

表2

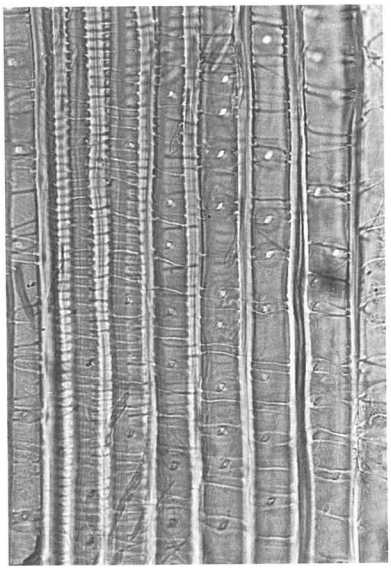
スギ	107点	ヒノキ	19点
二葉マツ	8点	カヤ	1点
トチノキ	11点	クリ	7点
ケヤキ	5点	シイ属	5点
ブナ属	3点	カツラ	3点
ムクノキ	2点	サカキ	2点
ウツギ	2点	ホオノキ	2点
カエデ	1点	フジキ	1点
ツバキ	1点	ヌルデ	1点
ムクロジ	1点	クスノキ科	1点
散孔材	2点	環孔材	1点
樹皮	2点		

総数188点のうち、スギが107点の過半数を占めていることがわかる。スギは容器、板、火きり臼、箸、物忌札、木簡、柄、曲げ物、取っ手、駒状製品、棒状製品、箱状などの多くの木製品に広く利用されている。中でも曲げ物は20点すべてがスギであった。さらに板71点のうち61点がスギであった。椀にはケヤキ、トチノキ、ブナ、カツラ、クリなどの現代でも利用されている樹種が多く用いられた。下駄はホオノキ、火きり臼はスギという結果も過去の資料と合致する。

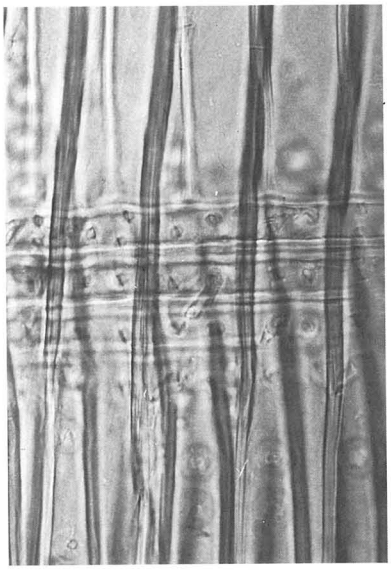
遺物No.	実測図No.	サンプルNo.	遺物名	樹種	顕微鏡写真
1		KK－199	下駄	ホオノキ	
2		KK－200	取っ手	ヒノキ	
3		KK－201	柄	カヤ	○
4		KK－202	容器	スギ	
5		KK－203	板	スギ	
6		KK－204	火きり臼	スギ	
7		KK－205	容器（底）	スギ	
8		KK－206	板	ヒノキ	○
9		KK－207	下駄	ヒノキ	
10		KK－208	火きり臼	スギ	
11		KK－209	板	スギ	
12		KK－210	容器	ケヤキ	
13		KK－211	椀	ブナ	○
14		KK－212	椀	トチノキ	
15		KK－213	板	スギ	
16		KK－214	容器	スギ	○
17		KK－215	板	スギ	
18		KK－216	板	スギ	
19		KK－217	椀	ケヤキ	
20		KK－218	箸	スギ	
21		KK－219	箸	スギ	
22		KK－220	箸	二葉マツ	
23		KK－221	樹皮	樹皮	
24		KK－222	物忌札	スギ	○
25		KK－223	木簡	スギ	
26		KK－224	円板	ヒノキ	○
27		KK－225	板	スギ	
28		KK－226	容器	スギ	
29		KK－227	板	スギ	
30		KK－228	円板	ヒノキ	
31		KK－229	柄	スギ	
32		KK－230	容器（底）	スギ	
33		KK－231	有孔不明製品	シイ属	
34		KK－232	容器（底）	ヒノキ	
35		KK－233	板	スギ	
36		KK－234	板	スギ	
37		KK－235	円板	スギ	
38		KK－236	曲げ物	スギ	
39		KK－237	曲げ物	スギ	
40		KK－238	柱根	二葉マツ	○
41		KK－239	柱根	ムクノキ	
42		KK－240	柱根	ヒノキ？	
43		KK－241	柱根	クスノキ科	○
44		KK－242	柱根	サカキ	○
45		KK－243	柱根	散孔材A	○
46		KK－244	柱根	シイ属	○
47		KK－245	柱根	ムクノキ	
48	1649	KK－246	板	ヒノキ	
49	1167	KK－247	曲げ物	スギ	
50	1165	KK－248	曲げ物	スギ	
51	1654	KK－249	曲げ物	スギ	
52	1013	KK－250	曲げ物	スギ	
53	1679	KK－251	板	スギ	
54	1675	KK－252	箸	ヒノキ	
55	1659	KK－253	曲げ物	スギ	
56	1683	KK－254	板	スギ	
57	1684	KK－255	板	スギ	
58	1668	KK－256	箸	スギ	
59	1660	KK－257	取っ手	二葉マツ	
60	1678	KK－258	板	スギ	
61	1646	KK－259	火きり臼	スギ	
62	1645	KK－260	下駄	ムクロジ	○
63		KK－261	板	スギ	
64		KK－262	板	スギ	
65	1690	KK－263	板	スギ	
66	1663	KK－264	取っ手	スギ	
67	1673	KK－265	板	スギ	
68	1652	KK－266	しゃもじ状製品	ヒノキ	
69		KK－267	板	スギ	
70	1665	KK－268	曲げ物	スギ	
71		KK－269	棒状製品	ヒノキ	
72	1670	KK－270	箸	スギ	
73	1653	KK－271	栓（漆）	ヒノキ	
74	1672	KK－272	駒状製品	スギ	
75	1667	KK－273	曲げ物	スギ	
76		KK－274	板	ホオノキ	○
77		KK－275	板	クリ	○
78		KK－276	板	スギ	
79	1661	KK－277	取っ手	スギ	
80	1674	KK－278	板	樹皮	
81	1687	KK－279	板	スギ	
82	1662	KK－280	曲げ物	スギ	
83	1686	KK－281	板	スギ	
84	1671	KK－282	板	スギ	
85		KK－283	角材	二葉マツ	○
86	1666	KK－284	曲げ物	スギ	
87	1092	KK－285	板	スギ	
88	1089 1090 1091	KK－286	板	スギ	
89		KK－287	角材	二葉マツ	
90		KK－288	角材	二葉マツ	
91		KK－289	棒状製品	スギ	
92		KK－290	板	スギ	
93	1669	KK－291	箸	スギ	
94		KK－292	板	スギ	

遺物No.	実測図No.	サンプルNo.	遺物名	樹種	顕微鏡写真
95		KK－293	材	ヒノキ	
96	1676	KK－294	柄	ウツギ	○
97	1658	KK－295	板	スギ	
99	1677	KK－296	取っ手	スギ	
100	1691	KK－297	板	スギ	
101		KK－298	板	散孔材B	○
102		KK－299	箸	スギ	
103		KK－300	板	スギ	
104	997	KK－301	板	スギ	
105		KK－302	駒状製品	スギ	
106		KK－303	板	二葉マツ	
107		KK－304	棒状製品	ウツギ	○
108		KK－305	材	ヌルデ	○
109	1664	KK－306	棒状製品	スギ	
110		KK－307	棒状製品	スギ	
111	1651	KK－308	板	スギ	
112		KK－309	板	スギ	
113		KK－310	板	スギ	
114		KK－311	板	スギ	
115		KK－312	板	スギ	
116		KK－313	板	スギ	
117	1650	KK－314	板	スギ	
118		KK－315	板	スギ	
119		KK－316	板	スギ	
120		KK－317	板	スギ	
121	1648	KK－318	板	スギ	○
122		KK－319	板	スギ	
123	1680	KK－320	板	スギ	
124		KK－321	板	スギ	
125	1166	KK－322	板	スギ	
126	1657	KK－323	板	スギ	
127	1014 1015	KK－324	板	スギ	
128	1685	KK－325	板	スギ	
129	1682	KK－326	板	スギ	
130		KK－327	板	スギ	
132	992	KK－328	板	スギ	○
133	993	KK－329	板	スギ	
134	999	KK－330	板	スギ	
135		KK－331	板	スギ	
136		KK－332	板	カエデ属	○
137		KK－333	板	スギ	
138	1689	KK－334	板	スギ	
139	1655	KK－335	板	ヒノキ	
140	1656	KK－336	板	スギ	
141	1681	KK－337	板	スギ	
142		KK－338	板	スギ	
143	1647	KK－339	板	ヒノキ	

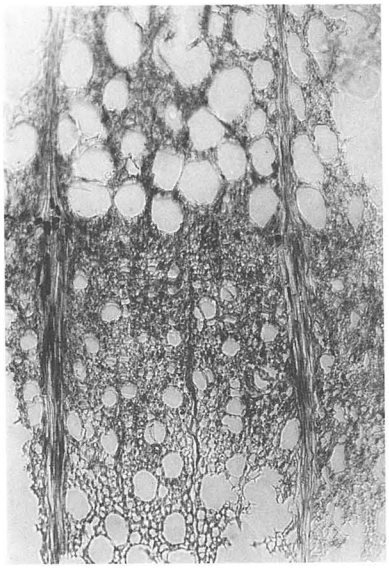
遺物No.	実測図No.	サンプルNo.	遺物名	樹種	顕微鏡写真
144	1647	KK－340	板	ヒノキ	
146		KK－341	曲げ物	スギ	
147		KK－342	曲げ物	スギ	
148		KK－343	曲げ物	スギ	
149		KK－344	曲げ物	スギ	
150		KK－345	曲げ物	スギ	
151		KK－346	曲げ物	スギ	
152		KK－347	曲げ物	スギ	
154		KK－348	椀（漆）	トチノキ	○
155		KK－349	椀（漆）	カツラ	○
156		KK－350	椀（漆）	シイ属	○
157		KK－351	椀（漆）	トチノキ	
158		KK－352	椀（漆）	トチノキ	○
159		KK－353	椀（漆）	サカキ	
160		KK－354	椀（漆）	シイ属	
161		KK－355	椀（漆）	シイ属	
162		KK－356	椀（漆）	クリ	
163		KK－357	椀（漆）	クリ	○
164		KK－358	椀（漆）	トチノキ	
165		KK－359	椀（漆）	二葉マツ	
166		KK－360	椀（漆）	カツラ	
167		KK－361	椀（漆）	トチノキ	
168		KK－362	椀（漆）	トチノキ	
169		KK－363	椀（漆）	クリ	
170		KK－364	椀（漆）	ケヤキ	○
171		KK－365	椀（漆）	トチノキ	
172		KK－366	椀（漆）	クリ	
173		KK－367	椀（漆）	トチノキ	
174		KK－368	椀（漆）	トチノキ	
175		KK－369	椀（漆）	環孔材	
176	1643	KK－370	椀（漆）	ブナ属	○
178	1639	KK－371	椀（漆）	クリ	
179	1641	KK－372	椀（漆）	カツラ	○
180	1642	KK－373	椀（漆）	フジキ	○
181	1644	KK－374	椀（漆）	ケヤキ	○
182		KK－375	椀（漆）	トチノキ	
183	1638	KK－376	椀（漆）	シイ属	
184	1637	KK－377	椀（漆）	ブナ属	○
185	1640	KK－378	椀（漆）	クリ	○
186	1636	KK－379	椀（漆）	ケヤキ	
187	1011	KK－380	木槌	ツバキ	○
188		KK－381	曲げ物	スギ	
191		KK－382	板	スギ	
192	1012	KK－383	板	ヒノキ	
193		KK－384	たが	ヒノキ	
194		KK－385	曲げ物	スギ	
195		KK－386	箱状	スギ	○



1．柄(KK-201)カヤ×300

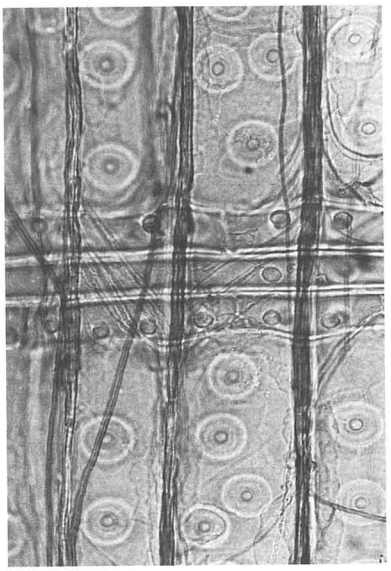


2．板(KK-206)ヒノキ×300

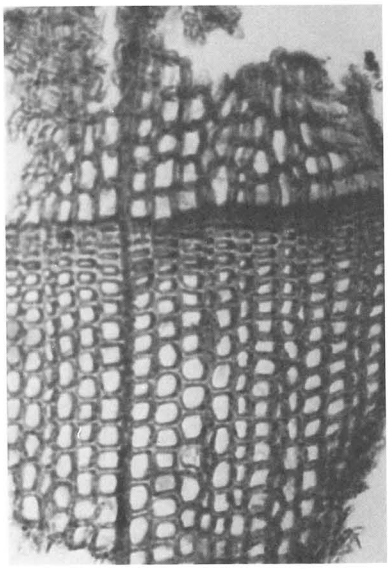


3．椀(KK-211)ブナ×75

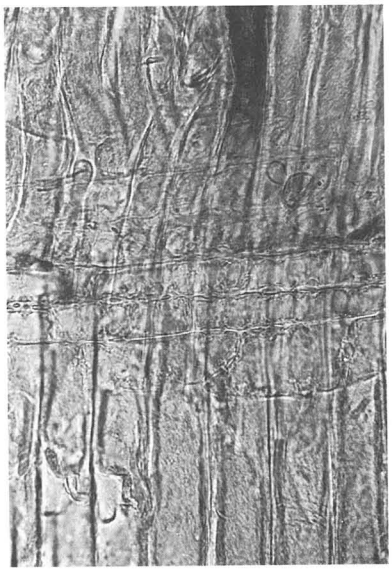
4．容器(KK-214)スギ×300



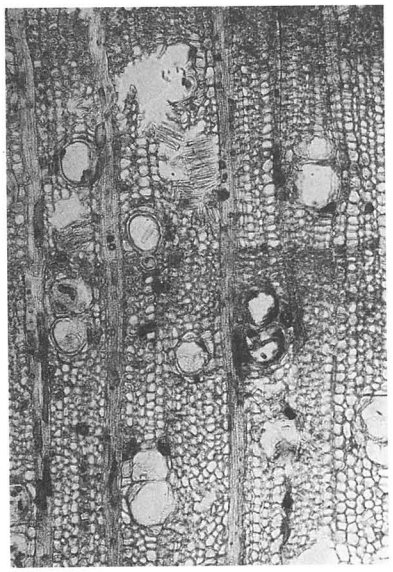
5．物忌札(KK-222)スギ×300



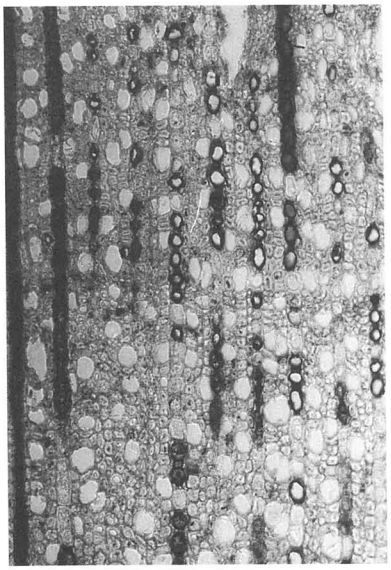
6．円板(KK-224)ヒノキ×75



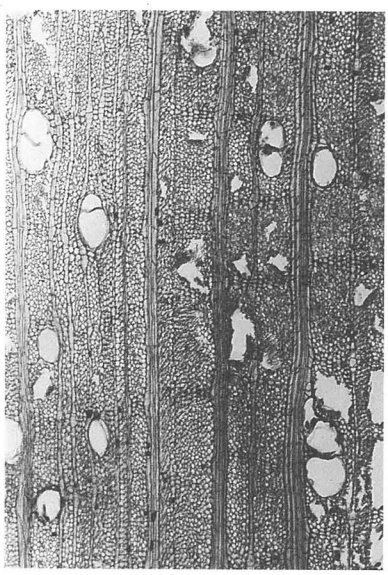
7．柱根(KK-238)二葉マツ×300



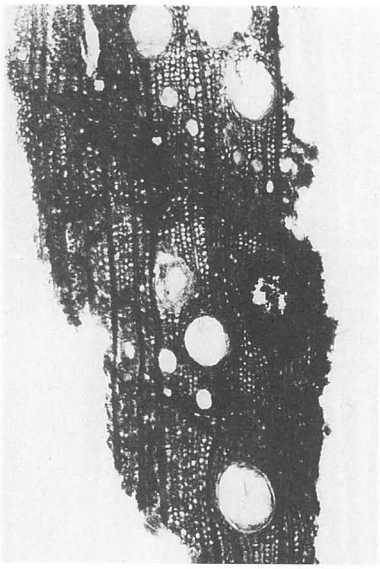
8．柱根(KK-241)クスノキ科×75



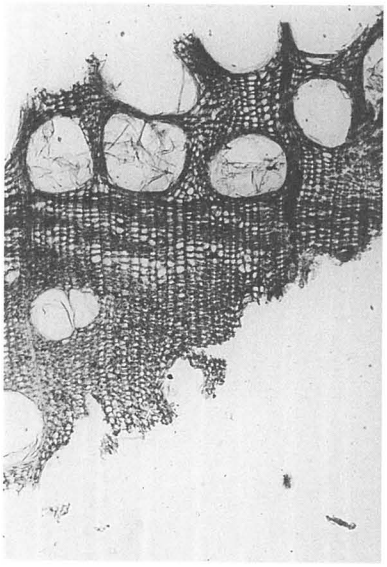
9．柱根(KK-242)サカキ×75



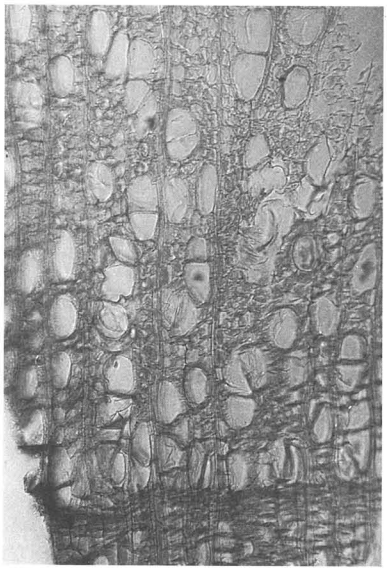
10. 柱根(KK-243)散孔材×40



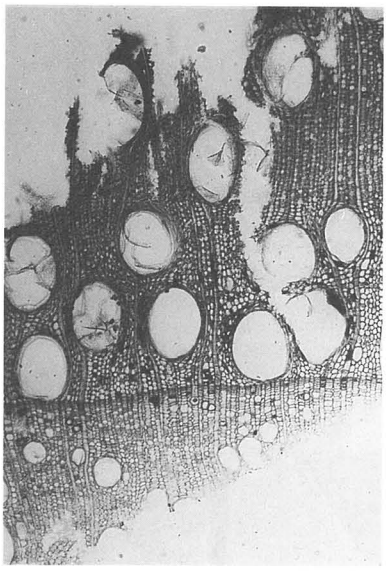
11. 柱根(KK-244)シイ属×40



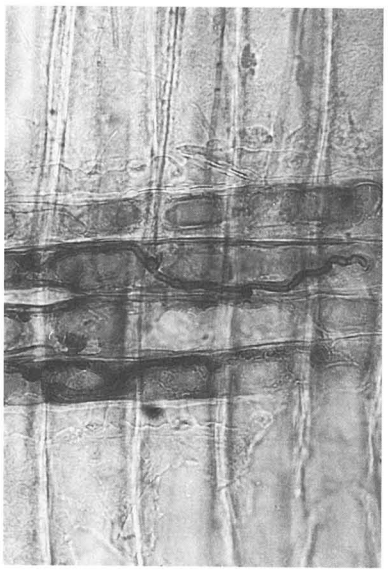
12. 下駄(KK-260)ムクロジ×50



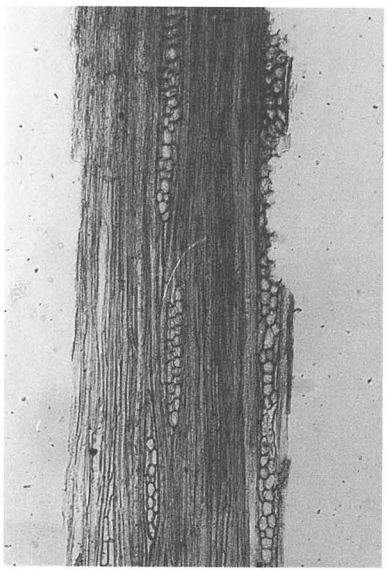
13. 板(KK-274)ホオノキ×75



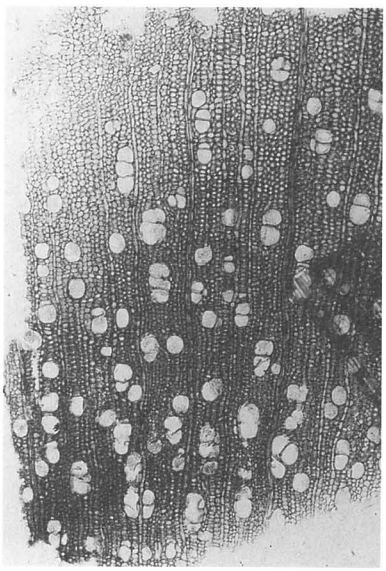
14. 板(KK-275)クリ×40



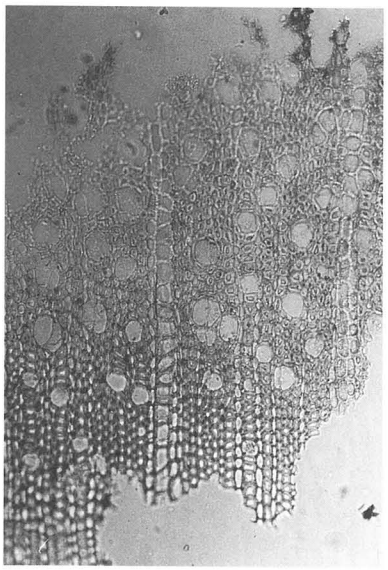
15. 角材(KK-283)二葉マツ×300



16. 柄(KK-294)ウツギ×50



17. 板(KK-298)エゴノキ？×40



18. 棒状製品(KK-304)ウツギ×75